小學校を卒業され一時農業に從事されて居たが十七歳の春上京して神田區山譽材木店に入店し十二ケ年餘に亘り斯業を修得された、昭和九年主人業界隠退の際、氏は永年の忠勤が報ひられ主家の商號を讓渡され現地に獨立創業された、現在從業員三名を使用し、建築材を深川木場市場より主として仕入れ販賣して居り、得意先は諸會社、工場の大口需要筋を始め一般建築業者等である。氏は進取の氣性に富み、極めて積極的な商法をもつて經營され、その將來は大ひに嘱望されて居る。因みに氏の取引銀行は、安田銀行及び第百銀行である。

三河屋材木店

齋藤友宏

營業所　東京市神田區榮町一二
電話下谷五一二〇番

氏は東京市の出身にして下谷區金杉下町に生れ、嚴父富吉氏は洋服商を營れて居た、氏は小學校卒業後十五歳にして舊三河屋材木店に入店し二十八歳まで斯業を修練された、主家三河屋商店は六十年前鈴木晋松氏の創業にかゝるもので、その後鈴木清吉氏が繼承して居た氏はこの鈴木清吉氏の下に使へ、忠勤にして信望厚く模範店員として主家のため盡瘁されて居たが昭和十四年店主清吉氏の木材界隠退の際、同商店を讓受け商號もそのまゝ許されて今日に及んで居る。現在店員二名を使用、建築材一般を取扱ひ諸會社、工場及び建築業者を顧客として殷盛を極めて居る。

竹内材木店

竹内八郎治

明治二十五年五月廿五日生
營業所　東京市神田區榮町一五

氏は群馬縣の出身にして當年四十九歳、生家は群馬縣明治村の農家にして嚴父は石關喜三郎氏で氏は四男として生れた十九歳の春大望を抱いて上京、竹内久太郎氏經營の神田區榮町一五竹内材木店に入り修業されたのであつたが店主の懇望により竹内家の養子として入籍した、大正十年養父病により逝去されたので家督を相續すると共に業務一切を襲承され今日に至つたのである。尚ほ先代久太郎氏は主として古材商として營業を續けて居たのであるが震災後新材を取扱ふ樣になつた、現在店員一名、一般羽板材を販賣し仕入先は深川木場市場を主とし得意先は市内建築業者である、また氏現在町會長の現職にあつて社會事業に努力されて居る。

齋藤材木店

齋藤金三郎

明治三十一年生
營業所　東京市神田區佐久間町一ノ一二
電話下谷九三七〇番

氏は東京市の出身にして神田區佐久間町齋藤勘兵衛氏の三男として生れ父祖傳來の材木商を繼ぎ堅實なる業務を營まれて居る、氏は幼少の頃生家をはなれて數年間斯業を修得され

た努力家である、現在從業員一名、建築材一切を取扱つて居尚ほ氏の義弟に當る中澤富三氏を迎へて業務に精進されて居たのであるが富三氏は今事變勃發の秋召されて出征、現在尚ほ大陸に活躍されてゐる、氏は當年四十三歳の働き盛りにして今後の活躍が嘱望されて居る。因みに氏の取引銀行は、第一相互銀行である。

山中製材所

山中淺之助

明治十三年生
營業所　東京市神田區佐久間町一ノ一五
電話下谷五六二九番

氏は千葉縣東葛飾郡の出身にして生家は農を業としてゐたが夙に製材業を志し上京、數ケ所の製材工場に一職工として實業に當り幾多の辛苦と鬪つて斯業を修得、大正十三年現在の地に獨立、製材業を創め今日の成功を見るに至つた立身傳中の一人である、現在從業員十名を使用し業績は日々向上の一途を辿つてゐる、また氏は釣を趣味とし、昭和三年養子として利介氏を入籍、業務を一任して海邊に魚を求めて歩くと云ふ樂しい生活を送つてゐる、尚ほ養子利介氏は茨城縣の出身にして水海道中學卒業後、同家の懇望により養子として入籍されたのである。因みに氏の取引銀行は第百銀行である。

鵜澤材木店

鵜澤三郎

營業所　東京市神田區元佐久間町一番地
電話下谷五六三番
振替　東京七二〇四六番

氏は東京市の出身にして深川區元加賀町官吏鵜澤正路氏の三男に生れ福井小學校を卒業、直ちに神田三善材木店に入店して斯業を修得、その間明朗豁達な店員として同僚から尊敬され前後十二年間の永きに亘り主家に働き昭和七年現在の地に創業、樅專門店として販路を擴張され現在店員一名を使用してゐる。氏は當年三十三歳、重厚高雅なる風格を有し商才に富み、社交にたけ業績は逐日向上の殷盛振りを示してゐる尚ほ神田區材木町の一流材木店たる三平本店は氏の親戚に當つてゐる。

明治四十一年十一月生
營業所　東京市神田區佐久間町二ノ二三
電話下谷九四二八番

ベニヤ板卸商
東京・清水・名古屋
松浦商店
本店　東京市神田區元佐久間町一番地
電話下谷(83)一四八五、四三六三番
振替　東京七二〇四六番
支店　名古屋市中村區横堀一ノ一六番
電話西六二二八番
出張所　清水市大通一ノ一一五番
電話一五番

京須商店

京須甲子三

明治三十四年九月生
營業所　東京市神田區松住町一〇
電話下谷三二一二番

氏は東京の人、小石川區指ケ谷町材木商京須健治氏の次男として生れ本郷小學校を卒業され、直ちに深川木場近信材木店に入店され苦業十二年間に亘つて斯業を研鑽された、大正十四年獨立、現在の地に京須商店を創業され内外木材を販賣し逐年業績をあげ現在從業員三名を使用、殷盛を極めて居る仕入先は主として深川木場市場で、得意先は諸官廳を始め諸會社、工場等大口需要筋を顧客としてゐる、また氏は公人として多方面に盡瘁されて居り現に町會役員を始め警防團役員として後進の指導に當つてゐられる。因みに氏の取引銀行は日本貴夜銀行である。

相田材木店

長谷川太平

明治三十一年生
營業所　東京市神田區松永町七
電話下谷五八二二番

氏は長谷川家の長男として現在の地に誕生された、生家は代々の材木商であつたが一時營業を中止してゐたのであるが氏は家業復興を期して献身的努力を續けられ遂に大正十年目的を達し材木商として營業を開始したのである、現在店員三名を使用して居り業務殷盛を極めてゐる、營業種目は主として一般建築材を取扱ひ深川木場市場より仕入れ得意先は市内一般建築業者である。また氏は公共事業は盡瘁せられ町會役員をはじめ警防團役員、在郷軍人分會役員等幾多の要職につかれてゐる。因みに氏の取引銀行は三菱銀行である。

皆川商店

皆川佐吉

明治三十一年四月生
營業所　東京市神田區五軒町二七

氏は東京市深川區東元町皆川彌太郎氏の次男として生れた嚴父彌太郎氏は草履製造販賣を營むで居たが氏は早くより材木業を志し神田區山本町山桂材木店に於て十五年間に亘り斯業を修業された、その間氏は模範店員として、また勤續店員として東京材木商同業組合より表彰狀を贈られ、感狀、記念品等を受與された優良店員であつた、昭和九年の秋、愈々獨立して皆川商店を創立された、その後氏の努力により家業は顯著なる向上を示し現在店員一名を使用、一般建築材を主として取扱ひてゐる。因みに氏の取引銀行は、安田銀行及び第百銀行である。

鎌倉町一一ノ一　關谷忠藏
同　柳澤清堯

司町一ノ七　齋藤兵治
美土代町七ノ三　加藤新一
神保町一ノ二三　電話神田〇七八三番　山川貞信
材木町九　電話浪花三二〇七番　小林鐵藏
同九　電話浪花四一八六番　高橋善四郎
同六　小高幸吉
同二七　小林杞郎
同七四　岸米次郎
豐島町四　電話浪花六一七四番　山崎梅次
同六　旭雄司
八名川三　作山傳
小川町二ノ六　電話神田二三〇八番　大宮德太郎
須田町一ノ二二　宮下英次郎
同二ノ四　電話浪花一八五一番　高橋若太郎
多町一ノ六ノ三　電話神田四八六一番　金子銀一郎
同二ノ五　電話神田〇八二五番　齋藤安彦
金澤町一三　電話下谷五二八五番呼　長瀧銀次郎
榮町一　初芝勇

日本橋區

とね松商店

山内傳作

明治二十五年生
營業所 東京市日本橋區蠣殼町四ノ一五
電話茅場町三七七八番

氏は山内松之助氏長男として明治二十五年現地に於て生る。普通教育終了後深川區數矢町（舊町名）駿澤本店に於て八ケ年刻苦精勵以て業務に精通店主の信頼厚く前途有望視されて退店嚴父の意思を繼ぎ大正十四年三月現地に獨力駿善材木店を創立、爾來關東大震災後における帝都復興の第一線に起ち奮鬪努力各業者間に多大の信用を博し商取引は年を逐ふて繁盛に趣き遂に今日の如き成功をかち得るに至つた業界稀なる活動家で現在家業に多忙を極めながらも町會役員東京材木商同業組合評議員等の要職に推されて社會公共自治的方面に日夜活動を續けられ前途に多大の期待がかけられてゐる。因に同店の取扱品は一般建築材並に木具、建具材等で取引銀行は、第百銀行富澤町支店である。

嚴父が材木商なす關係上、普通教育終了後本郷區湯島町齋政商店に入り十五年間刻苦勉勵業務に精通店主の信頼も厚く其間模範店員として東京材木商同業組合より表彰せられ感謝狀と記念品贈呈の光榮に浴せられた人格者である。嚴父松之助氏は七十歳の高齢を以て六年前逝去され氏は家督相續一般業務を繼承され以前に優る業務の擴張を圖ると共に得意先の獲得に眞劍的努力を拂はれた結果、商取引は年を逐ふて發展し遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。而して同店は明治四十三年の創立にして區内に於ても歴史ある老舗で商取引の堅實を以て知られてゐる。因に同店取扱品は一般建築材で取引銀行は、金原銀行である。

駿善商店

藤田善次郎

明治三十九年八月生
營業所 東京市日本橋區濱町二ノ四六
電話茅場町六七九七番

氏は藤田惣一郎氏次男として明治三十九年八月芝區愛宕町

南洋產丸太及挽材
樺太中丸太及挽材
落葉松丸太及小角
各種ベニヤ製品
內外木材仲介販賣

株式會社 角丸商店
社長 奥村潤一
支配人 幸田末三
日本橋區通二丁目一番地
住友銀行一階一號室
電話日本橋(24)三〇七三番
(三〇七四番

山ヨ材木店

横山生治

明治四十二年十月生
營業所 東京市日本橋區茅場町一ノ一〇
電話茅場町七一七〇番

氏は新潟縣高田市横山岩吉氏の長男にして普通教育終了後材木商を志して上京、京橋區の和田萬吉商店に入り拾五ケ年間業務に精勵、得意先並に店主の信頼極めて厚く勤續模範店員として東京材木商同業組合より表彰感謝狀並に記念品の贈呈を受けた光榮ある店員で多年の念願叶て昭和十二年三月現地に獨力山ヨ材木店を創立、爾來堅實主義をモットーに不眠不休の努力を拂はれ得意先の信用も加はり開業日尚ほ淺きに不拘著々地盤は開拓されて現今市内建築業者は勿論遠く南洋サイパン島、テニアン島、八丈島、小笠原島等方面にも顧客を擁し其の將來に大なる期待がかけられ、眞に洋々たる新進氣鋭の實業家である。しかして同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、第四銀行茅場町支店である。

田村商會東京支店

田村亨

明治三十四年十二月五日生
營業所 東京市日本橋區吳服橋一ノ一
電話日本橋 二五三〇、二五三一、二五六六番

氏は兵庫縣の出身にして嚴父は貴族院議員田村新吉である氏は神戸高等商業學校（現在の神戸商業大學）を卒業、大正十四年加奈陀、アメリカ合衆國各地を視察し同十五年歸朝、現在日本精米製粉株式會社取締役社長、日加信託株式會社取締役社長、田村物產輸出株式會社取締役社長、田村穀物商事株式會社取締役社長、大平火災海上保險株式會社取締役等の要職を兼任されて居る外神戸日米協會副會長、兵庫縣方面委員、日加協會副理事等の公職に盡力されて居る。尙ほ田村商會は明治廿四年の創業にして直輸貿易商として有名で本店は神戸市にあり支店は東京の外大阪、横濱、朝鮮京城、北米カナダ壁香坡市に置き、出張所を京都市と北米シヤトル市の二ケ所にある。

島崎材木店

島崎春之助

明治三十四年生
營業所 東京市日本橋區本石町四ノ四
電話日本橋四七六五番

氏は東京市出身にして、幼にして材木商を志し、十三歳の時神田區銀冶町根本德太郎氏經營の柳屋材木店に入り、十一ケ年の長きに亘る間刻苦勉勵店業の發展に貢獻する處大なるものあり、得意先きは勿論主家の信頼厚く現に當時東京材木商同業組合より勤續模範店員として表彰せられ感謝狀並に記念品贈呈の光榮に浴せられたる忠勤者であつた。斯くして氏は昭和二年主家の附近に於て獨力島崎材木店を創立されたが時恰も不景氣の波は一般經濟界を吹捲くり材木界の如きは其

影響甚だしく悲慘な光景を過せし折柄とて新進氣鋭の人も業の施し樣なく遂に一時事業を休止し、更に捲土重來を期し昭和八年現に再起製函材を專門に取扱ふことゝなつたが此の着眼は成功し氏の敏腕と堅實な商ひ振りは製箱業者に多大の信用を博し堅實な地盤も開拓されて商は年を遂ふて發展し遂に今日の如き大を為すに至つた新進氣鋭の前途有爲の實業家である。因に同店の取扱品は製箱材料專門で取引銀行は、昭和第百の兩銀行である。

佐貫屋支店

川名太三郎

明治五年生
營業所 東京市日本橋區兜町三ノ二四
電話茅場町三五八二番

氏は神奈川縣の出身にして、夙に材木商を志して上京、京橋區西八丁堀の老舗小力商店に入り刻苦精勵業務に從事中、氏の忠勤振りが店主に認められて店主の懇望によつて同家の養子となり現地に分家佐貫屋支店を創立營業を開始し從來幾多の難關を克服し遂に今日の如き成功を克ち得るに至つたのである、然して氏を援けて營業の發展に奮鬪努力せられてゐる養嗣子榮吉氏も福島縣相馬郡中村町出身にして相馬中學校卒業後同店に入り業務に精勵中店主の懇望に依つて入婿現今荒川區尾久一丁目に川名材木店を經營ベニヤ板を取扱ひ自から陣頭に起ち事業の擴張と發展に邁進せられてゐる。當年三十八歳の前途有爲の年壯實業家で其の將來に多大の期待がかけられてゐる、斯くして一家揃ふて全盛を極め業界關係方面の羨望の的となつてゐるのも要するに其の人格の高潔と營業の堅實が斯かる結果を齎らしめたので現に當主太三郎氏は六十九歳の高齢にも不拘本業の他町會役員其他に推されて日夜活動を續けて居られるのである。

佐貫重商店

川名重造

明治三十九年生
營業所 東京市日本橋區茅場町二ノ四
電話茅場町三五〇六番

氏は東京市京橋區西八丁堀の著名な老舗川名鐵右衛門氏の實弟にして、生家が斯ふした都下屈指の材木商で營業極めて隆盛なるため氏は普通教育を終るや直ちに家庭にありて本業に從事大勢の店員と共に第一線に起ち活躍すること數年、昭和七年現地に佐貫重商店を創立、羽柄材專門に鋭意事業の發展に邁進せられ、關係各方面より多大の信用を博し逐年營業は向上し遂に今日の如き大家を成するに至つたのである。要するに氏は名望家に生れながら其の負けじ魂はよく一機を捉ひ如何なる難關も突破せねば止まぬといふ其の潑剌たる勇氣が今日の成功をかち得たので氏の前途は眞に洋々たるものがある。然して氏は業務の多忙なるにも不拘幾多の社會公共的方面にも關與し現に在鄕軍人會、警防團等の役員に推せられ日夜銃後の御奉公に萬全を期されつゝある。業界稀に見る活動家である。

峰岸商店

峰岸茂吉

明治十五年一月四日生
營業所 東京市日本橋區江戸橋三ノ五
電話日本橋〇四五三番

氏は群馬縣碓氷郡豐岡村峰岸家の長男に生る、生家は農を業とせらるゝも氏は材木業の有利なる點に着眼し、夙に上京斯業に從事幾多の難關を克服し遂に今日の如き大成功をかち得られたのである。元來、同店は現當主が二代目に當り我國に於て電信電話の創設と同時に電柱用腕木專門業者の開祖とも稱すべき古き歴史を有する著名の老舗で取引先は諸官衙、會社、工場等の各方面擴範圍に亘り現に多額納税者として知られ、仕入地は總て原産地直接取引で從業員の數も極めて大勢、氏は日夜第一線に起ち事業の發展に鋭意努力せられつゝある業界稀に見る奮鬪家である。

株式會社 加藤商店

代表取締役社長 **加藤悅藏**

明治二十九年生
營業所 東京市日本橋區鯛藏町四ノ六
電話茅場町一六六六、六五五七番

加藤商店は以前本店を廣島市に置き盛んに木材業を經營し居られたが關東大震災後の帝都復興を目指して大正十三年帝都に進出現地に寶号を新設したのであるが其後事業上の關係から本店を東京に移し廣島の本店を支店に改めいよ〳〵積極的事業の發展に邁進し、多大の業績を擧げ一流處の材木店となし、昭和十一年組織一切を株式會社に變更し加藤悅藏氏が代表取締役に就任今日に至つたのである。（資本金四十五萬圓）然して社長加藤氏は幼名を精一郎と稱されたが嚴父悅藏氏は幼時より材木商として活躍、加藤商店は同氏が明治二十二年創立せられたもので客年嚴父は業成り名遂げ七十八歳の高齢を以て逝去されたので氏は家督相續襲名されたのである加藤氏は曾つて渡米彼地を汎く視察すること年餘歸朝其調査の結果に基いて新智識を業界に普及されたのは周知の如くで業界稀に見る活動家である然して現今本店の大鋒臺を一手に引受け大勢の店員を善導專業の發展に邁進せられつゝあるのは主任須磨辰雄氏で是亦社長に讓らぬ奮鬪家で會社の前途は眞に洋々たるものがある。

合資會社 近新商店

代表社員 **近藤新太郎**

明治十九年生
營業所 東京市日本橋區馬喰町一ノ三
電話浪花四九一三番

當店は元來三代に亘る製箱業者で現在の代表社員たる新太郎氏も當初は父祖の業を承け職いでゐたが、大正十二年震災直後材木商に轉向して一般羽柄材を取扱ふ樣になり、大正十五年營業合理化の爲合資會社組織として自ら代表社員となつたものである。爾來十有七年合理化された當店の基礎益々固

く殊に神奈川縣柄上郡中井村出身の小泉利八郎氏（明治四十二年生）を養嗣子とする事に依つて名實共に強化された譯である。

川市材木店

川村傳次郎

明治十九年生
營業所　東京市日本橋區堀留町一ノ四
電話茅場町六〇三三番

氏は横濱市の人、十三歳の春上京、深川木場に於て十餘年の修業を積み二十五歳の時川村家の養子として入籍された。氏の養父市左衛門氏は昭和十三年十月八十九歳の高齢をもつて逝去されたので氏は昭和十四年家督を相續、川市材木店十代目店主として業務一切を繼承されたのである。尚ほ川市商店は元和七年の創業にして徳川幕府の御用商人で舊幕府時代は特に苗字帶刀を許された名門の家柄で、爾來二百餘有年間連綿として今日に至り尚ほ隆々として業績の向上を示して居る。氏は資性溫厚篤實、頭腦明晰、よく老舗の貫祿を維持せられて居る。現在從業員三名、一般建築材を取扱つて居る。因みに取引銀行は、第一銀行堀留支店である。

木材通信社

社長　倉持善三郎

明治治十七年三月二十五日生
營業所　東京市日本橋區茅場町二ノ一三

本社は倉持氏の創立する所であつて、日本橋區久松町に於いて、日刊東京材木通信を創刊したのは、大正十年十月の事である。當時、業界に於ける言論機關皆無の時代であつたので、本紙の創刊は正に業界の渇望を醫するものとして、嵐の如き歡呼を以て迎へられたのであつた。しかるに、三歳にして不幸、關東大震災に遭遇し、その一切を烏有に歸するの不幸に直面したのであつたが、百折不撓の氏は直に現地に甦生して、倍舊の奮勵、よく今日の大を致し、支社、國内に遍きのみか、遠く、滿洲或は民國にまで有するの盛況を示し、業界の木鐸たる使命を十二分に果しつゝあつて、同時に木材産業の指導推進の機關として、奮鬪甚だ見る可きものがある。なほ本社はこの間日刊材通特報を發刊し、日本木材綜覽其他木材業に關する文獻し上梓し來つて、業界に稗益する所甚大なものがあるのみならず、大陸木材貿易調査所を設立し、我が國大陸政策の動向に順應して、木材界百年の大計に備ふる等、着々、氏一流の遠大なる理想を實現しつゝある。因に氏の取引銀行は第百銀行深川支店、三井銀行日本橋支店である

（深川區和倉町一ノ一ノ二に轉居の豫定）
電話茅場町一七七一・六五二七番
支社　大阪・名古屋・秋田・青森・遠野・清水・小樽・釜鳥・鹿兒島・和歌山・神戸・京都・新京・北京

京橋區

佐貫屋本店

川名鐵右衛門

明治廿一年四月十六日生
營業所　東市橋區西八丁堀一ノ六
電話京橋二〇五五、九一六一番

當佐貫屋本店は舊幕時代よりの老舗にして氏は二代目店主鐵之助氏の長男として明治廿一年四月十六日生れ、大正六年家督相續と共に業務一切を繼承し三代目店主となる、爾來氏の努力により業績大ひに上り遂に今日の大をなすに至つた、また氏は資性溫厚篤實の人格者であつて斯界各方面よりの信望厚く現在東京材木問屋同業組合代議員に推薦され、また同組合評議員を兼任されて居る、一方社會事業に盡瘁され現業橋區會議員の要職にあり、西八丁堀一、二丁目町會長を務められ區内の德望家として知られて居る。因みに氏の取引銀行は、第一銀行である。

佐貫吉材木店

川名銕造

明治十九年生
營業所　東京市京橋區西八丁堀二ノ一〇
電話銀座六八二番

氏は佐貫吉材木店先代店主川名吉五郎氏の長男として生れた、氏は幼少の頃より嚴父を輔佐し家業に努められた、昭和六年嚴父病歿され家督を相續し業務一切を繼承された、現在從業員五名、建築材一般を取扱ひ仕入先は原産地及深川木場市場で、市内一般建築業者多數を顧客とし大ひに業績を擧げて居る。尚ほ氏の一族は何れも一流材木店として市内各所に於て活躍されてゐる、氏はまた町會役員として社會事業に貢献される一方東京材木商同業組合評議員の要職にあり斯界のため大ひに努力されて居る。因みに氏の取引銀行は、第一銀行及第百銀行である。

上田銘木店

上田久五郎

明治三十四年生
營業所　東京市京橋區西八丁堀二ノ一〇
電話京橋三八八五番

氏は京都府の出身、葛野郡中川村上田銘木店に生れた、幼少の頃より家業の銘木商に興味を持れ、十八歳の時志を抱いて上京、京橋區寶町前川屋本店に入り斯業を修練された、大正十二年十月、震災直後の帝都に愈々宿望の銘木商を創業された。爾來氏の手腕益々發揚され逐次業績を擧げ、遂に今日の大をなす基礎を築き上げた、現在從業員二名を使用し、銘木一般を直接産地より仕入れ販賣して居る。しかして氏の取引銀行は、武州銀行支店である

竹 中村商店

中村吉治

明治三十一年二月十二日生
營業所 東京市京橋區八丁堀二ノ一一
電話京橋〇二六三番

氏は先代中村吉治氏の次男として生れた、慶應義塾商工學校に學び、同校卒業後家業に從事され、先代吉治氏昭和十一年三月五日病歿されるや、家督を相續すると共に業務一切を繼承され先代名を襲名され二代目店主として今日に至る、從業員十名を使用、竹材、丸太、造園材一式を取扱つて居る、しかして當中村商店の前身は德幕時代創業の竹濟商店で氏の嚴父が、その後一切を譲り受け中村商店と改稱されたのである。尚ほ氏は公共事業に盡瘁され町會副會長を始め警防團役員、東京材木問屋同業組合理事として活躍されて居る。因みに氏の取引銀行は三井銀行、三和銀行、安田銀行、第百銀行の各支店である。

和 和田治商店

和田治兵衛

明治卅五年一月十二日生
營業所 東京市京橋區西八丁堀二ノ一二
電話京橋四六七八番

明治十五年氏の祖父和田治郎吉氏は現在の地に和田治材木店を創業されてより連綿此處六十年、氏の嚴父の後を繼いで氏は三代店主として老舗の面目を維持されて居る。氏は萬五郎氏の長男として明治卅五年一月十二日に生れ、夙に家業を修練され昭和七年家督相續と共に業務一切を繼承され今日に至つたのである。舊來より得意先は廣く東京全市に亘る建築業者並びに一般消費者多數を確保しあり業務は日に增し殷盛を加えつゝあり、氏の今後の活躍は大ひに期待すべきものがある。また氏は公共事業にも盡力され區内業者中の德望家として知られて居る。因みに氏の取引銀行は第一銀行である。

小 玉安商店

小林鐵之助

明治卅二年四月二日生
營業所 東京市京橋區西八丁堀二ノ一四
電話京橋八七四八番

當玉安商店は氏の嚴父小林安次郎氏が明治廿九年現在の地に開業されたもので氏は第二代の店主である。氏は安次郎氏の長男として生れ中央商業學校に學び同校卒業後家業に携りよく嚴父を輔佐し商勢は氏の努力により一段と向上を示し、先代病歿後は家督を相續し業務一切を繼承し今日に至つた。主として内外各種材木を取扱ひ得意先として建築業者は勿論一般消費者に廣く得意を獲得し業務は著々向上の一途を辿りつゝあり。氏の前途は實に洋々たるものあり業界各方面は頗る期待されて居る。因みに氏の取引銀行は、第百銀行櫻橋支店である。

中 中寅商店

中村孝一郎

大正九年生
營業所 東京市京橋區西八丁堀三ノ一三
電話京橋三〇二〇番

中寅商店は氏の祖父中村寅吉氏が明治十年創業にかゝる老舗である。氏は二代目店主龜太郎氏の長男として生れ、昭和第一商業學校に學び、同校卒業後、嚴父を輔佐し家業に勵みつゝあつたが、偶々昭和十二年嚴父四十五歳をもつて病歿されたるをもつて家督を相續すると共に業務一切を繼承し三代目店主として今日に及んで居る。氏は當年二十一歳の若さであるが、鋭敏なる手腕は、能く老舗の貫録を維持し、また氏の參謀役たる豪支配人は店主を輔佐し家運の隆盛に大ひに貢獻された。現在店員五名を使用し建築材、ベニヤ板、ラワン材等を取扱つて居る。因みに氏の取引銀行は、第一銀行である。

保 保内屋

齋藤一二郎

明治十二年一月一日生
營業所 東京市京橋區西八丁堀三ノ一四
電話京橋八八八七番

氏は新潟縣加茂町の出身にして當年六十二歳、幼少の頃より家業の材木商に携り斯業を修得されたが、志を抱いて上京京橋の前川屋本店に入り永年に亘り研鑽を積み、斯業に精通愈々大正八年の二月現在の地に木材商を開業された。爾來著々業礎を固め商勢愈々殷盛を加へ遂に今日の地盤を成しとげたのである。營業種目は内外材木を販賣し建築材、建具材一式を取扱つて居る、現在得意先は主として一般建築業者及び建具製造業者多數を獲得して居る、また氏は資性極めて溫厚にして同業者間の信望厚く、現在西八丁堀三丁目西町會理事に推されて居る。因みに氏の取引銀行は、愛知銀行八丁堀支店である。

善 大由商店

白川善太郎

明治四十三年一月十日生
營業所 東京市京橋區西八丁堀三ノ一六
電話京橋八六六三番

大由商店は大正元年、氏の嚴父白川由右衛門氏の創業にかゝるものである。氏は中央商業學校卒業後嚴父の下にあつて斯業に勵み、またよく嚴父を輔佐され業績向上に盡力された偶々昭和七年嚴父病歿されたので家督を相續、父業を繼承し以つて今日に及んだのである。現在從業員三名を使用し北海道雜木を主として取扱ひ一般居職方面を得意先として商勢極めて殷盛である。また氏は公共事業に盡瘁され現在町會役員として活躍されて居る一方警防團役員として重要任務に從事されて居る。しかして氏の取引銀行は、第百銀行櫻橋支店である。

秦久材木店

秦　久　造

明治二十一年四月十三日生
營業所　東京市京橋區西八丁堀三ノ二〇
電話京橋一八八五番

氏は神奈川縣足柄下郡上府中村中村材木商樂喜代治氏の三男として生れ、十五歳にして上京、京橋區西八丁堀二丁目小刀商店に入り修業、二十六歳の時圓滿退店して大正四年現に地をトし秦久材木店を創業、原產地及深川木場市場より建築材を仕入れ諸官廳及び一流會社へ納材する外市内一般建築業方面にも多數の顧客を有してゐる、現在店員二名を使用されて居る。尙ほ氏は資性溫厚、近隣の信望厚く町會理事を努める一方東京材木商同業組合評議員として活躍されて居る。因みに氏の取引銀行は、第一銀行京橋支店である。

河口商店

河　口　力　太　郎

明治十七年十一月廿日生
營業所　東京市京橋區入船町一ノ一
電話京橋五六二二番

氏は神奈川縣足柄下郡下中村の出身にして、明治三十二年上京、京橋區西八丁堀小林力藏商店に入り斯業に修練されること實に十七年餘に亘り、全く業務に精通された。大正二年五月愈々現地に河口材木店を創業された、爾來氏の敏腕は業界を風靡し、廣く得意先を獲得し著々業礎を固め今日の大を成就された。氏は資性溫厚篤實にして同業者間の信望厚く曾て東京材木商同業組合役員を永年に亘り就任されて居た。また氏は現在入船町々會理事に推され公共事業に盡瘁され、業界稀に見る人格者である。因みに氏の取引銀行は、第百銀行櫻橋支店である。

駿河屋材木店

大　野　平　輔

明治八年生
營業所　東京市京橋區入船町一ノ一
電話京橋六五三四番

氏は東京市の人、大野家の次男として生れ、十六歳の時深川區數矢町驗茂商店に入り修業を積れ明治三十二年現在の地に駿河屋材木店を開業、從業員二名を使用し建築材一般を販賣して居る。得意先は市内一般建築業者である。尙ほ氏の次男平次郎氏は家業に從事され、よく嚴父を輔佐し業績向上に努力されてゐる、また業務多忙にも不拘、父子共に社會公共事業に盡瘁され平輔氏は町會長として四隣の信望を蒐めまた平次郎氏は在鄕軍人會京橋第五分會參事として後進の指導に當られてゐる。因みに氏の取引銀行は、第百銀行である。

黑清商店

黑　田　準

明治三十五年一月廿日生
營業所　東京市京橋區入船町一ノ一
電話京橋七八五番

氏は深川區木場町材木商黑田守之助氏の長男として生れ、大正二年二代目店主織田清吉氏の下にあつて修業、昭和八年一月店主病歿されるや當主の商號及業務一切を讓り受け、黑清商店參代目店主として斯界に重きを成した。同商店は舊幕府時代織田清吉氏が創業にかゝる老舗であり、業界に於ける一流店である。現在從業員七名、內外材木一般を取扱に南洋廳を始め諸官廳、諸會社への納材を主とし、堅實なる營業をつゞけてゐる、尙ほ大森區大森三丁目黑田屋材木店並に中央線三鷹驛前黑田屋材木店の各店主は當主の薫陶を受け獨立されたのである。因みに氏の取引銀行は、三和銀行八丁堀支店及び第百銀行櫻橋支店である。

六角材木店

六　角　吉　人

明治三十五年生
營業所　東京市京橋區入船町一ノ六

氏は福島縣安達郡高川村玉川の農家の出身にして當年三十九歳の働き盛りである。十三歳の時上京し、京橋區西八丁堀三ノ一六大由商店に入り材木業に精進され、大正十二年十月現在の地に六角材木店を開業された。現在從業員一名を使用し家具材一般を取扱ひ、顧客は一流諸會社工場を始め一般居職方面に亘り廣範圍の販路を有し頗る殷盛を極めて居る。尙ほ氏は在鄕軍人會役員として後進の指導に當り、また警防團役員として重要任務に從事されて居る、氏は極めて熱心强氣の人にして、業務に勵み業界のため盡力されて居りその將來は大ひに囑望されて居る。

三上丸太店

三　上　喜　一　郎

明治十二年生
營業所　東京市京橋區入船町一ノ九
電話京橋六四一一番

氏は栃木縣の人、農家の生れであるが年少にして上京、京橋區鹽埚島にあつた天滿屋銘木店に入り斯業を勵み、十餘年に亘る修練を積み、大正十一年現地に三上丸太店を創業、原產地より直接買入れ丸太類及び銘木一般を取扱つて居る、現在從業員三名、尙ほ氏の長男一氏は嚴父を輔佐し家業に精進され、極めて堅實なる營業を續けてゐる、氏は現在東京材木商同業組合評議員として斯界のため活躍されて居る。因みに氏の取引銀行は、第百銀行である。

清水商店

清　水　竹　次　郎

明治廿五年五月廿三日生
營業所　東京市京橋區入船町三ノ三
電話京橋七四四八番

氏は埼玉縣の出身にして入間郡大家村に生れ當年四十九歳の働き盛り、明治四十年志を抱いて上京、京橋區木挽町の木多茂商店に入り前後十七年に亘り斯業を修得され、大正十一年五月遂に獨立して清水材木店を創業された。爾來着々業績をあげ逐年業礎を固め今日の大を成しとげた、現在得意先は

主として建築業者、建具製造業者、その他一般消費者多數を獲得され、店員二名を使用し、業務は極めて殷盛である、また氏は業界稀に見る人格の士にして同業者間の信望厚く、近隣の愛望により町會役員を再三務められて居た。因みに氏の取引銀行は、第百銀行櫻橋支店である。

日本木材興業株式會社

社長　宮川武
支配人　大島績

營業所　東京市京橋區銀座西二ノ三
電話京橋二〇五二番
工場　栃木縣黒磯町
電話黒磯一三五番

時局經濟統制下に國内木材の自給と濶葉樹利用加工の汎く普及を絶叫する折柄昭和十四年四月突如創設されたる日本木材興業株式會社は其工場を栃木縣那須山麓に建設工場敷地約二萬坪、工場建物九百五十餘坪を有し設備の完全せると工場生産力に於ては將に我國民營工場隋一と稱すべく其資材は那須川の上流一帶一萬餘町歩に亘る社有林より年々採伐する三萬石餘の生産丸太を堅持し「フローリング」厚板、挽割我等濶葉樹乾燥加工材を生産時局材界の順風に著々其業績を擧げつゝあり、近く又合板加工工場の增設計畫を有し愈業界に刮目すべき新工場なり。因に同社は日本ゴム及び「ブリツヂストン」タイヤー株式會社の姉妹會社に屬し兩社の社長石橋正二郎氏の義弟に當る宮川武氏を取締役社長とし、取締役支配人大島績氏は曾て永年王子製紙株式會社に在りて樺太、北海道方面の山林事業に活躍せる手腕家として知られ工場長櫻田久作氏も亦二十餘年營林署濶葉樹加工工場の經營に當りたる人斯く如く適材を陣容として後楯の石橋財力と相俟て今後無限の發展性と其前途は業界より多大に期待さるゝ所なり。因に取引銀行は、三井丸ノ内支店なり。

倉岡商會

株式會社　倉岡今太郎

明治九年三月十一日生
營業所　東京市京橋區銀座西六ノ六
電話銀座三〇〇、四八〇、六二二七番

氏は廣島縣比婆郡山内西村の出身にして倉岡竹藏各の三男として生れた、氏は廿歳の時農商務省に入り各地の營林署長を歴任して後山林事務官を拜命、大正八年官を辭し從七位を賜る、その後氏は材木業經營を計畫され大正十年京橋區三十間堀に資本金百萬圓、拂込二十五萬圓をもつて稲岡生商會を創立專務となり更に大正十四年株式會社倉岡商會と改稱、取締役社長に就任され昭和五年現地に移轉今日に至つた、木材薪炭の販賣を主とし内地材、原木、杭製品等を取扱つて居る外、長野、栃木、福島の各地に工場を設置、全從業員百八十餘名を算する盛況振りである。因みに取引銀行は三和銀座支店、安田銀行本店、第一銀行銀座支店等である。

伊藤材木店

伊藤千代三郎

明治廿三年五月廿日生
營業所　東京市京橋區銀座西八ノ六
電話銀座四四四七番

氏は名古屋市中區正木町の出身にして材木商伊藤桑吉氏の長男として生れた、年少の頃より家業に携り嚴父を輔佐する内業務に精通、其後志を抱いて上京し、昭和四年二月現在の地へ伊藤材木商を開業した、爾來氏の勤勉努力は著々業績を擧げ、よく得意先を開拓し、現在店員三名を使用し、内外各種材木、その他建築材、荷造材を取扱ひ、殊に荷造材は汐留驛附近運送業者を得意先とし廣大な販路を確保しつゝある。氏はまた資性溫厚にして四隣の信望厚く、幾多公共事業に盡瘁されて居る。

秋田木材株式會社

營業所　東京市京橋區銀座三ノ四
電話京橋三四四、六一五一番

當會社は明治三十年創立の能代挽材株式會社、能代材木合資會社及び明治三十四年創立の秋田製材合資會社の三會社を併合その事業全部を繼承し資本を增加し組織を改め明治四十年三月秋田木材株式會社を設立、今日に至つたのである。尙ほ當會社は初め秋田大森林の利用開發を目的とし秋田杉の聲價發揚に努力、秋田地方の幼稚なる製材を改善するため率先して歐米より製材機械を輸入し工場を新設し斯業の革新を圖り製材業發達の基礎を築いた、その後事業は極めて順調に進み漸次經營の範圍を擴張して居る、また支店は全國に散在し大阪、名古屋、深川、能代、青森、函館、津別、樺太、稚内の各地にある。尙ほ當會社は材木業の外電氣事業、植林事業ベニヤ事業、製材事業に伴ひ發達した鐵工業等の事業を併せ經營して居る。

日露木材株式會社

社長　高島菊次郎

營業所　東京市京橋區銀座四ノ三
電話京橋六一四八、六一四九番

當社は王子製紙株式會社の姉妹會社にして昭和二年六月の創業、露領材の輸入を主とし其後南洋材、外材を取扱つて居る、資本金は當初百五十萬圓であつたが現在は增資して五百萬圓である。取締役社長は高島菊次郎氏で常務取締役に陽信止氏、取締役は横井半三郎、石上林二郎、稲賀偉一郎の諸氏で營業部即ち主任に稲賀偉一郎氏、經理部主任に小林靜雄氏が當り社運は隆々として發展して居る、現在出張所を大阪、名古屋、に置き木材賣買、委託販賣、林業を營むで居る。しかして當會社の取引銀行は三和銀行日比谷支店、第一銀行本店三井銀行丸ノ内支店等である。

第一化學工業株式會社

營業所　東京市京橋區新富町二ノ三
電話京橋三九九七、七八〇五番

當社は昭和十四年二月の創立にして創業早々東京工場の建

設に着手し同年七月末第一期施設として敷地二千七百坪餘、り建物四百七坪、附屬營造物一式並に汽罐、注藥罐徑五尺、長三十尺三基、徑五尺、長十五尺一基を据付け諸機械配置取付、是等連絡裝置一切の設備を完成、同年八月作業開始、第二期施設として更に敷地を擴げ倉庫三百四十坪の增築を行ひ耐火木材、耐火劑及耐火塗料を製造、耐火木材一ヶ年の生産能力拾萬石を算する盛況を示現して居る、また一面大阪市西淀川區佃町七丁目に二千五百七坪を買收し大阪工場を建設することになり一切の準備を完了、八月中より一切の設備を完成する筈である。因みに大阪工場に於ける耐火木材一ヶ年の生産能力は十萬石を豫定されて居る。

大西商店

大西秀夫

明治卅九年七月十八日生
營業所　東京市京橋區木挽町四ノ七
電話京橋一〇七〇番

氏は徳島縣與名西郡浦庄村の出身にして明治卅九年七月十八日大西鹿藏氏の長男として生れた。氏は年少の頃より材木商として獨立せんことを期し大正九年京橋區木挽町の木多茂材木店に入り修業、主家のため盡瘁せられた、しかして昭和七年主家の業務一切を繼承することゝなり、自己の手腕を十二分に活用、業績大ひに上り今日に及んだのである。現在店員一名を使用し內外各種木材を取扱ひ一般建築業者を始め消費者多數の得意先を確保し、益々業礎を固められつゝある。

因みに氏の取引銀行は、日本興業銀行である。

木下商店

木下海平

明治廿七年十月六日生
營業所　東京市京橋區木挽町七ノ四
電話銀座〇九七四番

氏は靜岡縣濱名郡中瀨村の出身にして木下初惠茂氏の四男として生れた、明治卅九年十月十二歲にして上京、京橋區木挽町五丁目柴田金五郎商店に入り斯業を修得された、その間主家のため非常な努力をはらはれ模範店員の聲高かつた、しかして昭和元年十二月に及び主家の業務一切を繼承し、其後獨力によつて大いに業績をあげ遂に今日の大をなしたのである。現在店員二名を使用し、內外各種材木を取扱ひ一般建築業者及び諸會社、一般消費者等多數の顧客を有して居る、また氏は實性溫厚篤實にして同業者間の信望厚く交親會役員に推され、また公共事業にも貢獻され現在木挽町六七西部町會理事を始め在鄕軍人京橋第四分會參事、木挽町南部青年團會計等煩雜なる要務にたづさはれて居る。

小安商店

金子安太郎

明治四十二年八月一日生
營業所　東京市京橋區寶町一ノ五
電話京橋一六四八番

小安商店は今より約四十五年前氏の嚴父安太郎氏創業にか

ゝる老舗である。氏は安太郎氏の二男として生れ幼名を貞治と稱し年少にして家業に精通され昭和元年先代病歿後安太郎を襲名され家督を相續し業務一切を繼承され、獨力により業務の發展に大ひに盡力され今日に及んだのである。現在店員一名、內外各種木材を取扱ひ一般建築業者及び一般必需筋等多數の顧客を有して居る。氏は極めて溫厚の士にして同業者の信望厚く今日まで幾多の公共事業に盡瘁されて居る。因みに氏の取引銀行は、三菱銀行丸ノ內支店である。

內田商店

內田堅太郎

明治三十四年生
營業所　東京市京橋區寶町一ノ五
電話京橋三二七四番

氏は神奈川縣足柄下郡上府中村農內田家の三男として生れ十四歲にして上京、京橋區寶町小安商店に入り斯業を修練、大正十三年二十三歲にして獨立現在の地に內田材木店を創業された。營業種目は建築材一般を取扱ひ主として深川木場市場より仕入て居る。尙ほ得意先は諸會社及市內一般建築業者方面に多數獲得して居り、極めて堅實なる業績を擧げて居る現在從業員一名、氏はまた町會役員として公共事業に盡瘁され最近では隣組防空群々長として煩雜な要務に從事され、近隣の信望を蒐めて居る。しかして氏の取引銀行は、第一銀行である。

金義商店

金子義勝

明治二十九年生
營業所　東京市京橋區寶町二ノ一
電話京橋八三七二番

氏は神奈川縣の出身、足柄下郡上府中村農金子家の三男として生れた、十四歲の時上京、京橋區寶町一ノ五小安材木店に入り永年に亘り、材木業を修練され、昭和十一年愈々獨立現在の地に金義商店を創業、一般建築材を販賣し市內一流土木建築請負業者を始め一般建築業者方面に多數の顧客を有して居り、從業員三名を使用し業績は逐次向上の一途を辿つて居る。尙ほ材木仕入先は深川木場市場を主として居る、氏はまた社會事業方面に於て盡力されて居り現在隣組群長を務められて居る。しかして氏の取引銀行は第一銀行である。

政 篠田政之助商店

篠田政之助

明治廿九年五月生
營業所　東京市京橋區寶町二ノ七
電話京橋一四四二、五二二六番

氏は銘木商篠田政之助氏の長男として生れ、嚴父の下にあつて家業に精進された、同商店は明治二十五年創業に係る老舗にして明治三十七年四月十八日嚴父病歿せられ同年六月幼名政次郎を政之助と改め家督を相續すると共に業務一切を繼承し今日に及んで居る、現在從業員七十名を使用し東洋一の

銘木、唐木問屋として有名である。尙ほ支店を深川區木場三丁目及び横濱市彌生町四丁目の二ケ所に置き、大ひに業績を擧げて居る。氏はまた東京銘木卸賣商業組合理事長の要職にあり斯界のため献身的努力を盡されて居る。因みに氏の取引銀行は第百銀行及び第一銀行である。

㋝ 前川屋本店

伊藤八十吉

慶應二年生
營業所 東京市京橋區室町二ノ十一
電話京橋〇三五八番

氏は東京市の人、慶應二年芝區新橋に生れ、年少にして材木商を志し麴町秩父屋材木店に入り修練を積れ、今より約五十年前現在の地へ獨立、前川屋材木店を創業され、氏の努力は着々として業礎を固め遂に今日の大をなし、名實共に備つた立派な老舗である。尙ほ氏は高齢のため業務を長男米次郎氏に委ねて居るが店員六名を使用し内外各種材木を取扱ひ堅實なる營業をつゞけて居る。尙ほ氏は温厚篤實る士にして後進に盡力され、現に氏の驚陶を受けて獨立せるもの既に多數にのぼつて居り、何れも立派に營業をつゞけられて居る。因みに氏の取引銀行は、武州京橋支店である。

さ 木村唐木店

木村健治

明治十二年生
營業所 東京市京橋區寶町二ノ十一
電話京橋〇五三三番

先代木村春東氏が明治初年唐木商を日本橋城邊河岸に創業以來の老舗にして氏は先代春東氏の長男として生れた、幼少にして斯業に志し年少の頃より業務に携り嚴父を助け家業の發展に努められた、先代病歿後家督を繼承すると共に事務一切を引取り二代目店主として將來の發展を期し昭和二年現在の地へ移轉今日に至つた。當店は内外銘木問屋として著明であり得意先多數を獲得され業務は逐日殷盛を加えつゝある。氏は人と成り温厚篤實の人格者で、今日まで幾多の公共事業に盡瘁され同業者間の信望を集めて居る。因みに氏の取引銀行は、第百銀行日本橋支店、三井銀行本店等である。

横田商店

横田永敏

明治二十五年九月生
營業所 東京市京橋區寶町三ノ三
電話京橋二六六五番

氏は群馬縣高崎市の出身、生家は酒類商を經營されて居たが、年少の頃より材木商として獨立すべく、郷里の材木店に入り修業を積れた。その後一家揃つて上京、嚴父は京橋に於て酒商を經營されたが、氏は廿六歳の時現在の地に材木商を創業され、當時は主として樽材のみを取扱つて居たが、業務の進展するに連れ竹材及銘木を併せ販賣、今日では建築材をも取扱つて居る、從業員三名で頗る殷盛を極めて居る。尙ほ氏は四十九歳の働き盛りにして氏の將來は大ひに期待されて居る。

寶町一ノ一一　電話京橋三五七一番　狩野杉三郎　同　三ノ一六
入船町三ノ二　電話京橋七三八二番　曾我勝二　同　三ノ一六
同　三ノ四　電話京橋五四二一番　松下一郎　同　三ノ二二
八丁堀三ノ一三　神谷秀雄　木挽町四ノ四並木ビル
同　四ノ七　電話京橋一六七四番　海野定平　同　四ノ七
西八丁堀二ノ四　電話京橋三三五四番　永岡伊三郎　同　二ノ八
同　二ノ四　電話京橋四七九七番　遠藤由吉　槇町一ノ五
同　二ノ一〇　電話京橋八五八九、九五八九番　四村豐　新富町一ノ四
同　二ノ一二　電話京橋八八九四番　竹澤和一郎　同　三ノ一三
同　二ノ一二　電話京橋一九二〇番　小村力藏　月島西河岸通一ノ一
同　二ノ一四　電話京橋四二一九番　石井文吉　同　二ノ九
同　二ノ一八　電話京橋八七一一番　飯野三郎　新川二ノ八
同　三ノ一四　電話京橋六五七七番　吉田市之助
同　三ノ一四　北見庄次郎

電話京橋四三〇八番　加藤建次郎
電話京橋二八七〇番　高島萬兵衛
電話京橋三三四七番　石橋重太郎
電話京橋六八一四番　笠倉歸一放
電話京橋〇一一七番　齋田弘次郎
電話京橋三三三二番　佐野秀
電話京橋四〇一四番　堀ヨキ
電話京橋四五六八番　河口正吉
電話京橋〇八五五、九〇二六番　水野吾作
電話京橋〇五一七番　矢崎謝次
電話京橋八六八四番　大島卯市
石川一生

芝區

宮 宮崎材木店

宮崎　信一

明治四十四年生
營業所　東京市芝區新橋三ノ八
電話銀座三六三九番

氏は埼玉縣入間郡越生町宮崎伊之吉氏の三男にして、嚴父は建具商なりしも氏は材木商を志し昭和七年同縣川越市の萬佐材木店に入りて七ヶ年間刻苦勉勵業務を鍛練し更に中央進出を目指して上京、當時芝區新橋五丁目に在りて營業隆盛を極めてゐた石田屋材木店（綾井平八氏經營）に入り店主を輔佐し七ヶ年間營業の發展に貢獻中同店は家事上の都合で廢業の餘儀なきに至つたので氏は當然驟起現地に獨力宮崎材木店を獨立し從來不撓不屈事業の擴張と發展に努力し氏の敏腕と堅實なる商取引振は建築界各方面の認むる處となり、開店日尚ほ淺きに拘らず着々地盤は開拓せられ信用も益々加はり現在早くも斯界中樞の堂々たる商取引を行ひ其の潑溂たる活躍振りは業界注視の的となり氏の前途に多大の期待がかけられてある。

河仲材木店

小川雅男

明治十七年生
營業所　東京市芝區新橋五ノ一八
電話芝三八三六番

氏は東京市王子區なる小川新右衛門氏の三男に生れる、嚴父は地主にして酒商を營み居られたるも氏は材木商を志して岩淵高等小學校卒業後、赤坂區田町伊豆鐵商店に入り從業、業務に精通の後、大正十三年往年の關東大震災復興を目指して同志の士三名と合同、河仲材木店を創立、營業の發展に努力し業績見るべきものあつたが、昭和七年小川氏は同店の營業權並に業務一切を繼承、爾來一層業務の發展に努め建築業者間に多大の信用を博し遂に今日の如き確固不動の地盤を樹立し、他面氏は多忙の身を厭はず幾多の社會公共自治的事業に參與し現今町會役員、麻布、芝商進會幹事に推せられて銃後の護り堅むべく活動を續けられてゐる。因に同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、住友銀行である。

吉 須藤材木店

須藤恒太郎

明治二十八年二月廿四日生
營業所　東京市芝區新橋五ノ三〇
電話芝三〇七一番

氏は千葉縣千葉驛前須藤喜太郎氏の長男にして、實家は旅館業を營まれしも氏は鄕里の富士見小學校卒業後材木商を志して十五歲の時上京、深川區平野町の武藏屋商店に入り六ヶ年餘一般業務を習得し更に神田區鍊倉河岸に當時全盛を極めてゐた淺野セメント板商店に入り二十九歲迄で修業、往年の關東大震災後の復興の先驅者を目指して大正十二年十月現地に獨立須藤材木店を創立、萬難を排して營業の發展に努力建築

業者間にその敏腕が認められて信用厚く營業は年々增加し遂に今日の如き大をなすに至つたのである。しかして氏は極めて多忙の身なるにも拘はらず幾多社會公共的方面にも關與され貢獻せらるゝ處大なるものがある。因に同店の取扱品は一般建築材及び銘木類で取引銀行は安田銀行である。

吉田材木店

吉田常造

明治三十四年生
營業所　東京市芝區新橋五ノ三四
電話芝四六一六番

氏は茨城縣那珂郡那珂湊の出身にして、十四歲の時材木商を志して上京、同店の前身に當る栗山商店（氏の伯父が經營）に入り刻苦勉勵業務に精通、家運の發展に貢獻せらるゝ處大なるものあり昭和六年栗山氏は業務一切を吉田氏に讓渡せられたので氏は之を繼承し號を吉田材木店と改め玆に更新の一歩を踏み出し益々堅實主義を以て業務の擴張を圖られたるが業界各關係方面より好評を博して商取引は逐年增加し今や堅實なる地盤も樹立されて前途眞に洋々たるものがある。尙ほ氏は業務の多忙なるにも不拘、社會公共自治的事業にも參加各種の役員に推されて時局下活動を續けられてゐる。しかして同店の主なる取扱商品は雜木、ラワン材等である。

松 松崎材木店

松崎勝次郎

明治四十八年五月生
營業所　東京市芝區新橋六ノ七
電話芝一四二二番

氏は千葉縣君津郡久留里町宮崎庄吉氏の長男に生る、十四歲の時大望を抱いて上京、深川木場の驥保商店の實場に入り五ヶ年間刻苦勉勵業務に精通の後、更に芝區新橋五丁目に在りて第一流材木店として盛況を極めてゐた驥河屋商店（村松義雄氏經營）に入り三ヶ年間業務に從事店主の信頼厚かりしが時恰も經濟界極度の不況に沈淪し其の餘波は材木界にも及び悲慘なる光景を演じ止むなく氏は退店するの餘儀なきに至り爾來陰忍自重再起を待ち昭和九年奮然現地に松崎材木店を獨力創立、多年の經驗に基き堅實方針の下に漸進主義を以て營業の發展に努められたのが建築業者間に絕大なる信用を博し着々地盤は開拓せられて開店日尙ほ淺きに不拘營業は漸次發展し豫期以上の成功を贏ち得氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。因に同店の取扱品は一般建築材料で取引銀行は第百銀行である。

林正一商店

林正一

明治三十年一月廿日生
營業所　東京市芝區田村町二ノ十二
電話銀座四〇七八番

氏は三重縣員辨郡西藤原村林正太郎氏の三男にして、生家が材木商なりし關係上普通教育終了後家庭にありて嚴父を援けて家業に從事一般事務を鍛錬し十九歲の時中央進出を目指

して上京、淺草の萩原材木店に入り一ヶ年間實地に就き修業し更に同店の先輩三木氏が芝區内に於て獨立開業したるため同店に入り店主を援けて營業の發展に協力したるが一ヶ年半にして主家閉店の餘儀なきに至り爾來幾多の難苦と闘ひ或は材木ブローカとなり悪戰苦闘を續けつゝあつたが大正十三年彼の關東大地震後の建築界好況に際し獨力現地に林正一商店を創立し爾來營業の發展に努力し建築界各方面より多大の信用を博し營業は年を逐ふて隆盛に趣き遂に今日の如き堅實なる地盤を確立するに至り現今芝區内に於て第一流商店と稱されてゐる。かくの如き大成功の裏面には令室の涙ぐましい内助の功があづかつて力あると謂はれてゐる。

榎本材木店

榎本　二三次

明治二十七年生
營業所　東京市芝區田村町二ノ一五
電話銀座三六八六番

氏は東京市芝區愛宕町において榎本興三郎氏長男として明治二十七年生る。生家が建築請負業者なりし關係上、普通教育終了後自宅に於て家業に從事せられたが、建築界の活況に伴ひ材木商の有望なる點に着眼され大正十年現地に榎本材木店を創立、幾多の難關を突破業務の發展に努力中、大正十二年の關東大地震災後、帝都の復興に乗出し建築界の活況に一躍業務は隆盛に趣き遂に今日の如き堅實なる地磐を樹立さるゝに至つたのである。然して同店の主なる取扱品は雜木類にして仕入先は深川木場及び原産地で取引銀行は第百銀行である。

貝塚商店

貝塚　英一郎

明治二十八年四月一日生
營業所　東京市芝區田村町二ノ六四
電話銀座二四九七、二四九八番

貝塚氏は貝塚清次郎氏の長男として明治二十八年四月一日現地に於て生る。嚴父清次郎氏は當地切つての名望家で同店は明治二十一年創立せられたものである、斯ふした關係から當主は大倉商業學校(第十一期生)卒業後嚴父の膝下に在りて營々業務を修得、家業の發展に努められてゐたが、明治四十五年嚴父は業成り名遂げ第一線を隠退せらるゝことゝなつたので、氏は一般事務を繼承し一層業務の擴張と發展に拍車をかけ業界各方面より多大の好評を博し諸會社、大工場等よりの注文ひきも切らず取引は繁盛を極め乘に氏の合理的な商内振りは顧客に頗る好感を以て迎へられ今や押しも押されもせぬ第一流處の商店となり其前途に多大の期待がかけられてゐる。尚ほ同店より獨立して現今全盛を極めてゐる人々は左の如し、小一屋商店(深川)、村松商店(芝)、西名製材所(靜岡)等で現今店主は神奈川縣鶴見區生麥の自宅より通勤されてゐる。

近常商店

近藤　常太郎

明治二十二年一月生
營業所　東京市芝區田村町三ノ四
電話芝二八四九番

氏は愛知縣碧海郡富士松村近藤權兵衛氏の五男として生れ十三歳の春材木商を志して上京、氏の遠縁に當る近藤氏の經營にかゝる近藤材木店に入り刻苦勉勵十ヶ年間修業、一般業務に精通したる後明治四十年現地に獨力近藤材木店を獨立、爾來、堅實主義をモットーに幾多の難關を突破し事業の擴張に努められし結果、業界各方面よりの信用增加し商取引は年を逐ふて殷盛に趣き遂に今日の如き大をなすに至つたのである。氏は小鳥の飼育並に盆栽に興味をもち業務の餘暇ひたすら此の趣味にふけられ現在氏の店頭には多數の小鳥が可愛らしい聲で囀つてゐる。因に同店の取扱品は雜木、一般家具材等である。

八島材木店

八島　八十八

明治三十三年生
營業所　東京市芝區田村町四ノ九
電話芝四三〇四番

八島氏は三重縣員辨郡西藤原村八島家の長男にして生家が旅館を營みありし關係上、普通教育終了後自宅に在つて家業に從事せられたが材木業の有望なる點に着眼し、二十二歳の時上京、芝區田村町二丁目林商店に入り四ヶ年間實務に從事主家の信頼厚かりしも豫ての念願であつた獨立開業の準備整ひしため退店、昭和二年現地に八島材木店を創立、從來幾多の難關を突破し營業の擴張とその發展に努力の結果、業界關係各方面から多大の信用を博し年を逐ふて營業は發展し遂に今日の如き確固不動の地磐を獲得するに至り氏の前途に多大の期待をかけられてゐる。しかして同店の取扱品は雜木、家具材で取引銀行は、第百銀行である。

原材木店

原　一郎

明治二十六年生
營業所　東京市芝區田村町四ノ九
電話芝二七六五番

氏は東京市の出身にして生家は米穀商であつたが大正十二年の關東大震災を契期に帝都の復興を目指して材木商に轉向されたのである、氏は慶應義塾に學び最高學府を出でられた豐かなる學識を有し合理的經營方針の下に事業の發展と擴張に勇往邁進せられその敏腕と堅實な營業方針は建築界各方面の信頼を贏ち得られ業績年と共に擧り營業は今や昇天の勢を以て殷盛に趣き氏の前途は眞に洋々たるものがある。しかして氏は多忙を極めあるにも不拘、幾多社會公共事業にも關與され現に東京市方面委員、東京材木商同業組合評議員に推されて奉公の誠を盡されてゐる人格高潔、資性温厚篤實の士である。因に同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は第一銀行

で仕入先は原産地からである。

近藤材木店

近藤由太郎

大正三年三月廿三日生
營業所　東京市芝區田村町四ノ一四
電話芝四五一〇番

氏は先代近藤由太郎氏の長男として大正三年三月現地に生る、生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後厳父の膝下に在りて家業に從事、營業の發展に努力中昭和十二年八月先代由太郎氏逝去せられ氏は家督相續後襲名の上一般業務を繼承年壯の身を以て萬難を排し店員と共に營業の發展に邁進されたが往年の關東大震災後に於ける建築界の活況は同店の營業發展に拍車をかけ爾來順調なる經路を辿り遂に今日の如き大をなすに至つたのである、然して氏は年壯新進氣鋭の人格者で現に町會の役員に推されて社會公共自治的方面にも活躍業望を集めその將來に多大の期待がかけられてゐる。因に同商店は大正十二年の創立にして(二代目)取扱品は一般建築材取引銀行は、第百銀行である。

四倉材木店

四倉榮

明治十五年生
營業所　東京市芝區田村町四ノ二四
電話芝二〇八四番

氏は茨城縣那珂郡の出身にして、夙に材木商を志して上京明治四十三年現地に四倉材木店を創立、爾來、幾多の難關を突破し不撓不屈の水戸魂は克く商機を捉ひ事業は年を逐ふて發展し現今區内第一流處と稱されて目黒區三谷町八五番地に支店を新設(電話荏原二七九六番)し確固不動の地盤を有せられる老舗である、氏は激務の身なるにも不拘社會公共自治的方面に活躍され現に東京材木商同業組合副組合長に推されて斯業の發展に貢献せられる處甚大なるものあり、尚ほ當主を輔佐し業務の發展に絶大なる功績を擧げて居られるのは氏の次男榮太郎氏(當年二十三歳)で府立第三商業學校を卒業せらるゝや直ちに厳父を援けて事業の發展に全力を傾盡されてゐる前途有爲の年壯實業家で斯界各方面嘱望の的となつてゐる奮闘家である、しかして同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、安田銀行である。

水野材木店

水野正二

明治三十九年生
營業所　東京市芝區田村町五ノ七
電話芝一二九八番

氏は岐阜縣土岐郡土岐町水野家の五男に生る、生家は農を業とし居られたるも、氏は將來材木商を以て身を立てんと欲し、芝區田村町二丁目の林材木店に入り五ケ年間一般業務に從事し精通の後昭和八年現地に獨力水野材木店を創立、爾來幾多の波瀾曲折はあつたが克く是を克服し堅實主義をモットーに着々事業の發展を圖り家具製造業者間に絶大なる信用を

博し商取引は逐年隆盛に趣きし現今七名の從業員を善導しす暇なき程の活躍を以てゐるのも要するに氏が敏腕を堅實な取引振りが斯くあらしめたので其前途眞に洋々たるものがある因に同店の取扱品は雜木類で取引銀行は、第百銀行である。

岩井材木店

岩井榮七

明治六年七月一日生
營業所　東京市芝區田村町五ノ二一
電話芝〇二四七番

氏は岐阜縣加茂郡八百津町岩井家の長男にして生家は農を業とせられ居るも氏は實業界に於て身を立てるを欲し年少來雲の志を抱いて北海道に渡り小樽木材株式會社に入社し一般業務を習得し更に同地に於て材木業に從事二十有餘年研究を積み大正十三年關東大震災後における帝都の復興を目指して上京、現地に獨力岩井材木店を創立、多年の經驗に基き堅實主義をモットーに敏腕を揮はれし結果、建築業者間に絶大なる信用を博し業績年を逐ふて隆盛に趣き現今當區内第一流の材木店と稱されてゐる、しかして同店の從業員四名は何れも氏の兄弟で和氣藹々一致協力家運の向上に努められてゐるのは業界稀に見る處で何れ是等の諸君は不遠獨立斯界に活躍されるのであらう。因に同店の取扱品は雜木類で取引銀行は、昭和銀行である。

柾木材木店

柾木宇太郎

明治三十六年生
營業所　東京市芝區田村町五ノ二二
電話芝二七二五番

氏は香川縣の出身にして生家は農を業とせられるも氏は材木商を志して廿一歳の時上京芝の栗山材木店に入り刻苦勉勵十年間の永きに亘り一般業務に精通店主の信頼厚かりしも、多年の念願であつた獨立開業の機運熟し昭和八年芝區新橋六丁目柾木材木店を創立、爾來多年の經驗に基づく堅實主義をモットーに敏腕を揮はれ業界各方面から絶大なる信用を博し業績年を逐ふて擧がり昭和十三年現地に移轉一層事業の擴張を圖り營業の發展と共に堅實なる地盤を樹立され前途に多大の期待をかけられてゐる新進氣鋭の士である。然して同店の取扱品は雜木類で取引銀行は、第百銀行である。

服部材木店

服部政太郎

明治二十七年九月生
營業所　東京市芝區新堀町三一
電話三田三三七五番

氏は服部吉五郎氏の次男として明治廿七年現地に生る、生家が材木商なりし關係上愛宕高等小學校卒業後自宅に在つて一般家業に從事、營業の發展に努められてゐたが、昭和八年十一月三日厳父吉五郎氏逝去せられ氏は鼓に家督を相續する

と共に一般業務を繼承し爾來一層業務の擴張と發展に努力せられたが、同店は明治二十四年の創立にして業界に古き歴史を有する老舗なるため一般業界の信用も厚く取引先きも多く從つて營業は年を逐ふて發展し遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。然して氏は多忙の身をも顧みず社會公共自治的方面に活躍され現に隣組群長に推されて時局下銃後の護りを堅められてゐる。因に同店の取扱品は煙草、木型材等で取引銀行は、第一銀行三田支店である。

東京市芝區田村町六丁目十七番地
振替東京二〇〇二〇番
電話芝(43)一〇四八五番
一六八八番
一六八九番
芝郵便局私書函第四號
登錄受電時號
【トウケウベニアショウカイ】
合名會社 ベニア商會本店
代表社員 足立建次
支配人 小島廣吉
名古屋出張所 名古屋市中村區日蓮通七ノ二番
電話西(5)六一八四番
名古屋笹島局私書箱第五八號
(取引銀行) 三和銀行銀座支店
安田銀行新橋支店
第百銀行銀座支店
第一銀行日比谷支店
横濱正金銀行東京支店

増田材木店

増田實男

大正八年生
營業所 東京市芝區新堀町三七
電話三田三九七四番

氏は大正八年芝區新堀町廿八番地に於て金之助氏の長男として生れ、嚴父が材木商なりし關係上、普通教育終了後嚴父の膝下にありて業務を習得、嚴父を援けて營業の發展に努力中不幸嚴父金三郎氏は昭和八年四十四歳の前途有爲の身を持ちながら病魔におかされて惜くも逝去され同氏は幼少にして家督相續一般業務を繼承、大勢の店員を善導業務の發展を事業の擴張に努力建築界各方面より多大の同情と信用を博し家運いよ〳〵隆盛に趨きつゝありし折柄、客年一月十五日日支事變に際して應召出征各地に轉戰赫々たる武勳を樹てられつゝあるが、氏の出征後は母堂が代りて店員を指導督勵激務に努め何等支障なく商況隆盛を極めつゝあるのは賴母しき光景である。然して同店は先代金之助氏が大正十年に創設され現代は二代目で取扱品は一般建築材である。

京彦材木店

清水源太郎

明治三十四年五月十七日生
營業所 東京市芝區新堀河岸(赤羽橋際)
電話三田三五八八番

氏は芝區松本町二九番地清水彦之助氏の長男に生れ、生家

が材木商なりし關係上、普通教育終了後、家庭にあつて父を援けて業務に從事し營業の發展に努力中、昭和十一年嚴父彦之助氏逝去せられるため氏は家督を相續し一般業務を繼承營業の擴張とその發展に拍車をかけられたが、同店は明治初年の創立にして現當主が四代目に當る古き歴史を有する老舗なるため一般業界に信用厚く取引先も擴大に及び建築界の活況は益々營業の發展となり今や芝區内第一流處と稱されてゐるしかして同店の主なる取扱品は内外材挽立、葉板材等で其の得意先は市内諸會社、工場及び建築請負業者で、取引銀行は第一銀行である。尚ほ清水氏の自宅は世田ケ谷區玉川尾山町三十番地である。

大阪屋材木店

勳八等 永塚千造

明治十七年生
營業所 東京市芝區新堀河岸一九
電話三田四二一八番

氏は神奈川縣橘樹郡中原町永塚仁助氏次男に生る。生家は農業の傍ら商業を營み居られしも、氏は普通教育終了後材木商を志して十七歳の時上京、芝區新堀町大阪屋材木店に入り修業中主家閉店の餘儀なきに至り茲に氏は堅き決意の下に現地に獨立開業し（明治四十五年）主家の商號を繼承斯界に一歩踏み出し爾來幾多の難關に遭遇しながら克く突破しその敏腕と堅實なる商取引振りは建築業者間に多大の信用を博し建築界の好況に連れ營業は益々進展し遂に今日の如き成功をかち得られたのである。然して氏は日露戰役に出征各地に轉戰赫々たる武勳を樹てられ勳八等を賜はりたる名譽ある帝國軍人である。因に同店の取扱品は一般建築材で、取引銀行は第一銀行三田支店である。

遠勝材木店

松下勝次郎

明治二十三年生
營業所 東京市芝區新堀河岸九
電話三田四〇一五番

氏は靜岡縣磐田郡掛塚町松下嘉造氏次男に生れ、生家は山林業なるも氏は材木商を志し普通教育終了十二歳の春上京して、芝の遠洋商店に入り二十ケ年の長きに亘る間主家の爲め忠實に働き其の發展に貢献する處大なるものあり、現に主家が今日の盛況も松下氏の奮闘が興かつて力あるを業界一般の賞讃する處である。斯くして氏は大正七年現地に獨立遠勝材木店を創立、多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに敏腕を揮はれし結果建築業者間に多大の信用を博し營業は年を逐ふて發展し遂に今日の如き盛況を見るに至つた。しかして氏は極めて多忙の身なるにも拘はらず町會理事、芝、麻布商進會副會長、芝信用組合監事等社會公共自治的方面に活躍し衆望を集められてゐる。同店取扱品は一般建築材で取引銀行は第百銀行である。

㊀ 池上材木店

池上慶太郎

明治三十七年九月十五日生
東京市芝區赤羽町四
營業所　電話三田〇三六八番

氏は芝區片門前町池上元太郎氏の長男に生れ、生家が材木商なりし關係上、慶應商業部を卒業後、嚴父の膝下に於て家業に從事し營業の發展に努められてゐたが、昭和十一年嚴父元太郎氏は業成り名遂げ第一線を退き餘生を專ら社會公共自治的方面に捧ぐる事となり、氏は家督を相續一般業務を繼承し益々事業の擴張とその發展を圖ることゝなつたが、時勢の變化から自動車製造業の活況目醒しく氏は新たに自動車製作用材料の取扱を開始し業界各方面から多大の好評を博し殊に同店は現代が二代目の古き歴史を有する老舗なるだけに其の地盤も廣く營業は年を逐ふて發展現今同業者間に於て一流處の商店と稱され新進氣鋭の店主は益々その敏腕を發揮營業の擴張に努められてゐる。しかして同店の取扱品は北海道雜木南洋チークラワン材等である。

深谷材木店

深谷吉藏

明治四十一年二月十八日生
東京市芝區赤羽町四
營業所　電話三田二四五七番

氏は福島縣若松市材木町深谷運吉氏の三男にして生家は葉子商なるも氏は材木商を志し普通教育終了後、大正十一年上京して、同郷の成功者たる芝區新門前町の齋藤庄藏商店に入り十一ケ年餘の永きに亘る間刻苦勉勵、業務に精通し主家の信頼厚かりしも昭和九年退店、現地に獨立深谷材木店を創立、鋭意事業の擴張と發展を圖られたが其の堅實方針と氏の敏腕は業界各方面に絶大なる信用を博し業績年々向上し早くも確固不動の地盤を樹立しその將來に多大の期待がかけられてゐる。しかして同店の主なる取扱品は一般建築材並に銘木類で取引銀行は、第百銀行金杉橋支店である。

㊂ 山下材木店

山下覺之助

明治三十八年十月十六日生
營業所　東京市芝區赤羽町四

氏は東京府南多摩郡恩方村山下伊次郎氏の次男にして生家は農を業とし居られるも氏は材木商を志し普通教育終了後上京して、氏の義理の伯父に當る芝區田村町四丁目の四倉材木店に入り刻苦勉勵、十三ケ年の永きに亘る間克く四倉氏の訓戒を護り精神を鍛錬し業務に奮勵主家の信頼厚く昭和十年退店現地に獨力山下材木店を創立、爾來四倉氏の訓戒を遵守堅實主義をモットーに營業の發展を圖り氏の敏腕は業界各方面の認むる處となつて年を逐ふて營業は發展し遂に今日の如き確固不動の地盤を樹立し其の前途に多大の期待がかけられてゐる。新進氣鋭の奮闘家であるが溫厚篤實業界稀に見る人格

者で現に舊主人四倉氏が本年四月腦溢血にて病床に呻吟されるや氏は寢食を忘れて看護に努められ其熱誠實子も及ばぬ程であつた。隣人間に賞讃されてゐる以て氏の人格の一端を窺知し得るのである。

坂井材木店

坂井民彌

明治三十六年二月十日生
東京市芝區赤羽町四
營業所　電話三田二二六七番

氏は福島縣北會津郡川角村坂井豐四郎氏三男に生れ、生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後家庭にあつて業務に從事せられたが、中央進出を目指して十七歳の春上京、同郷の成功者芝區新門前町の齋藤庄藏商店に入り多年刻苦勉勵、一般業務に精通し主家の信頼厚かりしも多年の念願であつた獨立開業の機運熟したので昭和十年退店現地に坂井材木店を創立、爾來氏は堅實主義をモットーに敏腕を揮ひ事業發展に努められた結果、建築業者間に多大の信用を博し業績年を逐ふて擧がり遂に今日の如き堅牢なる地盤を獲得するに至り氏の前途眞に洋々たるものがある。しかして同店の取扱品は建築材で取引銀行は、安田銀行である。

㊃ 岡崎材木店

岡崎猷策

明治三十一年三月十日生
營業所　東京市芝區三田四國町二ノ一六
電話三田三四六四番

氏は和歌山縣新宮市岡崎淺次郎氏次男として生る。嚴父は官吏として奉職されてゐたが、氏は新宮高等小學校卒業後實業家として立身せんと十八歳の時青雲の志しを抱いて上京、深川木場及び郷里にあつた新宮木材株式會社に十五ケ年間勤續業務に精勵多大の業績を擧げられた、殊に前記新宮木材株式會社在勤中氏の忠勤は重役の認める處となつて會社の東京出張所へ拔擢轉勤を命ぜられ氏獨特の敏腕を揮はれ多大の業績を擧げられたが不幸往年の財界不況當時東京出張所は閉鎖の餘儀なきに至り氏は沸然蹶起獨立を決意し昭和六年現地に岡崎材木店を創立し爾來奮闘努力幾多の難關を突破し事業の擴張と發展を圖り業界各方面の同情と信用を博し業績年を逐ふて向上し遂に今日の如き堅牢なる地盤を樹立するに至つた業界稀に見る奮闘家である。因に同商店の取引品は一般建築材で取引銀行は、日本興業銀行である。

志村材木店

志村銀重郎

明治二十四年生
營業所　東京市芝區三田小山町二
電話三田〇五〇四番

氏は東京府八王子市在志村春吉氏の長男にして嚴父春吉氏は同店の創立者で元京橋區内に在りて造船材を販賣し巨萬の富を積まれたが其後銘木材を營まれしも亦々造船材に轉向近年再び銘木、磨丸太、竹材等を專門營業せられてゐる。現在は當主第一線に起ち活躍され嚴父春吉氏は七十三歳の高齢な

るにも不拘、壯者を凌ぐ元氣で當主を援けて原産地の買出し等に活躍を續けられたが昭和七年現地に移轉後は一層業務の發展に努められ商内は年を逐ふて隆盛に趨き店内は活氣溢る光景を呈し當主は社會公共自治的事業に關與され現に町會長其他の要職に推されて頗る多忙を極めてゐるが業界稀に見る人格者である。

遠 脇材木店

脇 脩

當年七歳

營業所 東京市芝區三田豐岡町六〇
電話三田一四四九番

店主脩氏は當年僅かに七歳の幼少にして先代覺十郎氏は不幸三十五歳の前途有爲の身を持ちながら惜しくも病のため逝去され脩氏は家督を相續し一切の營業を繼承されたのであるが、後見役として多年忠勤の支配人渡邊龍三郎氏が管掌されて幼主を援け昔日に變らぬ盛況を呈してゐる。同店の營業振りは先代當時より堅實を以て知られ一般業者間にも信用厚く取引先は諸會社、各工場、建築業者等の各方面に亘り相當堅牢なる地盤が築かれてゐるので當主の年少と支配人の堅實振りに一層同情が加はり商取引はます〳〵盛況を呈しつゝあるのは蓋に喜ばしきことである。因に同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、日本興業夜銀行である。

中興材木店

中村與三郎

營業所 明治三十一年生
東京市芝區三田四國町二ノ一
電話三田三九七四番

氏は先代中村與三郎氏の長男として現地に生る、生家が材木商なりし關係上、慶應義塾卒業後家庭に在りて嚴父を援け營業の發展に努力中不幸大正十三年嚴父逝去され氏は家督相續襲名さると共に一般業務を繼承し中興商店の陣容を一新し大震災後の帝都復興に乘出し建築業者間に多大の信用を博し建築界の活況に連れ營業は向上の一路を辿り遂に今日の如き大をなすに至つたのである。氏は新進氣鋭の士にして他面社會公共自治的方面にも活躍し現に町會副會長、芝、麻布商進會の幹事等に推されて銃後の護り堅たくし献身的努力し衆望を荷負ふ人格者である。しかして同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、安田銀行である。

中屋材木店

森本高司

營業所 明治二十二年生
東京市芝區新門前町一四
電話三田一八〇六、二四七三番

氏は東京市淺草區山之宿町高橋澤次郎氏の六男にして生家は建築業なりしも氏は材木商を志して十二歳の時神田區材木町三平本店に入り刻苦勉勵、店主の信頼厚く、一般業務を習得し明治四十五年現地に獨立中屋材木店を開業し、堅實主義をモットーに營業の發展に努力中森本信之助氏の懇望に依り

同家の養子となり積極的に營業の擴張を圖り建築業者間に多大の信用を博し建築界の好況に連れ營業は發展の一途を辿り遂に今日の如き成功を克ち得るに至られたのである。氏は一見實業家型の人にして商才に長け温厚篤實な人格者で社會公共事業にも關與され町會副會長、警防團役員、隣組群長等各方面に活動され其の功績不勝衆望を集められてゐる。しかして同店の取扱品は建築材で取引銀行は、安田銀行である。

齋藤庄藏商店

齋藤庄藏

明治二十五年二月十五日生
營業所 東京市芝區新門前町一七
電話三田〇九一〇、〇九一一番

氏は福島縣若松市材木町齋藤佐七氏の六男にして、生家が材木商なりし關係上、嚴父の膝下に在りて一般業務を習得したる後中央進出を目指して上京、深川區平野町四丁目柏木商店に入り實地に於て修業、主家の信頼厚く大正六年退店、現地に獨立材木店を創立、爾來幾多の難關を突破し關東大震災後の建築界活況の波に乘じ營業は益々順調に進展し林業部を開設業務の擴張を圖り昭和十四年十二月株式會社に組織を變更資本金十九萬五千圓現在全從業員五十餘名の大勢を指導督勵し事業の發展に努められると共に幾多公共事業に關與され現に東京市方面委員、芝信用組合理事、町會役員等に推され貢献する處大なるものあり。同店の取扱品目は内外木材、一般建築材、北海道産雜木、乾燥材、厚木、自動車ボデー材等で芝區赤羽町に實場、深川區木場に貯木場、同區平野町に出張所を設け更に茨城縣多賀郡高岡村横川林業部があり、何れも盛況を極めてゐる。

上當久材木店

佐藤久八

營業所 明治二十四年生
東京市芝區仲門前町三ノ二

氏は新潟縣中魚沼郡水澤村佐藤嘉吉氏四男にして普通教育終了後、十五歳の時材木商を志して上京、深川木場山崎寛治商店に入り修業中不幸主家閉店の爲め一時郷里に歸りたるも更に二十五歳の春再度上京し種々斯業に對する研究を積み大正十三年現地に獨力材木店を創立し、爾來幾多の波瀾曲折にも不變堅き信念を以て業に當り建築業者間に多大の信用を博し業績年を逐ふて向上遂に今日の如き成功をかち得られた奮闘家で實に立志傳中の人である。然して氏は人格高潔親に孝店員に情厚く多數の店員は氏を慈父の如く敬慕し現に昭和十五年一月組織された八日會は氏の一族及訓育された同志の交互扶助を目的とするもので毎月八の日を集會日とし氏自ら訓育の任に當られ更に町會役員及び國民精神總動員實行委員として銃後の御奉公に全力を傾盡されてゐる。尚ほ氏の令息は府立第一商業學校を卒業目下家庭に在りて嚴父を援け事業の發展に努められてゐる。

石垣材木店

桐原　三郎

明治四十年六月三日生
營業所　東京市芝區西芝浦三ノ三
電話三田一四六五番

氏は神奈川縣の出身にして生家は農を營み居られるも、氏は神奈川大野小學校卒業後材木商を志して當時同店の前身である神奈川縣下に本店を有し大正十三年關東大震災後帝都の復興を目指して東京支店を新設京濱間相當廣範圍に亘つて多數の得意先を有し商況旺盛を極めてゐた其店に入り刻苦勉勵業務に精勵中昭和八年本店が閉鎖さる事となつたので氏は東京支店の營業一切の讓渡を受け玆に獨力開業の一歩を踏み出し爾來鋭意事業の發展と擴張に邁進し建築界各方面から絶大なる信用を博し業績は年を逐ふて向上し早くも堅實なる地盤を獲得し其の前途に多大の期待をかけられてゐる新進氣鋭の事業家である。尙ほ氏は奉公の念厚く今回の日支事變に際し國防献金をなし昭和十年九月(杉山元陸軍大臣)、昭和十二年十月(米内元海軍大臣)より夫々感謝狀を賜はりし篤志家である。因に同店の取扱品は内外木材一般羽柵、挽立材である。

芝浦木材工業所

野口条太郎

明治二十六年一月生
營業所　東京市芝區西芝浦三丁目
電話三田一三七五番

氏は庭布區野口家の長男に生れ嚴父は指物商を營み居られたるも、氏は深川區平井町一丁目の福田合名會社に入社し廿三年の長年月間鋭意業務に精勵社業の發展に貢献する處大なるものあり、當時會社では木材部、電柱部、腕木部、の三部門に分業されて居り氏の精勵振りは多數同僚の模範として賞讃されし事數度に及び社長の信頼極めて厚かりしも多年の念願であつた獨立開業の機運が熟し昭和六年現地に芝浦材木工業所を創立、電柱、腕木の製造を開始爾來堅忍不拔な氏の氣魂は事業の上に現はれ各方面の信用に拍車をかけ事業は年を逐ふて發展しその成熟せる手腕は早くも多數の顧客を獲得し確固不動の地盤を樹立するに至り斯界古老格を凌ぐと稱され氏の勤勵は業界各方面重視の的となり其の前途眞に洋々たるものがある。しかして氏の取引銀行は、日本興業銀行芝支店である。

村越材木店

長谷川源次郎

明治四十年八月一日生
營業所　東京市芝區二本榎西町二
電話高輪四四一六番

氏は千葉縣夷隅郡興津町に長谷川源之助氏長男に生る、生家は漁業家なるも、氏は材木商を志して十六歳の春上京、淺草の三久商店に入つて十ケ年の長きに亘る間刻苦勉勵し更に豐島區西巣鴨町の伊勢庄寶場に入りて五ケ年間修業一般業務に精通し現地に村越材木店を獨力創立さるに至つたのである

同店は村越金吉氏の創立にかゝる店舗であつたが、村越氏は業成り名遂げられて昭和十二年業界を隱退せられたるため長谷川氏は同店の營業一切を繼承爾來不撓不曲萬難を排し營業の發展に努め建築業者間に多大の信用を博し開業日淺に不拘確乎不動の地盤を獲得し其の前途に多大の期待をかけられてゐる年壯氣鋭の士である。因に同商店の取扱品は一般建築材にして取引銀行は、安田銀行である。

櫻井材木店

櫻井宗一

明治三十八年生
營業所　東京市芝區松本町三三
電話三田四〇四三番

氏は日本橋區蠣殼町櫻井宗兵衛氏の長男にして、生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後嚴父の膝下に於て修業の後淺草區北松山町小山商店に入り十ケ年餘勤續業務に精通、主家のため貢献する處大なるものあり、昭和六年現地に獨立櫻井材木店を創立、爾來氏が多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに營業の擴張と發展を圖り關係各方面より絶大なる信用を博し營業は益々發展し遂に今日の如き確固不動の地盤を樹立するに至つた新進氣鋭の奮鬪家である。然して氏は極めて多忙の身なるにも不拘、多くの社會公共自治的事業に關與されてゐる。現に帝國在鄕軍人會芝區第三分會第一班長として澁務を掌りながら出征將士後援會を組織して銃後の强護に盡し其の功績大なるものあり。又少年團を組織し氏自ら團長となつて指導の任に當る等時局下銃後の御奉公に獻身的努力される等業界稀に見る篤行家である。

小金商店

門井爲藏

明治廿一年七月十五日生
營業所　東京市芝區松本町四五
電話芝三六四一番

小金商店は明治二十九年小林金太郎氏が創立せられた老舗にして大正十四年當主門井氏が小林氏の懇望によつて同家の養嗣子となられ二代目として一般業務を繼承され益々事業の擴張と發展に努力され關東大震災後の建築界活況の波に乘じ營業は著しく發展し確固不動の地盤を擁し益々事業の擴張に努められてゐる。しかして氏は東京材木商同業組合代表員にして其の溫厚篤實なる人格は業界各方面の熟知する處で同店に於て多年訓育を受け現今獨立して斯界に活躍して居る前途有爲の士は實に屈指に餘ると稱されてゐるが戯に氏の人格の高潔にして後進に同情の厚きかは此一事を見ても知ることが出來得るのである。然して同店の取扱商品は一般建築材で取引銀行は、第百銀行である。

吉村材木店賣場

田中武雄

明治四十五年七月十七日生
營業所　東京市芝區愛宕町一ノ三四
電話芝三八九八番

氏は福井縣南條郡今庄村田中乙吉氏次男にして普通教育終了後十七歳の時材木商を志して上京、斯界の權威淺草區北清島町の吉村本店に入り修業、營業の發展に努力中昭和十二年五月當賣場新設せらるゝや拔擢せられて賣場主任を命ぜられ爾來營業の擴張と發展に努力し建築界各方面に多大の信用を博し業績著しく向上し早くも堅實なる業礎を樹立さるに至つたが、十五年一月本店より當賣場を讓渡されて店主の直接經營となり其の前途に多大の期待がかけられてゐる。尙ほ吉村本店の賣場は東京全市に八ヶ所設置され何れも盛況を極め當店も其の一つであつたのである。然して同店の主なる取扱品は雜木、家具材等で取引銀行は、第百銀行である。

飯田屋商店

飯田　太一

明治四十四年生
營業所　東京市芝區愛宕町一ノ三五
電話芝一七七〇番

氏は芝區愛宕町一ノ三五飯田太作氏長男にして生家が材木商なりし關係上、高等小學校卒業後嚴父の膝下に在りて斯業を蝕磨、營業の發展に努められたが、不幸客年十二月二十四日嚴父太作氏は六十九歳を以て逝去せらるゝや氏は家督を相續し營業を繼承されたのである。元來、同店は明治四十四年の創立にして當代が二代目に當る區内に於ける老舗で其の地盤も堅く且つ同店の堅實な取引振りは建築業者間の信用に拍車をかけ關東大震災後に於ける建築界の活況から一段と隆盛を來し遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。しかして同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、第百銀行である。

大金材木店

宇田川伊太郎

明治十九年生
營業所　東京市芝區西大久保廣町四一

氏は東京市本所區相生町宇田川家の長男にして、生家は綿商なるも、氏は材木商を志して十三歳(明治三十一年)同店の前身たる芝の大金商店に入り多年刻苦勉勵一般業務に精通し主家を援けて營業の發展に努められたが前店主小林金太郎氏は業成り名遂げ大正七年業界を隱退されたので宇田川氏は一切の業務を繼承し商號其の儘大金材木店として現地に獨力開店され、爾來幾多の難關を突破し事業の發展に努め建築業者間に多大の信用を博し業績年を逐ふて進展し遂に今日の如き成功を克ち得られたので、然して同商店は創立古く現代が四代目に當り斯界に於て最も古き歴史を有する老舗で現今業務に從事されて居るのは何れも氏の實子で兄弟三氏が一致協力家運の發展に努力せられてゐるのは、實に賴母しき光景である。

大島屋材木店

長沼國藏

明治十九年生
營業所　東京市芝區横新町七
電話三田三〇六番

氏は神奈川縣逗子町長沼家の三男に生る、生家は農を業とせるも氏は材木商を志して十二歳の春上京して、氏の從兄に當る芝區田町にあつて盛業を極めてゐた大島材木店に入りて刻苦勉勵、十數年の永きに亘り店主を援けて營業の發展に貢献する處あつたが、明治四十三年獨立大島屋商店を創立、爾來、萬難を排して營業の擴張と事業の發展に努力され建築業者間に多大の信用を博し、年を逐ふて營業は進展し更に大正十五年現地に移轉し一層業務の擴張を圖り今日に至つたのである。然して同店の取扱ふ主なる商品は一般建築材料で取引銀行は、日本畫夜銀行である。

遠哲材木店

辻哲次郎

明治十六年六月十三日生
營業所　東京市芝區土手跡町七
電話芝二二七七番

氏は靜岡縣濱名郡赤佐村辻家の長男にして學校卒業後、十六歳の暮材木商を志して上京、本所區の某材木店に入り刻苦勉勵、一般業務に精通の後明治四十二年現地に遠哲材木店を創立、爾來鋭意事業の發展に努められし結果業績年を逐ふて隆盛を來し殊に氏の敏腕と其の堅實振りは建築界各方面の信用に拍車をかけ現今芝區第一流材木店と稱されてゐる。然して氏は營業の極めて多忙なるにも拘はらず幾多社會公共事業に關與し貢献する處不尠、信用組合の模範と稱されてゐる芝信用組合は氏の努力に依つて生れたもので大正十四年創立以來客年迄組合の理事として多大の功績を殘され亦往年の關東大震災後帝都區劃整理委員となり貢献する處大なるものあり其の功績に對し監督官廳より表彰感狀を贈呈され篤志家で曾つて東京材木商同業組合副組長に推されて組合の發展に努力し、現在芝、麻布商進會顧問其他多數の公共自治方面に活動を續けられ衆望を一身に荷負はれてゐる。

石井材木店

石井善次郎

明治四十一年四月十一日生
營業所　東京市芝區白金志田町一二
電話高輪二八六一番

氏は東京市深川區大和町石井清造氏の次男にして、生家が材木商なり關係上、氏は明治學院卒業後家庭に在りて專ら斯業の研究に精進し營業の發展に努力中不幸嚴父清造氏が、(五十九歳)病の爲め逝去せられたので氏は玆に家督を相續一般業務を繼承いよ〳〵第一線に乗出す事となつたのである。元來嚴父清造氏は著名の事業家で十五歳の幼時から斯業を志し本所區の尾張屋材木店に入り廿五歳まで刻苦勉勵斯業に精通し大正四年芝區三光町に獨力石井材木店創立し奮闘努力事業の發展と共に昭和五年現地に移轉益々其敏腕を發揮今日の大をなされた不撓不曲の活動家である。斯うして年少の二代目當主は嚴父の遺訓を遵守飽迄堅實方針の下に營業の發展を圖られし結果關係各方面の同情と信用は益々加はり營業は年を逐ふて進展し遂に今日の如き成功をかち得るに至られた新

進氣鋭の前途有爲の實業家で氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。因に同店の取扱品は一般建築材で取引銀行は、第百銀行である。

㋐ 松下材木店

松下晴彦

營業所　明治三十五年生
東京市芝區白金三光町二四
電話高輪七一一四番

氏は靜岡縣磐田郡掛塚町松下嘉藏氏四男に生る、生家は山林業なりし關係上、氏は普通教育終了後材木商を志して十六歳の時上京、氏の實兄が經營されてゐる芝區新堀町の遣勝材木店に入り拾壹ケ年餘の長きに亘る間兄を援けて業務に精勵事業發展に貢獻する處甚大なるものあり、昭和六年現地に松下材木店を獨力創立、爾來、多年の經驗に基いて堅實主義と其の敏腕は建築業者間に大なる信用を博し營業は年を逐ふて發展し現在確固不動の地盤を獲得し斯界中樞の商店と稱されその前途に多大の期待がかけられてゐる。然して氏は激務の旁ら社會公共的事業にも關與し現に警防團役員其他に推されてひたすら銃後の御奉公に獻身的努力を拂はれてゐる。因に同店の取扱品では一般建築材である。

川野材木店

川野菊松

營業所　明治三十四年生
東京市芝區白金三光町二五
電話高輪一〇八七番

氏は栃木縣安蘇郡小室村出身にして鄉里に於て普通教育終了後、材木商を志して十七歳の時上京、氏が實兄の經營にかゝる小石川區川野材木店に入り十一ケ年の長きに亘る間、刻苦勉勵、兄を援けて營業の發展に努力、昭和二年現地に獨立川野材木店創立、爾來幾多の波瀾屈折を經ながら堅實主義をモットーに營業の發展に努められし結果、關係各方面の信用は加はり遂に事業の發展と共に堅牢なる地盤を獲得し遂に今日の如き大を爲すに至つた業界稀に見る奮鬪家である。而して氏が今日の成功に見るに至つた其の裏面には氏の令室が淚ぐましい內助の力甚大なるものある。現に令室は氏と共に一般業務に從事し大勢の店員を善導し第一線に起ちて活躍せられ取引先の信用も厚く店員より慈母の如く慕はれる等實に業界稀に見る賢夫人であるのは周知の事實である。因に同店の取扱品は一般建築用材である。

增田商店

增田喜義

營業所　明治三十四年生
東京市芝區白金三光町三二
電話高輪六六〇九番

氏は富山縣出身にして生家が銘木商なりし關係上、普通教育終了後、嚴父文太郎氏の膝下に於て家業に精勵發展に努められたが、後中央進出を目指して一家を擧げて上京、麻布區新廣尾町參丁目に銘木店を創立、爾來父を援けて事業の發展に連れ昭和六年現地に移轉せられたのであるが不幸嚴父は十

年前病の爲め逝去せられたので氏は家督相續業務を繼承一層事業發展に拍車をかけられ關係各方面の信用の增加と共に營業は年を逐ふて進展し確固不動の地盤は樹立せられたのである。氏は多忙を極めながらも社會公共的方面にも活動を續けられ町會役員、警防團役員等に推せられて時局下銃後の堅めて多大の功績を擧げられてゐる。因に同店の取扱品は一般銘木類で取引銀行は、日本晝夜銀行である。

新橋五ノ八	電話芝三九三〇番	綾井平八
同　四ノ三〇	電話芝三七六六番	村松義男
同　四ノ三五		山中力男
同　四ノ三八		坂田正
同　六ノ六〇	電話芝一〇一六番	宍戸正美
同　六ノ一六		上福三
同　六ノ六四		朝倉久次郎
同　四ノ七	電話芝二七八三番	楠田勝康
同　三一		佐藤政吉
明舟町一四	電話芝二二八九一番	大場兵次郎
西久保櫻川町一	電話芝三六五八番	栗山寶一
新堀町五	電話三田〇九九一番	藤代德治郎
同　一七	電話三田四〇七七番	鈴木藏之助
西應寺町四六	電話三田三七四四番	飯田幹夫
松本町四五	電話三田三六四一番	田中衆吉
同　三〇	電話三田四〇一二番	廣橋眞藏
通新町一	電話三田二九〇五番	增田七郎
白金台町二ノ二〇		村田藏六
愛宕町二ノ二一	電話芝四四一七番	横谷彌一郎

麻布區

吉村芝賣場

田中清治

明治四十三年生
營業所 東京市麻布區新廣尾町一ノ一一二
電話三田二五〇八番

氏は福井縣の出身にして南條郡今庄村田中與三吉氏の次男として生れ今庄高等小學校卒業後十六歳にして上京し淺草區北清島町吉村本店に入り斯業を研鑽された、昭和十年一月現在の地に芝賣場設立されるや拔擢されて同賣場主任となり縱横に敏腕を振れ業績大ひに擧つた、昭和十五年一月同賣場を本店直營から離れて氏の經營となり今日に及んで居る。現在店員三名を使用し建具用材、木型用材を主として販賣して居る。また氏は昭和十二年九月支那事變勃發するや應召されて出征、昭和十四年盛夏赫々たる武勳を樹立歸還された勇士で勳八等を賜つた。因みに氏の取引銀行は、三井銀行及び第一銀行である。

合資會社 丸共ベニヤ工所

代表社員 伊藤孝市

明治二十六年八月二十八日生
營業所 東京市麻布區新廣尾町三ノ九〇
電話三田四六八四番
支店 横濱市中區長者町四
工場 東京市城東區南砂町二ノ八二四

氏は、岐阜縣惠那郡鶴岡村字田瀨、伊藤鐵治郎氏の三男。大正五年、上京して伯父君と令兄の共營しつゝある丸共商店に入り、苦心研鑽の結果、差込イナゴ附杉ベニヤ天井板を完成して專賣特許を得た後、大正九年、同店を讓り受けて合資會社丸共ベニヤ工所と稱し、該專賣特許板の製造販賣に從事して、着々成功し、昭和四年八月一日、横濱に支店を設け、昭和九年、殺倒する需求に應ずべく城東區に敷地三千餘坪の大工場を建てゝ、以て、生產力の擴充を計り、供給をして遺憾なからしめた。かくて氏は、全店員二十餘名、工場員百五十名を督して、大丸共の隆々たる勢威を業界に誇りつゝある なほ氏は、全國ベニヤ板工業組合聯合會理事、東京ベニヤ板工業組合理事として、斯業の一指導力たるのみならず、資本金五十萬圓の大洋ベニヤ株式會社に專務取締役として活躍する等、產業報國第一線の闘士である。因に氏の銀行は、第一日本晝夜各麻布支店、住友深川支店である。

中七材木店

中村七太郎

明治十一年生
營業所 東京市麻布區元町五七
電話三田二〇九四番

氏は京橋區の出身にして夙に材木商を志して十四歳の時神田區内に在つた下平材木店に入り鋭意斯業に從事一般業務に精通したる後、明治四十四年現地に獨力中七材木店を創立、從來幾多の困難と闘ひ、斯業の發展に努力建築業者間に多大

の信用を博し逐年事業は進展し遂に今日の如き大を爲すに至つた業界稀に見る成功者である。然して氏は本業の多忙なるにも拘はらず社會公共的事業に關與し現に麻布、芝商進會々長に推せられて日夜公益の爲め活動を續けられてゐる。然して同店の主なる取扱商品は一般建築材料にして取引銀行は、第一銀行三田支店である。

川幸材木店

川島康資

明治三十六年生
營業所 東京市麻布區廣尾町六二
電話三田二四四三番

氏は麻布區廣尾町六十二番地川島孝三郎氏の長男に生る。生家が材木商なりし關係上、氏は麻布中學を三年にて退學、家業に從事嚴父を援けて事業の發展に努め其功績大なるものあり。昭和七年嚴父孝三郎氏は惜しくも五十五歳の働き盛の身を持ちながら病魔におかされて逝去され依つて氏は家督を相續すると共に一般の營業を繼承益々事業の發展に奮闘努力現在十餘名の店員を指導盛況を極むる地方一流の大商店である。先代孝三郎氏は一大工業者より身を起し明治三十三年現地に材木店を獨力創立、爾來不眠不休の大活動を續け大正の末期より昭和初頭にかけ資產を更に三百萬圓と稱せられし程の業界稀に見る大成功者なるのは業界周知の事實で其の早逝は一般から惜まれてゐる。尙ほ先代は後進を導くに親切現に同家より出でたる店員にして地方一流處の商店に成功したるもの十指に餘ると稱されてゐる。

中吉材木店

齋藤定吉

明治八年七月十九日生
營業所 東京市麻布區新廣尾町一ノ一二三
電話三田〇五三三番

氏は茨城縣北相馬郡大井澤村齋藤家の三男に生る、生家は代々農業を營み居られしも氏は材木商を志して廿五歳の時上京、當店の前身なる中村吉次氏方に於て一般業務を修業、主家の信頼極めて厚く營業の發展に貢獻せられたる功績絶大なるものあり、昭和十一年三月先代中村吉次氏逝去せらるゝや氏は同年七月店舗及業務一切を繼承故主の訓育を守り益々業務の發展を圖り遂に今日の如き大を爲すに至つたのである。實に氏は三十七年間の長きに亘り主家の爲め忠實に勤務され た業界稀に見る人格者で其の功績が酬ひられて今日の如き輝しき功果を納め得たものとして一般業界人の賞讃の的となつてゐる。然して同店は現代が二代目で明治三十一年の創業にかゝる老舗である。因に同店の主なる取扱商品は一般建築材にして取引銀行は、麻布、安田の兩銀行である。

藤田屋材木店

澤助次郎

明治十八年九月十五日生
營業所 東京市麻布區六本木町一
電話赤坂一六四八番

氏は赤坂區青山北町四丁目常三郎氏長男として生る、生家が材木商なりし關係上、普通教育終了後家庭に在つて一般業務を修業、嚴父常三郎氏は昭和二年七十八歳の高齢を以て逝去せられたゝめ氏は家督を相續業務を繼承益々其の發展に努力遂に今日の大を成すに至つたのである。現に店主の訓育を享け獨立したる店員は何れも地方第一流處の商店となり活況を呈しつゝあるのは如何に氏の人格高潔にして後進を導くに親切なるかを親知し得るのである。而も今日迄獨立成功した店員の數は實に枚擧に遑なき多數と云はれてゐる。尚ほ支る店員の數は實に枚擧に遑なき多數と云はれてゐる。尚ほ支店を目黒區東町に設置し氏の長男が一切業務を管掌され、次男善次郎氏は芝中學校卒業後家庭に在つて嚴父を援けて事業の發展に奮鬪努力その功績大なるものあり前途有爲の年壯實業家として賞讃され又氏は斯かる多忙の身の上あるにも不拘町會幹事其他に推され日夜活動を續ける等業界稀に見る奮鬪家である。

上野材木店

上野善三郎

大正元年八月十九日生
東京市麻布區廣尾町六〇
營業所
電話高輪七八六二番

氏は福島縣若松市材木町上野善内氏の三男に生る、會津若松第四小學校卒業後會津工業學校建築科に學びしも將來材木商として立身すべく決意十五歳の時上京、芝區仲門前町齋藤材木店に入り刻苦勉勵十三ケ年の長きに亘る間主家を輔けて營業の發展に貢献する處大なるものあり當時東京材木同業組合より勤續模範店員として表彰記念品の贈呈を受くる光榮に浴し主家の信頼も厚かりしが多年の念願叶ひ昭和十五年五月二十五日現地に獨力上野材木店を創立着々營業の發展に勇往邁進中、何分開店早々の事とて氏が成否は未知數なるも其の敏腕と堅實は期して成功疑なく前途に多大の期待がかけられ吾人又た一日も早く成功せられんことを祈つて止まないのである。因に同店は會津家具木工組合出張事務所として事務を兼務し、官省方面の御用を承る請負をも行はれてゐる。

小池材木店

小池敬治

大正八年生
東京市麻布區霞町一四
營業所
電話青山六七七一番

氏は麻布區霞町十四番地小池春太郎氏の長男にして現代が三代目に當り初代敬之助氏が明治四十三年に創立せられた老舗である。嚴父春太郎氏(二代)は昭和十一年逝去せられ氏は家督を相續一切の業務を管掌せられたのである氏は府立第一商業を卒業後家庭に於て業務に從事營業の發展に努力中昭和十五年一月現役兵として目下軍務に服務中なる爲め當主の伯父に當るや小池良氏(當年三十三歳)が一般業務を管掌些の支障もなく盛況を極めてゐるが小池良氏は大倉商業を優秀の成績を以て事業後能く實兄春太郎氏を家業の發展に努力其の功績甚大なるものあり年壯有爲の實業家にして同店今日の基礎

を築上げられた所謂同店の大黒柱と賞されて其前途に多大の期待がかけられてゐる。しかして同店の主なる取扱品は一般建築材料で取引銀行は、第百銀行青山支店である。

新廣尾町二ノ一四五　電話三田四六四一番
渡邊環
算笥町七一　電話赤坂〇一五八番
西村伊三郎

赤坂區

㊇丸八材木店

林政一郎

明治卅年四月十九日生
東京市赤坂區田町二ノ七
營業所
電話赤坂四一六八番

氏は名古屋市西區東柳町の出身にして、明治卅年四月十九日甚七氏の三男として生れ、幼少にして東上横濱市增田貿易株式會社に入り木材部に勤務、敏腕を振ひ信望を集めたが大正九年會社解散されるや歸郷して吉見製材所に入り販賣部主任として勤務したが、偶々大正十二年九月一日關東大震災勃發するや帝都の復興建築に著眼し、上京して現地に材木商を創業、爾來大いに業績を擧げた。現在店員二名を使用し內外材木を主として取引で一般建築業者及び一般消費者に多數の得意先を確保して居る。また氏は業界稀に見る高潔の士にして業者間の信望厚く幾多の公共團體に盡瘁せられて居る。因みに氏の取引銀行は第一銀行赤坂支店である。

由井商店

由井清一郎

明治十六年生
東京市赤坂區新町四ノ一一
營業所
電話赤坂三二二六番

氏は東京市の出身にして當年五十八歳、幼少にして材木商

を志し深川木場の小澤庄兵衛商店に入り永年に亘り斯業を修練し明治四十四年現在の地に獨立して幾多の苦難と闘ひ營業を續け、遂に氏の不撓不屈の精神は著々業礎を築き今日の大をなした、主として一般建築業者及び消費家庭を得意とし内外各種木材を取扱つて居る。氏はまた資性温厚にして同地方業界の長老として信望高く、現在東京木材商同業組合評議員を始め、町會役員等の要職に推され、その徳望は斯界各方面から慕れて居る。

〈サ〉 齋久材木店

齋田久平

明治四十年四月廿七日生
營業所 東京市赤坂區新町四ノ二一
電話赤坂四六六三番

氏は横濱市磯子區金澤町の出身にして年少にして志を抱き上京し深川木場角吉坂田商店に入り斯業を修練され、前後十餘年に亘り勤續、愈々昭和五年獨立、深川區島崎町に創業、大いに業績を擧げ業界各方面より注目された、しかして昭和九年現在の地に移轉し今日に至る。氏は資性温厚にしてしかも敏腕をもつて知られ英智活達、業界の信望厚く、今日まで幾多の公共事業に盡力されて居る。營業種目は内外材木各種を主とし得意先は一般建築業者を主として一般消費者方面にも相當の好賣行を示し業績、大いに擧げて居る。因みに氏の取引銀行は、名古屋銀行深川支店である。

〈彦〉 辰巳屋材木店

町田勝彦

明治廿八年一月二日生
營業所 東京市赤坂區青山北町四ノ一〇五
電話青山一三六四番

氏は埼玉縣北埼玉郡志多見村大字串作の出身にして、町田愛之亟氏の二男として生れた、明治四十年七月、志を抱いて上京、赤坂區青山北町辰巳屋材木店に入り斯業を修練、主家のため盡力された功を認められ昭和四年店主運見仁兵衛氏より營業一切を繼承し今日に至つた。營業種目は主として内外材木各種を取扱ひ相當廣範圍の得意先を有し確固不拔の地盤を獲得して居る。また氏は資性温厚にして後進の指導に努められ氏の薫陶を受け獨立したもの既に五指を數へて居る。業界に於ける氏の信望は極めて厚く一方近隣の信用を博して現在町内役員に推されて幾多の公共事業に盡瘁されて居る。因みに氏の取引銀行は、住友銀行青山支店である。

田町七ノ一二　電話赤坂一五五九番呼
大久保義次郎
麻吉町一　電話赤坂四四六七番
笹子梅吉

四谷區

〈仁〉 大島屋

大島仁三郎

明治十三年生
營業所 東京市四谷區片町二七
電話四谷四七一〇番
倉庫 同 同 三三
同 同 一〇七

氏は埼玉縣北足立郡馬室村の出身である。材木商を營む大島家に次男として生れた氏は、斯業の雰圍氣中に生育して、ひそかに斯界の第一者たるべく念願を發し、幼少十三、鴻巣町に出で、斯道修業十年を經た。然る後上京して深川木場なる江島屋材木店に入り、更に研鑽幾年にして、始めて現地に獨立し、一般建築材、丸太、ベニヤ板等を取扱つた。實に明治三十九年の事である。爾來三十餘年の奮闘よく業礎を固からしめ、現に店員五名を置いに店勢頗る殷賑である。かくて氏は還暦に及んでなほ矍鑠、現に業界の耆宿としてまた町會顧問として活躍しつゝある。因に氏の取引銀行は、三菱、住友の兩銀行である。

〈七〉 渡邊材木店

店主 渡邊藤七
明治九年生
支配人 渡邊藤二
明治四十一年十二月三十一日生
營業所 東京市四谷區須賀町四
電話四谷四九五四番

藤七氏は、埼玉縣の出身である。傳來の資産を美事に運轉し、貸家並に貸地業を營んで、更に巨富を致した手腕家である。偶々大正十三年、關東大震災に遭逢するや氏は、現在に一般羽柄材並に銘木業を創め、澎湃たる帝都復興の氣運に乘じ、資材供給の任に當り莽年ならずして强固なる店礎を築いたのであつた。爾來十有七年を經たる今日、氏は業界の第一線を退き、次男、海城中學出身の藤二氏をして、家業を支配せしめ、店員二名を置いて、專ら指導扶掖に力めつつある。藤二氏亦敏腕よく父君の名を辱しめず、家業日に隆昌。因にその取引店は住友銀行である。

各種枕木
〈め〉 黒澤治助商店
東京出張所
店主 黒澤治助
四谷區番衆町三六番地
電話 ～二二八四〇番
～二二八八六番
本店 岩手縣二戸郡福岡町
電話 七番・十八番

川邊材木店

川邊泰四郎

明治三十六年一月生
營業所　東京市四谷區荒木町三七
電話四谷五四四三番

當店は、泰四郎氏の嚴父彌吉翁大正五年の創業に係り、古材專門店として、業界に著名である。泰四郎氏は、この家に生れて、小學校卒業後、專心斯業に精進し、父君を扶翼して家運の興隆を計ると共に、斯道の研鑽に夢寐怠らず、遂に少壯業人としての手腕を讃はるゝに至つたのであつた。已にして嚴父逝世、氏乃ち家業を繼ぐに及び、古材に併せて一般建築材を取扱つて顧客の便を圖る等、舊に倍する精勵、遂によく今日の大を成した。現に店員三名を置く盛況である。而して氏は町會役員並に警防團部長として銃後の責務を十二分に果しつつある。因に取引銀行は、愛知銀行である。

井上材木店

古西一秀

明治三十三年一月二十八日生
營業所　東京市四谷區旭町三
電話四谷一七二六番

當店は、明治二十九年頃、井上智三氏が創業したものであつて、當方面隨一の老舗として業界に著名である。當主一秀氏は智三氏の甥に當り、山梨縣の出身者である。幼少より一秀氏に就いて斯道習得に專念し、精勵恪勤人を驚かすものがあつた。爲めに幾何もなくして少壯業人としてその才腕を讃はるゝに至つた。已にして一秀氏が業界の第一線を退くや、氏は當店を繼承して獨立其の經營に當り、着々業礎を固め業域を廣め、內外各種一般の木材を取扱つて、今日の盛大なる店勢を展開するに成功したのである。而して氏は四隣に聲望あつて、現に隣組第三群長に推され、銃後の責務を果しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

伊勢

草深與三郎

明治四十三年十一月二十一日生
營業所　東京市四谷區荒木町六
電話四谷四八六二番

當店は、三重縣の人草深憲吉氏が、明治四十年に創業した老舗である。昭和十三年、憲吉氏五十九歲にして逝くや、氏の長男與三郎氏、乃ち箕裘を襲いで今日に及んだ。與三郎氏は小學校卒業以來、孜々として家業に精勵して、父君を輔翼するの傍、斯道の研鑽を怠らず、練達の手腕、通曉の才、夙に業者の間に著聞した。已にして父業を繼いでより、一層の精勵を加へて家業の興隆を計り、三十幾年の老舗を守つて、店員二名と共に、愈々基礎强固、業域の廣汎、店勢の賑盛を齎らしつゝある。なほ、氏は現に警防團役員として、又、町會役員として、公共自治のために盡瘁一方でない。即ち氏の德望四隣に篤き所以である。

土肥材木店

土肥義治

明治三十八年十一月二十二日生
營業所　東京市四谷區荒木町二七

氏は富山縣の出身で、中新川郡晉杉村に農を營む土肥幸三郎氏の令弟である。少壯、材木商を志して上京し、當時新宿に營業中なりし篠幸材木店に就き、斯業の研鑽に專念する事三ケ年。慧敏の質よく斯の道に練達するを得て、遂に昭和五年七月、現地に店舗を設け、家具材一般を取扱つて、獨立自營の途に就いたのである。爾來星霜十年を經て、才腕縱橫、よく業礎の確固、業域の擴張に成功するを得、店員二名を置いて、業績甚だ見るべきものがあり、同時に氏は、業界の中堅として、木材報國の第一線に奮鬪しつゝある。なほ氏は現に在鄕軍人會四谷第三分會第二班長或は警防團消防掛長として、銃後の國民として十全の義務を果しつゝある。

伊勢

小山茂生

明治二十四年二月生
營業所　東京市四谷區舟町一
電話四谷八六九番

氏は三重縣の出身で、宇治山田市に生れた人。薪炭問屋小山伊吉氏の長男である。十七の春、上京して伯父君の經營せる四谷區荒木町伊勢材木店に身を寄せ、斯業習得に切磋すること四ケ年の後、兵役の義務を完了して、更に斯道練磨の二ケ年を經、練達通曉の境地に達したので、氏は勇躍自己の運命を開拓すべく、現地に材木商を經營し、建築材一般を取扱つて獨立したのである。時に大正四年十二月。爾來四半世紀の星霜を閱し、今や、當地の一流店として牢固たる地盤を築き、店員二名を置いて店勢殷賑。同時に氏は當地の故老として四隣に重きをなし現に、町會常任幹事、警防團庶務、在鄕軍人會四谷第三分會副長等を兼ねて居る。因に氏の取引銀行は、住友銀行四谷支店である。

清水商店

清水萬平

明治三十一年二月十一日生
營業所　東京市四谷區舟町六二
電話四谷六五三一番

氏は東京府西多摩郡五日市町に生れた人で、年少上京して四谷區信濃町に當時盛業を營める古田材木店に入り、斯道習業に專念すること前後十有六年。精勵勤勉、悉く衆の推賞する所となり、大正九年一月には東京材木商同業組合より、大正十二年二月には、四谷材木組合より、それ〴〵模範店員として表彰せらるゝの榮譽を擔つたのであつた。已にして大正十五年、現地に一店を創め、一般建築材を取扱つて獨立自營の第一歩を踏んでより、鳥兎匆々十有五年の星霜を閱せる現在、店員四名を置いて店勢大に張り、當地一流店の貫祿を確保しつゝある。同時に氏は、現に町會理事或は警防團役員として、公共自治の爲盡瘁する所少からず、その德望四隣に篤

きは、蓋し故ある哉と謂ふべきである。

㋝ 上野材木店

上野　榮亮

明治三十五年二月十五日生
東京市四谷區愛住町五四
電話四谷七三七五番
營業所

氏は長野縣下水内郡柳原村富倉に生れた人。嚴父は長五郎氏、榮亮氏は其の長男である。十四歳より飯山町に出で富倉屋材木店に入つて、斯業の研鑽を積む事十有一年の後、二十四歳の三月二十四日青雲の志を抱いて上京し、深川區平野町なる千川材木店に問屋業の實施に就く事一ヶ年、頗る會得する所あつて退店。同區富岡町に自ら木材仲介業を營む事四ヶ年、更に四谷區須賀町渡邊材木店に轉じ、三ヶ年の奉公を經たる後、昭和八年十月二十九日現地に獨立し、一般建築材を取扱つたのであつた。爾來十年に充たずと雖、店員二名を置いて勢已に殷盛。なほ、氏は四隣に聲望あつて現に町會常任理事、警防團交通整理第三班長等に推されて居る。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

㋟ 寶屋材木店

寶屋　示戸貞亮

明治三十四年二月生
東京市四谷區愛住町三一
電話四谷五〇四九番
營業所

氏は栃木縣の出身で、都賀郡野木村に生れた人。寶示戸長三郎氏の次男である。年少十八郷關を辭して上京し、深川區平野町なる鈴吉商店に入り、僅々三ヶ年にして、斯道の大體を會得し了し、弱冠已に獨立の自信を得て、現地に店舗を設け、一般建築材を取扱つて自營の途に就いたのであつた。爾來星霜二十餘年の間氏の活腕よく業界の消長に堪え、年々業績を擧ぐるに成功し、今や店員二名を置いて、頗る盛大なる店勢を張つて居る。しかして氏は現に警防團消防班として銃後の責務を全うしつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

松本材木店

松本　五郎

明治十七年三月生
東京市四谷區坂町九三
電話四谷四五九一番
營業所

氏は千葉縣永津郡馬來田村字茅野なる農松本家の五男として呱々の聲を揚げた。十五歳の春、上京して指物業の研鑽十ヶ年の後、麹町區中六番町に指物商を開業し、頗る業績を擧げたのであつたが、大正五年、材木業に轉じ、現地に店舗を設け、古材を主として取扱つた。八年の後大震災に遭遇するや、帝都復興の氣運に乘じ北海道より雜木を直接移入して、資材の需要に應じ、一擧して今日の業礎を築いたのであつた爾來、當方面一流店として重きをなし、現に二名の店員を使用して、店勢頗る盛況である。なほ、氏は町内の有力者であり、町會常任理事として大正五年以來町會自治の爲盡瘁しつ

ゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行四谷支店である。

結城屋

遠藤力松

明治七年生
東京市四谷區大番町四五
電話四谷四〇八四番
營業所

當店は德川時代、遠州濱松の人山中茂平氏の創業に係り、幕府御用の材木商として、盛大を極めた歴史を有する山の手業界隨一の老舗である。當主力松氏は、その第七代に當り、八王子市遠藤茂吉氏の三男。九歳の時、山中家に迎へられ、十三歳より二十五歳まで、赤坂區の材木商島崎鐵五郎氏に就いて斯道修業の後、結城屋を繼承して今日に及んで居る。現在店員三名を置き、藏前高工出の次男利三郎氏(三十六歳)輔佐とし壯者を凌ぐ活躍を續けつゝある。氏は亦町内の故老、十五年前、現町會の前身者有隣會の創始者であり、現に町會相談役として、公共のため指導の任を盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行四谷支店である。

㋠ 惠比吉材木店

近田　吉治

明治三十三年五月生
東京市四谷區番衆町三〇
電話四谷一二一二番
營業所

當店は、もと江戸川區東船堀町に在つて惠比濱と號し業界者の老舗であつた。吉治氏は、この店第三代主濱太郎氏の長男として生れた人である。大正五年、濱太郎氏は、當店を現地に移したのであるが、その前後中學に通學の傍工業を輔佐した吉次氏は、中卒以後、家業に專念して、斯業研鑽幾星霜昭和十五年一月、第一線を退ける嚴父に代つて、當店の一切を繼承し、從業員二名を使用して、老舗一層の盛大なる發展を圖しつゝある。而して氏は業界のエキスパート、推されて東京材木商同業組合四谷支部長であり、町内有力者として、青年分團長、町會役員等の公職にあつて、社會的奉仕に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行新宿支店である。

荒木町廿七わ二二　電話四谷三一九七番　瀨尾正治
麴町十一ノ二　電話四谷二七二〇、五八二四番　島崎喜和
同　十一ノ十三　電話四谷二六四二番　山崎忠一郎
花園町一　電話四谷二七四一番　中川藤五郎
尾張町三　電話四谷三二五一番　倉田榮太郎
左門町六八　電話四谷八二〇四番　堀内勝之助
永住町二七　電話四谷四三五七番　篠本伊太郎

牛込區

勝田屋

勝田仁康

慶應二年生
營業所　東京市牛込區榮地町八

當店の創業ほ推古天皇時代とも稱せられてゐる程で、日本一の大老舗であらうとされてゐる。記錄的には勝田屋茂右衛門氏の創業に關はるもので、當主まで蜿蜒數十代を數へられる。創業當時は淺草材木町に店舗を構へてゐたが、明治二十六年當所に移轉し今日に至つてゐる。淺草寺の最初の建築資材及德川三代將軍時代の再建築資材は當店より納入したもの明治末年菩提寺移轉の爲、先祖累代の墓石を運搬するに馬車十數臺を要したと、以つて當店の歷史を察知し得る。當主既に老齡の爲長男信太郎氏(友康と改名明治三十五年五月生)が昭和六年より店務の一切を管掌してゐる。其の取扱ふ所建築材一般に及び、老舗たるの名に恥ぢない。現在町會役員、東京材木商同業組合評議員の要職にある、取引銀行は第一銀行神樂坂支店である。

川野材木店

川野豐作

明治二十四年九月生
營業所　東京市牛込區水道町三三
電話牛込三四六三番

氏は栃木縣安蘇郡氷室村製材業川野寅吉氏三男として生まれた。夙に實兄が小石川區指ケ谷町一四六に川野商店を創業盛大に繁榮してゐたので、これを賴つて上京、みつちり木材業を修業した。後大正八年獨立して現地に創業今日に至つてゐる。內外建築材を取扱ひ、從業員二名を擁し侮り難い地盤を有してゐる。公職としては、隣組役員を勤めてゐるが、地元にも厚く信用を受けて居り其の堅實性がしのばれる。取引銀行は、昭和銀行江戸川支店である。

美濃藤商店

八木藤三郎

明治二十一年生
營業所　東京市牛込區山吹町二七〇
電話牛込四三六七番

當店は先代藤三郎氏が明治三十年創業したものである。當主は赤城小學校卒業後當店に入つて、修業中忠實なる勤務振りに惚れられ、大正元年養子となり業務一切を引き繼いだ、仕入地は深川木場市場で、附近の一般建築業者に得意多く其の販路は殆ど地元に局限されてゐる樣であるが、其の取扱數量は他の一流店に比して決して劣つてゐない。昭和四年養父病歿に遇ひ、家督を相續すると共に幼名萬一郎を改め、藤三郎を襲名今日に及び、從業員二名と共に業務の繁榮に努めてゐる、公職としては町會副會長の重要なる地位にある。因みに取引銀行は、愛知銀行江戸川支店である。

大廣商店

梅主廣吉

明治十四年生
營業所　東京市牛込區北町二二
電話牛込二三七四番

當主は千葉縣銚子町士族小川養藏氏の長男として生まれ、十五歳の春上京して牛込區市ケ谷森田材木店に於いて斯業を學び、明治四十一年獨立當所に開業して以來建築材を取扱つてゐる。惜むらくは當主寄年五月より病床に就き、主婦代つて采配を振ひ、よく店員一名を使用し營業を續けてゐるが、何分にも婦女子の事故意の如き活躍が出來ず、財界好況に助けられて、稍順調に推移してゐるとしても、當主全快を見ない限り積極的な伸長は期待出來ない樣である。僅かに今日迄の得意を維持してゐるに過ぎない狀況にあり、當日の再起一日も早からん事を祈るや切である。尙取引銀行は、安田銀行神樂坂支店である。

近藤材木店

近藤勝五郎

明治十三年生
營業所　東京市牛込區市ケ谷富久町四六
電話四谷六九四九番

氏は群馬縣多野郡新町に生れた人。明治二十六年十四歲の時、上京して木挽業を習得すること三十餘年の久しきに亘つた後、木材業に轉じ、大正十二年、現地に店舗を創め、建具材を取扱つて、孜々奮勵、大に店務の發展に努むること十數年、昭和十年、檜材を取扱ふに至つて、山手業界に嶄然として頭角を拔じ、同方面唯一の檜材販賣店として、特に深川區木場四丁目に在る業界の巨擘、高木檜店の特約店として、隆々たる店勢を示すに至つた。而して今や氏は、其の指導下に次男萬治氏(二十八歲)をして店務を管掌せしめ、店員二名を使役して、愈々店勢を盛ならしめつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

小山支店

中島民雄

明治三十六年十月廿九日生
營業所　東京市牛込區西五軒町三四
電話牛込五八五三番

當店は淺草區北松山町七三小山商店の支店乍ら、牛込區內に於いては一流店として知られ頗る盛況を示してゐる。當主は江戸川區船堀町の地主故紋右衛門氏の次男に生まれ。義兄の經營する前記の小山に入り十七ケ年間勤續し、爲に模範店員、勤續優良店員として東京材木商同業組合より前後二回に渉つて表彰され、記念品を授與されてゐる。昭和七年支店の形式で獨立、深川木材市場を仕入地として、建築材、建具材を取り扱ひ、得意は一流建築業者、建具製造業者方面に多く新進業者として人氣がある。從業員三名、繁忙中町會役員を勤め居る。第百銀行支店と取引してゐる。

若一商店

片桐一郎

明治二十六年生
營業所　東京市牛込區水道町二五

當店は明治三十八年先代片桐榮次郎氏の創業に係るものである。當主は靜岡縣周智郡大居町山林業坪井家の次男として生れましたが。生家の業との關係上材木商を希望して明治三十九年上京、牛込區水道町若田屋材木店に入店修行中其の人材を認められて養子となり。大正十三年業務一切を譲られ、今日に及んでゐる。取扱商品は建築材で、主として深川木場市場より仕入、一般建築業者に販賣してゐる。數年前より得意先の利便の爲、セメントの販賣も兼業し好評を博してゐる現在隣組十五群長を勤めてゐる。取引銀行は、日本興業銀行江戸川支店である。

齋藤材木店

篠ヶ瀬孝太郎

明治三十一年三月生
營業所　東京市牛込區早稲田町四二
電話牛込一七一四番

氏は靜岡縣田方郡湯ヶ島村の生まれ。明治三十二年二歳の時、父が北海道雜木商を牛込山吹町に開業する爲上京、長じて深川東陽小學校卒業後、二十二歳迄深川平野町三丁目板小商店に於いて修行し、以後父を輔けて家業に從事してゐたが財界不況の爲閉店の止むなきに至り、依つて義父に當る齋藤材木店に入つて勤務、昭和七年この店を譲り受けて、自ら店主となり活躍中好運にも最近の好況を迎へて業績頓みに昂上し、深川木材市場より、材木一般を仕入れ、建築業者に販賣してゐるが、得意先より受ける信用も益々强固なものになりつゝある。

東海木工機工業所

東京營業所　栗田清

牛込區神樂町二ノ一四
電話牛込七二六八番
本店　盛岡市大通四丁目
電話四七八番
出張所　青森市浦町驛前通り

栗田清氏は北海道に本社を有する齋藤木材株式會社專務取締栗田氏の令弟にして昭和十一年一月大阪製材機械製作所が盛岡市に出張所を開設となり關東以北の廣い地區を委ねられるや東奔西走事業の振興擴充に努力を傾注し其成果は大いに見るべきものがあつた。然るに時局下に於ける各種生產事業は何れも軍需工場への轉換を企圖されつゝある折柄大阪製材機製作所も遂に進路を轉換し、これ迄に築き上げられたる事業を一時中止することと成つたが此處に栗田清氏は本社諒解の下に此迄の出張所が地區とせる東北地方並に北海道をそつくり地區として獨立經營に乘出すことゝなり、昭和十三年八月名稱を東海木工機工業所と改め、堂々斯界の覇を目指して

第一歩を踏み出した譯である。即ち盛岡布大通り四丁目は營業所とし、青森市浦町驛前通りに出張所を置き、更に昭和十四年十二月中央に進出し現地を東京營業所として一大飛躍を見る殷賑振りは前途洋々たるものがある。同氏は未だ三十代の新進氣鋭獨立第一歩の記念として業界に捧ぐべく兼て設計中の二十六吋小型帶鋸機械も往年完成を見たがこれは

一、廻轉式安全
二、鋸の廢物利用
三、完全に薄鋸が使える

等を主要眼目として動力は僅かに五馬力、据付け、取外しが頗る簡易であり製函並に一般建築材を製材して能率は從來のテーブルと何等變りのないものが製材業界より好評を博し開業年餘淺きにも不拘、大量の注文が殺到の有樣である。

秩父屋支店

篠本春次

明治四十年一月十四日生
營業所　東京市牛込區市ヶ谷船河原一〇
電話四谷一七四二番

當店の本店は四谷區永住町二十七番地に於いて實兄が經營してゐる。當店は昭和四年の創業で、現在銘木、竹丸太を取扱ひ、仕入先は深川、本所、下谷方面と可成りの範圍に亘つてゐる。當主は、本店の先代の次男として生まれ、小學校卒業後深川區古石場稻安商店に入り、六ヶ年間修行し昭和四年支店として、分離獨立したものである。昭和十二年九月、今事變に應召、十五年二月歸還してゐるが、業績は一向下つてゐない。寧ろ反對に上向いてゐる模樣である。取引銀行は、第百銀行神樂坂支店である。

若松町一三　電話牛込〇五六〇番　町田庭造
辨天町二五　電話牛込〇七四八番　櫻井藤吉
築地町八　横田林藏
藥王寺町七九　草深憲一
市谷富久町三四　電話四谷四三七二番　榊原清春
市ヶ谷本村町七　電話牛込〇九八五番　森田吉太郎
市ヶ谷田町一ノ一七　近田德三郎

小石川區

菊辰商店

芥田喜一

明治廿二年三月十日生
營業所 東京市小石川區新諏訪町二二
電話小石川二六五一番

氏は材木商であつた父彌吉氏の長男として現在の所に生まれた。十六歳より三十二歳迄先代の菊辰商店に於いて修行した、この菊辰商店は當主の親類筋に當り、これ等の事情から昭和七年讓り受けて店主となり、一般建築材を扱ひ、仕入地は深川木場市場、得意先は一般建築業者を持ち、双方より厚く信用を受けてゐる。從業員二名あり、尙長男秀一氏（大正九年五月十日生）は日本橋商業學校卒業後よく父の後繼者として活躍、其の將來を期待され、等々相俟つて家運彌々興隆に向つてゐる。因みに取引銀行は、第百銀行である。

内野材木店

内野榮五郎

明治三十二年八月廿八日生
營業所 東京市小石川區大和町一八
電話小石川二四二二番

當店は先代内野彦五郎氏が明治四十三年九月に創業した小石川、本郷方面に於ける一流の老舗である。當主榮五郎氏は本郷東片町の出身、雁金喜三郎氏の五男として生れ。本郷高等小學校を卒へるや直ちに當店に入り、十五年一日の如く忠實なる模範店員として業務に精勵通曉し、大正十四年六月主家に懇望されて内野家に轉籍したが、昭和十三年十二月先代の病歿に伴ひ家督を相續して家業一切を繼承した。一般建築材を取扱ひ産地直取引並に深川木場より仕入れ之を諸官廳、會社、工場の納材を主とし其他市内一般建築請負業者等に手廣く販賣し、現在店員三名を使用し、堅實を以て知られてゐる。氏は東京材木商同業組合評議員、友睦會理事の要職に在り、又町會役員に推され業界のみならず公共方面に盡す所甚だ厚く、德望を聚めてゐる。因に氏の取引銀行は、第百銀行神樂坂支店である。

西銀材木店

西銀之助

明治十八年生
營業所 東京市小石川區表町九九
電話小石川五一五四番

氏は當時の東京市神田區新銀町に建築請負業西家之氏の次男として生まれ。長じて家業の關係から材木商を志望し、當時盛んなりし本所區菊川町の中由商店に八ケ年間、後轉じて小石川白山下の丸吉材木店に於いて修業し明治四十年獨立し建築材を取扱ひ現在從業員二名あり、氏の獨立當時は町會の如き自治組織なく、依つて、地元の識者と協力して始めて表町に町會を起し、推されて初代町會長となる。町會生みの親として信望篤きは故ある事である。長男邦之助氏は目下神戸

兼松商店の繊維工場の技師長として敏腕を振ひつゝある。因みに取引銀行は、昭和銀行である。

井澤商店

井澤政次郎

營業所 東京市小石川區初音町一九
電話小石川五九一三番

當店は富山市殿町井澤材木店の支店で、井澤政次郎氏名儀となつてゐるが、東京店の實際の經營者は黑田信吉氏である氏は明治二十二年五月五日富山市の材木商黑田家の長男として生まれたが、何故か海軍を志し、三十三歳迄兵役に服し、海軍兵曹長として歸還して後、大正十年親戚に當る井澤政次郎氏經營の東京店を讓り受けて始めて業界に第一歩を踏み出したものである。現在では店員一名と共に銘木挽立建具材一式を取扱ひ、相當廣範圍の得意を有してゐる。

川野商店

川野新太郎

明治十九年生
營業所 東京市小石川區指ケ谷町一四六
電話小石川四二〇八番

氏は栃木縣安蘇郡氷室村の出身、製材業川野寅吉次男として生まれ。家を實兄に任かせて明治三十三年上京、本所區柳原町相模屋相銀商店に入つて斯業を學び、明治四十一年獨立して小石川區初音町五番地に賣場を開き、後、大正十一年賣場を本店として今日に至る。從業者三名、京北中學卒業の長男正夫氏（當二十九歳）よく氏を輔佐し家運の進展に努力すると云ふ。氏は又商才に富む許りでなく、明朗豁達、社交圓滿にして業界内外の交友頗る多く、而かも、氏の訓陶を受けて業界に出でたる者枚擧に遑あらずと云はれる。業界中に隙然たる勢力を有すと云はれる原因である。取扱品は一般建築材取引地は深川本所市場で、安田、昭和兩行に取引がある。

小柳材木店

小柳源藏

明治二十年生
營業所 東京市小石川區春日町一丁目
電話小石川五四七三番

氏は福岡縣大牟田市在の出身、若かくして上京、初め警察官吏となり、其の後退官して二三職業を得しも、意を得る能はず、些少の勤機より材木商の有望なるに着目して、横濱セルフレーザ店に入り、兩三年間修行し、大正五年漸く獨立、小石川區春日町四番地に開業、昭和十三年營業の擴張から店舗の擴大の爲、現在の處に移轉す。現在は府立五中を卒業した令弟光氏と協力し從業員六名を抱へて、南洋材、北海道材ベニヤ板等を取扱ふ、町會役員として町内の有力者の一員である。取引銀行は、三和銀行本郷支店。

萩原商店

萩原佐太郎

明治二十二年生
營業所 市京市小石川白山御殿町三三
電話小石川二二七三番

氏は富山縣婦川町萩原作次郎六男と生まれ、感ずる所あつて、大正元年二十四歳の時上京、直ちに古材商を創業し、大正十三年時代を洞察して新材商に轉向し、爾來孤軍奮鬪、今日の大を爲すに至つた。この間、何等指導援助を仰ぐものなく、文字通りの獨立獨行、立志傳中の一員に加ふべきと云ふべく、現在從業員三名、深川木場より建築材一般を仕入、諸會社、工場を得意先としてゐる。町會役員、警防團役員に推され、公私貢献する所少くない。常に時代の流れを忘れず、新しき材木商として、取引銀行昭和銀行の特殊な信用を獲得し前途益々期待されてゐる。

秩父屋材木店

篠本信次郎

明治六年生
營業所 東京市小石川區白山御殿町八
電話小石川五九七四番

氏は東京市匹谷區永住町二十七番地篠本伊平治氏次男として生まれ、實兄助次郎が同所に銘木店を開業中同店に修業し明治二十九年現在の場所に獨立したもので、氏の出生地には實兄の子息が秩父屋銘木店を開業して居り、尙牛込區市ケ谷舟河原町の秩父屋竹材店は氏の甥の經營する所である。當店は從來竹丸太、銘木商として活躍してゐたが、時代の進運に伴ひ、數年前より羽柄材(建築材)をも合せ取扱つて居り、從業者は二名を使用してゐる。尙ほ長男重雄氏は當年三十五歳神田電機學校卒業後は家業に從事し嚴父を輔けてゐる。因みに取引銀行は、昭和銀行である。

浅見商店

浅見榮吉

明治三十三年生
營業所 東京市小石川區西丸町七
電話大塚一一五一番

當店は當主の嚴父浅見新太郎氏が、明治三十九年此處に創業したに始まり、大正九年新太郎氏病歿により相續、現在從業員三名を使用し、建築、建具、挽立材を取扱ひ居るものである。仕入は深川木場市場及原産地より行つてゐるが、得意先は東京市内一般建築業者である。取扱商品も、得意先も廣範圍に亘つてゐる爲め、業績は極めて堅實、當店の營業方針も又堅實第一主義をモットーとして居り。取引銀行たる昭和銀行の信用も篤實である。

原田商店

原田貞作

明治二十三年九月三十日生
營業所 東京市小石川區茗荷谷町一九
電話小石川三〇六一番

當店は先代原田貞作氏の創業に係る、當主は埼玉縣入間郡名栗村の出身で、先代の甥、幼名を明太郎と稱し、十七歳の時上京し、伯父に當る當店に入る。生家の業は山林、製材業であつた。大正三年先代の逝去するに及び、養子となり貞作を襲名業務一切を繼承す。先代が明治三十六年十月創業以來

建築材一切を取扱ふ。仕入地は深川木場及原産地で、得意に一流建築業者が多く、業績頗みに擧つてゐる。公職として、東京市方面委員、警防團役員、東京司法保護委員、町會役員を兼任し、公人としても多忙な日を送つて居る。因みに取引銀行は、住友銀行大阪支店である。

岡田屋

五十嵐忠三

明治四十四年生
營業所 東京市小石川區駕籠町七一
電話大塚〇六二七番

當店は當主の嚴父富三郎氏が永年深川木場駿忠本店に問屋業を修業した後、現在の所に明治三十八年仲買業を開いたに創つて居るが、昭和四年五十六歳を以つて病歿せらるゝに及び、當主の實兄家督を相續し家運の隆昌に資する所あつたが惜むらくは、昭和十年夭折、依つて、初代次男たる現當主其の後を繼いで、今日に及んでゐる。現在は從業員二名を使用し、深川木材市場を取引地として建具、建築材を取扱つてゐる。現當主は早稲田商業の卒業生、現に帝國在郷軍人會小石川北部分會審議員たり、性質溫厚着實、一見貴公子の風格ありと稱せられ、氏に依りて初めて業礎愛石の如しと稱せらる。因みに取引銀行は昭和銀行支店である。

濱木屋

伊藤福平

大正十年生
營業所 東京市小石川區音羽町九ノ七
電話牛込四三一九番

當店は先代福平氏が、靜岡縣より上京、當時芝區内にあつた濱板屋材木店に於いて修業の後大正元年現在の地を卜して獨立創業したに依る、爾來十有餘年の苦鬪報ひられて、業礎漸く安定するに至つたが、昭和元年僅かに四十二歳の壯年を以つて病歿した、嗣子兼吉氏亡父の名を襲ひ家督一切を相續すと雖も學齡にも達せざる幼年の爲、先代夫人自ら陣頭に立つて、細腕よく家運の隆盛と當主の養育と兩つ乍ら全し、當主の早稲田實業學校卒業と共に業務一切を委ねて、第一線を退いた。現在從業員二名あり、一般建築材を取扱ひ、仕入地は深川木材市場、得意先は一般建築業者、取引銀行は、昭和銀行江戸川支店である。

田口屋

大澤阿吉

明治十四年生
營業所 東京市小石川區大塚坂下町一九三
電話大塚一八五八番

當主阿吉氏は埼玉縣秩父郡中川村の出身、生家の業が、山林業なる關係から木材商を志望して明治四十五年上京、深川木材市場に於いて斯業を研鑽の上、大正四年現在の所に店舗を築いた。爾來逐年業績擧り、現在は從業員三名を擁して、一般建築材を深川木場より仕入れ、これを、一般建築業者に

販賣してゐる。現在養嗣子貫一郎氏(當年卅二歳)あり、當主を輔佐して店務の興隆に活躍してゐる。氏は新潟縣高田の出身、幼少より柔道をよくし、現に六段の資格を持ち、店務の餘暇に象潟警察署の柔道師範を勤めてゐる。因みに當店の取引銀行は、第百銀行である。

林屋商店

林

田中仁三郎

明治四十一年八月生
營業所 東京市小石川區大塚坂下町一六二
電話大塚六八〇四番

當店は連綿三代を經た老舗にして、初代は牛込區山吹町に創業し、二代仁三郎氏が事業擴充の爲明治三十六年現在の地に移轉せしもの、當主は幼名久造と云ひ、早稲田實業を卒へ大正九年嚴父の逝去に依り襲名相續し、實弟廣三郎氏と協力山手方面の一流店として名を馳せてゐる。仕入には深川木材市場のみならず、遠く原産地まで足を伸ばし、主として諸官衙學校方面の納材を取扱ひ、其の取扱數量の大なる事同業者中遙かに頭角を抜き、客年の納稅決定額六萬五千圓と稱せられるに依つても伺ひ知る可きである。公職としては、帝國在鄉軍人會東京分會第八班長、町會役員を勤む、尚、住友、三和兩銀行に取引してゐる。

吉田商店

吉

吉田四郎

明治三十三年十月生
營業所 東京市小石川區關口水道町二四
電話牛込一九三九番

氏は茨城縣眞壁郡勝波ノ江村吉田祐吉氏三男として生まれ生家の業たる農耕に勵んで居たが、感ずる處あつて上京、麹町區飯田町百瀬商店に入り、七ケ年間斯業を研究、昭和八年獨立して現在の所に營業所を開く、爾來、ベニヤ板を取扱ひて確たる地盤と信用を獲得し、業績頓みに擧つて、現在では淺草區永住町百五番地、荒川區三河島七ノ六一〇番地に二ケ所の支店を擁するに至つた。本店從業員四名、淺草支店は一族の吉田正夫氏を起用し活躍せしめてゐる。尚氏は町會役員を勤め地元の信任も篤い。取引銀行は、第一銀行江戸川支店である。

初音町四	電話小石川五六九三番 坂下曰吉	
同 一五	松島一郎	
餌差町三四	宮地庸	
同 三四	井上啓助	
大原町六	大塚又吉	
關口町五二	電話牛込六五九〇番呼 中澤密吉	
柳町二六	山田治郎	

本鄉區

齋政商店

齋藤福三

明治二十八年三月生
營業所 東京市本鄉區湯島四ノ一三
電話小石川二五一一番

當店は當主の實父政吉氏が明治二十年に現地に創業し、實兄がこれを繼承したが不幸他人の信用關係に連座して破産の一歩手前迄墮ち込み、隱退の止むなきに至つた。この逆境を省ず敢へて繼承したのが政吉氏三男たる當主福三氏である。氏の昭和七年繼承以來の活動は全く敬服すべきものあり、間もなく實兄の殘せし負債一萬餘圓を完濟し名實共に齋政商店を再興した、主として建築材を販賣し、諸會社、工場、建築業者等多數の華客あり、尚販路は擴大しつゝある。從業員は三名使用してゐる。當主の手腕は公的機關からも認められ曾つては在鄉軍人會副會長、現在は同會評議員參事會計を勤め町會の役員に推されてゐる。因みに取引銀行は、三和銀行である。

宍戸材木店

正

宍戸純

明治四十一年生
營業所 東京市本鄉區湯島天神町一ノ三〇
電話下谷二五四七番

當店は當主の實父正一氏が、淺草藏前高等工業學校專門部卒業後、昭和四年、現地に材木商を初めたに依るもので、正一氏が、都合に依り昭和十年滿洲國政府技師として赴任するに及び、其の後を當主純氏が讓り受けて今日に至つてゐる。創業開始より未だ日淺しと雖も、市内一般建築業者より一般建築材商として受けてゐる信用頓みに篤く、深川木場市場及本所方面では數多の取引先を有し從業員一名で、營業方針は派手ではないが、直實さを各方面より買はれてゐる。取引銀行は、安田銀行である。

遠州屋小木民藏

明治十七年生
營業所 東京市本鄉區春木町一ノ一七
電話小石川〇七三三番

當店は眞延年間當主の祖父が創業して以來三代に亘る老舗である。一般材木を取扱つて名があり現に從業員四名を擁して、深川木場市場及原産地より仕入、諸會社、工場、諸官衙建築業者等廣範圍に亘る得意先を有してゐる。當主は先代の長男として生まれ、生家の業を繼ぐべく、修業中の所大正九年六十一歳を以つて嚴父逝去せられるに及び、家督を相續し業務一切を繼承した。友睦會副會長、春木町會副會長、信用組合理事の要職を兼ねてゐる。因みに取引銀行は、昭和銀行本鄉支店である。

和泉屋

小池顯三郎

明治二十九年生
營業所　東京市本郷區春木町三ノ二二
電話小石川五五四四番

氏は群馬縣前橋市の材木商に生まれた、現に生家は實兄龜三郎氏が經營し、地方一流店として名があり製材業をも兼ねてゐる。依つて自宅に於いて家業を輔ける傍ら、研究怠らず東京に觸手を作る爲め大正十三年上京し現在の場所に開業した。爾來實家とは緊密なる連繫の下に業績は益々昌隆し、今日では深川木場市場より一般建築材を仕入れ、都下需要家に販賣してゐる。從業員二名あり、尙公職としては町會役員を勤めてゐるが、地元の信頼を得てゐると共に、當店の將來は多方面より期待されてゐる。安田銀行本郷支店と取引してゐる。

菊久商店

萩原良太郎

明治十二年生
營業所　東京市本郷區駒込曙町二八
電話大塚四五〇八番

當主は岐阜縣高山町廣田家の三男と生まれた。氏の實兄久太郎氏が小石川區新諏訪町菊辰材木店萩原家に懇望されて養子となり明治三十五年分家して現在の處に創業したのが、當店の基となり、久太郎氏子女なき爲、昭和七年病歿の後を氏が相續したものである。氏は十六歳の春上京し、二十三歳まで幾多曲折ある經歴を殘してゐるが、感ずる所あつて同年實兄の店に入つて刻苦精勵し夙に其の商才をうたはれてゐた。建築材一般を取扱ひ、仕入地は深川、本所兩市場、得意先は一般建築業者、從業員二名あり、尙嗣子に長男眞一氏（大正二年生れ）あり京北實業を卒業後目下家事に從事してゐる。因みに氏は友睦會々長、東京司法保護委員の公職を勤め、町會の會計を二十三年間繼續擔當してゐる。取引銀行は、安田住友の兩行である。

相羽屋材木店

宇田川光之助

明治二十九年生
營業所　東京市本郷區神明町四一三
電話駒込一五七二番

當店は當主の義兄政芳氏が明治三十九年當所に創業したるに關はる。政芳氏は十二歳にして深川數矢町大野商店にて十ケ年の修業の後獨立したもので大正九年、隱退と共に當主光之助が繼承し、現に從業員四名を擁して一般建築材を極めて手廣く取扱つてゐる。仕入地は深川市場である。當主光之助氏は、政治家向な誠に堂々たる巨軀を有し、外交性に富み、其の卓越せる手腕と共に業界のみならず、四隣より稀れに見る德望を衆め、二年前より在郷軍人會本郷分會第一班長、町會役員、前同業組合評議員等の肩書を有し、紳商として名聲あり、公私共今後の活動を期待されてゐる。因みに取引銀行

は、三菱、昭和の二行である。

粕谷商店

粕谷秋之助

明治二十八年生
營業所　東京市本郷區駒込片町五
電話大塚五七四〇番

當店は初代留吉氏の創業に關はる竹材商であつた。二代目仙太郎氏は當店にて修行中、初代に見込まれて、養子となり家督營業の一切を繼承し、當主は其の跡を受けた即ち三代目である。氏は埼玉縣北足立郡戸田村の出身、十六歳の折上京して當店に入り、大正十三年望まれて養子となり、昭和二年竹材商より建築材商に轉向して、家運の隆昌に資する處少からず從業員三名を驅使して、其の精勵振りは目覺しきものありと云はれる。前に同業組合の評議員たりし事もあり同業者間の信望も薄くない。取引銀行は、昭和銀行である。

岸材木店

岸源四郎

明治二十一年四月生
營業所　東京市本郷區駒込坂下町六五
電話駒込〇五七一番

氏は埼玉縣の農家岸善次郎氏の家に次男として生まれ、土地の小學校を卒へて暫く生家の業を助けてゐたが、感ずる所あつて、明治三十八年十八歳の時上京し、本郷區春木町一丁目遠戚商店へ入店爾來十ケ年刻苦修業、大正三年主人の許可を得て、當地に獨立創業した。取扱品は一般建築材であるが仕入地は深川市場のみならず、遠く原産地まで觸手を延ばし從業員三名の活躍と共に多面に販路を有し將來を期待されてゐる。當主は現に町會役員である。長男は府立一商卒業後家事に從事し嚴父の業を輔佐してゐる。因みに取引銀行は、昭和銀行である。

尾張屋材木店

南　錄　男

明治十八年五月十九日生
營業所　東京市本郷區根津宮永町二八
電話下谷二五四四番

當主は現在中央電話局のある麴町錢瓶町に父清房氏六男として生まれた。兄弟の多い爲め、早くより獨立する必要があり十二歳の時幸ひ實兄が、牛込改代町に材木店を開いてゐたので、これを振出しに深川平野町萬信材木店、同じく萬重材木店に斯業を習練し、二十三歳の折、明治四十年人の止むるも聞かず、僅か百三十五圓の少資本を以つて本郷根津藍染町一に獨立創業す、明治四十五年現地に移轉し、旭日の勢を以つて發展し遂には同業組合の役員に推される程の同業者間の信用と勢力を克ち得るに至つた。現在は建築材を取扱ひ店員二名あり、當店の商號は先祖の生誕地愛知縣の國號を取入れたものとされてゐる。近く次男享二氏（當年二十六歳目下帝大農學部林學科在學中）が南家二代を繼承する筈である。取引銀行は、第一銀行本郷支店である。

天野商店

天野小太郎

明治二十四年四月十日生
營業所　東京市本郷區駒込千駄木町二一〇
電話駒込二二七三番

氏は山梨縣北都留郡笹子村天野吉兵衛氏の次男に生まれ、生家の樵業を嬉ばず、明治四十年上京し、澁谷區千駄ケ谷町上平商店の徒弟となり專ら斯業を研究したが。大正四年努力の効あつて當所に獨立するを得た。仕入地を深川木場市場に求め、建築材一般を取扱ひ、從業員二名を使用して、堅實な營業振りを各方面より期待されてゐる店である。この營業方針も氏の堅實なる人格より生じたもので、この人格を買はれて、町會役員に推され、同業友睦會理事に選任されてゐる。氏の長男は京橋商業卒業後、家業を輔佐してゐる。因みに取引銀行は、安田銀行である。

伊勢庄賣場

齋藤善次郎

明治三十三年二月十八日生
營業所　東京市本郷區弓町一ノ一
電話小石川六三〇七番

氏は神田鍛冶町十一番地の老舗伊勢庄の九代目(先代)齋藤庄兵衛氏の次男に生まれ、生家に於いて修業後、大正十年四月、現地に支店として分離獨立したものである。家具材を取扱ひ得意先は諸官廳への納材を主として、其の他全市に散在する店職方面で、仕入地に深川木場市場のみならず廣く原產地に迄手を伸ばしてゐる。從業員は五名、取引銀行は、安田三和兩行である。因みに氏は町會常任幹事の公職を有し、友睦會理事、東京材木商同業組合役員等の重職を兼ねてゐる。

太田商店

太田晴康

明治二十八年五月生
營業所　東京市本郷區駒込坂下町一九九
電話駒込二六四四番

當店は先代廣庭氏が大正六年創業したもので、當主は千葉縣君津郡久留里町農家の出身十四歲にて上京して當店に入り後乞はれて養子となり、大正十五年營業の一切を繼承した。深川木場市場を仕入地として、一般建築材を取扱つてゐる。當主は極めて溫厚なる人にて二名の從業員より深く慕はれてゐる許りでなく、町會役員として町に盡す所多く、近隣より受くる信望も又偉大である。

木村商店

木村重三

明治十八年生
營業所　東京區本郷區駒込千駄木町二九六
電話駒込一九二六番

氏は千葉縣松戸町在の出身、生家の業は農業、豆腐製造業を營み、全く木材商の經驗なく、無緣にも、大正六年上京するや直ちに古材商を創めた、これが意外にも成功した。着々

地盤を擴大し僅かに四、五年の間に確固不拔の地位を築き上げたが、大正十年頃時代の進運を眺めて、古材商の將來性に不審を戴く所となり、新材木商に轉向したが、其の後の業績も極めて順調に推移し、現在では建築材を取り扱ひ、從業員三名を使用してゐる。嗣子に中等學校を卒へた長男良男（當年三十歲）あり新進氣鋭の營業方針は、よく嚴父の獨立獨行の精神を一致し、將來を嘱目されてゐる。因みに安田銀行が當店の取引銀行である。

三國屋商店

藤本榮吉

明治二年生
營業所　東京市本郷區根津逢初町七
電話下谷七四九〇番

當主は土地生へ抜きの人で、云はゞ生粹の江戸子、壯年時代は父祖以來の建築業を以つて身を立ててゐたが、大正三年木材商に着目して鮮かな轉業振りを示し爾來着々業績を擧げて今日では支配人鈴新氏に業務一切を委せ、從業員三名を驅使して、深川木場市場には本所方面より建築材を仕入れ、これを昔の同僚たる一般建築業者のみならず、諸會社に納入し其の仕入先は廣範圍に亘つてゐる。支配人鈴新氏は當年三十五歲、當主の次男、都合に依り鈴家に養子となつてゐるが、よく父を輔け、他面町會役員、警防團役員の公職にある。因みに當店の取引銀行は、安田銀行である。

武内材木店

竹内忠作

明治二十年十一月二十八日生
營業所　東京市本郷區元町二ノ一一
電話小石川二五二一番吟

氏は長野市西長野三九番地國作氏の次男として生まれ、廿四歲より郷里に於いて建築請負業を營み相當の業績を擧げ、殊に同郷の田中庫太氏の建築を請負ふや其の誠實さに依り感謝狀を受けた程であつたが、昭和三年財界不況の爲さしも盛大を誇つた事業も遂に一頓挫を來し、止むなく昭和三年上京堅き信念に依り雜木業を學ぶ事八年、昭和十年現地に材木商として再起するを得た、齡既に四十九に達してゐたが、特異の販路を切り拓き、現に從業員三名と共に雜木、ラワン、北海道、南洋材を取扱つてゐる。尙氏は豐岐坂青年團特別事業部會計主任の公職にある許りでなく、稀れに見る篤信家で、大東京親友講を組織し年に二百餘名の信者を引率して長野善光寺に團參を續けてゐると。

竹新商店

佐久間新吉

大正三年十月四日生
營業所　東京市本郷區駒込東片町六九
電話小石川六一三六番

當店は四代に亘る老舗で、從來より竹材商として名がある當主は先代寅吉氏三男として生まれ、小學校を卒へるや直ち

に深川木場（富岡町）京縞商店に入店、三ケ年間斯業を研究、昭和十四年三月嚴父の逝去に依つて家督相續と共に營業一切を繼承した。當店は創業以來竹材專門店として發展して來たが、大正十三年羽柄材をも合はせ取扱ふ事となり、華客は俄かに擴がり業績も著しい向上を見せた、現在從業員三名を使用し、日本晝夜、住友兩行に取引がある。尙當主は隣組第一群第三部群長を勤めてゐる。

駒込神明町一八九　　横塚保

下谷區

秩父屋商店　藤野彌八

明治二十九年十二月二日生
東京市下谷區下車坂町八
電話根岸三六七八番
營業所

氏は埼玉縣秩父郡大河原村の出身にして、農關根樂藏氏の五男として生れ、十四歳の春上京して、北千住に於て木炭、雜貨店に入り五ケ年間修業を積み、その後藤野家經營の食堂に勤務し大正十三年同食堂は古材業に轉向、引續き同商店に勤務し主家に忠勤され店主の信任する處となり、大正十三年養子として入籍し、昭和四年業務一切を繼承、昭和九年より古材より新材商に改め逐年業務の殷盛を見、今日の大をなした。尙ほ氏は長野縣南佐久郡小梅線松原湖驛前に昭和八年材木工場を設置し、實兄關根喜平氏が工場主任となり從業員五十餘名を使用し、極めて盛大である。

木村銘木店　木村愛一

明治三十三年生
東京市下谷區竹町一二
電話下谷〇六四三番
營業所

氏は愛知縣寶飯郡形原町尾崎代助氏三男にして年少材木商を志して上京、神田區佐久間町に在つた武藏屋材木店に入り

鋭意業務に從事十餘年間勤續の効あつて業績擧がり、主家の信頼厚かりしが偶々同業木村安太郎氏が同氏の人格、手腕の優れたるを見込んで養子緣組を懇望されたので主家とも協議の上、廿七歳の時木材家の養子となり一般業務を繼承多年の經驗に則り堅實主義をモットーに敏腕を揮はれ各得意先の信用も加はり遂に今日の如き隆盛を見るに至つたのである。然し氏は現在東京材木商同業組合評議員並に町會理事として公職に多忙を極められてゐるが、同店の取扱品目の主なるものは磨丸太、床柱、天井板等にして亦た同店の創立は明治卅四年區内に於ける老舗である。取引銀行は第百銀行である。

㊇ 丸八支店　坂田勝廣

明治三十四年五月六日生
東京市下谷區二長町三七
營業所

坂田氏は明治三十四年五月坂田金藏氏三男として、淺草區黒船町に生る、生家は運送業を營みあるも氏は、材木業を志し淺草區大作商店に入り十ケ年刻苦勉勵一般の業務を習得し更に實兄の經營せる下谷區御徒町三丁目丸八本店に於て兄を援けて五ケ年間事業の擴張に努め業績大いに擧がる、玆に於て多年の宿望であつた獨立開業が現地に昭和四年實現し、爾來多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに奮鬪努力一般建築業者間に絶大の信用を博し商取引高は逐年激增し遂に今日の如き磐石の基礎を築き擧ぐるに至つたが、氏今日幾多社會公共事業に關與貢獻する處大なるものがある。因に同商店の主なる取扱品は一般建築材にして、尙ほ氏の實弟は小石川區柳町に丸八賣場を經營し、兄弟三人が揃つて同一業界に活躍しつゝあるのは稀に見る處である。取引銀行は第百銀行、

Ⓐ 淺野ベニヤ商會　淺野清

明治四十二年二月六日生
東京市下谷區二長町五四
電話下谷五一三四番
營業所

氏は下谷區竹町十七番地淺野鐵三郎氏の四男として明治四十二年二月生れ生家の業を繼かず將來の事業として製材業の有利なる點に着眼し恰もよし當時氏の遠緣に當るベニヤ板製造の創始者淺野氏が神田區内に於て全盛を極めてゐたので氏もベニヤ板業に造詣深く昭和十二年現地に獨力ベニヤ板製造業を開始し、爾來奮鬪努力事業の擴張に全力を傾盡し來りしが殷賑産業の活況に連れベニヤ板の需要激增し生産力の擴充も間に合はぬ盛況を呈し氏の前途眞に洋々たると共に多大の期待がかけられてゐる。因に取引銀行は、第百銀行である。

村彌商店　渥美彌一

明治三十四年二月生
東京市下谷區二長町一〇〇
電話下谷二一九八番
營業所

渥美氏は愛知縣碧海郡宇頭渥美家の三男として生れたるも生家の事業たる農を繼がず、高等小學校卒業後單身上京（當

時十五歳）神田區材木町の老舗（六代目）村藤材木店に入り刻苦勉勵一般業務を習得し氏の忠實なる働きには主家の信頼益々加はると共にその敏腕にして實直は引取先の賞讃する處となつて主家の事業は發展の一途を辿るのみであつたが、多年の宿望であつた獨立開業の準備全くなり鼓に於て特に許されて店主より村彌商店なる商號を貰ひ大正八年現地に華々敷營業を開始するに至つたのである。爾來、多年の經驗に基づき堅實方針をモットーに奮鬪努力の結果商取引は漸増し遂に今日の如き地盤を獲得するに至つたのである。而して同商店の主なる取扱品は一般羽柄材である。

山大商店　小倉篤三

營業所　東京市下谷區御徒町二ノ三九
電話下谷八六六六番
明治三十一年生

氏は埼玉縣の出身にして郷里の小學校卒業後商業に依つて立身を志し上京、將來油商の有利なる點に着眼し當時油業界に飛躍しつゝあつた某商店に入り、斯業の習得に歴念努力中不幸主家は他の業務に轉向せる爲め氏も已むなく目的を替へ店主の親戚に當る村啓材木店が手廣く營業し業界に信用厚く勸められて同店に入る事となり、爾來一心不亂に斯業に就き熱心研究一般業務上の智識を得るに至つたので豫ての宿望であつた材木店を大正十四年現地に於て獨力開始することゝなり、愈々其の手腕は發揮されて得意先の信用も厚く業績年を逐ふて擡がり遂に今日の如き不動の地盤を獲得するに至つた而して氏が取扱品の主なるものは秋田材、エゾ其他で取引銀行は、第百銀行である。

㊭ 小森材木店　小森一郎

當年十四歳
營業所　東京市下谷區御徒町三ノ二二
電話下谷四四九四番

當主一郎氏は小森喜兵衛氏長男にして當年十四歳、目下中學校に入學して專念勉學中である。當店は創立後七十餘年を經過せる下谷區最古參の老舗にして營業の堅實と取引先の信用厚きは業界周知の事實で當主は實に三代目なのである。然るに先代喜兵衛氏は昭和六年前途有爲の廿年の身を持ちながら不幸病におかされ早逝されたが、店務一切は先々代より引續き忠勤の店員中村文次郎氏が献身的努力業務の發展に奮鬪せられ爲めに業務は以前に優る繁榮を來し殊に當店は業界に長き歴史を有し其堅實の營業振が一般業界業者間の信用を博し年を逐ふて營業の發展を見つゝあるのは喜むべきことである。而して同店の取扱種目は一般新築材である。

㊧ 丸八材木店　坂田格三

明治三十一年一月十四日生
營業所　東京市下谷區御徒町三ノ八五
電話下谷七〇九〇番

坂田格三氏は淺草區黒船町坂田金藏氏次男にして精華高等小學校卒業後材木商を志し十五歳の時下谷區竹町乃藤材木店に入り、廿七歳に至る迄店務に奮勵主家より絶大なる信頼を受け其間參ケ年間海軍兵役に服したる名譽ある帝國海軍々人にして手腕、技倆衆に抜きんで取引先の信用厚く斯くして氏は大正十三年現地に材木商を開業爾來多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに事業の擴張を圖り遂に今日の如き成功を克ち得るに至つた人格高潔、資性溫厚篤實の人である。因に下谷區二長町の丸八支店及び小石川區柳町の丸八賣場の店主は何れも氏の實弟で如斯兄弟三人が轡を並べ同一業界に乘出し何れも商取引旺盛を極めてゐるのは業界の誇りとする處で同店の取扱品は一般建築材料で取引銀行は第百銀行である。

㊤ 吉村材木店　吉村義男

明治三十九年四月十一日生
營業所　東京市下谷區新坂本町三九
電話根岸三九七九番

氏は北海道出身にして、年少旭川市松岡木材株式會社に入社し一般木材に關する事務を擔當修業の後、中央進出を目指して昭和七年上京、現地に吉村材木店を創立し鋭意地盤の獲得に邁進したる結果、各會社、大工場等の信用を博し商況年を逐ふて發展し昭和三年深川木場市場に進出賣場を設け旭川松岡木材株式會社旭川本店より仕入れたる北海道産雜木類の販賣に專念盛況を極めてゐるが、松岡木材株式會社々長は氏の伯父に當る人にして業界稀に見る成功者である。而して同店の深川木場賣場は木場四丁目十四番地で電話は深川三三二三番で同店の主なる取扱品は北海道産雜木挽材、原木、南洋材、ラワン等で、取引銀行は、昭和、第百の二銀行である。

吉村新坂本賣場

勳八等　松田榮次郎
明治四十三年三月廿九日生
營業所　東京市下谷區新坂本町六五
電話根岸三七四八番

松田氏は福井縣の出身にして十七歳の時材木商を志して上京、淺草の吉村本店に入り刻苦勉勵實直に働かられた、其勞苦酬ひられて昭和四年氏が十九歳の時當賣場新設されるや、抜擢されて一躍賣場主任を命ぜられ爾來一層敏腕を揮ひ營業の發展に貢献せられてゐたが、昭和十五年一月本店の營業方針變更の結果、賣場は氏が直營さることゝなり、益々其の手腕は揮はれ各取引先の信用も加はり營業は日を逐ふて隆盛に趣きつゝあるのも要するに氏が奮鬪努力の結晶である。然して其の取扱品の主なるものは北海道産雜木である。尚ほ氏は往年の上海事變に出征戰功に依り勳八等を賜はり、今回の日支事變に際し昭和十二年九月お召に應じ脇坂部隊聯隊本部附として出征各地に轉戰赫々たる武勳を樹て昨年七月九日歸還された名譽の陸軍々曹である。

丸山材木店

山　菅　喜　世　司

明治二十六年生
營業所　東京市下谷區新坂本町七八
電話根岸二九七七番

氏は栃木縣安蘇郡葛生町山菅家の次弟として生れ、年少材木商の有利なる點に着眼し小學校卒業後單身上京、深川區木場木材商店に入り刻苦勉勵業務修練店主より絶大なる信頼を博しつゝあつたが不幸二十一歳の時主家は廢業の餘儀なきに至つたので、更に同町の伊勢新商店に入り勤務中の處亦々同一運命に遭着し玆に於て氏は沸然獨力開業を決意し大正四年下谷區山吹町に店舗を構ひ多年練磨の手腕を揮ひ顧客に本位に活躍せる結果建築界各方面より絶大なる信用を博し開店幾何ならざるに確乎不動の地盤を築き上げ昭和四年現地に堂々たる店舗を新築し益々事業の擴張を圖りつゝあるが、氏の前途眞に洋々たるものがあり。其取扱品の主なるものは一般建築材である。

下茜材木店

篠　崎　覺　太　郎

明治四十六年生
營業所　東京市下谷區竹町一一四
電話下谷四〇八六番

氏は篠崎茜太郎氏長男として明治四十二年現地に於て生れ中等教育終了後家業たる材木商に從事し父茜太郎氏の教訓を受け一意專念事業の發展に努力中不幸にも茜太郎氏は昭和十一年病の爲め六十二歳を以て逝去されたるを以て一般業務を繼承、益々奮鬪努力遂に今日の如き强固なる地盤を獲得し、建築界より絶大なる信用を博し今や斯界の主をなすに至つたが、昭和十三年九月御召に應じ目下出征某方面に於て奮戰赫々たる武勳をたてられてゐる。因に同店の主なる取扱品は一般建築材にして尙ほ同店の創業は明治三十四年である。取引銀行は、第百銀行。

井筒屋商店

小　倉　正　照

明治十五年生
營業所　東京市下谷區坂本町二ノ一四
電話根岸〇八八九番

氏は神奈川縣戸塚町小倉家の長男にして、生家は呉服太物商なるも、氏は材木商を志し十二歳の時上京、京橋區西八丁堀の某材木店に入り二十一歳まで刻苦勉勵、主家の信頼厚かりしが檢査に合格して參ヶ年の兵役を果した後更に淺草の松館材木店に入り一般業務を鍛錬し大正參年現地に獨立材木店を開業、從來幾多の波瀾曲折ありしも不撓不屈の精神は是を克服して氏の敏腕と堅實は建築界各方面の信用に拍車をかけ營業は年を逐ふて發展の一途を辿り遂に今日の如き成功を克ち得るに至つたのである。因に氏は日露戰役に出征赫々たる武勳を樹てられ勳八等を賜りし名譽ある在鄕軍人で現今町會役員として時局下銃後の御奉公に全力を傾盡されてゐる。

駿河屋材木店

西　島　錐　一

明治三十六年六月廿日生
營業所　東京市下谷區萬年町一ノ七
電話根岸三九五九番

氏は靜岡市傳馬町の西島家長男にして靜岡商業學校卒業後十九歳の時を志して上京、深川區數矢町京福材木店に入り刻苦勉勵十二ヶ年の永きに亘る間、店主を輔佐し業務の發展に貢献する處大なるものあり、大正十三年退店玆に多年の宿望であつた現業を獨力開始するに至り、爾來多年の經驗に基づき堅實主義をモットーに奮鬪努力事業の發展に邁進し業界各方面より甚大なる信用を博し着々事業の進展と共に其基礎は確立さるに至り、今や斯界に異常の勢力を有し其の前途は眞に洋々たるものがある。要するに氏が人格高潔、勤勉の賜ふ處と云ふべく現に氏は先頃鄕里より嚴父を伴ひ迎へひたすら孝養を盡して居らる。因に氏の取扱品の主なるものは建築材である。

岡本材木店

岡　本　好　太　郎

明治三十八年十月廿二日生
營業所　東京市下谷區西町一ノ九

岡本氏は東京市神田區材木町加島金次郎氏の次男にして生家は材木商として知名の老舗であり、殊に氏が從兄加島善太郎氏は神田區岩井川岸十一號地に於て三善商店を經營し商取引は旺盛を極め業界稀に見る成功者であつたので、氏は從兄の許に於て一般業務を習得中當時神田區駿河臺に在つた蓬來屋材木店主岡本氏が懇望により同家の養子となり店務に從事中養家は閉店することゝなつたので三ヶ年間材木仲介業を營み居られたが、昭和十一年現地に獨立材木店を創設するに至り、爾來奮努各關係方面の信用を博し開業日尙ほ淺きに拘はらず、營業は順調に發展し其の將來は眞に洋々たるものがあり、取扱品の主なるものは折箱材料、秋田四分板等で取引銀行は昭和銀行である。

山中商店賣場

間　宮　庫　之　助

明治二十五年生
營業所　東京市下谷區西町八
電話下谷二六二二番

氏は神奈川縣の出身にして年少材木商を志して上京、氏が親戚に當る淺草區榮久町の材木店に入り刻苦勉勵、一般業務を習得したる後、大正五年多年の念願であつた獨立開店が現地に於て行はれ、爾來幾多の波瀾曲折を經て營業の擴張を圖りその堅實と敏腕は信用に拍車をかけ商内は年を逐ふて隆盛を極め現今下谷區内に於いて第一流の材木店と稱され、店主庫之助氏は餘生を社會公共事業に捧ぐべき決意し既に第一線を退き店務一切は十餘年間勤續の模範店員小川清一氏（三十歳）に一任し專ら公共的方面に活動を續けられ幾多の社會事業に貢献せらるゝ處大なるものがあり。現今町會相談役、在

鄉軍人分會顧問等に推されて銃後の御奉公に全力を傾盡されてゐる。

竹勝商店

須崎三郎

明治三十一年生
營業所 東京市下谷區西町一四
電話下谷九七三三番

氏は埼玉縣の出身にして、小學校卒業後材木商を志して上京、氏の伯父に當る須崎勝之助氏の經營せらるゝ竹勝材木店に入り刻苦勉勵伯父を擁けて營業の發展に努力し其の功績大なるものありしが、伯父の懇望に因り同家の養子となり昭和四年不幸養父勝之助氏が病魔におかされ逝去せらるゝや一切の業務を繼承、爾來多年經驗に基いて堅實な商内振りは業界各方面の賞讃する處となり、逐年商取引は隆盛に趣き今日の如き成功をかち得るに至つたのである。然して同商店は貳代目の老舗で主なる取扱品は一般銘木、取引銀行は、第百銀行である。

大黒屋材木店

麻生新太郎

大正十一年生
營業所 東京市下谷區西黒門町三一
電話下谷〇四三五番

氏は麻生喜三郎氏長男として大正十年現地に於て生れ、京橋商業學校卒業後家業を繼承すべく直ちに深川區平野町材木問屋岡莊本店に入り、今尙ほ熱心業務を修業中である。先代喜三郎氏は昭和六年業成り名遂げて五十歳を以て病の爲め惜くも逝去されたが、支配人大野榮三郎氏が一般の業務を繼承し其發展に不眠不休の活動を續け業績大いに擧がり氏の信用と敏腕は斯界一般が周知の事實で現に大野氏は本年四十五歳の働き盛りであるが、入店以來三十二ケ年の長きに亘り克く店主を輔佐し事業の擴張と發展に努められたる其功績は勳績模範店員として東京材木問屋組合よりの表彰の光榮に浴してゐるのが其實證を雄辯に物語つてゐる。

北野材木店

北野利右衛門

明治三十五年一月廿日生
營業所 東京市下谷區三輪町一一七
電話淺草七二七二番

氏は北海道旭川市外の出身にして、鄉里に於て高等小學校卒業後生家が材木商なりし關係上、嚴父の膝下に在りて家業を修業し、大正七年青雲の志を抱いて上京、某履物商店に入り一般業務を習得下谷區内に於て履物商店を開業し相當の業績を擧ぐるに至つたが、偶々關東大震災に遭遇し、帝都の復興は先づ建築にありとの觀念の下に材木商に轉向大正十二年十月現地に營業を開始し、爾來幾多の難關を突破し現在北海道苫小牧町に出張所及び製材工場を設け製材原木の二部に分ち多數從業員を嚴父北野市藏氏(六十四歳)が壯者を凌ぐ元氣で管導其の任に當られ現今帝都に於ける商板問屋として其取

扱數量の大なる同店の右に出ずるものなき盛況を呈してゐるしかして同店の取扱品は朴材各種及齒板で、取引銀行は、第百銀行である。

齋藤孝商店

齋藤孝

明治三十年生
營業所 東京市下谷區三ノ輪町一一四
電話淺草一六八六番

氏は德島縣勝浦郡小松島町齋藤宇吉氏長男として生れ、兵役を果して廿四歳の時材木商を志し上京、氏の遠緣に當る斯界の巨頭武市木材株式會社に入社を申込みたるに中年者の故を以て拒絶されたのが發奮の動機となつて僅少の資本金且つ何等の後援者將又た經驗もなき身を以て大正九年現地に材木店を獨力創立された業界稀に見る快男兒である。爾來氏は幾多の波瀾曲折に遇遇しながら克く是を突破し事業の發展に奮鬪努力せられし結果、建築業者間に絶大なる同情と信用を博し、營業は年を逐ふて發展し、本年二月より深川木場に進出し製材部を平野町に增設する等新進氣鋭の活動振りは業界各方面の重視の的となり氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。然して同店の主なる取扱品は建築材並に建具材等であるが氏は町會副會長に推されて銃後の御奉公に萬全を期されてゐる。

萬矢吹材木店

矢吹清吉

營業所 明治廿四年十二月生
東京市下谷區龍泉寺町一四
電話根岸一三九五番呼

氏は福島縣石城郡高久村矢吹家長男として明治二十四年十二月生れ、生家は農を營みありしも氏は製材業者として中央進出を志し大正十三年上京製材業に從事昭和九年獨力材木店を經營、爾來不眠不休の活動は着々事業發展し昭和十五年二月現地に移轉事業の擴張を企圖し今や建具並に家具用材を主として取扱ひ斯界稀に見る盛況を呈し業界各方面から絶大の信用を博し其前途に多大の期待がかけられてゐる。因に氏は小學校卒業後鄉里に於て山林業と製材業に從事し材木界に活躍すること實に三十餘年の長き體驗を有し業界稀に見る事業家である。而して氏は現今町會役員に推され衆望を荷負ひ時局下活動を續けられてゐる。

栃木屋材木店

中田盛一

營業所 出明治四十年十月十日生
東京市下谷區龍泉寺町五三

氏は栃木縣安蘇郡葛生町中田龜吉氏の次男にして生家は代々農業に從事せるも氏は其目的を商業に志し十四歳の年少にも拘はらず親戚に當る下谷區新坂本町の丸山材木店に入り刻苦勉勵、主家の發展に全力を傾盡し功績大なるものあり爲めに東京材木商同業組合より模範店員として表彰せらる。斯くして氏は永年に亘り主家並に一般取引先より多大の信用を博

し惜まれながら退店し、昭和十年現地に於て獨力營業を開始するに至つたのである。日尚淺きに拘はらず氏の堅實主義と其の誠實は各方面の認むる處となり、業績年を逐ふて發展し其基礎もいよ〳〵強化されるに至つたので氏の前途は眞に洋々たるものがある。然して同店の取扱品目の主なるものは羽柄材一般である。

中林工場

中林雅樂治

明治卅一年生
營業所　東京市下谷區龍泉寺町五四
電話根岸一三九五番

氏は山梨縣南都留郡新山村の出身にして生家は代々農を業としあるも氏は夙に製材業者として中央進出を志し上京、幾多波瀾曲折を經て昭和四年下谷區入谷町に獨力開業不眠不休の活動は各取引先の信用を博し事業の發展に連れ同十一年現地に移轉堂々たる大工場を設立するに至つたが、今や同工場設置の製材機械の優秀なるのは實に東洋一と稱され其精巧なる點は業界一般が周知の事實で現に日本ビクター蓄音機會社を始め一流の會社や大工場より絶大なる信用を博し昇天の勢を以て事業の發展を見てゐるが、不幸にも工場主中林氏は二年前より病魔におかされ目下郷里に於て專念療養中で一般の業務は氏が甥に當る佐藤滿壽雄氏が管掌、年壯氣鋭の身を以て大勢の店員を善導益々業務の擴張に努力して居るのは業界各方面の賞讃さる處である。

松朝材木店

中尾朝太郎

明治三十四年六月廿七日生
營業所　東京市下谷區龍泉寺町六一
電話淺草九四五六番

氏は東京市淺草區南松山町中尾家の長男として明治三十四年六月生れ幼にして材木商を志し、十四歳より三十一歳迄淺草區厩橋松銀商店に於て一般業務を習得し、其の間主家思ひの氏は事業の擴張を得意先の獲得に專念努力し取引先より絶大なる信用を博し其取引高は年を逐ふて激増し其功績大なるものあり、現に在勤中東京材木商同業組合より優良模範の勤續店員として表彰の光榮に浴すること實に二回、如何に氏の實直にして勤勉なりしかを如實に物語らしめる。然して氏が多年の希望もあつて獨立は昭和六年現地に於て實現され著々其の實績を擧げ其堅實と敏腕は遂に今日の大を爲すに至つた因に同店の主なる取扱品は羽柄材一般である。

恩田商店

恩田惣助

明治三十四年生
營業所　東京市下谷區龍泉寺町六五
電話淺草三四五九番

恩田氏は埼玉の出身にして、生家は農業を經營せられてゐるが、氏は幼時より商業によつて立身を志し十一歳の年少を以て當時深川區常盤町に於て遠縁に當る恩田商店が手廣く材

木業を營まれあるのを頼つて上京、同店に於て刻苦勉勵永年に亘り主家を援けて事業の發展に努むると共に一般業務を修業し大正二年淺草區内に於て桐材商を開業漸次發展の路を辿りつゝあつたが。時代の進展に連れ桐材より雜木、ラワン商に轉向し一層業務の擴張を圖り十年前現地に移轉し取引先の信用の加ふるに連れ事業はいよ〳〵隆盛に向ひ現在牢固たる地盤を獲得し其前途に多大の期待がかけられてゐる。然して氏の取引銀行は、第百銀行である。

五　清水材木店

清水健藏

明治四十年生
營業所　東京市下谷區龍泉寺町一六九
電話淺草三二四四番

氏は山形縣東置賜郡宮内町の出身にして生家が材木商なる關係上、十三歳の時上京、伯父に當る清水吉助氏が經營せる清水材木店に入り刻苦勉勵、熱心なる働き振りが認められて清水氏の懇望に依り同家の養子となり、店務一切を管掌することゝなつた。而して養父吉助氏は昭和六年業成り名遂げて第一線より退き專ら老後を社會公共事業に盡され現に東京市方面委員、東京市救護委員、町會相談役、山形縣會顧問等に推されて時局下活躍を續けられてゐる。當主は資性溫厚篤實各取引先の信用も厚く斯界稀に見る人格者にして敏腕の聲高き人なるに依り將來の發展期して俟つべきものがある。然して同店の主なる取扱品は一般建築材料にして取引銀行は、第一銀行である。

六　湊屋材木店

堀江正則

明治四十一年五月五日生
營業所　東京市下谷區龍泉寺町三五二
電話淺草三六三五番呼

堀江氏は東京市濱谷區中通一丁目堀江家の長男にして生家は金物商なるも氏は材木商の有利なる點に着眼し、十四歳の時下谷區入谷町富田屋本店に入り勤勉なる働き振りと其の敏腕は主家の信頼益々加はり一方各取引先の信用も厚く營業は年を逐ふて發展し其の功績甚大なるものがあつた、斯くして一般業務を習得し、昭和五年現地に獨立開店し多年の體驗に基づき堅實主義をモットーに不眠不休の努力は益々取引先の信用を得遂に今日の如き牢固たる基礎を築き上げ、現に豐島區池袋四丁目に賣場を設立し氏が實弟主任となり活躍盛況を極めてゐる。然して同店の主なる取扱品は家具材並に建具材で取引銀行は、日本興業銀行である。

中野材木店

中野良康

明治十二年三月生
營業所　東京市下谷區上車坂町五五
電話根岸三七八四番

氏は茨城縣水戸市在中野家の次男にして生家が材木商なる爲め小學校卒業後家庭に在り嚴父の膝下で一般業務を修業し

廿六歳の時中央進出を目指し深川の木場に於て永年材木問屋業を經營し氏の敏腕を公正無私なる商取引振りは各關係方面の賞讃を博し營業益々隆盛を辿りつゝありしが、偶々關東大震災に遭遇し大に感ずる處あり、是を契期に問屋業をやめ現地に沖縄業を開始するに至つたが、多年の修練は益々各方面の信用加はり、現在下谷區内に於ける建築材料を取扱ふ材木店として第一位の繁盛を極め業界に重きをなしてゐる。因に氏の取引銀行は、第百及び安田銀行である。

高橋ベニヤ商會

高橋莊右衛門

明治三十三年四月二日生
營業所　東京市下谷區入谷町四三
電話根岸一三九二番

氏は福井縣今立郡岡本村出身にして、生家は代々農を業とせるも氏は岡本高等小學校卒業後、郷里に於て羽二重・生糸商として活躍、業績大いに擧りしも機を見るに敏なる氏は時代の進歩に伴ひベニヤ板業の將來有望なる點に着眼し、昭和十年中央進出を目指して上京、現地に高橋ベニヤ商會を創設し爾來不眠不休幾多の難關を突破業界各方面の信用を獲得、開業幾年ならずして今日の大成功を見るに至つたのも要するに氏が人格高潔にして商取引の堅實さは氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。因に氏の取引銀行は昭和銀行である。

〈サ〉齋藤材木店

齋藤貞好

明治四十二年十一月三日生
營業所　東京市下谷區入谷町二一五
電話根岸三二一四番

氏は新潟縣中頸城郡金谷村齋藤家の次男にして生家の農業を欲せず、金谷高等小學校卒業後十六歳の時材木商を志して上京、淺草の前田木店に入り刻苦勉勵十二ケ年餘の長きに亘る間實直に主家大事に働き多大の功績を擧げられたので昭和十年一月廿二日同業組合より模範店員として表彰、記念品と共に感狀の贈呈の光榮に浴したのである。斯くして氏は昭和十一年十月一日現地に獨立營業を開始し爾來多年の體驗に基づき敏腕を揮ひ業界各方面より絶大なる信用を博し確固不動の基礎を築き上ぐるに至つた。然して同店の主なる營業種目はラワン材及和洋家具材料にして、取引銀行は、昭和銀行である。

北三商會

尾山金松

明治二十六年生
營業所　東京市下谷區入谷町二一五
電話根岸三二一四番

氏は宮城縣仙臺市出身にして、生家は履物商として現在中央線萩窪に於て盛大に營業し居られ、氏も小學校卒業後家庭に在りて嚴父の膝下に於て斯業に從事せるも、關東大震災後帝都の復興上材木商の最も有望なる點に着眼し現地に北三商會を創立萬難を排して奮戰力闘、商況年を逐ふて隆盛に趣き

入谷町三九二番地に製板工場を新設し目下大勢の店員を指導し事業の發展に邁進されてゐる。而して同店の取扱品は内外銘木、突板等にして取引銀行は、安田、昭和、第二銀行である。

賤機商店

賤機友吉

明治三十六年生
營業所　東京市下谷區入谷町二五二
電話根岸二五七一番

氏は靜岡市の出身にして小學校卒業後大望を抱いて十六歳にして上京、實兄清太郎氏經營の荒川區日暮里町三丁目賤機突板工場に入り斯業を修業された、尚ほ實兄清太郎氏は大正五年上京、斯業に從事し遂に關東地方に於ける突板製造業の創始者として名を擧げた、氏はその後を繼いで内外銘木、その他突板を販賣し市内一般家具製造業者を始めラヂオ箱製造業者等を顧客として居る。現在店員五名を使用し家業は殷盛を極めて居る。因みに氏の取引銀行は、昭和銀行である。

富田屋本店

木村榮一

明治三十二年生
營業所　東京市下谷區入谷町二九〇
電話根岸二六九七番

氏は愛知縣名古屋市中區日之出町木村鎌次郎氏の次男にして愛知一中卒業後建築學を研究せられたるが將來材木業の有望なる點に着眼し二十七歳の時上京、氏の親戚に當る後藤覺司氏の經營せられる現地の富田屋本店に入り一般業務を修業中、後藤氏は氏の手腕技倆を認め、娶はすに令嬢を以て、昭和八年後藤氏は業成り名遂げ第一線を退がれ業務一切を當主當主木村氏が繼承せられ爾來益々營業の發展に努力業界各方面より多大の信用を博し遂に今日の大を爲すに至つたのである。然して同店は淺草區千束町一丁目に支店を設けありしも昭和六年義兄に譲渡され又た淀野川區田端新町一丁目に賣場を設けありたるも是亦同店出身の早川林氏に譲渡された。因に同店の主なる取扱品は建築材、建具材、家具材等で取引銀行は、第百銀行淺草支店である

深澤商店

深澤四郎

明治四十年三月生
營業所　東東市下谷區入谷町三四九

氏は群馬縣勢多郡黒保根村深澤家の四男にして、生家は代々農を業とせるも、氏は商業を以て立身すべく二十三歳の時上京、本所區江東橋一丁目辻島支店に入り材木商としての一般業務を習得し、主家の信頼厚く、殊に氏の堅實なる商内振りは建築業者間に賞讃され玆に獨立開業の準備整ひ昭和十三年五月八日現地に建築材專門店を創立し爾來、氏の熱誠と其の敏腕は取引先の信用に拍車をかけ、開店幾何ならざる今日斯界の多數先輩の間に伍し何等衰る處なく確固不動の地盤をかち得るに至つたのは要するに堅實主義に依る商内が原因で

其の前途に多大の期待がかけられてゐる。因に氏の取引銀行は、安田銀行千束町支店である。

京福材木店

小澤福治郎

明治十五年生
營業所　東京市下谷區入谷町三七〇

氏は埼玉縣北足立郡八塚村小澤家四男に生れ、小學校卒業後十四歳の時上京して、實兄が染物商であつた關係上、氏も亦た染物業に從事し實兄を援けし營業の擴張に努めたのである。斯くして氏等兄弟は京福の稱號のもとに絹地代用張並に戰闘張等の染物業者として日本全國に多數の得意を有し營業盛なりしこと彼の關東大震災を契期に材木商に轉向帝都の復興に不眠不休の努力を傾盡し以來建築業者間に大なる信用を博し年を逐ふて營業は發展の一路を辿り遂に今日の如き堅實なる基礎を築き擧ぐるに至つたのである。而して氏が取扱ふ主なる品種は一般建築材である。

森材木店

森乙松

明治二十七年生
營業所　東京市下谷區入谷町三六九
電話根岸二八八七番

氏は福井縣足柄郡下宇板村森利右衛門氏の三男にして、生家は代々（農業）山林業なりしも關係上、將來材木商の有望なる點に着眼し二十九歳の時上京、淺草の河合商店に入り七ケ年間一般業務を修め主家の信頼厚かりしも獨立開店の機運熟したる爲昭和七年退店現地に家具材並に建具材專門の材木店を創立し、爾來堅實主義をモットーに事業の擴張を圖り建築界各方面より多大の信用を博し營業は年を逐ふて發展し昭和十二年八月荒川區三河島町一ノ二六五八番地に賣場を新設するが如き盛況を呈してゐる。因に同店の取引銀行は、昭和銀行である。

松崎材木店

松崎鎌之助

明治二年生
營業所　東京市下谷區金杉上町七二
電話根岸〇一七四番

松崎氏は東京市杉並區荻窪の出身にして、生家は農を以て業となし居るも氏は、材木商を志し明治三十年現地に松崎材木店を創設し、爾來奮勵努力幾多の波瀾曲折を經遂に今日の成功をかち得、現地では業成り名遂げ第一線を退き業務一切を養子博氏が管掌され益々業務の發展に努力中である。養子博氏は舊姓根本と稱し松崎家に修業中その技倆と實直な勤務振りが認められ店主の懇望によつて二十七歳の時養子となつた勤勉家である。然るに博氏は昭和十二年七月日支事變勃發と同時にお召に應じ爾來各地に轉戰赫々たる武勲を樹て昭和十四年十一月歸還された名譽ある陸軍工兵曹長である。而して同商店の主なる取扱品は一般建築材にして取引銀行は、安田銀行である。

今關商店

今關龜治

明治十七年十月生
營業所　東京市下谷區金杉上町一〇七
電話根岸二八二九番

氏は栃木縣那須郡龍玉村今關家の五男にして、生家は農を業とせるも、氏は宇都宮師範學校卒業後、鄕里龍玉小學校に教鞭を執られたるも將來實業家となつて國家に貢獻せんと堅き決意の下に大正十一年上京、現地に今關商店を創設、幾多の難關を突破し事業の擴張に努め氏の人格高潔と其の堅實な商内振りに取引先の信用いよ〳〵加はり年を逐ふて營業は發展し現今荒川區三河島町に草履裏板製造工場を設置し多數の店員が活動を續けつゝあるも需要商は間に合はざる盛況を呈してゐる。然して氏は日露戰役の效に依り勳八等を賜りたる名譽ある在鄕軍人で現に町會役員並に草履裏板工業組合長として公共的事業に貢獻され、尙氏の長男芳男氏は中央大學商科卒業後實業に從事中、中支事變に應召昭和十三年八月出征目下各地に轉戰赫々たる武勲を樹てられてゐる。

玉屋材木店

山田昌藏

明治二十四年八月生
營業所　東京市下谷區下根岸六一

氏は岐阜縣加茂郡八百津町小田家長男として生れ、生家は雜貨商なるも氏は攻玉社土木科に入り學成りて後一流會社の土木部主任或は部長の要職に就き、社運の發展に貢獻し秋田木材株式會社能代工場長を最後に土木業界を退きしが、偶々關東大震災に直面し帝都の復興は先づ建築よりの觀念から材木商の責任重大なるを痛感し大正十三年堅き決意の下に下谷區金杉上町に獨力材木店を創立し鋭意復興用材木の供給に獻身的努力をなし建築業者間に多大の信用を博し商況隆盛を呈するに至り昭和十四年現地に店舗を新築事業の擴張を圖る等其業績實に見るべきものあり、要するに氏が誠實と取引の堅實が斯くあらしめたので、其の前途眞に洋々たるものがあり取扱品の主なるものは雜木、ラワン等で、取引銀行は、昭和銀行である。

竹町一二　電話下谷五〇一四番　中村彌惣七
同　一二　田中秋一
同　一六　田中清之助
豐住町三三　守屋政吉
下車坂町八　電話根岸三六七八番　藏野彌八
上野南大門町七　電話下谷八〇五〇番　久保喜三郎

龍泉寺町七
南稲荷町七二
上根岸一一一
入谷町二一一
同　三八二
同　三八六
同　二六二
同　一三五

檜山武

並木孝精
電話根岸〇六一七番

成田萬治
電話根岸一〇〇九番

池住拾六

林國雄

峯岸新太郎

菅波孫右衛門

椎野春雄

淺草區

㊐ 前田商店

前田安彦

明治十三年生
營業所　東京市淺草區永住町一一七
電話淺草四七四三番

氏は新潟縣の出身にして、中頸城郡春日村前田家の次男として生れ、當年六十一歳、年少の頃志を抱いて上京、神田區佐久間町酒井材木店に入り斯業を修得され、明治三十九年獨立して前田商店を創業、爾來氏の敏腕は縱横に發揮され業績大いに上り現在店員三名を使用する殷盛振りで主として北海道材、南洋材を主として取扱れて居る。氏は同業者間の信望厚く東京材木商同業組合支部長を始め同組合理事、南洋材製材工業組合理事、東京材木商親交會々長等を兼任される外、社會公共事業方面にも活動され現在町會副會長を努められ、また以來には東京市方面委員副委員長を努められて居た。因みに氏の取引銀行は安田、第一、第百の諸銀行である。

㊐ 合名會社 日野隆司商店

日野隆司

明治卅二年八月二日生
營業所　東京市淺草區永住町一〇五
電話淺草四二六五番

氏は兵庫縣神崎郡福崎町の出身、幼少の頃日野惠司氏の養

子として入籍、氏は夙に志を抱いて北海道旭川市の松岡木材株式會社に入り永年に亘り斯業を修練され、大正三年東京營業所が設置され同十三年營業所主任として赴任し着々業績を擧げ北海道材の販路擴張に努め業界の主要地位を獲得、昭和十三年には組織を合名會社に改め日野隆司商店として獨立し今日に至つた。現在得意先は主として同業者方面で直轄販賣所を三河島、厩橋、中野、芝の四ケ所に設け、販路は全市一圓に亘り業績は益々向上の一途にあり、その前途は大いに期待されて居る。尙ほ昭和十三年組織變更と共に田島町にベニヤ板製造工場を設置し大いに業績を擧げて居る。取引銀行は第百、昭和、第一、日本興業、十五の各銀行である。

內田商店

內田榮吉

明治十二年生
營業所　東京市淺草區北松山町二二
電話淺草三五〇六番

氏は淺草區北松山町二十二番地石材商內田家の長男として生れ、同地にあつた荻野石材店に於て石材業を修得されたが後建築請負業を經營した、大正十二年關東大震災を契期に請負業をやめ材木商に轉向、今日に至つたものである。氏の長男榮太郎氏は大震災のため藏前高等工業學校を中途退學し、その後嚴父を輔佐して業績の向上に努められ遂に今日の大を成したのである。取扱品目は建築用材、鐵道用材等で、得意先は一流諸會社を主としその他請負業者方面に多數の顧客を持つて居る。尙ほ地下鐵建設當時、大倉組を經由し大量の材木を納入したことは有名である。因みに氏の取引銀行は、第一銀行である。

鈴秀商店

鈴木秀雄

明治三十三年十月十日生
營業所　東京市淺草區千束町一ノ一七七
電話根岸一〇一二番

氏は靜岡縣の出身、明治三十三年に生れ當年四十一歳、家業は農を主として居たが十六歳の春、志を抱いて上京、深川京木場及び本所京內一流材木店に入り材木問屋業を修練された、昭和二年愈々現在の地に鈴秀商店を創業、秋田四分板、ベニヤ板、杉四分丸味附、簾筒材、椹等を販賣し業績を擧げ從來店員六名を使用すると云ふ盛況振りである。氏は業界稀に見る努力家にしてその前途は各方面から大いに期待されて居る。因みに氏の取引銀行は、昭和銀行である。

山 小山商店

小山兼雄

明治十六年十一月生
營業所　東京市淺草區北松山町七三
電話淺草一五二一番

小山商店は氏をもつて四代目の店主とする老舗である。氏は明治四十二年先代小山孝右衛門氏の養嗣子として入籍し明治四十四年獨立された、氏は資性溫厚篤實にして仁俠義氣の

精神に富み公共事業に献身的努力をはらはれ多忙なる家業を省みず、六百有餘名の組合員を要する東京材木商同業組合長として斯界のため貢献される處極めて多く氏の人徳はよく組合員間の信望厚く、組合發展に寄與する處多大のものがある現在店員二名を使用し業務は益々殷盛あ加へ、支店を牛込區西五軒町三四番地に置き、本、支店相俟つて將來の發展が期待されて居る。因みに支店電話は牛込五八五三番で取引銀行は、住友銀行淺草支店である。

合資會社 河合材木店

代表社員 河合福十

明治十七年十二月三日生
營業所 東京市淺草區淺草橋一ノ三
電話淺草六三〇四番

氏は神奈川縣足柄上郡吉田島村の出身にして、幼少平田福平と稱され二十六歳にして河合家の養子として入籍された、明治四十一年東京コークス會社に入り十七年間勤務され、大正十二年特殊金屬鍍金業を創業されたが、不幸關東大震災に見舞れ挫折されたが氏は直ちに帝都復興と材木業に着眼し現在の地に河合材木店を創業され今日に及んだ、主として北海道雜木材、並に掬材を取扱つて居る。昭和九年合資會社に改組、(資本金十九萬圓)目下氏は北海道旭川にある同店出張所に於て原產地の買出に當り、本店は長男一男氏が業務一切を管掌されて居る。因みに氏の取引銀行は第百銀行淺草支店、安田銀行馬喰町支店である。

大阪屋商店

弓創寅吉

明治十二年生
營業所 東京市淺草區雷門二ノ一〇
電話淺草四七三番

氏は埼玉縣北足立郡大和村材木商埼田市五郎氏の次男として生れ明治三十四年上京し、弓創家の懇望により同家の養子として入籍した、養家は代々薪炭商を營んで居たが、大正十二年關東大震災を契期として材木商を創業、今日に至つた。營業種目は材木一般、羽柄材を取扱ひ店員四名を使用し、得意先は建築業及居職方面である。尙ほ氏は業界稀に見る人格者で就中店員の指導に努力され、次の如き指導方針を一日の憲法と題して店頭に掲げて居る。

一、今日一日は凡ての恩を忘れぬこと
一、今日一日嘘を云はぬこと
一、今日一日は腹をたてぬこと。

因みに氏の取引銀行は、第百銀行淺草支店である。

松幾商店

荒幾次郎

明治四十三年生
營業所 東京市淺草區金龍山瓦町六
電話淺草二九四番

氏は荒幾太郎氏の長男として明治四十三年、現在の地に生れ、府立七中卒業後家業に携り、昭和三年嚴父逝去されるや

家督を相續し家業一切を繼承、今日に及んで居る。尙ほ松幾商店は慶應二年創業になる老舗にして氏をもつて四代の店主とし業務は益々隆盛を辿つて居る。現在店員七名を使用し建築材、建具材を主として取扱ひ、得意先として諸會社、工場一流建建築業者多數名を獲得し就中島井組、加納組を始め大日本ビール會社等への納材は極めて廣範圍に亘つて居る。尙ほ最近では栃木縣護國神社の改築に當つて大量納入し繁昌を呈して居る。因みに氏の取引銀行は、第百銀行淺草支店である。

加藤材木店

加藤傳四郎

明治十八年二月十三日生
營業所 東京市淺草區日本堤一ノ四ノ三
電話淺草一〇〇二番

氏は先代加藤傳四郎氏の次男として現地に生れ、當年五十六歳、大正二年三月嚴父傳四郎氏病歿されるや幼名傳吉を改名、傳四郎を襲名家督を相續し業務一切を繼續し今日に至つた。尙ほ氏の長男傳藏氏は立教大學を卒業後家業に從事されて居る。現在從業員三名を使用、業績益々向上の一途を辿つて居る。また氏は社會公共事業に盡瘁され東京材木商同業組合副組合長の要職にある外、區會議員、學務委員、東京市方面委員、東京司法保護委員、町會長、警防團副團長等幾多の要務に寢食を忘れ活躍されて居る德望家である。因みに氏の取引銀行は、昭和、第一の各淺草支店である。

關根材木店本店

關根兵内

明治二十一年九月二日生
營業所 東京市淺草區四町一ノ八二
電話根岸二二五番

氏は茨城縣人、猿島郡靜村農業關根家の次男として生れ、當年五十三歳、氏は學校卒業後十五歳の春上京し、淺草區金瓦町伊勢由商店に入り斯業に精勵され廿一歳まで六年間主家のため盡瘁され明治四十二年關根材木店を創業、爾來の氏の敏腕は十二分に發揚され業績大いに擧り、昭和六年三月向島區寺島町四丁目に支店を開設した、現在從業員八名を使用し商勢愈々殷盛を加えつゝあり、その將來は斯界各方面から期待されて居る。尙ほ氏は公共事業に活躍され、現在は淺草區田町々會長に推され近隣の信望を蒐めて居る。因みに氏の取引銀行は、第百銀行吾妻橋支店である。

丸富商店

後藤閑水

明治三十四年八月廿五日生
營業所 東京市淺草區千束町一ノ一二六
電話根岸二二五七番

氏は愛知縣海部郡富田村の出身にして、農後藤家の五男として生れた、また氏の實兄壘司氏は從前より下谷區入谷町に富田屋材木業を經營して居られた、氏は學校卒業後上京、實兄の業務を輔佐し同店の淺草支店に勤務し斯業の修練を積み

昭和六年、愈々現地に獨立、丸富商店を創業爾來、幾多の艱難試練を克服して、開業以來十年にしてよく業礎を固め、同方面の一流材木店の地位を獲得して居る。また氏は昭和十四年五月事業の擴充を期して大森區大森八丁目京濱國道筋に賣場を開設された、現在從業員五名、內外木材、建具材專門に取扱つて居る。因みに氏の取引銀行は、安田銀行千束支店である。

福世製材所

福世與作

明治三十四年一月生
營業所 東京市淺草區清川町三ノ一四
電話淺草一一八七番呼

氏は靜岡縣の出身にして、榛原郡吉田村農福世家の三男に生れた、大正十四年志を抱いて上京、淺草區清川町田中製材所に入り斯業に精勵、累進して同工場主任に推されて九ケ年の間、主家の大黑柱として活躍されたが、昭和九年主家を離れて現在の地に福世製材所を創立、今日に至つた。現在從業員五名を使用し、樑、棒材、賃挽、販賣を主として同方面に於ける有名店である。氏は當年四十歲の働き盛りにして今後の活躍こそ大いに期待すべきものがある。尙ほ氏は現在在郷軍人會淺草第八分會第三班長を務められ後進の指導に當つて居る。

松吉本店

荒吉五郎

營業所 明治十七年生
東京市淺草區猿門一ノ九
電話淺草六九〇二、六九〇三番

氏は創業以來二百年に及ぶ松吉材木店四代目店主吉五郎氏の長男として生れた。幼名を武太郎と稱し今より二十七年前父業を繼承されたのである。昭和十二年嚴父は病により永眠せられたので吉五郎を襲名された、現在氏は業界第一線より隱退され業務一切は長男吉嗣氏が管掌されて居る。吉嗣氏は當年三十二歲の壯者にして從業員二名を使用し、內外材木一般を取扱ひ得意先は市內一般建築業者である。因みに當松吉商店は淺草區內に於ける最古參であり業界屈指の老舗であるしかして取引銀行は、安田銀行である。

藤屋本店

須原宇之松

慶應三年一月生
營業所 東京市淺草區日本堤一ノ二
電話淺草七六七番

氏は茨城縣新治郡の出身である。當藤屋材木店は先代須原鐵五郎氏創業にかゝる老舗にして、鐵五郎氏病歿後、氏は同家の嘱望により養子として入轉し、その老大なる事業一切を繼承され今日に至つたのである。氏は當年七十七歲の高齡であるが、尙ほ鞏鑠として業務を統率されて居るが氏の長男喜治氏(明治三十四年生)はよく嚴父を輔佐し、極めて豐富なる學識を傾け合理的經營方針の下に業務の隆盛を圖り商勢は逐次昇進の一途を辿り現在店員五名を使用する殷盛振りである

尙ほ同店に精勤の店員は何れも藤屋號を以て市內に獨立し支店として向島、四ツ木、西新井、中野の主要地にあつて大いに業績を擧げつゝある。

大野材木店

大野鎌太郎

明治二十六年生
營業所 東京市淺草區千束町一ノ三三
電話根岸一九〇一番

氏の出生地は愛知縣西春日井郡豐山村であるが、幼少の頃一家をあげて上京、嚴父は現在の地に材木商を開業された氏は小學校卒業後、嚴父を輔佐して家業に努められ、大正五年業務一切を繼承し主として今日に至る。現在從業員三名、建築材を取扱ひ仕入先は深川木場市場並に本所方面である。尙ほ氏は社會事業に貢獻される處、鈔寸町會創設を始め幾多の事業に盡瘁せられ現在も引續き町會役員として近隣の信望を蒐めて居る。また氏の長男晴里氏は當年廿三歲、府立三商を經て帝大商科に學び秀才の、氏の將來は大いに囑望されて居る。しかして氏の取引銀行は、安田銀行である。

越前屋材木店

星野しげ

明治三十七年生
營業所 東京市淺草區小島町二ノ一三
電話淺草六〇八四番

氏は星野時二氏の未亡人である。當店は亡夫時二氏の創業にかゝるもので亡夫年少の頃淺草區內にあつた越前屋材木店に於て修業を積まれ現在の地に越前屋材木店を開業したが、昭和十二年不幸病を得て倒れ遂に三十一歲をもつて早逝された、よつてしげ氏は夫なき後業務一切を繼承し、從業員二名を使用、盛大に業務を繼續されて居る。營業種目は居職材並に製箱材を主とし仕入先は深川木場市場であり、得意先は市內製箱業者及び居職方面である。因みに取引銀行は、安田銀行である。

横田屋材木店

吉川俊雄

明治二十八年生
營業所 東京市淺草區鳥越町一ノ八
電話淺草三六三二番

氏は茨城縣の出身、石岡町荒物商吉川家の次男として生れ家業に盡瘁されて居たが、東京に於て材木商經營を志し大正十二年に上京、現在の地に横田屋材木店を創業、開業間近に大震災に遭遇、帝都復興のため大いに盡力、業績を擧げ、今日の大を成す基礎を築いた、現在店員四名を使用し、內外建築を販賣、仕入先は深川木場市場及び本所方面である。また得意先は市內廣範圍に亘り多數の建築業者を確保して居る。尙ほ氏は公共事業に盡力され現在警防團役員として後進の指導に努力されて居る。しかして氏の取引銀行は、昭和銀行である。

吉村材木本店

吉村作治

明治二十九年十一月五日生
營業所　東京市淺草區北清島町八一
電話根岸四二二四番

氏は福井縣の人、小學校四年終了後、上京、大正十年吉村材木店を創業、爾來幾多の艱難辛苦と鬪ひ乍らも氏の明晰なる頭腦は有ゆる隣害を克服し、逐次業績を擧げ昭和十五年一月賣場を淺草光月町、下谷區新坂本町、淀橋區上落合町、芝區愛宕町、麻布區新廣尾町、向島區吾嬬町、蒲田區糀谷町、荒川區尾久町に二ケ所、都合九ケ所の賣場を新設この外向島吾嬬町に挽材部を設置、市内材木チエンストアとして有名である。氏はまた文筆に優れ氏の三十年間の經驗に基き小賣商の行くべき途を述べた皇道賣本主義なる著書を發行された事は斯界周知の處である。現在本店從業員十名を使用し材木一般を販賣、氏は當年四十五歳將來は大いに期待されて居る。

大芳材木店

松崎芳三郎

明治二十一年生
營業所　東京市淺草區鳥越町一ノ三七
電話淺草六四四九番

氏は茨城縣の人、幼名吉田伊精と稱し十七歳の春上京し、大芳材木店に入り斯業を修業、主家のため盡力される內、店主に懇望されて當家の養子として入籍、昭和二年養父六十四歳をもつて病歿されたるをもつて家督を相續すると共に業務一切を繼承し芳三郎名を襲名された、現在店員二名を使用して居職材一式を取扱ひ仕入先は深川木場市場を主とし得意先は市內居職方面に多數の顧客を有して居る。しかして氏の取引銀行は、住友銀行である。

海清商店

海老原清次

明治二十二年十月生
營業所　東京市淺草區小島町二ノ三三
電話淺草三三八一番

氏は千葉縣船橋市の漁業海老原家の五男として生れたが、明治三十四年九月十二歳にして上京、元淺草にあつた海保商店に入り斯業を修練された、大正十二年主家は業成り名遂げて廢業されたので氏はその後を讓り受け海清商店を創業され建築用材を取扱ひ今日に及んだのである。現在從業員二名を使用し木材仕入先は深川木場市場を主とし得意先は市內一般建築業者多數を獲保しあり年收六萬圓に上ると稱されて居る盛業振りである。しかして氏の取引銀行は第百銀行である。

東屋桐材店

秋山菊太郎

明治九年生
營業所　東京市淺草區駒形町一ノ六
電話淺草二五四四番

氏は石川縣の出身、明治九年の生れにして當年六十五歳、

明治二十三年十五歳にして上京し、當時の東屋桐材店に入り桐材商としての修業を積まれたのであるが、氏の熱心は店主の認める處となり十九歳の時、養子として入籍した、廿六歳の時分家して現在の地に東屋桐材店を獨立經營することゝなり、爾來氏の手腕は縱橫に發揮せられ遂に今日の大を成すに至つたのである。現在從業員三名を使用して居る。氏は斯業のため幾多貢献される處あり昨年迄は同業組合副組合長として要務にあり現在は東京桐材問屋組合相談役として活躍されて居る外、町會役員を務められて居る。

越村商店

越村太三郎

明治十二年生
營業所　東京市淺草區小島町一ノ一九
電話淺草五八八三番

氏は石川縣金澤市の出身にして、建築請負業家に生れた、二十二歳の時上京、父業の建築業を經營されたが、材木業の將來有望なるを看破し大正十一年材木商に轉業今日に至つたのである。現在從業員三名を使用し、深川木場市場より內外羽柄材を仕入れ販賣して居る。尙ほ氏の長男太郎氏は當年三十三歳にして專修大學卒業後家業に從事し嚴父を輔佐し家運の興隆に邁進されて居る。店主太三郎氏は公共事業に從事され町會長として十二年間務められ、現在は町會顧問として町會自治に活躍されて居る。しかして氏の取引銀行は、第百銀行である。

鈴木商店

鈴木眞一郎

明治二十二年生
營業所　東京市淺草區千束町一ノ一〇五
電話根岸四二四六番

氏の嚴父は現在の地に於て建築請負業を經營されて居たが氏は材木業を志し種々研究を積まれた、偶々大正十二年大震災起るや愈々材木業を創業することゝなり、現地に鈴木材木店を開業された、爾來業績大いに上り、現在從業員二名を使用し建築材、建具材等を取扱つて居る。然るに不幸氏は二年前より病床に呻吟しつゝあるので業務一切を長男嶺太郎氏に委ねて居る。尙ほ嶺太郎氏は當年二十三歳、關東商業卒業後直ちに家業に從事され父に代りよく業務の進展に邁進されて居るのである。因みに取引銀行は、安田銀行である。

製箱材
大村賣場
門田朝吉
明治二十一年生
營業所　東京市淺草町向柳原二ノ一
電話淺草六七三八番
從業員五名
取引銀行安田銀行

浅草橋三ノ五　電話浅草一七五〇、四六九七番　瀧山商店
蔵前一ノ九　電話浅草四六〇六番　荒長次郎
同　一ノ一三　電話浅草四〇八七番　鈴木市太郎
同　一ノ一一　電話浅草六一六八番　村田市太郎
同　一ノ一一　同　一ノ三七
蔵前南坂町七　向柳原一ノ五
駒形一ノ四　同　一ノ二
榮久町五七　同　一ノ二
同　二三　雷門一ノ一二
同　二八　同　一ノ一〇
菊屋橋二ノ一　花川戸一ノ一五
同　二ノ二　馬道三ノ一二
同　二ノ八　同　三ノ八
永住町二八　寿町三ノ三
同　一〇　松葉町七八
鳥越二ノ一七　同　七二
同　二ノ二一　北清島町一〇八
神吉町四一

電話浅草八五二二番　村田武三
電話浅草二五〇三番　松本定七
電話浅草六九〇八番　神谷銀次郎
電話浅草〇七三六番　佐久間大吉
大村吟平
清水留吉
澤田しん
北島正夫
電話浅草四七一三番　小野間孫太郎
福山安太郎
電話浅草六八一四番　花井かつ
野井治助
松本勝久
森本勝

電話浅草五六三二番　松本源次郎
電話浅草四九四七番呼　北島丑五郎
久保田敏雄
電話浅草三三七二番　波多野實
橋本文夫
電話浅草五六四九番　高山銀次郎
竹之内康懿
加藤仁平
弓座龜吉
電話浅草六四二二番　荒川清三郎
電話浅草四八七五番　立田作之助
電話浅草一七四四番　栗原龜太郎
電話浅草三九八七番　村山啓二
電話浅草一五一六番　前田重一郎
石井あき
電話根岸四三七八番　村田浩三
長谷川勝三郎

日本堤二ノ二　電話浅草六四五九番　田中源藏
同　一ノ一四　電話浅草三四二四番　大木音次郎
同　二ノ一〇　電話根岸一二七三番　鈴木健仁
同　一ノ三　電話浅草七一七〇番　大多和政一
地方今戸一二九　電話浅草六二三三番　臼居定治郎
同　一三一　渡邊勝太郎
同　一一九　同
同　一三四　同
同　一三〇　富部丁三
浦野行司
前崎義太郎
山川町二　電話浅草三七二八番　小野坂菊治
吉野町一ノ三　電話浅草二〇七五番　松本菊太郎
同　二ノ六　電話浅草四五〇八番　田村春男
田島町三
千束町一ノ九八　電話根岸一三八八番　荒金次郎
同　一ノ一四三　電話根岸一七二〇番　片野谷二
同　二ノ一六　電話根岸〇八八八番　今村吉男
同　一ノ一四四　電話根岸四二九二番　深見榮一
村上實

光月町一ノ一　電話根岸一七四六番　今泉一三
同　一ノ二　電話根岸二七四七番　古堂みゑ
同　一ノ二　電話根岸一八〇二番呼　熊切武夫
同　一ノ三　西田巳作
鈴木芳
櫻井定一郎
細川馬八
電話浅草〇八三八番　石野音次郎
山谷三ノ一二
同　二ノ七
山根仙次
電話浅草三三五三番　猪越正二郎
同　二ノ九
電話浅草五一六七番　富山光彦
新福井町五
石濱町一ノ七
田中町三ノ五
電話浅草三三六四番　高橋幾太郎
石塚乙作
同　三ノ二
綿貫吉太郎
同　二ノ九
長谷川武雄
芝崎三ノ六
荒井忠賀

品川區

岩城材木店

岩城武平

明治二十三年五月十五日生
營業所　東京市品川區大井南濱川町一六〇番
電話大森八二五〇番

氏は德島縣人である。名東郡佐那川内村に生れた。年少志を抱いて父母の膝下を離れ、遠く山河を隔てゝ東都に上り、材木商たるべく本所區内太田屋材木店に身を投じ、薪水の勞を厭はず、忠實業に服すること多年。遂に斯業の蘊奥を極め斯道の攫微を把握し得たので、大正八年、氏二十九の時、現地の有望をトして店舗を構へ、獨立創業、以て多年の宿望を果し得たのであつた。爾來星霜を閲する二十年。堅實の方針に終始一貫、着々業績を擧げて、以て、今日に及んだ。氏の溫厚にして篤實なる風格故に、現に警防團第六部長、大井濱川小學校後援會理事等に推され、公共自治の爲盡瘁する所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

大德大井賣場　高榮材木店

高島榮太郎

明治三十四年十月二十七日生
營業所　東京市品川區大井南濱川一七二九

氏は福井縣出身である。同縣丹生郡立待村字下石田に生れた。年少、父母の膝下を辭し、山河千里遠く東京に入つて、深川區木場の大德材木店に勤め、拮据精勵店主の信頼を蒙り同輩の敬慕を受け、業務の習得に專念する事多年。遂に斯界の機微を明にし、斯道の蘊奥を極めたので、現地の將來有望なるに着目し、大德材木店大井賣場として、開業した。時に昭和六年。爾來、氏は鼓に據つて奮鬪努力、よく草創一般の困苦を克服して、業礎を磐石の堅きに置き、顧客を諸工場並に建築業者に求め得て、業績日に月に顯著を致し、遂に今日の盛況を見た。なほ篤實なる氏の風格は、よく衆の推す所となり、現に警防團群長として、その責に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

增山材木店

增山太郎吉

明治二十五年一月十六日生
營業所　東京市品川區鹿島町二一八五
電話大森三四二五店・三三二七宅

氏の東京市出身で、品川區大井森前町に生れた。增山文吉氏の長男である。荏原中學校に學んだ後、實業界に身を立てんと志し、材木商の有利なるに着目し、斯業の研鑽に努むる事幾年。遂に大正二年、現地をトして店舗を設け、内外材木各種を取扱つて、獨立經營した。爾來、年を閲する二十幾年の氏の奮鬪は遂に業界一流の店舗として著聞するの成功を齎したのであつた。なほ氏は大東京木材商業組合設立に際しては、寄與貢獻する所甚だ多く、爲めに推されて理事の地位に

あつて、業界に隠然たる聲望を有して居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行大井支店である。

原田竹材店

原田仙三郎

明治二十一年十月四日生
營業所　東京市品川區大井鹿島町二九二〇

氏は東京市の出身で、蒲田區矢口町に生れた。原田安五郎氏の二男である。年少、家業の農耕にいそしんだが、實業に志を有する氏は、竹材商の有利なるを知り、十八歳の折、大森區入新井一ノ一二七なる竹虎商店に入り、辛酸に甘んじて斯業習得に精進すること十二年余の後、業務精通し、業勢に明達したので、大正七年、現地に相して一店を構へ、竹材各種並に丸太類を取扱つて、獨立開業したのであつた。時に、氏正に而立。爾來、氏は老練の手腕を振つて二十年。一般造園業者を主なる顧客として、業績日に月に顯著なるを得た。現に店勢甚だ殷盛である。氏は土地に信望あつて、今日まで幾多の公共の盡瘁する所鮮少でない。

美濃三　前村銘木店

前村三八

明治六年十一月十五日生
營業所　東京市品川區南品川四ノ五五七
電話高輪七九五四番

當店は、假父三八氏明治四十四年十一月の創業に係り、三十年に近き、老舗として當地方面に有名である。三八氏は香川縣中多度郡十郷村大西喜之助氏の二男で、前村家は入籍した。人上京して品川區相川材木店に斯道習業二十二年の後、現地に創業したのである。長男喜三郎氏は、初め神田商業學校に學び、後、神田實業學校に轉じて、卒業後家業に精勵し嚴父開拓の業域を益々擴張し、業礎を彌々强固ならしめ、銘木、磨丸太、竹材、丸太等を取扱つて、斯界の一方に覇を稱しつゝある。なほ、氏は、今次の日支事變勃發するや、豫備將校として、勇躍、應召して征途に就いたのである。

萩原材木店

萩原康榮

明治二十八年十一月二十三日生
營業所　東京市品川區南品川二ノ一六五
電話高輪一六九六番

當店は、先代萩原銀藏氏三十四歳の折の創業に係り、當方面有數の樫材商老舗として著聞して居る。二代目當主康榮氏は元來、宮城縣人で、登米郡上沼村字櫻場に生れ、畠山氏の三男であるが、當家に入籍して、先代の指導下に家業に精勵し斯業の研鑽に力めたのであつた。先代の逝くや箕裘を繼いで指揮勤勉、以て、今日の大をなした。現に同町淺木屋に斯業習練中の長男氏家業に就くの日、當店の將來は更に洋々たるものがあらう。因に氏は姓名學判斷を研究する事二十余年にして其の蘊奥を極め、其の道の大家として有名である。氏の重厚の風倍は、業界並に町内四隣の信頼する所となり。現に大東京木材商組合信用評定委員、並に同品川支部長に推され

又東京司法保護會委員となり、町會長を勤むるなど、公共自治の爲盡瘁して倦む所を知らない。因に氏の取引銀行は、三菱銀行品川支店である。

桶熊商店

池田貢一郎

明治三十年六月二十二日生
營業所　東京市品川區西品川三丁目九一七
電話大崎一七九一番

當店は先代桶屋職池田熊吉氏の創業に係る、材木商並に桶製造商で、明治四十二年以來、三十年の星霜を閲せる當地草分の老舗として業界に鳴る。貢一郎氏は卽ちその四男であつて、斯業の雰圍氣中に生育し、學ばずして業務に通じ、習はずして業勢に明く、嚴父を助けて家業に精勵し、業績を擧げ得て甚だ顯著。建築業者並に諸工場方面に主として顧客層を開拓し、業礎を頗る强固ならしめた、且つ氏は店務繁劇の傍幾多の公共自治の爲盡瘁して倦む所を知らなかつたが、嚴父の逝いて箕裘を繼ぐに及び、一切より優退して、家業に專念し、店員參名を使役して店務層一層の發展を企圖して、現在に及んで居る。因に氏の取引銀行は、第一銀行大崎支店である。

增山竹材店

增山衆吉

明治二十四年八月二十日
營業所　東京市品川區大井倉田町三二六四

氏は東京市の出身で、品川區大井森前町に生れた。增山權平氏の三男である。元來、當家は舊幕時代以來當地に連綿たる舊家で、代々山林業を營んで居た。それで、氏は木竹材に對する知識並に經驗は、幼少の中から培はれて居たので、長じて實業界に志すに及び、當然竹材商を選んだのであつた。その現地を相して開業したのは、大正七年、氏二十七歲の折で、竹材各種の外、丸太類を取扱つたのである。爾來、春風秋雨二十の星霜を閲して、業礎の堅きこと磐石の如く、業績彌々擧り、業域益々廣がつて、今日の店勢を張るに至つた。氏は溫厚にして篤實、業界稀に見る人格者として、四隣の齊しく景仰する所である。氏亦た忙繁の傍、幾多の公共事業に盡瘁して倦む所を知らず、更に、衆望を荷めつゝある。

竹信材木店

河原信太郎

明治十八年二月三日生
營業所　東京市品川區大井南濱川一九〇三
電話大森三七〇二番

氏は、東京市出身で、大森區馬込西三丁目に生れた。河原金太郎氏の二男である。元來當家は、德川時代より連綿として十一代を稱する土地の舊家である。氏は、夙に實業に志し幾曲折の後、明治四十二年、氏二十四歲の時、竹材問屋を開業し、神奈川方面より竹材を仕入れ市内の竹材商に卸すに始まり、精勵刻苦、星霜三十年に亘る奮鬪を重ねたのであつたしかして、今や其の功全くなつて、業基の堅きこと比類なく

京濱隨一の店勢を張つて、業界に雄視する重鎭となつた。氏は資性重厚にして頗る長者の風があり、大井信用組合理事、稲荷睦納稅組合長、町會相談役、天祖神社氏子總代等々、十指に余る公共自治の職責に盡瘁して倦む所なく、甚だ四隣信頼の的となつて今日に及んで居る。

內田材木店

內田重衛

明治四十年三月十五日生
營業所　東京市品川區西大崎二ノ一三一

氏は、靜岡縣の出身で、同縣田方郡中大見村字柳瀨に生れた。嚴父は內田銀作氏で、氏は其の長男である。幼少十歲、父母の膝下を離れて遠く上京し、品川區五反田二の狩野屋材木店に住込み、具に斯業習得の辛酸を嘗むること、實に十年に余るの長期に亘つた。されば荏原材木商組合は、氏の精勤を賞して、模範店員たるを表彰し、且つ紀念品を贈つたのであつた。かくて氏は、練達の手腕を振ふべく、現地をトして開業獨立したのは、昭和六年、氏二十二歲の八月である。爾來、氏は少壯の意氣を以て積極的方針を堅持し、着々業礎を固め、業績を擧げ以て今日に及んで居る。氏の手腕と氏の年齡とを以てすれば、その大成の將來に期し得べしとなして、業界の齊しく刮目する所である。因に氏の取引銀行は、第一銀行大崎支店である。

相川材木店

相川力三

明治二十五年八月十四日生
營業所　東京市品川區西大崎二ノ二二五
電話大崎三二四三番

氏は橫須賀市若松町に生れた。今は亡き相川元五郎氏の三男である。年少十二歲の折上京して、京橋區八丁堀なる和田萬材木店に勤め、夙夜懈らず、斯業の研鑽習得に努むること實に十有五年に余る長期に亘つた結果、業界に通曉し、業務に練達し得たので、現地をトして店舗を設け、內外材木各種を取扱つて獨立開業した。時に大正八年、氏二十七歲の折である。爾來氏の奮鬪目覺しきものがあり、殊に大震災直後帝都復興の氣運に乘じ、着々業礎を固め業績を擧げ、店員三名を使役して、店〻大に張るの現況を招來したのであつた。なほ氏は大東京木材商業組合信用評定委員として業界の輿望を負ふのみならず、町會役員に推されて四隣の信頼する所となつて居る。因に氏の取引銀行は、第一銀行大崎支店である。

阿部材木店

阿部信太郎

明治二十五年七月一日生
營業所　東京市品川區五反田一ノ三八一
電話大崎一七七五番

氏は愛知縣人である。同縣海部郡神守村字藏原に生れた。年少にして幾多の曲折を經たる後、實業を以て身を立てんと

志し、材木業を有利として選び、斯業の研鑽に努めた後、大正六年、現地に相して一店を設け、內外材木各種を取扱つて開業した。時に氏二十五歳。乃ち、氣鋭の赴く所、經營方針積極的に終始し、特に大震災後の帝都復興の氣運に乘じ、活躍甚だ目覺しきものあり、大に業績を擧ぐるに成功し、以て今日の强固たる業礎を築くを得た。氏資性篤實、頗る町內四隣の信望を蒐め、現に町會相談役として、公共自治の爲に盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行大崎支店である。

神野材木店

神野吉五郎

明治二十五年四月六日生
營業所　東京市品川區五反田一丁目四〇九
電話大崎二八一〇番

氏は奈良縣出身者で、同縣宇陀郡神戸村字木郷に生れた。嚴父は神野德五郎氏で、氏は其の三男である。少壯幾多の波瀾を經て、材木商たるべく志し、上京して幾年斯業の習得に努めたる後、現地を選び、內外材木各種を取扱つて、獨立創業した。時に大正七年、氏二十六歳の時である。爾來、楠風沐雨星霜を閱すること二十幾年。活腕を振つて草創の難關を突破してより、奮鬪に終始して、遂に今日の成功を見、製材を兼ね營んで店員四名を使用するの現況である。氏は仁俠にして大度、頗る衆望を負ひ、町會第二部長に推されて、現に町內自治のため盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、第一銀行大崎支店である。

廣川銘木店

勳八等　廣川清

營業所　明治四十五年一月十八日生
東京市品川區西大崎一ノ三五一

氏は東京市出身で、日本橋區鞴島町一丁目に生れ、廣川廣吉氏の二男である。年少十三、小學校を出づるや、京橋區なる横田材木店に奉公して、拮据勤勉、斯業の習得に努むること七年に余つた後、業務練達、且つ業務に通曉したので、品川區東大崎三丁目を選んで店舗を設け、竹材類一般、銘木、ベニア板等を取扱つて獨立開業した。時に昭和七年、氏二十歳の折である。後、現地に移轉して業務に精勵した結果、草創一般の荊棘を拓き得て、今や店勢坦々たる大道を邁進するの現況である。乃ち、銘木店として一流の名を業界に縱にしつゝある。なほ、氏は滿洲事變に出征して勳八等瑞寶章を授けられ、且つ、現に帝國在郷軍人會大崎分會第十八班組長の任を負ふて居る。因に氏の取引銀行は、日本興業銀行である。

長角長材木店

和知長次郎

明治十五年十一月十五日生
營業所　東京市品川區南品川五ノ一七五
電話高輪〇三三五番

當店は先々代和知治助氏が幕末四谷見付夙に材木店相模屋を開き、先代政吉氏これを繼承して芝區田村町十五番地に移

り、更に芝區車町八十一番地に轉じた。長次郎氏は政吉氏の長男として其の地に生れ、幼少より斯業になれて、少壯已に練達の手腕を以て稱せられた。その遺鉢を繼いで、八十年に余る老舗三代の主となるに及んで、當地方面の將來發展性あるに着目し、明治四十一年、現場に店舗を移轉したのである。取扱ふ所竹材、丸太、磨丸太、造園材料。爾來、造園業者の間に主として顧客層を開拓し、三十年を超ゆる星霜を閱して業礎益々堅く、業績愈々擧り、矍鑠壯者を凌ぐ老練の氏を助くるに、長男東三郎氏の精勵を以てし、老舗の名江湖に藉甚して業界一方の重鎭である。なほ氏は圓熟せる風格頗る衆望に篤く、推されて現に家庭防火團群長として、銃後の安寧を期して盡瘁しつゝある。

三平材木店

菊本繁美

明治三十年九月十二日生
營業所　東京市品川區南品川五ノ一四一
電話高輪一八六〇番

當店は、先代甚三郎氏が明治三十五年に創業したものであつて、四十年に近き老舗の名、業界に藉甚する。氏は甚三郎氏の長男として生れ。斯業の雰圍氣中に成長して、業務に精通する所がおつたが、その大成を期して、深川區木場の馬場材木店本店に入り、斯業の研鑽を積むこと更に十六年余。嚴父の逝くや、箕裘を繼いで、當店の二代となり、家業に精勵して以て、今日の成功を見た。卽ち、その活腕を振つて諸會社工場等大に納入の顧客を多數獲得し、大に店勢を張るに至つたのである。資性篤實の氏は、又、頗る四隣に衆望を得て居り、現に町會役員に推されて町內の爲に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、日本興業銀行品川支店並に三菱銀行品川支店である。

合資會社　小泉材木店

小泉吉藏

明治二十七年一月一日生
營業所　東京市品川區東大崎五ノ一九
電話大崎一〇四〇番

氏は、神奈川縣の出身で、川崎市御幸町に生れた人である。嚴父は小泉市造氏。氏はその三男に生れた。年少より南品川に於いて建築壁材料業に携つて居たが、大正二年、氏十九歳の折、伯父義藏氏の協力の下に、大崎ベニア商會を當地に開始したのであつた。爾來、楠風十有三星霜の間、夙夜懈らずして家業に精進した結果、業基の强化、業域の擴張に美事成功し、業績逐年に顯著ならしむるを得て、當方面業界稀に見る潑剌たる商況を展開したのであつた。しかして、昭和十三年、協力者として篤實適切の指導を永年に亘つて與へ來つた伯父君の店舗閉鎖に當り、該店の一切を繼承し、銘木類床廻材、磨丸太、ベニア板等を取扱つて、合資會社組織の下に、倍舊の活躍にこれ努め、一層店勢を張つて、今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行大崎支店である。

渡邊材木店

渡邊關之助

明治二十四年七月十日生
營業所　東京市品川區大井伊藤町五七二〇
電話大森四九二四番

氏は、東京市の出身で、荏原區馬込町に呱々の聲を擧げた人である。嚴父は今は亡き渡邊利右衛門氏で、關之助氏は其の二男である。兄來、當家は馬込町の舊家であつて、代々山林業を營み、山林業界の老舗として近郷に著聞した家柄である。かゝる環境裡に生育した氏は、自然、幼少より父君を佐けて家業に携り、家運の隆昌に資する所が多かつたと同時に業務に頗る通曉し、年少にし練達の聞え高かつたものである而して、氏而立の時、家業と密接の關係を有する材木業の有利なるを看取し、其の發展顯著にして斯業に好望なる當地を選んで一店を設け、山林業練達の手腕を斯業に振ふべく、敢然として轉業を斷行したのであつた。時に大正十年である。しかるに草創二年にして大震災に遭逢するや、直後に澎湃たる帝都復興の氣運に乘じ、一擧基礎を固めて磐石の安きに置き得たのである。爾來星霜を閲する十有六年。今や店員三名を使つて、大量納入の工場、會社多數を顧客として、當方面第一流の店勢を張ると共に、業界一方の覇を稱するに至り、且つ斯界に人望あつて、現に大東京木材商業組合十日會支部長、同組合信用評定委員等の地位を占め、同業の發展に盡して甚大な物がある。加ふるに、氏の重厚なる風格は、頗る四隣町内の信頼を受け、町會會計に推されて、自活の爲め、公共の爲、盡瘁する所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、第百銀行大井支店である。

合名會社　淺木屋材木店

淺海右太郎

明治三十四年九月十一日生
營業所　東京市品川區南品川五ノ三一七
電話高輪二四七番

當店は、初代淺海鈴吉氏の創業する所であつて、店頭を飾る「材木渡世」の古看板に、舊幕時代の全盛が偲ばるゝ老舗である。二代甫藏氏は、大東京木材商業組合監事として、斯界の重鎭たりしのみならず、品川區會議員として、區政上貢獻の多かつた人である。當主右太郎氏は、甫藏氏の長男であり、早稲田大學英文科の出であるが、感ずる所あつて雄視を措き、箕裘を襲いで以來、專心家業に精進し、內外材木各種販賣並に製材一般を取扱つて活腕縱横。店員十三名、職工七名を置いて店勢隆昌。誠に京濱間屈指の老舗として、一流店として、其の名を業界に更に輝甚せしめつゝある。因に氏の取引銀行は、三菱銀行の各品川支店である。

美濃屋相川材木店

勳八等功七級　相川常松

明治十四年生
營業所　東京市品川區南品川一ノ二四三
電話高輪一〇四番

當店は、實にその發祥を元祿十四年二月の往古に遡るを得べく、爾來、十世の代を重ね、二百三十有餘年の星霜を閲して、業界稀に見る悠久の歴史を有し、曾つては、武藏國第七代區頭取として、荏原郡一圓の材木業者を統率した家柄であり、今に店頭を飾る古色蒼然たる「材木渡世」の看板に、由緒の深きを偲ばるゝ老舗中の老舗である、而して、第十代の當主常松氏は、舊荏原郡駒澤町深澤二〇に呱々の聲を擧げた人で、實父は太田良藏氏。氏は其の二男である、年少當家の先代相川小兵衛氏に養はれ、入籍して相川姓を名乘り、小兵衛氏の逝くや、第十代となつて、家業を繼承し、以て今日に及んで居る。氏は、日露戰役に出征し、功に依り勳八等白色桐葉章並に功七級金鵄勳章を賜つた勇士であつて、豪放仁俠の人であると同時に、その識見に於いて、その手腕に於いて斷然頭角を抜んずる物があり、依つて以て業界の重鎭となり先覺となり、遂に指導者的地位を獲得するに至つた。乃ち、昭和九年四月、大東京木材商業組合の設立するゝや、其の理事長として草創の難局に當つたのであるが、着々基礎を確立して、商工大臣認可の商業組合たらしむるに成功し、名實共に大東京業界の一大勢力を形成するに至つたのは、偏に、氏の献身的努力の致す所として、業界の信望を一身に蒐めつゝある。又、氏は、地方自治に一隻眼を有し、衆に選ばれ府會議員たること二回、府政に貢献する所鮮少でなく、爲めに、同議員待遇の名譽を享けて居る。現在、府立一商第三期卒業の長男金一郎氏（明治四十一年九月四日生）に店頭を任せ、氏は、これを指導する傍現に、大東京木材商業組合創立以來の理事長たるの外、東京府臨時物價對策實行部調査委員、東京地方物價委員會專門委員會委員等に推されて、長期戰對策の爲、銃後の國民としての活躍、誠に斐鑠として壯者を凌ぐ者がある。因に氏の取引銀行は、三菱銀行品川支店である。

北品川一ノ五四　電話高輪〇四四六番　大橋清太郎
五反田二ノ三二八　電話大崎二一七〇番　狩野桑太郎
同　五ノ一〇七　電話大崎一六六九番　田中源太郎
同　二ノ三〇〇　電話大崎三四三五番　松原富次郎
西大崎三ノ四七三　電話大崎一一六一番　上辻留吉
上大崎二ノ五四二　電話大崎二〇四七番　田中松五郎
大井立會町五七〇　電話高輪二八一六番　北橋ぷん
北濱川一一四一　電話高輪〇八九三番　高橋源次郎
南濱川一六八四　電話大森六三六一番　栗田清一
水神町二〇七三　森澤三郎

大森區

〈一〉 源氏屋本店

小澤義一

明治二十五年十二月二十二日生
營業所 東京市大森區大森町三ノ一二三
電話大森五五七七番

氏は東京市の出身で、京橋區入舟町に生れた。年少より實業に志し、材木商の有利なるを知つて、斯道に身を立てんと欲し、斯業習得の爲、具に辛酸を嘗めたのであつた。かくて業務練達の曉、獨立の確信を得たので、大正八年三月、横濱市に內外銘木磨丸太の店舗を設け、材木問屋としての第一歩を踏んだのであつた。後、大正十一年、氏而立の歳、東都進出を敢行し、現地に店舗を移轉したのである。爾來十有七年の星霜を閲して、人世の波瀾、業界の起伏に屈せず撓まず、遂に今日の盛大を致し、基礎强固、業域廣汎、店勢頗る張るの現況を招來した。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

横谷材木店大森支店

横谷貞則

營業所 東京市大森區大森町三ノ三七三
電話大森六一三四番

氏は山梨縣の出身であつて、芝區愛宕町横谷材木店本店横谷彌一郎氏は氏の伯父君に當る。氏は、年少にして實業を志し、材木商を選んで身を立てんとして、遠く父母の膝下を離れ、上京して伯父君の店に投じ、日夜怠らず、職に忠に、業に勵んだ結果、頗る練達を以て稱せらるゝに至つた。偶々昭和十二年十二月、本店の業務を擴張して、現地に支店を創設するや、氏は拔擢せられて玆に主人となり、雜木材一般を取扱つて開業したのであつた。爾來、年處を經ること幾何ならずと雖、氏の健闘は、已に草創一般の難局を打開し得て、顧客の獲得に成功し、店勢順調を辿るの現況である。因に氏の取引銀行は、第百銀行並に安田銀行である。

〈二〉 黑田屋福嶋材木店

福嶋歡四郎

明治三十四年六月二十七日生
營業所 東京市大森區大森二ノ一一〇〇
電話大森五〇三二番

氏は埼玉縣出身者である。即ち同縣北埼玉郡志多見村大字阿良川に生れた人である。小學校を卒業するや、遠く父母の膝下を離れて上京し、青山なる辰巳屋材木店及び京橋區墨清商店に就いて、斯業實地の習練を積むこと十五年に余り、精勵よく同僚の模範となり、忠實よく墨清店主の眷顧を蒙り、昭和五年、氏二十九歳の時、現地を卜して、墨清店主の後援の下に、黑田屋號を揭げて、獨立して多年の宿望を果したのであつた。爾來星霜十年を閲して、工場、建築業者、建具職等を主なる顧客とし、店員二名を置き、店勢甚だ順調なるを得た。氏は實直にして四隣の信頼する所となり、現に町會理

事に推されて町內のため努力する所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、三菱銀行である。

內田材木店

內田卷次郎

明治三十九年八月九日生
營業所 東京市大森區雪ヶ谷町二七八

氏の埼玉縣の出身である。即ち同縣北葛飾郡櫻井村大字椿に生れた人。年少より實業に關心し、稍長じて材木商たらんと志し、斯道習練のため、鄕關を辭して東都に上り、目黑區內の某材木店に入つて、粉骨碎身、一意斯道の習得研鑽にこれ努めた結果、遂に業務練達、業界通曉、以て獨立の確信を得たので、機會を捕へて現地の發展性に着目し、庭園材料一式、竹材、丸太類を取扱つて、店舗を開き、以て、多年の念願を果し得たのであつた。時に昭和十年十月、氏二十九歳の秋である。爾來、日尙ほ淺しと雖、老練の手腕は、當地の發展と相俟つて、業礎漸く堅く、業績逐年に擧つて、着々順調なる店勢を張るに至つた。

近藤材木店

近藤福松

明治三十二年一月二十八日生
營業所 東京市大森區大森三ノ七六
電話大森五一六九番

氏は東京市出身で、深川區數矢町に生れた人である。年少幾曲折の後、材木商を志し、深川區木場の菱二材木賣場に入り、斯業の修練に專念すること多年にして、業務に精通し、業界の情勢に通ずるを得たので、即ち、獨立の初一念を貫徹すべく、大正十二年、現地を卜して店舗を構へ內外材木一般を取扱つて、自營開業した。而して大震災直後の復興に乘じ顧客層を廣く開拓し、特に諸會社、工場、建築業者間に大口納入、以て、今日の業礎を築き、十五年を超ゆる星霜を閲して、店員二名を置き、店勢頗る順調なる成功を見たのであつた。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

池國材木店

池崎國太郎

營業所 東京市大森區馬込町東二ノ九一〇
電話大森三二二九番

氏は茨城縣の出身で、同縣那珂郡芳野村字戸崎に生れた人である。小學校卒業の後、十四歳の氏は遠く鄕關を辭して東都に出で、千住なる萬善材木店に入つて材木業の實地に就き業務習得の一念に懸えて辛酸を甘しとなし、薪水の勞を厭はず忠實業に服すること前後十六年の永きに亘つた後。業務大小となく詳にし、業勢巨細となく明となつたので、昭和十年三月、現地の將來發展すべきを想見し、店舗を構へて內外各種材木を取扱つて獨立した。時に氏而立。爾來、年處を經ること幾何もなしと雖、氏の奮闘的精神と練達の手腕は、當地方遂年の發展と相俟ち、業礎の堅きを致して、業績顯著順調なる店勢を辿りつゝある現況である。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

清水材木店

清水金太郎

明治八年生

營業所　東京市大森區南千束町四五

氏は東京府の出身で、北多摩郡三鷹村字上連雀に生れた人である。夙に此の地に店舗を設けて薪炭商を營むこと多年であつたが、長男寛二氏（明治卅八年十二月廿六日生）年少材木商を志して、千住竹傳材木店に在つて斯道修業、遂に練達し得て歸宅したのを迎へた氏は、直ちに店舗を新にして內外各種材木を取扱つて、材木店を經營開始した。時に昭和十三年、かくて父子一丸となつて家業に精勵しつゝあるが故に、期年ならずして、顧客層を廣汎に開拓し、業礎の堅きを得て今日に及んで居る。更に年處を經る時、老練の手腕と俊敏の商才との協力を以て、その前途を洋々たらしむるは疑を容れない。

白源材木店

白田源一

明治三十六年五月二日生

營業所　東京市大森區市野倉町四三〇

電話大森三六一七番

氏は當地の出身で嚴父の創業に係る家業材木商第二代の當主である。幼少より斯業の祭壇氣中に生育して、學ばずして業務の練達を致し、習はずして業勢の明通を得て、年少已に一廉の手腕を有し、父君を助けて其の股肱たり、家業にいそしんで其の繁榮を招いだ。後、箕裘を繼ぐに及び、積極的經營方針を執ると共に、誠實第一を以て顧客に接し、その信頼を蒙つて、店勢益張るの情況を馴致して今日に及び、現に店員二名を於いて、當地の舊家、業界の老舗としての地歩を確保して居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

坂野賣場

坂野小一

明治四十一年生

營業所　東京市大森區新井宿六ノ七一一

氏は埼玉縣の出身者で、同縣入間郡名栗村に生れた人である。幼少十歳、父母の膝下を離れて、遠く横濱市に出で、六角橋丸十谷崎材木店に入つて、薪水の勞を厭はず、辛酸を甘しとなし、夙に起き、夜に寢ねて忠實業に服し精勵實に當つたので、業務に熟達すること頗る顯著、店主悉く信頼して股肱となし同輩皆景慕して模範とした。かくて年處を經ること十三年。遂に機至つて、東都に進出し、現地を卜して店舗を設け、獨立の旗を高く揭げて、氏の新しき人生に進擊を開始したのであつた。爾來、草創幾何もなきに拘らず、鐵腕よく荊棘を拓いて業礎の堅きを得たが、今次支那事變勃發するや氏は應召勇躍征途に就いた。而して留守を守つて、氏をして後顧の憂なからしむる者は、舊主谷崎仁重氏である。蓋し業界の一佳話であらう。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

鈴木材木店

鈴木島太郎

明治十六年四月八日生

營業所　東京市大森區堤方町六九五

電話池上三二四番

氏は靜岡縣の出身で、濱名郡天龍川町に生れた人である。弱冠、雄圖を抱いて北海道に渡り、膽振國苫小牧町なる中村組に勤務して、忠實勤勉、十八年の永きに亘つた後、大正十二年、東都に上つて砂町に製材所を設け製材に從事し、頗る業績を擧げた。而して大震災に遭逢するや、大正十四年現地に移轉し、信徒するの奮鬪努力を以て、業務の開拓に盡し、內外材木各種販賣並に製材一般を取扱つた。かくて星霜玆に十五年に垂んとして、現に店員二名を使用し、店勢頗る順調なる一路を辿りつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。なほ、深川區木場の丸日材木店主は氏の實弟に當る。

河野屋材木店

河野芳男

大正二年六月二十四日生

營業所　東京市大森區池上德持町二五一

氏は德島縣出身で、名西郡石井町に生れた人である。小學校卒業後、遠く父母の膝下を離れて東都に出で、蒲田なる武市材木店に入り、斯業研鑽の辛酸を具に嘗め、しかも誠實精勵その職責を忽にしなかつた。爲に店主の信頼と同僚の景慕を贏得て、八年の月日を過した後、斯業練達の手腕を世に問ふべく獨立を念ひ、遂に昭和十年、現地に店舗を設けて內外各種材木を取扱ひ開業したのであつた。時に氏二十二歳。爾來、幾何の年處も經ないが、已に積極進取の經營方針其の効を奏し、業礎堅く業域廣く、業績逐年に擧がつて、現に店員二名を置き、頗る店勢を張るの現況である。因に氏の取引銀行は、大森信用組合である。

清水材木店

清水清太郎

明治十八年三月四日生

營業所　東京市大森區北千束町七七三

電話荏原二六三四番

氏は東京市の出身で、日本橋區小網町に生れた人である。嚴父は清水巳次郎氏。氏はその長男である。少壯より實業を志して幾曲折の後、帝都復興の氣運澎湃たる大正十三年、機を握んで立つた氏は、現地を相して材木商を創め、一擧その業礎を築いて磐石の如からしめ、爾來十五年の星霜を閱して當方面の第一流店たるのみならず、同業間稀に見る德望を有して、業界の重鎭たるの地歩を確保して居る。卽ち氏は大東京木材商業組合設立に貢献する所甚大なる者があつた爲め、現に推されて同組合常務理事であり。組合長相川常松氏と共に業界の双璧として稱せられつゝあるのである。氏は其他東京市方面委員、町會役員等を兼ねて、公共自治のため盡瘁する所鮮少でない。なほ氏の長男一郎氏（明治四十五年二月十五日生）は、府立一商第六期卒業後、家業に精勵し、父君の

股肱として店務の一切を助けつゝある。因に氏の取引銀行は三井銀行目黒支店、第百銀行小山支店である。

〈宮〉 鈴密材木店

中村密太郎

營業所　東京市大森區堤方町七三九
電話池上一〇七番

氏は川崎市の出身である。小學校卒業の後、土地の老舗鈴庄材木店に入つて薪水の勞を執り、忠實業に服して二十有六年。遂に店主の信頼を受けてその股肱となり、同業景仰の的となつてその模範となり、その手腕に於いてその商才に於いて、頗る敏活英俊を以て業界に鳴つた。而して、大震災直後の帝都復興を機とし、大正十二年、氏不惑の年、東京に進出して現地をトし、內外各種材木を取扱つて獨立創業した。爾來、活腕俊才よく業礎の堅く業績の顯著なるを招來して、今日に及んで居る。尙ほ長男吉右衛門氏（大正四年生）は襲譯たる氏の指導下に家業に精進しつゝある。なほ氏は衆望を負うて東京市方面委員に擧げられ、公共の爲、少から𢌿盡瘁しつゝある。

〈清〉 清水商店

清水三郎

營業所　明治三十三年六月十五日生
東京市大森區雪ヶ谷町一二九
電話花原四七五八番

氏は、東京市の出身で、北品川に生れた人である。年少幾多の曲折を經て、實業を以て身を立てんと志し、材木商の有利なるに着目して、斯道修練のため、具に辛酸を嘗め、遂に練達の域に達したので、敏腕を世に問ふべく獨立を企て、昭和三年地を現地に相し、一店を構へて內外材木一切を取扱つて自營開業した。其の後、銅、鐵、金物等の販賣を兼營して逐年店勢を張り、强固なる業礎を築き了して顯著なる業績を擧ぐるに成功した。氏の敏腕と慧才とを以てすれば、當地方の發展と相俟つて、層一層の發大を來たすべく、業界具眼の齊しく期待する所である。

吉源材木店

吉田源七

營業所　明治三十五年八月十三日生
東京市大森區堤方町五一九
電話池上一三番

當家は幕末維新當時の創業に係り、所謂材木渡世の古き看板を有する由緒ある舊家として、其の名が業界に藉甚する。當主源七氏は、其の三代に當る。氏は幼少より家業に携つて嚴父を助け、且つ、業務の亘細業勢の大小悉く自得して、少壯已に老練の手腕を有する斯業者であつた。その箕裘を繼ぐに及び、層一層の奮闘よく業績を顯著ならしめ、父祖三代の業をして更に榮光あらしめて今日に及び、啻に當方面の舊家としての名聲のみならず、業界有數の老舗としての地歩を確保して居る。現に店員二名を使用し、店勢愈々張るの狀況である。因に氏の取引銀行は、池上信用組合である。

〈せ〉 平田材木店

平田彰悟

營業所　明治三十七年三月二十四日生
東京市大森區堤方町六一一
電話池上六〇三番

氏は横濱市の出身者である。年少にして實業に志を抱き、材木業を選んで身を立てんと欲し、斯業の習得に多年の曲折を經たる後、業務練達、業勢明通、頗る獨立經營の確信を得たので、活腕を世に問ふべく、昭和六年五月、東都に進出して現地を相して一店を設け、內外各種木材を取扱つて、自營開業した。時に氏二十七歳。爾來、奮闘と努力の幾年を閲して、業礎全く堅く、業績日に擧り、業域逐年に廣袤を加へて今日に及んだ。氏の手腕と、當地方近來の發展とは、相俟つて、氏の大成を招來すべく、業界の齊しく刮目する處である

〈星〉 近江屋材木店

中西棟太郎

營業所　明治四十三年三月三日生
東京市大森區北千束町五〇八

氏は滋賀縣の出身で、同縣蒲生郡東櫻谷村字原の生れである。高等小學校卒業後、實業を以て身を立てんと欲し、材木商を選んで業務修得の爲、鄕關を辭して東都に上り、世田谷區奥澤なる港屋材木店に就いて、具に辛酸を嘗めて斯業修練に努むること六ヶ年に余つた。かくて、一廉の手腕を有する自信を得たので、現地を相して店舗を設け、內外各種材木を取扱つて獨立開業し、多年の念願を果し得たのであつた。時に昭和九年十月一日、氏二十四歳の折である。爾來、奮闘努力の幾年を經過ぜる現在、已に草創一般の荊棘を打開し得て坦々たる行路に就き、現に店員二名を置いて店勢大に殷々である。因に氏の取引銀行は第百銀行である。

〈田〉 豐虎材木店

豐田賢藏

營業所　明治三十九年四月六日生
東京市大森區雪ヶ谷町一四六
電話花原六五八五番

氏は東京市出身で、世田谷區玉川等々力町に生れた。豐田寅吉氏の二男である。寅吉氏は材木商を經營して居たので、賢藏氏は、幼少よりこれを援け、自然業務に練達し、少年にして已に一廉の材木商人たる手腕を有するに至つた。偶々帝都復興の氣運醸勃として起るや、氏は機乘ずべしとなし、現地の將來發展すべきを相して店舗を設け、內外材木、竹材、丸太等を取扱つて、營業を開始したのである。時に年齡僅に十八歳の氏は、活躍又活躍、積極進取の經營方針に終始してしかも勤勉精勵、よく家業に努むる所があつた。爾來星霜十五年を閲し、大に業績を擧げ得て、店勢大に張るの現況である。而して、今次の支那事變勃發するや、氏は應召して勇躍出征の途に就いた。

大石製材所

若月源太郎

明治三十四年三月十五日生
營業所　東京市大森區北千束町五〇五

氏は靜岡縣人である。同縣庵原郡富士川町字中ノ郷に生れた。年少より故郷に於いて、製材業を習得する所があつたが大正十二年の大震災に引續いて、復興の氣運澎湃として帝都に興るを見て、攫至れりとなし、大正十三年上京して、多方面に亘り種々物色の末、現地の大石製材所を繼承し、屋號を其儘に經營を開始した。氏二十三歳の折である。爾來、星霜を閲する十五年の氏の奮鬪的手腕は、よく草創一般の難關を突破するに成功せるのみならず、業礎を强固にし業域を廣汎ならしめ、逐年業績を擧げて以て、今日に至つて居る。現に從業員三名を置き、製材一般並に製箱を取扱ひ、店勢順調にして行路甚だ坦々たるものがある。

浅見材木店

浅見德藏

明治三十三年七月十一日生
東京市大森區北千束町六三〇
電話荏原三八三七番(呼)
營業所

氏は埼玉縣人である。同縣入間郡東吾野村に生れた。十八志を決して材木商たらんと欲し、上京して深川木場なる伊勢常材木店に入り、辛酸に甘んじて、具に斯業を習得し、練達の自信を得たる後、昭和三年春三月、現地將來の發展性に着目し、內外木材、棕櫚繩、ヨシズ、檜皮、竹材等を取扱つて獨立營業を開始した。爾來、星霜十年を閲し、氏の圓熟せる手腕と、當地の發展は、相俟つて當店の繁榮を齎し、業礎は堅く、業域は廣く、逐年業績を擧げ得て、以て今日に及んで居る。更に年處を經れば、その大成期して俟つべしとするは業界一般の認むる所である。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

渡邊材木店

渡邊清治

明治四十二年七月二十一日生
營業所　東京市大森區北千束町五九四
電話荏原五一三六番

氏は栃木縣人である。同縣那須郡黑羽町に生れた。年少にして實業を以て身を立てんと欲し、材木商を選んで獨立すべく、先づ斯業習得を志して父母の膝下を離れ、上京して深川區住吉町永田文次郎商店に入り、夙夜懈らず、業に服して忠實なること多年、遂に獨立の機を握んで現地をトして一店を構へ內外各種材木を取扱つて開業したのは、昭和六年十一月氏二十二歳の冬である。爾來、星霜を閲する十年に近く、氏の質實なる性格を反映せる堅實無比の經營方針は、已に、創業に纏る一切の困難を打開し得、店勢順調の一路を辿つて今日に及び、現に店員二名を置いて、店務甚だ繁忙である。因に氏の取引銀行は第百銀行である。

福島材木店

福島忠

明治四十一年七月八日生
營業所　東京市大森區調布鵜ノ木町七九

氏は三重縣の出身者で、同縣南牟婁郡五郷村字大井谷に生れた。小學校卒業後、遠く父母の膝下を離れて東都に出で、深川區木場の森勝材木店に入つて、拮据勤勉、具に斯業修練の苦難を積むこと二十年、遂に業務大小となく練達し、業界巨細となく明達し得て、獨立の念願に熾烈となつた。そこで將來の發展性を相して現地を選び、內外各種木材を取扱つて自立經營し、以て宿望を見事果し得たのであつた。爾來、日尙ほ淺きに拘らず、氏の着實なる經營方針は、着々効を奏して、草創に纏る一切の困難を打開するに成功し、日に業礎を堅め、日に業域を廣め、逐年業績を擧げて、今日に及んで居る。奉秋に富む氏の前途、誠に洋々たるものがあると云つて過言でない。氏は又現に蒲田支部幹事として、業界の信望を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、大森信用組合である。

大和田材木店

大和田勝次

明治四十年六月二十四日生
營業所　東京市大森區調布大塚町六〇〇

氏は茨城縣の出身者である。同縣眞壁郡眞壁町に生れた人である。高等小學校を優秀な成績で卒業するや、實業に興味を有した氏は、材木業を志し、斯道修業の爲、十八郷關を辭して東都に出で、中野區內の齋藤材木店に勤め、夙夜懈らず忠實業に服する一方、斯業の習得研究に專念する事、十有一年。遂に、獨立の念願勃たるものあるに至つたので、地を現地の將來發展性あるに相し、內外材木一般並にベニア板を取扱つて開業し、多年の志望を果したのであつた。時に昭和九年、氏二十七歳の折である。爾來、幾何の年處をも經て居ないが、已に草創の苦難を打開し得て、業績日々に擧り、店務甚だ順調である。氏の圓熟の手腕を以てすれば、奉秋に富む氏の前途は正に視縝に價する者があらう。

近藤材木店

近藤藤次郎

明治二十七年生
營業所　東京市大森區田園調布二六七〇番
電話田園調布二ノ八二

氏は新潟縣人である。即ち同縣長岡市に生れた人である。家業は材木商だつたので、幼少よりその雰圍氣中に生育し、父君の手足となつて家業を助くるの一方、熱心に斯業の研究を怠らなかつた甲斐あつて、年少已に一廉の手腕を有するに至つた。かくて、大正七年、氏二十五歳の時、東都進出を實行し荏原方面に本店を置き、業務甚だ伸展の結果、現地をトして支店を設けたのであつたが、後、現地の支店を廢して、本店を此地に移し、以て、精勵勤勉、老練の手腕よく業礎を堅固ならしめ、櫛風沐雨二十の星霜を閲せる今日、店勢の甚だ殷盛なるを招來したのであつた。

㊤ 小林材木店

小林太郎

明治四十二年一月十五日生
營業所　東京市大森區久ヶ原一一六六

氏は、新潟縣出身で、同縣長岡市に生れた人である。高等小學校を拔群の成績で卒業するや、實業に身を投ずるの決意を抱き、材木商たるべく修練の爲、鄉關を辭して東都に出で同鄉人なる田園調布近藤材木店主を手賴つて其の店員となり懇切なる近藤氏の指導下に、精勵店務に勤むる傍、斯道の研鑽を怠らざること八年に余つた後、業務に練達し業務に明通し得たので、現地の將來發展すべきを豫見し、內外材木一般を取扱つて店舗を開始した。蓋し多年の念願を達し得た氏の喜びたるや、正に思ふべきである。時に昭和八年、氏二十四歳の七月である。爾來、日尙ほ淺きに拘らず、氏の精進は、よく業礎を堅からしめて、店勢順調、氏の前途の洋々たるを約して讃つなき現況である。

古川材木店

古川敬作

明治三十四年九月二十日生
營業所　東京市大森區雪ヶ谷五〇六
電話花屋四〇八二番

氏は東京府の出身者で、府下西多摩郡大久野村に生れた人である。年少にして材木商を志し、川崎市に出でゝ石井材木店に入り、拮据精勵、偏に斯道の修業に努むること多年。店主の股肱となり、同輩の模範となつた。而して、業務精通、業界明達の域に達した氏は、獨立の念願勃然として起り、地を現地に相して、內外各種材木を取扱つて一店を開創した。昭和七年七月、氏三十一歳の折である。爾來、年處を經ること多からずして雖、敏腕よく業務の擴張、業績の顯著を致し、顧客層を、諸會社、工場、建築業者間に開拓し得て、現に店員十二名を置くの殷盛を極め、當方面一流店として業界一方の覇を稱するに至つた。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

㊦ 錢屋材木店

平田貞吉

明治三十一年一月一日生
營業所　東京市大森區大森二ノ一一六
電話大森五一四三番

氏は橫濱市の出身である。即ち神奈川區中野町に生れた人である。小學校を出づるや、直に上京して麻布箪笥町なる吹田屋材木店に入り、忠實業務に精勵すると共に斯業の研鑽遺次も怠らず、店主の股肱となり、同僚の模範となつて、年處を經ること十年に余つた。かくて鍛練の手腕を世に問ふべく現地を卜して店舗を設け、各種材木を取扱つて獨立したのは天なる哉、命なる哉、大正十一年二月、氏二十四歳の春である。期年幾何ならずして大震災に遭遇すと雖、續いて澎湃たる復興の氣運に乘じ、活躍又活躍、よく業礎を堅くするに成功した。爾來烏兎匆々十有幾年の奮鬪、遂に店勢を張つて順

調なる店勢を張りつゝある。又、氏は大森第二小學校後援會理事として盡す所が多い。因に、大森區堤方町平田材木店主は氏の實弟である。なほ氏の取引銀行は三菱銀行である。

㊥ 篠崎材木店

篠崎弘

營業所　明治二十九年二月十九日生
東京市大森區大森三ノ二八二

氏は神奈川縣人である。即ち、同縣都築郡二俣川村に生れた人。橫濱市西戶部篠崎材木店主の實弟に當る。高等小學校優等卒業後、家兄の足迹を辿り材木商を選んで修業すべく、上京して深川區木場の石澤材木店に入り、拮据勤勉、斯道の研鑽九年に余つた。而して練達の手腕を振つて獨立すべく大正十三年、帝都復興の氣運澎湃として、材木の需要頓に激增の機會を握んで、氏は、現地に自營開業したのであつた。かくて、一擧にして牢固たる地盤を築き得た氏は、爾來努力の十幾年を經て、店勢益々順調に、業績彌々擧るの現況を招來したのであつた。なほ氏の長男榮一氏(大正十一年生)は熱心に家業に精勵するのみならず、實兄並に程ヶ谷篠崎材木店主なる實弟と、有無相通ずるの協力緊密なるものあつて、當店の前途、正に稅額に價すると謂つて過言ではない。

㊦ 石井材木店

石井鐵太郎

明治四年十二月三十一日生
營業所　東京市大森區大森七ノ二

氏は埼玉縣の出身者である。實兄千住の熊吉材木店主の足迹を學び、材木商を以て身を立てんと志し、上京して、或は千住熊野屋材木店に、或は本所區の新村屋材木店に、斯道の習練を重ね、斯業の研鑽を積み、獨立の機運を握つて現地に創業したのは、實に明治三十九年九月五日、氏三十五歳の秋である。爾來、春風秋雨の星霜玆に三十幾年。氏の一貫せる努力奮鬪は、當方面一流の店舗として、其の名江湖に藉甚し業界老舗の一として、斯界一方を重鎭たる現況を贏得たのであつた。而して、長男小一郎氏、よく家業に精勵して氏の手足であつたが、今次の日支事變起るや、應召して勇躍征途に就いたので、氏は一層の發奮、勤勉店務を司つて、齡鑠少壯を凌ぐの慨がある。

㊥ 田中材木店

田中四朗

營業所　明治三十一年生
東京京大森區大森一ノ四一六
電話大森三五二三番

氏は當地の出身である。年少幾多の曲折を經て、材木商を志すに至り、六鄉の丸半材木店に入つて、斯業の研鑽を怠らず業務の練達に努めた結果、獨立の自信を得て機會を俟つた而して、帝都復興の氣運日に澎湃として材木の需要日に激增を見つゝある大正十四年、當地に內外材木一般、特に小角、丸太類を主として取扱ひ、一店を自立經營して、宿望を遂したのであつた。時に氏二十七歳、爾來、十五年に垂んとする

氏の奮闘は、見事店勢の殷盛を以て酬いられ、現に店員三名を置き、支配人青木甫治氏（大正二年生）を置いて、坦々たる大道にも似た店務の順調を辿りつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

西岡正和商店

西　岡　正　和

明治三十年十二月二十一日生
營業所　東京市大森區大森二ノ一四五
電話大森五二九七番

氏は徳島縣の出身で、同縣三好郡池田町に生れた人である。年少幾多の曲折を經て、實業に志し、材木業を以て身を立てんと欲し、斯道修業の爲、弱冠にして郷閭を辭し、遠く東都に上つて大森區なる三友材木店に入り、碧水の勞を厭はず、具に修練の苦難を喫すること十年余。遂に精通を以て自他共に容すの手腕を振ふべく、現在の地を相して、内外木材、ベニア板、銘木類を取扱つて、獨立開業したのであつた。時に昭和四年、氏而立の歳である。爾來、十年の年歳を經たる今日、業礎全く堅く、業績日に擧り、現に店員二名を使用して堅實順調の大道を店勢は辿りつゝあるに至つた。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

鈴木屋材木店

鈴　木　千　年

明治二十六年三月二十二日生
營業所　東京市大森區大森三ノ二六一

氏は福井縣出身者で、南條郡南日野村字大道に生れた人である。小學校卒業後、十三父母の膝下を離れ、遠く東都に出で、深川區木場の太田德九郎材木店に勤め、風夜勤勉、業務に忠實に、斯業の研究に精勵すること十六年余。遂に獨立して一店を創立するの自信を得、機を摂んで現地に自營の途に就いたのが、實に大正十一年、氏二十九歳の時、期年ならずして曩古の大震災に續く復興の氣運に乘じ、活腕よく今日の業基き確立し得たのであつた。爾來、星霜二十年に近く、當方面の古參業者として、一流店舗として殷賑なる店勢を張つて、今日に及んで居る。なほ、氏は有名なる子福長者で、子息八名あり。

佐藤材木店

佐　藤　由　太　郎

明治二十七年四月二十四日生
營業所　東京市大森區大森四ノ二二〇
電話大森八一九六番

氏は山形縣出身で、同縣西置賜郡平野村字平山に生れた人である。年少幾多の曲折を經たる後、志を抱いて上京したのは大正五年、氏二十二歳の時。東京市電氣局に職を奉ずること六年余にして辭し、帝都復興の氣運に乘じて、北産商會を興し、雜木材商を營んだが、昭和五年十一月、現地に移轉し精勵の十年を閲せる今日、北海道堅木材、自動車用材、家具乾燥材、ラワン材並にベニア板の販賣と、各種挽材を請負ひ當工業地帶の一流大工場、自動車ボディ工業者方面に顧客層

を獲得し、六名の店員を使役し、一流店としての殷盛なる業勢を張つて業界一方の重鎮たる現況である。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

熊崎材木店

熊　崎　策　朗

明治三十五年四月九日生
營業所　東京市大森區大森一ノ三六四
電話大森八二三八番

氏は岐阜縣の出身で、益田郡小坂町に生れた人である。年少幾多の曲折を經た後、飛田物産株式會社に入つて、忠實精勤の譽れ高きこと多年。遂に拔擢せられて東京出張所員となつた。時に昭和四年、氏二十七歳の折である。而して、氏は獨立の念止み難く、昭和六年、氏二十九歳の時この地を選んで御料林拂下材專門の店舗を自立經營したのであつた。爾來奮闘努力の幾年を經て、氏の手腕卓拔と氏の店舗の地利とは短日月にして顯著なる成功を齎し、當方面の第一流店として業界刮目の的となつて居る。氏は資性慧敏よく衆望を負ふ。乃ち現に警防團群長として公共の爲盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、大師銀行である。

西野材木店

西　野　五　郎

明治三十九年一月二十七日生
營業所　東京市大森區池上德持町九三七
電話池上七三一番

氏は德島縣人である。即ち同縣名西郡神領村字上角西野伊三郎氏の長男である。年少にして父母の膝下を離れ、上京して深川區木場の濱本商店に入り、材木業を習得すること八年に余つた後、嚴父老年の故を以て、一旦歸郷して、家業にいそしむ所があつた。而して嚴父の逝くや、材木業を以て身を立てんと志し、再び上京して、蒲田區東蒲田町四の丸正材木店主の義兄に當るを幸ひ、同氏の指導下に斯業伸實の事務を習ひ得たる後、昭和十三年十月、現地に獨立し、内外材木、主として建具材を取扱つて開業し、多年の念願を果したのであつた。爾來日尚ほ淺きに拘らず、氏の練達の手腕は義兄の懇篤なる指導下に、當方面の異常なる發展と相俟つて、その洋々たる前途を開拓し得るであらうことは疑を容れない。因に氏の取引銀行は、住友銀行蒲田支店である。

宮内材木店

宮　内　喜　助

明治三十八年三月十日生
營業所　東京市大森區南千束町三八二
電話荏原三二四九番

氏は千葉縣人で、銚子市三軒町に生れた。嚴父は宮内梅吉氏で、實兄榮吉氏は荏原區小山町五一七宮内材木店主である氏は、實兄の足迹を追うて材木業を以て身を立てんと欲し、實兄の懇切なる指導下に、專念斯業の習錬研鑽を怠らざること多年。偶々現地に實場を經營するの機に遭遇し、氏は一切を主宰して多年練磨の活腕を振ひ、顧客に應じて懇切、商機

を摑んで俊敏、逐年業績を擧げ得て、以て業礎を固めて今日に及んで居る。誠に、實兄と轡を並べて業界に馳驅する樣は正に壯觀である。しかも、氏は而立を超ゆる幾何もなく、年齢甚だ春秋に富む。その大成は、業界共眼者の等しく刮目して期待する所である。

櫻井材木店

川越寛二

明治卅四年七月廿五日生
營業所　東京市大森區大森六ノ二七五七
電話大森六三一六番

川越氏は岩手縣江刺郡廣瀬村出身にして、大正四年志をたて北海道に渡り小樽商業學校に入學卒業後三井物産會社に入社し小樽及び旭川支店詰め木材部に勤務、斯業を習得し昭和三年退社上京、豫て宿望であつた現業を大森一丁目に開始し其の堅實なる營業振りは着々成功し業界各方面より多大の信用を博すると共に得意先の增加から其後現地に移轉し益々事業の擴張に奮闘努力の結果、現今京濱一帶に亘る自動車ポデー工場製作業者より氏の實直と熱誠が賞讃されて取扱品は月を逐ふて增加の一方を辿り將來の發展期して俟つべきものがある。而して同店の取扱ふ主なる品目は北海道產雜木挽材、ラワン、ベニヤ板。南洋材等で取引銀行は、日本興業夜品川支店及び第一銀行大森支店である。

㋑ 小兼材木店

宮岡兼吉

明治廿九年一月十三日生
營業所　東京市大森區入新井二ノ四〇
電話大森四五八七番

氏は東京市日本橋區三代町富岡儀兵衛氏長男にして年少材木商を志し、芝區小金材木店に入り刻苦勉勵、實に十七年の長年月に亘る間主家の發展に全力を傾盡し、主家並に取引先より絶大なる信用を博したるのは業界一般の熟知する處である。然して大正十二年五月惜まれて退店宿望の獨立を目指して現地に營業を開始するや間もなく彼の關東大震災に遭遇したるも幸に被害輕少なりしを以て氏は一大決意の下に帝都の復興を目指して勇往邁進殆ど寢食を忘れての奮闘努力は各關係方面より感謝の念を以て迎へられ業務は年を逐ふて發展し現京濱間一帶の建築業者より絶大なる信用を博し更に推されて町會幹部として時局下町會の爲め献身的努力氏の將來に多大の期待が掛けられてゐる。

㋕ 沼田材木店

沼田彌太郎

明治廿四年十月廿四日生
營業所　東京市大森區入新井一ノ九七九
電話大森五三〇六番

氏は東京市大森區入新井の沼田彌次郎氏の長男として生れたるも、生家は代々海苔商並に農業を營みありしも時代の進歩に伴ふ郊外の發展から材木商の有利なる點に着眼したる氏は何等經驗なき身を以て大正八年二月現地に材木店を創立し爾來堅實方針に則り取引先の信用を得るに努めたる結果業績は逐年發展し遂に今日の如き確固たる基礎を樹て京濱間各種工場及び建築業者より絶大なる信用を博しあり、現に大東京木材商業組合理事として組合の發展に貢献しあり、資性溫厚篤實、公平無私にして敏腕の聞え高し、其の將來に大なる期待がかけられてゐる。因に氏の取引銀行は、第百銀行大森支店にして蒲田區北糀谷町に資場を設く。

K.T 勝又材木店

勝又久治

明治三十七年十月二十六日生
營業所　東京市大森區大森五ノ一〇二九
電話大森八一七番

氏は靜岡縣沼津市吉田町に生れた人で、芦澤彥太郎氏の六男で、小學校卒業後、上京して深川區木場に至り、材木商家に勤めて實務習練の後、大正八年、豐島區雜司ヶ谷七ノ九九一なる勝又源市郎材木店に入り、精勵黽勉悉く店主の信頼を蒙り、昭和二年、店主の親戚にして當店を經營せる勝又織作氏に迎へられてその養嗣子となる。已にして同年織作氏逝き氏は家督を相續して孜々營々の十幾年。今や當店は、舊來の基礎一層の强固を加へ、店員多數を擁して、當方面屈指の店勢を張り、氏は業界中堅として產業報國の第一線に活躍しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百、三菱各銀行大森支店。

大森三ノ一四五　電話大森三二〇九番
矢崎滄之助

同	一ノ一〇五	電話大森三六二二番　大澤縫吉
同	五ノ四六	電話大森四六二九番　岩城常藏
入新井町五ノ二五八		電話大森三一六二番　中村長四郎
池上德持町九四六		電話池上二四番　淺野彌五郎
大森七ノ二七〇		電話大森八九八一番　橋本吉左衛門
同	三ノ三六四	電話大森八二三八番　熊崎作五郎
同	一ノ二〇〇	高橋壯吉
池上德持町二五一		電話池上〇八八七番　河野芳男
入新井町一ノ一二七		電話大森二二〇八番　山崎虎次郎
馬込町東四ノ四七九		近藤虎三
南千束一三		門倉吉太郎
調布大塚町五九六		藤崎惠吉
調布嶺町一ノ二四二		鈴木和造
田園調布二ノ七〇〇		吉橋虎雄

蒲田區

㋑ 伊藤材木店

川森元六

明治三十六年十一月二十三日生
營業所　東京市蒲田區東蒲田町二ノ五

氏は、東京府の出身であつて、西多摩郡檜原村字時坂に生れた人。嚴父は島崎素吉氏で、氏は其の二男であるが、川森家に入籍したのである。年少、實業に志し、材木商の有利を知つて業務習練の爲、上京して深川區木場の内山商店に入り日夜、業務に精勵して、店主の信頼と同輩の敬愛を贏得たのであつた。かくて多年の後、業務に練達し、業勢に通曉したので、現地に店舗を設け、内外材木各種を取扱つて獨立し、以て宿望を達したのである。時に大正十五年、氏二十三歳。爾來、星霜を閲する十年を超ゆるの間、氏は氣鋭進取の方針に徹して、多年練磨の手腕を振ひ、遂に、店勢甚だ順調を辿る現況を招來したのである。

㋕ 谷合材木店

谷合嘉一郎

明治二十四年三月一日生
營業所　東京市蒲田區東蒲田町二ノ一一
電話蒲田二三六〇番

氏は東京府下西多摩郡の出身者である。年少より實業に志し、幾多の曲折を經て材木商の有利多望に着眼し、具に辛酸を嘗めて斯業を習修し、遂に業務練達、業勢通曉、現地に内外各種材木を取扱つて獨立自營、以て宿望を果したのは、大正十一年十月一日、氏三十一歳の折である。爾來十有七年の奮闘は一起一伏の波瀾をよく克服して、遂に蒲田方面一流の店舗たるを得せしめた。寔に氏の活腕は、數年前の急激なる當方面の發展に乘じ、殷賑なる工場を主なる顧客として年賣上高八十萬を算するに至つたのであつた。なほ、俊敏なる氏の風格は、四隣町内の信頼を蒐め、町會長或は町會副會長として、公共自治のため盡瘁すること前後十余年。又北蒲田小學校保護者會常務理事に推されて居る。因に氏の取引銀行は第百銀行、蒲田信用組合である。

「サ」 吉村羽田賣場

上山孫三郎

明治四十四年生
營業所　東京市蒲田區糀谷町二ノ五二八
電話大森四七八六番

當店は淺草區北清島町八十一番地にある吉村材木店本店の全市に有する八ケ處の賣場の一つである。而して、當店主上山氏は、年齒而立に足らずして、しかも拔擢せられて經營に任ずるの人。その手腕の練達と、頭腦の俊敏は、玆に贅する迄もない。よく吉村氏の股肱となつて、店運の興隆に寄劃し、當地の急激なる發展に乘じて、顧客の獲得に成功し、昭

和十二年十一月開設以來、日尚ほ淺きに拘らず、三名の店員を置いて、大に店勢を張るの現狀である。斯の如き業績より推せば、其の前途正に洋々と謂ふべきであらう。

〈圭〉 田中材木店

田中圭治郎

明治四十二年五月七日生
營業所　東京市蒲田區東六郷一ノ三九
電話蒲田四五九〇番

氏は東京府の出身者で、西多摩郡小宮村に生れた人である高等小學校優等卒業の後、實業に志し有望なる材木商を以て身を立てんと欲し、上京して深川區木場の山木材木店に入り夙夜懈らずして業に精しく、職に勵んだ甲斐あつて、奉公七年の後、業務に精達し、業勢に通曉したので、昭和十年現地を選んで店舗を開き、内外各種材木の營業に從事したのであつた。即ち、氏二十六歳の七月、多年の宿望を果して獨立の第一歩を踏んだのであつた。爾來日なほ淺きに拘らず、奮闘よく業基の堅きを築き、老練よく業域の廣きを致し、業績逐年に擧がつて、店員三名を置いて店勢大に張るの現況である因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

〈平〉 平林材木店

平林鐵藏

明治二十八年生
營業所　東京市蒲田區本蒲田町三ノ九ノ二
電話蒲田五〇二五・二〇六一番

氏は靜岡縣人である。即ち同縣島田町に生れた。幼時より家業の材木商を助け、一意家運の興隆を目指しつゝ、斯業の習得研鑽を怠らなかつた。爲めに業務に習熟練達して、年少已に一廉の材木商としての手腕を有するに至つた。玆に於いて東都進出を企圖し、活腕を縱横に振ふべく、現地に店舗を設け、内外各種材木を取扱ひ、以てその經營に當つたのである。時に大正三年、氏十九歳の時である。爾來星霜玆に二十五歳。氏の奮闘的精神に潑剌進取の手腕は、一切の難局を打開し得て、當地方の老舗たる貫祿を示し、店員四名を置いて店勢頗る張るの現況を齎し得たのであつた。なほ、本店は故郷島田町に在る。因に取扱銀行は、第百銀行並に蒲田信用組合である。

〈太〉 丸半材木店

鈴木半兵衛

明治十二年生
營業所　東京市蒲田區六郷橋際
電話蒲田二三〇三・川崎二〇五一

當店は文政十年十一月の創業に係はつて、星霜一百十年に余る老舗であり、氏に至る連綿六代の舊家である。氏は五代竹太郎氏の次男としてこの地に生れ、令兄と共に年少より家業に携り嚴父を輔けて、家運の興隆に努めた後、明治三十三年氏二十一歳の折、出でゝ深川區木場の某店に就き、更に斯業の奥を極むること五ケ年に及んだ。而して、嚴父の逝くや。令兄に代つて箕裘を襲ぎ、磐石の基礎に立つて、多年練

磨の手腕を縱横に振ひ、店勢の盛大、店員五名、常傭五名を置いて、當方面の一流を持するのみならず、業界の一方に覇を稱して、現に大東京木材商業組合監事並に蒲田支部長である。なほ、當店の支配人小林氏は、明治大學出身の秀才であつて、店主の指導下に、全員を統べ、總務を司つて、些の遺漏もない。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

近彦材木店

幸田泰治

明治二十九年五月五日生
營業所 東京市蒲田區羽田三ノ六二六
電話羽田一〇六番

當店は、初代幸田彦七氏の創業に係り、德川時代以來四代を繼承せる老舗として著名である。泰治氏は、此の地に生れ此の家に育ち、幼にして家業に携り、少にして父兄を助け、學ばずして業務に精しく、習はずして業勢に明なるを得た。而して昭和十一年、三代を繼げる兄君より、家業一切を讓られ四代目彦七を襲名して今日に及んで居る。業基は已に磐石の如く、手腕は既に圓熟の域に達せる氏は、更に奮鬪的精神を振作して、業務に精進せる結果、よく老舗の名譽を確保して、父祖の業を盛大ならしめ、現に當方面第一流店として、業界に重きをなして居る。現に店員二名の外常傭數名を使用して、店勢殷賑である。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

合名會社 丸晉材木店

鈴木甚之

明治三十九年七月十四日生
營業所 東京市蒲田區東六郷四ノ一三ノ一〇
電話蒲田二六〇四番

氏は當地の出身で、年少より實業に志し、材木商の有望を選んで、多年斯業修練研鑽の後、內外材木各種を取扱つて、獨立したが、昭和十年、合名會社組織として陣容を新にし、信蹤する努力を以て、業礎の强化、顧客の獲得に奮鬪すること玆に年あつて、遂に、諸會社工場、同業者、一流土木建築業者間に大に納入を主とし、店員四名を置いて、店勢大に張るの現況を招いだのである。氏はなほ春秋に富むが故に、秀拔の手腕を以てすれば、當地方面の發展顯著なると相俟つてその大成を刮目して期待し得べしとする向が、業界具眼者の間に多い。因に氏の取引銀行は、第百銀行であり、横濱興信銀行である。

上村材木店

上村與作

明治二十一年十一月一日生
營業所 東京市蒲田區新宿町一五一四
電話蒲田二五一一番

氏は新潟縣の出身で、同縣中魚沼郡水澤村に生れた人である。年少幾多曲折を經て後、荏原區上神明町に於いて、椋、櫻、櫻、北海道材を主として、ムトン用材を專門に、斯業を

獨立開始した。後、昭和五年、現地の發展に着目して移轉し舊來に信蹤するの努力を以て、業礎を堅からしめ、業域を廣からしめ、以て業績を擧げ得て今日に及んで居る。氏の奮鬪的精神は、氏の老練なる手腕と相俟ち、特殊材を取扱つて、業界獨自の分野に邁進し、遂に今日の成功を獲得したのであつて、現に業界の一流店として重きなし、店員七名を算するの殷賑を來して居る。因に、氏の取引銀行は、第百銀行である。

田中材木店

田中繁章

營業所 太正四年八月十八日生
東京市蒲田區下丸子町一三二
電話蒲田四一五二番

氏は東京市の出身で、深川區靈岸町にて呱々の聲を擧げた人である。家業は材木商であつたので、幼少より家業に携つて父君を助くる所があつたが、昭和八年八月、現地の發展著しく斯業に有利なるに着目して移轉を敢行した。後、氏は家業の一切を繼承して、父君の墨なる指導下に經營の中心となつて、多年練達の手腕を振ひ、新に基礎を築き、業域を拓いて星霜六年を閲し、已に既に業績頗る顯著。現に店員二名を使用し、當方面一流店としての繁榮を招き、業界の一方に覇を稱して雄視するの店勢を張つて居る。氏は誠に春秋に富む。加ふるに、父君なほ健鑠として指導に努むるあつて、其の將來、正に洋々として祝福せらるべき者がある。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

西久保材木店

西久保省三

明治四十三年二月十六日生
營業所 東京市蒲田區糀谷町二ノ四四四

氏は埼玉縣の出身者で、同縣入間郡飯能町に呱々の聲を擧げた人である。小學校を卒業するや、父母の膝下を離れて横濱市に到り、加瀨材木店に入つて、精勵勤勉、よく店主の股肱となり、同輩の模範となり、昭和十一年一月、勤續十ヶ年の模範店員として神奈川縣商工組合より表彰せらるゝの榮譽を擔つた。しかも氏は更に三年の星霜をこの店に送つて、斯業の研鑽を怠らず、昭和十三年、氏二十八歲の五月、始めて現地に下して店舗を設け、內外各種木材を取扱つて、獨立自營の道に就いた。かくて草創日なほ淺きに拘らず、着々業績を擧ぐるに成功して今日に及んで居る。氏は而立に達せず、甚だ春秋に富む。奮鬪の精神と、老練の手腕と相俟つて、氏の前途正に春日の如しと云つて過言でない。因に氏つ取引銀行は、第百銀行である。

武市材木店

武市高雄

明治三十六年三月二十四日生
營業所 東京市蒲田區蘆沼一ノ一三
電話蒲田二七七〇番

氏は、德島縣の出身で、名西郡浦鹽村字國吉に呱々の聲を

揚げた人である。嚴父は武市岩吉氏。氏は其の三男である。年少、遠く家郷を辭して上京し、同郷なる岩城屋材木店に入り、夙夜昵勵斯業の修練に力むること十數年の永きに亘り、巨細となく業界に通曉し、大小となく業務に練達し、斯道卓拔の手腕を囂はるゝに至つた。かくて昭和三年七月、現地の發展永久性あるに着眼して店舗を設け、內外各種木材を取扱つて獨立開業したのであつた。爾來星霜十年を閱して、顧客本位を標榜する氏の營業方針は、現地の著しき發展性と相俟つて、當店をして、年額六十萬圓の取引を行はしめ、四名の店員を置いて、一流店の勢威を張らしむるに成功したのである。氏は資性篤實、頗る衆望あつて、現に推されて町會副會長、同業組合會計、通會貯金部長として公共の爲盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百、安田、蒲田信用組合等である。

㋕ 河邊材木店賣場

大郷義道

明治三十四年五月二十四日生
營業所 東京市蒲田區蒲田三ノ一二
電話蒲田四〇三〇番

氏は埼玉縣の出身である。即ち、浦和町に生れた人である小學校を卒業するや、同町內の河邊材木店に入り、精勵勤勉斯業の習練に研鑽に努むること十有七年の永きに亘つた後、業務の亘細に精しく業界の表裏に明となつたので、玆に獨立の念願に燒烈となり、且つ東都進出を企てゝ擾を伺ひつゝあつたが、昭和七年六月一日、現地の工業地帶として斯業に有望なるに着眼し、河邊材木店賣場として店舗を設け、氏はその練達圓熟の手腕を縱橫に振ふこととなつた。時に氏三十一歲。爾來、會社工場一流土木建築業者を顧客として、殷賑なる今日の店勢を張り、店員三名業務に忙殺さるゝの現況である。因に、氏の取引銀行は、三菱銀行並に第百銀行である。

㋝ 森林材木店

高橋林藏

明治二十七年九月十一日生
營業所 東京市蒲田區仲六郷二ノ一二
電話蒲田四五一二番

氏は東京府下の出身で、西多摩郡戸倉村に呱々の聲を擧げた人である。年少幾多の曲折を經た後、冠を越えて實業に志し、材木商の有望なるを知つて、斯業習得の念禁じ難く、上京して深川區木場の森下材木店に奉公し、忠實業に服し、精勵職に努むること七年の後、自營し得るの確信を掴んで、現地有望なるを相し、森字を分けて店舗を設け、內外材木各種を取扱ひ、以て獨立の第一歩を、氏の人生に印し、以て多年の宿望を果し得たのであつた。時に大正十四年、氏而立を越ゆる一歲。乃ち帝都復興の氣運に乘じて圓熟の手腕を振ひ着々業績を擧げて今日に及び、現に店員二名を使用して、店勢著だ振つて居る。なほ氏の當地に在る十五年に近く、加ふるに重厚の資性頗る四隣の信頼を蒙り、八幡塚町會副會長、

同町家庭防火團副團長等に選ばれて、公共の爲盡力しつゝある。因に氏の取引銀行は、安田銀行並に蒲田信用組合である

㋟ 杉山材木店

杉山竹次郎

明治二十五年二月十五日生
營業所 東京市蒲田區矢口町一六番地
電話蒲田三七五二番

氏は東京市の出身で、京橋區木挽町に生れた人である。年少幾多の曲折と幾多の波瀾を經た後、建築材料、衛生陶器、タイル、土管、瓶等の販賣に從事して、大に業績を擧げ得たのであるが、昭和五年、多年着目して其の有利なるを知つた材木商を兼營した。時に氏三十八歲。即ち倍舊の奮鬪的精神を鼓舞し、老練なる手腕を縱橫に發揮し、星霜十年に垂んとする今日、頗る業績を擧げて店務殷盛を極めて居る。當地方は、現に異常の發展を示しつゝあるが、氏の老練なる手腕は其の機運に乘じて、必ずや其の大成を致すべく、業界具眼者の齊しく刮目して期待する所である。

伊藤材木店

伊藤隆康

明治三十五年一月十二日生
營業所 東京市蒲田區小林町三一〇

氏は靜岡縣の出身で、同縣は周知郡氣田村に生れた人である。年少にして實業を志し、材木商の有利多望を知つて、斯業經營を念願とし、遠く郷關を辭して東都に上り、深川區木場の小松屋材木店に入つて、薪水の勞を厭はずして、夙夜懈らず、業に服して忠實、職に盡して精勵。かくて、漸く業務に練達し、業勢に通曉するや、玆に獨立の確信を得て、地を現在他日の有望にトし、一店を構へて內外材木を取扱ひ、自營を開始して、他年の宿望を果したのであつた。時に昭和三年三月、氏二十六歲の春である。爾來、氏の小壯氣鋭積極進取の營業方針は、星霜十年を閱して、逐次その効を奏し、一般建築業者に、諸會社工場に、廣汎なる顧客層を獲得し、堅き業礎を築いて今日に及んで居る。氏は重厚の風格、甚だ衆の推す所となり、現に軍友會の役員である。

㋡ 湯淺材木店

湯淺芳雄

明治三十五年三月十八日生
營業所 東京市蒲田區安方町二二七
電話蒲田四四七三番

氏は德島縣の出身で、同縣勝浦郡小松島町田野に生れた人である。小學校を優等な成績で卒業後、遠く父母の家を辭して東都に出で、深川區木場の濱本材木店本店に入り、拮据勤勉、職に忠に、業に勵んで、春風秋雨十六年の星霜を閱し、斯業に精しく、斯界に通ずるを得たので、現地を相して店舗を設け、內外各種木材並に製材を取扱つて、獨立經營を開始した。即ち昭和七年、氏而立の年である。爾來、日尙ほ淺くして己に業礎の堅きを致し、諸會社工場建築會社等大口納入の顧客を獲得して、業績日に擧がり、二名の店員を置いて店

勢大に張る。以て氏の齎開的精神の高揚と老練なる手腕の活用とを知るべきである。因に氏の圓滑なる風格頗る周圍の信頼を得、現に町會役員、納稅組合會計等に推されて、公共の爲盡しつゝある。なほ氏の取引銀行は、蒲田信用組合である

平 伊藤材木店

伊藤平藏

明治三十一年六月二十日生
營業所 東京市蒲田區安方町二四八

氏は東京市の出身で、日本橋區上槇町三番地に生れた人である。年少幾多の曲折を經て、實業に身を立てんと欲し、材木商の有利多望を知つて、斯業習練の爲、近忠材木店に入り具に刻苦して業務の練達を期すること多年。斯業大小となく通曉し、斯界亘細となく明達し得て、獨立の自信旺然として湧く。乃ち、現地の他日有望なるを相して店舗を設け、內外各種材木を取扱つて、自營の一歩を踏み、以て他年の念願を果したのであつた。時に昭和元年、氏二十八歲の折である。爾來、梯風沐雨、星霜を閱する十五年、業礎磐石の如く、業域當方面に週く、業績日に擧がつて、業勢月に振り、現に店員二名を置いて、殷盛の商況を呈しつゝある。

扇 小義材木店

淺野義雄

明治四十一年九月一日生
營業所 東京市蒲田區新宿町一三五八

氏は東京市の出身で、しかも神田の生れである。即ち同區鍵倉町の淺野留吉氏四男である。高等小學校を優秀な成績で卒業した、後芝區芝園橋際の小金材木店に入り、斯業の習得研鑽に力むること十二年の長きに亘り、忠實にして店主の信頼を蒙り、精勵にして同輩の敬愛を受けた。されば氏は東京材木商同業組合より、その勤績と模範を表彰せられ紀念品を贈らるゝの榮譽を受けたのだつた。かくて業務精通、業勢明達の曉、昭和十一年十一月、店主の厚意により小字を用ゆるを許されて現地に店舗を設け、內外材木各種を取扱ひ、獨立開業した。爾來年處を經る事幾何ならずして、氏の齎開よく草創の難關を突破し得て、店勢順調の一路を辿りつゝある。氏尙ほ春秋に富む。加ふるに鍛練の手腕と天性の慧才を以てするが故に、その大成は、業界具眼者の齊しく刮目する所である。因に氏の取引銀行は、第百銀行蒲田支店である。

福 福山材木店建築部

福山利一

明治三十年一月七日生 惠三)
營業所 東京市蒲田區東六郷二ノ九ノ一
電話蒲田四一六六番

氏は德島縣の出身で、德島市八萬町大野なる福山紋二郎氏の二男である。年少十七歲の折、志を抱いて鄕關を辭し、東都に出で、本所區菊川町なる藤井勘三郎材木店に入り、勤勉職に忠に、精勵業に努むる事十年に餘つた。かくて、業務に精しく業勢に明かとなつた後、大正十二年五月、現地をトして店舗を設け、內外各種材木を取扱つて獨立開業した。時に氏二十六歲、少壯氣銳、積極進取、幾何もなく業礎を堅くし業績を擧げ得たのであるが、更に昭和八年の頃より、土木建築請負業を兼營するに至つて俄然店勢の興隆著しき者があり當方面第一流の業績を擧げて今日に及んで居る。なほ氏の資性篤實にして四隣町民の信頼する所となり、推されて公共自治の爲盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、安田銀行蒲田支店である。

太 横田材木店

横田丑五郎

明治二十三年十二月一日生
營業所 東京市蒲田區東六郷一ノ一八

氏は東京府の出身者で、府下西多摩郡增子村に呱々の聲を擧げた。嚴父は横田清吉氏。氏はその二男である。十七歲の折、上京して、蒲田區六鄕なる丸半材木店に入つてより、梯風沐雨、忠實業に服し、勤勉職に努むる實に二十五年。遂に一店の柱石、店主の股肱たりしのみならず、その無双の精勤を謳はれ業界の模範として、或は東京材木問屋同業組合より或は荏原材木商組合より、表彰せられ紀念品を贈らるゝ等の榮譽を得た。而して、現地に店舗を設けて內外木材各種販賣の外、製材加工を取扱つて獨立したのは、昭和七年、氏不惑を超ゆる已に二歲の折である。爾來、八星霜。氏の商才と手腕は着々業績を擧げて、當方面の業界に重きをなすに至つた事は、玆に敢々を要しない。なほ重厚の風格よく衆の推す所となり、公共自治のため盡すこと鮮くない。因に氏の取引銀行は、蒲用信用組合である。

吉 石邑材木店

石邑幸一郎

大正四年生
營業所 東京市蒲田區糀谷町二ノ五二七
電話蒲田四三二九番

氏は蒲田區內の出身である。氏七歲の折、嚴父は氏の生地に於いて材木商を開いたので、氏は幼少より嚴父の手足となつて家業に精勵する所があつた。されば、年少にして、氏は已に一個の材木商たる活腕と敏才を有するに至り、嚴父を助けて家業の興隆業績の上昇に盡瘁すること甚大なものがあつた。かくて、氏二十二歲の時、即ち昭和十二年、現地に進出を敢行し、日尙ほ淺きに拘らず、草創に等しき荊棘を開拓して、着々、業基を築き、業域を廣め、店勢甚だ順調を辿るの現況である。氏弱冠を超ゆる幾何ならず、その春秋に富める前途の、洋々たるは玆に贅言を要しない。

古山材木店

古山多摩留

明治三十五年二月十八日生
營業所 東京市蒲田區仲六郷町一ノ二〇

氏は東京府の出身で、古山五郎吉氏の四男、西多摩郡大久野村で生れた人である。小學校を優秀な成績で卒業するや、上京して深川區木場なる內山材木店に入り、拮据勤勉、斯道

の習練に懈らざること十年に餘つた。かくて、敏捷の手腕と慧敏の才能を自他相許すの域に達したので、昭和二年、當地の將來發展すべきを相して店舗を設け、磨丸太、建築材、竹材等を取扱つて開業し、玆に宿望を達して獨立の第一歩を踏んだのであつた。時に氏二十五歳、人生五五の春。爾來、星霜を閲して十年に餘る氏の奮闘は、草創の荆棘を拓いて、成功の大道に就き、業礎堅く、業域廣く、現に二名の店員を置いて店勢大に張る。氏の資性篤實にして四隣の推す所となり町會に役員として、公共のため盡す所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、六郷信用組合である。

土屋材木店

土屋　賢三

明治三十一年生
營業所　東京市蒲田區東蒲田三ノ四四
電話蒲田二六二一番
寶　場　同　市同　區蒲田新宿町
電話蒲田二一三二番

氏は千葉縣の出身で、同縣銚子市松岸町に生れた人である幼少十一歳、父母の膝下を離れて上京し、神田區佐久間町なる義兄土屋衛氏の材木店に身を托して、專念斯道の習練と研鑽に沒頭すること十二年に餘り、業務練達、業勢通曉、才腕を以て自他相許す境致に達したので、大正十年、現地の發展有望なるに着目し、店舗を構へて內外材木一般を取扱つて、自立開業し、獨立の第一歩を氏の人生に印したのであつた。爾來、權風沐雨、奮闘に終始して星霜二十年に達んとする今日、當方面第一流店として、店員七名常傭一名を置き、店勢大に張る。而して氏の重厚にして且つ慧敏なる風格はよく業界の人望を獲得し、現に大東京木材商業組合理事として、斯界に重きをなして居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行並に蒲田信用組合である。

藤屋材木店蒲田支店

兒玉　邦治（憲章）

明治三十八年十二月三日生
營業所　東京市蒲田區糀谷町二ノ七二七

氏は福島縣の出身で、同縣信夫郡野田村字上ノ寺二枚橋に生れた。兒玉信太郎氏の三男である。年少幾多の曲折を經た後弱冠志を實業に立てゝ鄕關を辭し、東都に上つて材木業を選び、先づ葛飾區本田澁江町の靑木材木店に於いて、斯業習練七ケ年に亘つた後、更に向島なる藤屋材木店に入つて、斯道研鑽六ケ年餘。かくて業務練達、業勢通曉その商才に於いてその手腕に於いて、獨立經營の確信を握み得たので、昭和十三年十二月、現地の發展性に着目して店舗を設け、內外材木各種並にベニア板を取扱つて營業を開始し、以て宿望を達したのであつた。草創なほ日淺くして、しかも、氏の敏才活腕よく荆棘を拓いて成功の大道に就いた。年齡なほ春秋に富む。氏の前途正に春風駘蕩の趣ありと謂つべきである。因に氏の取引銀行は、第百銀行蒲田支店である。

合資會社　丸正材木店

西野虎五郎

明治三十年十月二日生
營業所　東京市蒲田區東蒲田四ノ一
電話蒲田四三四一番

氏は德島縣人で、勝浦郡小松島町田野に生れた。嚴父は西野嘉五郎氏で、氏は其の三男である。年少にして父母の膝下を離れ、上京して深川區木場なる濱本商店に入り、斯業の鍛練に努むること前後十二年に亘り、悉く店主の信頼する所となり、その後半に於いて同店營業主任に拔擢せられ、縱橫にその活腕を振つた。然る後深川區平野町二ノ一四に獨立營業を開始したが、偶々金解禁に因る一般財界の不況に遭逢して影響甚大。氏の活腕を以てしてなほ事業挫折の餘儀なきに立至つた。しかも雄心勃々たる氏は、昭和六年九月、現地を下して捲土重來、合資會社丸正を興して、內外各種材木を取扱ふの外六百五十坪の工場を建てゝ製材を兼營し、星霜八年を閲して現に店員五名職工二名を使用し、當方面第一流の店勢を張り、業界一方の覇を稱しつゝある。因に氏の取引銀行は三菱銀行並に第百銀行の蒲田支店である。

川政材木店

加藤政尾

明治四十三年九月二十三日生
營業所　東京市蒲田區糀谷町四ノ一七〇〇

氏は石川縣の出身者で、同縣能美郡港村に生れた人である小學校卒業の後、十五志を立てゝ鄕關を辭し、東都に出でゝ麻布區廣尾町なる川幸材木店に入り、斯業の習練に努力すること前後十三年に及び、昭和十三年、東京材木商組合麻布商進會並に東京材木商同業組合より、その精勤を表彰せられ、模範店員としての榮譽を獲得したのであつた。而して、斯業に練達し、斯界に通曉し得たので、同年六月、氏二十八歳の折、現地の工場地帶として發展するに着眼して店舗を設け內外各種材木を取扱つて自營の途に就いた。草創日尙ほ淺いが氏の奮闘努力は、着々業礎を築いて堅からしめつゝある。この手腕あつて、しかも年齡而立に充たざる氏の前途は、正に洋々と謂つべきであらう。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

戸谷材木店

戸谷英作

明治二十七年九月十三日生
營業所　東京市蒲田區御園町二ノ二三
電話蒲田二六四四番

氏は靜岡縣の出身者である。同縣磐田郡掛塚町に呱々の聲を擧げた。年少より幾多の波瀾曲折を經た後、材木業の有利多望なるに着眼し、開業の機を伺ひつゝある中、大震災直後帝都に復興の氣運醞釀として興るを見るや、氏は現地を選んで店舗を設け、內外各種材木を取扱つて獨立開業、懇切低廉を標語として、顧客の需要に應じて、一擧業礎を磐石の安きに置いた。時に大正十三年五月。爾來十五の星霜を閲して、

諸會社工場其他一流建築業者を顧客に多數獲得して、業績日に向上し、當方面の一流店、業界の重鎭としての地歩を確保した。なほ氏は現に大東京木材商業組合蒲田副支部長として業界に重きをなす外、町會役員、警防團副團長、東京市方面委員等、公共自治のため盡瘁する所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、第百銀行並に蒲田信用組合である。

新井材木店

新井康夫

明治四十三年三月八日生
營業所 東京市蒲田區萩中町五九一
電話羽田三七五番

氏は横濱市中區南吉田町新井長吉氏長男として明治四十三年三月生れ、神奈川縣立商工實習學校を卒業後家業を繼承先代長吉氏の指導の下に一般業務に精通し、年壯氣鋭剛氣に富む氏は將來城南方面の發展に連れ斯業の益々有望なる點に着眼し大正十四年七月現地に進出、爾來堅實主義に則り各方面の信用を博するとともに商取引は愈發展し遂に今日の如き强固なる基礎を築き上げ、更に氏は日支事變勃發後同地方の工業界殷盛を思ひ事業の擴張に乗出し業績いとも順調に進展しつゝあり、氏は資性温厚業務に造詣深く常に取引先本位に努力しあるのは業界各方面の賞讃する處にして氏の前途は眞に洋々たるものがある。因に取引銀行は、第百銀行羽田支店である。

沼田賣場

沼田爲吉

明治卅七年一月一日生
營業所 東京市蒲田區北糀谷四二六三
電話羽田三一七番

氏は大森區入新井沼田象次郎氏二男として生れ、氏の生家は農家なるも實兄は獨立して材木商を經營しある關係上、兄を援けて業務の發展に努力すると共に一般業務に精通し昭和六年宿望の獨立が實現し現地に店舗を創設、爾來不眠不休事業の擴張と得意先の獲得に東奔西走遂に强固なる基礎を築き上げ殷賑產業の本場なる此の地方の建築業者より多大の信用を博し現に此の方面に於ける材木の取扱高は實に第一位と稱されてゐる。氏は資性温厚他人とは融和し業界の稀に見る人格高潔各公共的事業に關係し勤勉公平無私の譽高く蒲田區北糀谷町會役員に推され會計の要務を掌りあり更に蒲田青年團贊助員として團の發展に貢獻する處大なるものあり、氏の將來に多大の期待がかけられてゐる。

折本材木店

折本喜太郎

明治廿一年九月三日生
營業所 東京市蒲田區蘆沼二三
電話蒲田三三二番

氏は千葉縣浦安町の出身にして年少材木商を志し、上京（明治卅六年）深川區平野町木登商店に入り刻苦勉勵、一般業務

を習得主家を退店し、一時家業たる土木建築請負業並に材木海苔商に從事せるも其後淺野造船所に入社し木材部に勤務鶴見に製材工場を興し鋭意斯業の發展に努め多大の功績を擧げ得たるは世間周知の事實である、斯くして氏は業界各方面に亘り種々研究の結果意を決し現在の個所に（明治四十四年）獨力折本材木店を創設し爾來多年の經營に基づき堅實主義をモットーに絞腕を揮ひ取引先の信用を獲得年を逐ふて營業は發展し遂に今日の大を爲すに至つた。然して氏は往年蒲田材木商組合副組合長として貢獻する處大なるものあり、組合より感謝狀並に記念品を贈呈其功に酬ゆる處あつた。

村田材木店

村田峰吉

明治廿二年二月十五日生
營業所 東京市蒲田區糀谷町八二
電話羽田六四四番

氏は靜岡縣中泉町の出身、年少の頃材木商を志し上京、深川木場の井幸商店に入り前後七年間の修業を積み、二ケ年の軍隊生活を送り退營後蒲田驛前平林材木店に入り再び斯業に精進同店業務主任として活躍、愈々昭和十一年二月獨立して現在の地に村田材木店を創業今日に至つたのである。今日同地帶は工業都市として目覺しい發展を見て居り、この好況に便乘した氏の手腕は遺憾なく發揮せられ一般建築業者を始め諸工場方面に多數の顧客を獲得し逐次發展向上の一途を辿りつゝある。尙ほ氏は資性温厚にして同業者間の信望厚く、今日まで幾多の公共事業に盡瘁された、しかして氏の取引銀行は第百銀行羽田支店である。

北島商店

北島信一

明治三十四年八月五日生
營業所 東京市蒲田區矢口町七二五
電話蒲田二七六六番

氏は東京市蒲田區矢口町の出身、明治三十四年八月五日生れ當年四十歳、夙に材木商を志し蒲田六郷の丸晉材木店に入り斯業を修業、永年に亘り主家のため忠實に勤務、大正十三年東京近郊の發展に着眼し生家に歸り材木商を創業、爾來逐年業礎を固め今日に及んで居る、現在川崎市大師前に支店を經營、大いに業績を擧げて居る。營業種目は內外材木各種を取扱つて居る。氏は現在大東京木材商業組合信用評定委員を努められて居る。しかして氏の取引銀行は、安田銀行並に興信銀行である。

近豐材木店

松宮豐二郎

明治廿三年十一月廿一日生
營業所 東京市蒲田區女塚四ノ一四
電話蒲田四六一八番

氏は奈良市北鳳呂町の出身、明治廿三年十一月廿一日松宮竹次郎氏の三男として生れ同四十五年三月上京、芝區三田近源材木店に入り修業、結局同商店に十餘年間勤務大正十年獨

立、創業を企圖、蒲田方面の將來性あるを着目し同年九月現在の地に創業間もなく關東大震災に逢着、帝都復興の好機に便乘し業礎を固め、最近では工業地帶としての發展に伴ひ磐石の地盤を確保し今日に至つた。現在店員五名、內外材木各種を取扱ひ多數の顧客を獲得して居る。氏は資性溫厚にして斯界各方面の信望を蒐め現在女塚通商店商業組合常務理事、大東京木材商業組合蒲田支部相談役其他幾多の公共事業に盡瘁されて居る。

福田商店

和田長壽

營業所　明治三十九年生
東京市蒲田區糀谷二ノ六二〇

氏は栃木縣の出身、二十二歲にして上京、深川町平野町一丁目福島商店に入り修業、昭和十二年九月今事變に應召され昭和十四年九月赫々たる武勳を樹てられ歸還、同年十一月主家の後援を得て現地に福田材木店を創業、從業員二名を使用し內外材木一般を取扱つて居る。尙ほ氏は現在福島商店の取締役として主家のため活躍されて居る。また氏は將來の發展を企圖し福島商店主と合同資本をもつて積極的事業計畫を樹立その將來は大いに期待されて居る。しかして氏の取引銀行は、第百銀行である。

內外各種木材
田野倉材木店
田野倉清一
東京市蒲田區東六鄕二丁目二ノ一
電話蒲田二一一六番

東蒲田一ノ三二　電話蒲田三七〇一番　鈴木崇德
本蒲田五ノ一　北村通郎
仲蒲田二ノ四　電話蒲田二八二三番　飯窪善勝
糀谷一ノ二七四九　電話蒲田三三八〇番　谷合源一
同　二ノ八七七　電話羽田〇五五五番　高橋繁男
南六鄕一ノ二三　電話蒲田四五二七番　佐野秀
仲六鄕二ノ一二　電話蒲田三六一二番　唐木嵯峨三
安方町一七三　電話蒲田四四八三番　新井健生

世田谷區

美山材木店

美山新之丞

營業所　明治二十五年八月十一日生
東京市世田ヶ谷區大原町一二八五
電話松澤二五九〇番

氏は東京市世田ヶ谷區の地主美山平藏氏の長男として呱々の聲を明治二十五年八月十一日に上げたのである。早くより材木商の有望なる事に着目して自ら斯業を研究、大正十年現地に創業して今日に至つてゐるのである。原產地及深川木材市場の內外材木一般を仕入れて之れを建築材請負業者方面に供給し、從業員二名を擁してをり、又創業二十年に垂んとする當地の老舗である。嚴父平藏氏は既に古稀を過ぎ先年隱退し老後を養つて居られるが多年町會長として町會自治に貢獻する所多く篤望家である。因みに取引銀行は、第百銀行である。

清水材木店

清水力三

營業所　明治四十一年五月一日生
東京市世田谷區松原四丁目一七〇
電話松澤三三九〇番

氏は東京府下の出身で、西多摩郡吉野村字柚木に生れた。年少、材木商たるべく志し上京して、深川區木場に赴き、幾多の曲折を經て斯道習得の念願を果したので、現地の將來有望なるを相し、店舗を設けて內外各種材木一般を取扱ひ、獨立開業したのであつた。時に氏二十五歲。かくて、積極進取の方針下に、氣銳の腕を揮つて、創業一般の難關を突破して業礎全く堅く、業績逐次向昇の一路を辿る時、支那事變の勃發するあつて、應召勇躍征途に就いた。なほ氏は在鄕軍人會松澤分會第一班長であり、昭和十二年には該分會より氏の勤勞に對し感謝狀並に紀念品を贈られて居る。而して、現に留守を守る者は、氏の實弟で清水三吉氏で、大正五年生の少壯を以て、一意家兄をして後顧の憂なからしむべく、その獻身的努力、誠に涙ぐましいものがある。因に當店の取引銀行は世田谷信用組合である。

竹淺材木店

勳八等　田中淺太郎

營業所　明治十三年四月生
東京市世田谷區新町二ノ二七六

氏は當地の出身者であるが、年少幾多の曲折を經た後、材木商の有望なるを念ひ、刻苦して斯業習得の上、當地に斯業開始、主として竹材を取扱つて、竹淺の名、當方面業界に嘖傳するの成功を見た。氏は、日露戰役の出征勇士で、勳八等白色桐葉章の所有者である。又、當地消防組に部長代理として盡瘁する所少からず、今は優退しては居るが、町民は未だに其德を忘れない。なほ、現在、長子が、業務に練達し父君

の片腕となつて家業に精進しつゝあるが故に矍鑠壯者に讓らざる父君の積極的方針と相俟つて、店勢益々張つて、その大成は、業界の齊しく刮目して期する所である。

竹多材木店

勤八等　佐藤多市

明治十一年生
營業所　東京市世田谷區奥澤町二ノ八八六

氏は新潟縣の出身で、長岡在に生れた。青雲の志を抱いて郷闘を出でてより、島兎匆々五十年。幾多の波瀾起伏を經てその試練時代を終はるや、材木商の有利なるを信じ、當地の發展すべきに着目して一店を設け、竹材、丸太材を取扱つて經營これ事としたのは、昭和五年、氏知命を越えて更に四歳の折である。しかも、壯者を凌ぐ、矍鑠たる意氣と、老練圓熟の域に達せる手腕とは、よく草創の艱難を克服して、坦々たる成功の途を拓き、星霜十年を經たる今日、確乎たる業基を築き、汎乎たる業域を擴め業績大に擧がり、店勢大に張る現況である。正にこれ立志傳中の人と稱するも亦可なりと謂つべきである。

丸吉商店

吉田宗七

明治三十九年十一月五日生
營業所　東京市世田谷區野澤町一ノ二五五

氏は德島縣の出身で、勝見郡小松原町田野に生れた。小學校を卒業するや、遠く父母の膝下を離れて東都に上り、他日の成功を念じつゝ、深川區木場の富士商會に入り、材木商を修業する事、實に十有七年の長きに亘つた。この間の克己精勵は知る人をして瞠然襟を正さしむる者がある。かくして斯業に通達したので、獨立以て多年の念願を果すべく、現地を相して一店を設け、內外各種材木を取扱つて營業を開始した時に昭和十二年、氏三十一歳である。爾來。創業日尙ほ淺いが、氏の活腕、よく已に基礎を築いて强固、業域日に廣く、業績日に擧がり、その將來の大成は、當方面業者の齊しく期待する所となつて居る。

尾俣材木店

尾俣文治

營業所　明治四十年一月四日生
東京市世田谷區下馬一ノ一一八

氏は東京府出身で、西多摩郡三田村字二俣尾に生れた。年少十五歳にして、自ら業を材木商に選び、東都に出でゝ目黑なる鈴房材木店に入り、斯業の習得に專念する事十有五年。荏原材木商組合は、その精勤、店に範たるを賞して、表彰狀と共に紀念品を贈り、町長亦別に氏の精勵を賞して表彰する所があつた。かくして氏三十の時、獨立自營、以て多年の念願を貫徹すべく、店舗を現地に求めて、內外各種材木の營業を開始した。時に昭和十二年。爾來、氏の活腕は、夢年ならずして牢固たる業礎を築き、逐次業績を擧げて今日に及んで居る。氏は人德あつて、居を定むる、日尙ほ淺きに拘らず、衆の推す所となり、現に家庭防火團群長として、銃後の守りを堅うしつゝある。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

辰巳屋材木店

久出川竹次郎

明治三十六年一月五日生
營業所　東京市世田谷區喜多見町二一六一

氏は東京市出身で、澁谷區上通り三丁目に生れた。年少にして材木商たるべく志を立て、京橋區は木挽町なる辰巳屋材木店に入つて、拮据精勵、斯道習得の辛酸を嘗むる事多年。遂に業務に具に練達し、業界の事大少となく其の掌を指すが如く明となつたので、年來の宿望を果すべく、現地の將來必ず發展すべきを豫想して一店を設け、內外各種材木各種を取扱つて、獨立自營した。昭和三年、氏二十五歳の時である。爾來、十星霜を閱して氏の奮鬪よく効を奏し、業礎全く堅く氏の豫想を裏切らざりし當方面の發展と相俟ち、業績を擧げ得て今日に及んで居る。氏の資性眞だ篤實、爲に現に町會會計に推されて、甚だ德望を莫めつゝある。因に取引銀行は、世田谷信用組合である。

山本材木店

山本享

明治四十年九月一日生
營業所　東京市世田谷區成城町一四三
電話砧二三七番

氏は東京府下出身で、西多摩郡檜原村字南郷に生れた。年少志を抱いて東都に出で、材木商の有利なるに着目して、斯業を以て身を立てんと志し、深川區木場なる田忠材木店に入り、夙夜懈らず業務を守つて忠實勤勉。上は店主の信頼を蒙り、下は同僚の敬愛を受けた。かくすること多年。遂に斯道に錬達し得たので、多年の念願を果すべく、現地を卜して店舗を設け、內外各種建築材一般を販賣、獨立經營を開始した時に昭和四年、氏二十二歳の折である。爾來、十年に餘る澁渋たる奮鬪は、よく現在の業礎を築いて、この殷盛を致したのである。氏は資性重厚、頗る四隣の信望を得て、曾ては消防組小頭を長期間勤め、今又、警防團副班長に推さるゝ等、公共の爲に盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、世田谷信用組合である。

栗山材木店

栗山權七

明治四十二年三月二日生
營業所　東京市世田谷區北澤四ノ三九三

氏は東京市出身で、澁谷區上通り二丁目に生れた。栗山福太郎氏の三男である。年少、大正八年、材木商を志して、深川木場の一材木店に勤め、精勵黽勉、忠實業に服する事十有三年にして、斯業に精通し斯界の機微を會得したので、昭和八年十月、現地方面の將來發展すべきを豫見し、一店を構へて內外材木各種を販賣して、獨立經營、以て、多年の理想實現に第一歩を印した。時に氏二十四歳である。爾來、氏の活躍は業界新進の名を辱しめず、着々業礎を堅め、業域を拓き逐年業績を擧げて今日に及んで居る。氏は劇務の傍、心を公

共に議員、町會役員、青年團評議員、郷軍分會役員、同第十七班評議員等を務めて、人望を收めて居る。因に氏の取引銀行は、昭和銀行澁谷支店である。

六 岩本材木店

岩本六之助

明治三十年一月三十一日生
營業所 東京市世田谷區烏山町一八一七
電話千歳烏山四一番

當店は明治初年の創業に係り、六之助氏は第三代に當る舊家で、當地方業界の老舗として、名聲を博して居る。六之助氏は、先代六之助氏の長男で、幼少より父君を助けて家業に精勵し、年少、已に業務精通の譽が高かつた。後、家業を繼承するや、內外各種木材、電柱並に建築材を取扱ひ夙夜懈らずして父祖の名を辱しめず、已に磐石の如き業礎に立つて、業果を擧ぐること甚大。老舗としての名を、彌々遠近に鳴らしめて今日に及んで居る。氏は業務繁忙の傍、諸種の公共事業に盡瘁して、町內四隣の人望を蒐めて居る。因に深川區冬木町岩本材木店主源藏氏は、氏の親戚に當つて居る。

政 青木竹材店

青木政義

明治三十二年四月三日生
營業所 東京市世田谷區二子玉川町一二八〇

當店は、元來、溝ノ口の舊家で、父祖三代に亘る籠屋業として、業界に知られた家柄である。政義氏は、夙に家業に携つて精勵する所があつだが、貸袋を製ぐに及んで現地の將來有望なるを豫知して移轉し、籠類製造の外、竹材丸太等を取扱つて、業務を擴張した。卽ち昭和四年、氏時に而立、而して氏の着眼その宜しきを得て、當地方の發展著しきに乘じ、着々業域を開拓し、業礎を固くし、星霜十年の成果大に見るべき者があり、老舗としての確乎たる地位を、當方面の業界に占めて、今日に及んで居る。なほ氏の資性甚だ重厚。衆望の蒐まる所、推されて警防團群長であり、銃後の守りに盡瘁する所鮮少でない。

三 欽材木店

小泉欽司

明治三十一年八月八日生
營業所 東京市世田谷區三宿町二二四

氏は東京市の出身で、本所區花町に生れた。高等小學校卒業後、年少十六志を決して材木商たらんと欲し、本所區菊川町の峯岸材木店に勤め、具に斯道修得の辛酸を嘗め盡して十有餘年。遂に斯道の機微に通じて、業界の事大小となく明となつたので、多年の理想實現の第一歩を踏むべく、現地を相して店舗を構へ、內外各種材木、建築用材を取扱つて、獨立自營した。時に大正十三年、氏二十六歳である。爾來、氏は澄澈たる營業方針を執つて終始一貫。奮鬪努力の十五年を經て、家弟のよき協力の下に、着々業績を擧げ、確乎たる業礎を築いて今日に及び、店勢益々殷賑を稱せられて居る。

田 田中材木店

田中鈔太郎

明治四十四年二月廿五日生
營業所 東京市世田谷區祖師谷二ノ四二五
電話砧三七六番（夜間）二六番

當店は明治初年百太郎氏の創業に係る老舗であつて、二代目太郎氏の敏腕は、大震災後の帝都復興の氣運を捉へて、活躍縱横。遂に當店磐石の業礎を築き得たのみならず、その德望甚だ高くして、世田谷區會議員、元北多摩郡民政倶樂部會長等に推された人であつた。第三代鈔太郎氏は中央商業學校卒業後家業に携つて業務習練に甚だ力むる所があつたが、昭和十三年八月、父君由太郎氏逝くや、氏は家業を繼承して、第三代の當主となり、その科學的經營は、よく父祖の業礎を確保し得て、業績を更に擴大するに成功した。現に店員四名を置き、目黑區に支店を設け、店勢殷賑。一流の店舗として業界に重きをなしつゝある。因に取引銀行は、住友銀行新宿支店、第百銀行新宿支店、世田谷信用組合等である。

大 大西商店

讓原貞太郎

明治三十五年五月十五日生
營業所 東京市世田谷區北澤三ノ九五三
電話松澤三七四六番

氏は神奈川縣の出身で、足柄下郡酒匂村字小八橋に生れた年少、青雲の志を抱いて郷閭を辭し、實兄の下谷區車坂町大西材木店に入り、斯業習得に專念する事となつた。蓋し、實兄の跡を踐んで材木商たらんと欲したからである。かくして精勵勤勉の結果、業務に通曉し得たので、當地の將來發展すべきに着目し、店舗を設けて內外各種材木、屋根板等を取扱つて、その經營に當る事となつた。時に昭和四年、氏二十七歳の春五月である。爾來、氏の拮据勵勉は、實兄大西氏のよき指導下に着々業果を擧げ、殊に當地の發展と相俟つて、その業礎を牢固たらしめ、その業域を廣汎ならしめ、星霜十年當方面の業界に確乎たる地歩を占めて、今日に及んで居る。因に氏は、警防團役員に推されて居るを見ても、その四隣に人望あるを窺知し得るであらう。

良 藤良材木店

近藤良政

明治四十一年二月五日生
營業所 東京市世田谷區經堂町二二〇

氏は長野縣出身で、埴科郡八代在に生れた。小學校を卒業するや、實業を以て身を立てんと欲し、特に材木商を選んで斯道修業の爲、上京して麻布區六本木なる藤田屋材木店に入り、櫛風沐雨十星霜、具に試練時代の辛酸を嘗めたる後、業務精通を以て自他許すに至つたので、現地を相して店舗を設け、內外各種材木を取扱つて、獨立營業を開始した。蓋し多年の宿望を果したのである。時に昭和七年、氏二十四歳。爾來、現地逐年の發展に伴ひ、少壯氣鋭、積極に終始する經營方針の下に、着々業績を擧げ、業礎堅く業域廣く、店務繁劇

を極めて、今日に及んで居る。

石川材木店

石川　眞二

明治三十九年九月十日生
營業所　東京市世田谷區世田谷三ノ二四五

氏は東京市の出身で、京橋區新川二ノ八に生れた。年少、實業を以て身を立てんと欲し、材木商の有利に着目し、深川區木場なる大德材木店に投じ、斯業習得の艱難を奚事克服して、遂に業務練達、業界の機微を會得したので、現地の將來發展すべきを豫想し、一店を構へて、內外各種材木、丸太、竹材等を取扱つて、獨立自營した。昭和七年、氏二十六歲の時である。爾來、堅實主義に徹底せる經營方針の下に、歩一歩、其の業績を前進向上せしめ草創の荊棘を開拓して、今日成功の坦途を邁進するに至つた。因に氏は鄉軍世田ケ谷十一班役員として盡瘁しつゝある。なほ、同區眞井材木店主は氏の親戚に當つて居る。

坂本材木店（本店）

坂本保次郎

營業所　東京市世田谷區世田谷一ノ五八
電話世田谷二〇〇二番
支店　東京市世田谷區太子堂町四七二
電話世田谷三四五〇番

當店は先代常次郎氏の創業に係り、五十年に余る老舗として、名聲業界に鳴る。當主は第二代にして、青山學院を優秀の成績を以て卒業するや、家業を繼承して、精勵刻勉、しかも質實堅忍、よく先代の業礎を守つて、益々其の業績を顯著ならしめ、同區太子堂なる支店主坂本友藏氏と協力して、業界一方の覇を稱して、今日に及んで居る。氏は資性溫厚篤實、且つ舊家の故を以て甚だ衆望を負ひ、現に世田谷一丁目町會常務理事、警防團事務長、信用組合信用評定員等に推されて、公共自治に盡瘁する外、大東京木材商業組合評定員として、業者間に重きをなして居る。

竹作商店

店主　野澤正男
大正十二年生
主任　野澤謹吾
明治四十四年生
營業所　東京市世田谷區若林町一九

當店は、先代野澤要作氏の創業に係り、大正十一年來の材木商であるが、第二代の店主正男氏の幼少なる故を以て、伯父謹吾氏、店務一切を管掌して、今日に及んで居る。謹吾氏は、新潟縣中頸城郡源村字山直海の出身で、年少の頃より、實兄要作氏の道を踏んで材木商たるべく志し、上京して當店に斯道を研鑽すること多年に亘つた。遇々、要作氏の逝くや氏は年少の店主を指導して斯道の錬達に力めしむると共に、店務を擧げて管掌し、竹材、丸太、造園材料等を取扱つて、

業礎を彌々堅からしめ、業績を益々顯著ならしめ、以て、夙夜憂勤、付託の責を盡しつゝあつて、風格誠に欽慕すべきである。

坂本支店

坂本友藏

明治三十七年一月一日生
營業所　東京市世田谷區太子堂町四七二
電話世田谷三四五〇番

氏は東京市出身で、世田谷區世田谷一ノ五八に生れた。同地にある。坂本本店主保次郎氏の實弟である。年少より家業を助けて、夙に業務練達の譽れ高かつたが、大正十五年、現地の將來發達すべきを見込んで、支店を設け、氏これが經營に當る事となつた。時に氏二十二歲。爾來星霜十年余を閲して、完全に草創の難關を突破し、業礎を磐石の堅きに置き、本店主保次郎氏と協力互助、以て、共に業界に重きなすに至つた。又、氏の重厚なる風格故に、四隣の信頼を受け、現に家庭防火團一〇九群長を勤むるの外、在鄉軍人會世田谷分會役員として、その實務に任じつゝある。因に同店の取引銀行は、昭和銀行である。

小槻商店

小槻藤吉

明治三十年四月二十九日生
營業所　東京市世田谷區三軒茶屋四〇九

氏は東京市の出身で、目黒區上目黒四丁目二一七一に生れた。年少の頃から材木商たるべく志を決し、世田谷區三軒茶屋の飯島材木店に入つて、斯業習得の辛酸を嘗むること多年上は店主の股肱となり下は同僚の模範となつた。かくして業道練達の域に達したので、現地に一店を相し、內外各種材木丸太、一般製材等を種目として營業開始、多年の宿望たる獨立の第一歩を、力强く踏んだのである。時に氏三十五歲。爾來、氏の圓滑老練の手腕は縱橫に發揮されて、遂年業績の顯著なるを得、活氣ある店勢を張つて、店員三名、店務に忙殺さるゝ有樣である。なほ氏は町內に重望あつて、現に町會役員、家庭防火群長等公共自治の爲に盡すこと鮮少でない。

佐藤材木店

佐藤金之輔

明治三十四年三月二十三日生
營業所　東京市世田谷區上馬町一ノ五四九

氏は秋田縣の出身で、仙北郡藤木村字大久保に生れた。年少、已に實業の利を知り、材木商を選んで登龍の道となし、上京して濱谷區笹塚なる小池材木店に勤めて格勤精勵、忠實業に服して、斯道の研鑽であつた。玆に於いて、氏は初一念を貫徹すべく、地を現在の場所に相して、一店舗を設備し、內外各種の材木取扱を開始して、以て獨立自營の歡聲を擧げたのであつた。昭和七年、氏三十一才の時である。爾來、老熟の手腕を振つて玆に年あり、業績甚だ擧がり、堅實に店勢を張つて今日に及んで居る。氏の老實な性格は、町內の信望を貫つて、現に警防團警護班役員に推され、

銃後の守り堅うするに努めつゝある。

地曳材木店

中山德太郎

明治四十三年九月十二日生
營業所　東京市世田谷區上馬町一ノ四七八

氏は千葉縣の出身で、君津郡木更津町に生れた。舊姓は地曳氏。後、中山家に入籍した人である。年少十四歳にして上京し、材木業修業を志して、深川區木場の駿保材木店に入り具に辛酸を嘗めて斯道の研鑽に力むる事十年に余つた後、頗る會得する處あつて、斯界の機微盡く掌裡に見るが如く明となつた。そこで氏は勇躍獨立自營の途に就いたのであつた。卽ち店舗を現地に設けて、廣く內外各種材木の取扱を開始した。時に昭和九年、氏二十四才の八月である。爾來、少壯氣鋭の氏は積極的經營方針の下に着々業績を擧げ以て今日に及んで居る。氏は甚だ春秋に富むを以て、その今後に於ける活躍は業界の齊しく刮目する所である。

竹重材木店

川本重信

明治三十四年一月六日生
營業所　東京市世田谷區下馬町三ノ四七二
電話世田谷二五七九番
賣場　世田谷區代田一ノ七三三
電話世田谷四〇七八番

氏は鳥取縣の出身で、東伯郡大誠村字原に生れた。年少にして實業に志し、上京して、材木商を選んで研鑽幾年、遂に現地をトして一店舗を設け。內外各種の材木を取扱つて獨立自營した。時に氏二十四歳。爾來、梯風沐雨十有五星霜。氏の健腕よく牢乎たる業礎を築き得て、顧客層を一流の土木建築業間に獲得し、遂に賣場を世田谷區代田一ノ七三三に設くる等、從業員六名を置き、店業甚だ殷盛にして當方面業界稀に見るの業績を擧げつゝ今日に及んで居る。氏の老練の商才を以てすれば、その大成は將來に期待し得て明々白々。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

永正材木店

永正久嘉

明治三十年十月二十三日生
營業所　東京市世田谷區三軒茶屋二二一
電話世田谷二三〇三番

氏は德島縣の出身で名西郡廣野村に生れた。年少にして青雲の志を抱き、遠く父母の膝下を離れ、帝都に上つて澁谷區なる楠本材木店に身を投じた。蓋し材木商たるべく欲した故であつて、具に斯業修練の辛苦を嘗むる事多年。常に業務練達を以て稱せらるゝに至り、大正十年、現地に獨立開業した時に氏二十四歳。爾來、氏の活腕よく草創の荊棘を拓き、著年ならずして、業礎を磐石の堅きに置き得てより、春風秋雨二十年に亞んとして業績の顯著業域の廣汎、業界に一方の覇を稱し、確乎たる地歩を占むるに成功した。されば、氏は四隣並に業に德望甚だ高く、理に大東京木材商業組合世田谷支

部會計に推されて居る。因に氏の取引銀行は昭和銀行である

江波戸材木店

江波戸彦二

明治三十八年九月二日生
營業所　東京市世田谷區北澤町三丁目

氏は千葉縣の出身で、海上郡飯岡町に生れた。年少十五歳志を抱いて故山を去り、東都に至つて深川區木場の古川材木店に勤め、拮据黽勉、上は店主の信頼を蒙り、下は同輩の敬愛を受け、精勤十三年に余り、遂に東京材木問屋同業組合より模範店員として表彰せられ、紀念品を贈られた。かくて斯業に練達通曉した氏は、現地を相して店舗を設け、內外各種木材一般を取扱つて、獨立開業した。時に昭和八年。氏二十八歳の折である。爾來、堅實なる手腕を以て、着々業礎を固め、業基を廣め、逐年業果を擧げて今日に及び、實弟の協力の下に店勢の殷賑を招ねぎつゝある。氏は甚だ衆望あり。現に家庭防火團群長に推されて居るのを見ても、その一斑を知るに足らう。

川清材木店

篠塚清守

明治四十年二月二日生
營業所　東京市世田谷區北澤一ノ二一九
電話世田谷二五二二番

氏は埼玉縣の出身で、熊谷市外玉井村字久保島に生れた。年少、青雲の志を抱いて上京し、材木商を理想として、業務修練の爲、麻布區廣尾町の川幸材木店に入り、永年に亘つて切磋琢磨、業を究め技を練つた結果、甚だ業務に精通し得たので、昭和八年、現地の將來有望なるに着目し、店舗を構へ店主商號の川字を分けて川清を稱し、內外各種材木並にベニア板を取扱つて、獨立自營した。なほ川幸材木店精勤の故を以て、表彰され且つ紀念品を贈られた氏である。爾來、氏は奮鬪努力、よく創業の困難を克服して、業礎全く堅きを得、四名の店員を置いて、業績を擧げて今日に及んで居る。氏資性重厚、頗る衆の推す所となり、町會役員、警防團役員等の地位に在つて、公共自治のため盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、第一銀行である。

丸辰材木店

忍澤福造

明治二十七年三月一日生
營業所　東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ五四

氏は東京市の出身で、品川區に生れた。早稲田實業學校を卒業するや、實業界に雄飛すべく多年の試練時代を經た後、機を得て現地に材木商を創業した。取扱ふ所は材木並に竹丸太。時に昭和二年、氏の年齢三十三歳。爾來、星霜十年余を閲して、氏の奮鬪的精神と科學的商才は、着々業礎の堅固を致し、業域を擴め、業績を擧げて、今日の殷盛を贏得た。氏資性重厚にして篤實、加ふるに一家の識見を有して、甚だ衆の服する處となり、現に町會役員、警防團班長等の職にあつて、公共自治の爲めに、銃後の國防の爲めに、盡瘁する所餘

少でない。

濱屋材木店

荻原佑一

明治三十二年五月二十九日生
營業所　東京市世田谷區代田二ノ七一〇
電話松澤三〇七四番

氏は靜岡縣の出身で、引佐郡中川村字中川に生れた。年少にして鄕關を出づるや、實業を以て身を立てんと志し、業を材木商に選んで、東都大森區蒲長材木店に身を投じた。蓋し濱長店主は氏の伯父君である。かくして、斯業習得の苦難に滿ちた試練時代を經た後、遂に業務練達の域に達したので、昭和四年、現地方面の發展を豫見し、伯父君の商號の一字を分つて濱屋と號して、獨立自營の第一歩を踏んだのである。氏時に而立。爾來十星霜を閲する氏の奮闘は、伯父君の懇篤なる指導と、豫見の如き當地方の發展と相俟つて、着々業礎の堅固を致し、現に店員三名を置いて、當方面業界の第一流店としての地歩を確保しつゝある。因に資性篤實なる氏は、推されて家庭防火群第二部第三群長である。以て其の德望の一端を窺ふに足る。

平野材木店

平野郊

明治三十九年十一月四日生
營業所　東京市世田谷區三宿町二七三

氏は千葉縣の出身で、市原郡里見村柿木臺に生れた。夙に材木商を志して上京し、深川區木場の丸宇三番貯場に、斯業の習練を積む事多年。遂に業務に精通したので、昭和八年、氏二十七歳の時、現地の將來發展すべきに着目して、店舗を設け、獨立創業した。爾來着々業域を開拓して、顧客を一般建築業者並に民家方面に多數獲得し、逐年、業績を擧ぐるに成功し、動ぎなき業礎を築いて、今日に及んで居る。なほ氏は現在、三宿家庭防火團第六十三群長として、公共の爲、銃後の爲、盡瘁しつゝあつて、町内四隣の人望を寛めつゝある

阿部龍材木店

阿部龍太郎

明治四十一年八月二十五日生
營業所　東京市世田谷區若林町五五一

氏は德島縣の出身で、名西郡鬼籠野村字元山に生れた。年少十五歳にして材木商を志し、故山を辭しく遠く帝都に上り深川區木場の清重材木店に入つて具に斯業習得の辛苦を嘗め忠實業に服して衆の模範となつて、十有三年かくして斯道曉通の曉、初念貫徹の爲、獨立自營の旗幟を氏の人生にかざすべく、店舗を現地に設けて、内外材木各種の取扱營業を開始した。時に昭和十一年、氏年齢二十八歳。爾來、粉骨碎身、業務に精勵し、遂に牢固たる業礎に築いて、業績日に日に擧がり、業域を社會の各層に開拓して、今日に及んだ。氏はなほ奉秋に富む。氏の健康と相俟つて、その前途の洋々たるは玆に贊言を要としない。

鈴銀材木店

鈴木筑吾

明治三十五年生
營業所　東京市世田谷區等々力二ノ一九〇K
電話玉川五一番

當店は等々力に著名な舊家で、父祖四代に亘る老舗として業界に著聞する。當主第四代筑吾氏は、夙に家業に携つて精勵甚だ努め、既に拔くべからざる業礎の上に立つて、益々その業果を擧げて、父君を喜悅せしめた者である。筑袁を襲ぐに及び、速に奮鬪努力、内外材木各種の外、製材並に金物一般を取扱ひ、店員三名と共に、繁劇な店務を管掌し、夙夜懈らず、父祖の業を守つて、更に余念がない。その業績の日に月に擧ぐる得て、亦宜なる哉である。

常陸屋材木店

小川惣逸

明治三十七年五月二十五日生
營業所　世田谷區松原二ノ六六七

氏は茨城縣の出身で、筑波郡八板村字燒板に生れた。材木商を志して上京し、本所區なる太田屋賣場に勤めて、多年に亘り斯業の巨細を研鑽して怠らず、遂に業務精通の確信を得たので、初志を貫ぬくべく、現地方面の當時人家稠密ならざるも將來一大發展すべきを豫想し、こゝに一店舗を設けて、自立獨營の第一歩を、氏の人生に印したのであつた。昭和二年氏二十七歳の時である。爾來練達の手腕は、氏の豫想を裏切らざりし當地逐年の發展と相俟ち、着々業礎を堅め、逐次業績を擧げ、以て今日に及び、店員二名を使役して、至極順調の店勢を張つて居る。

渡德材木店

渡部德次郎

明治四十年一月二十日生
營業所　東京市世田谷區玉川奥澤町三ノ九五

氏は秋田縣の出身で、山本郡檜山町に生れた。幼年にして父母の膝下を離れ、奥羽木材の一中心能代港に出でて深井製材所に勤むること多年。更に斯道修業の完成を期して東都に上り深川區木場の田村材木店に入る。時に氏正に弱冠。營々業に服して甚だ勤勉。よく店主の信頼する所となり、常に同輩の模範であつた。かくして八年の後、業界の機微に通ずるを得たので、現地の將來有望なるを見込し、店舗を設け、各種材木、竹、丸太を取扱つて、獨立自營した。時に昭和十年氏二十八歳の時である。爾來日尚ほ淺いが、氏の敏腕よく業礎を堅め得て、逐年業績を擧げ、今日に及んだ。その少壯有爲なる氏の前途は正に洋々。

藤春材木店

谷田部春雄

明治四十年四月六日生
營業所　東京市世田谷等々力二ノ一六六四
電話田園調布二五八二番（呼）

氏は東京市の出身で、麻布六本木に生れた。小學校を出て

實業家を志し、材木業を選んで、斯道修業の爲、麻布區六本木なる藤田材木店に勤め、精勵克己、薪水の勞を厭はずして忠實業に服する事十年に余る。即ち、業務に練達し、業界に通曉し得たので、現地を卜し、一店を相し、內外各種木材を取扱つて自立經營を開始した。蓋し、初一念貫徹の爲である時に昭和六年で、氏正に人生五五の春。少壯氣鋭、張り切つた氏の奮闘は、顧る目覺しいものがあり、期年ならずして草創の難關を突破し、業礎を築き得て確乎たる現況である。氏なほ春秋に富み、能才敏腕、加ふるに實弟の協力あり將來の大成は齊しく業界の刮目して俟つ所である。

弘 星野材木店

星野　賢弘

明治四十一年八月一日生
營業所　東京市世田谷區松原四ノ三三二

氏は群馬縣の出身で、吾妻郡原町に生れた。小學校を出づるや、年少十四歲の身を以て、實業を以て身を立つるべく父母の膝下を離れ、上京して材木業を選び、親戚に當る巢鴨の鈴鹿材木店に入つて斯道修業の途に就いた。而してよく荊棘を克服して精勵黽勉、遂に業界の機微に通じ、業務の巨細に精しきを得た。この間星霜を閱する正に九年に余る。かくて現地の將來あるに着目して自己の運命を托し、一店を設けて內外各種材木の販賣を開始し、以て多年の宿望たる材木業者としての第一歩を踏んだのであつた。時に昭和七年九月、氏二十四歲の秋である。爾來氣鋭積極の方針を堅持して、奮闘よく今日の業礎を築き得たのであつた。少壯の氏の大成は、業界の齊しく期待する所である。なほ氏は在郷軍人會松澤分會第一班長として、班員の德望を冥めて居る。

文 高橋製材所

高橋　文市

明治三十六年六月二十九日生
營業所　東京市世田谷區世田谷一ノ六〇

氏は山形縣の出身で、米澤市東町に生れた人である。夙に志を抱いて雪深き故郷の地を去り、上京して粒々人生の試錬を經、挽材業を先づ當地に始めて幾年の後、當地の發展尋常ならずして、木材の需要頗に多きを看、乃ち材木業を創めたのは、昭和元年、氏二十三歲の頃である。更に昭和七年、製材を兼營して順次その全店經營の主體たらしめ、着實堅固の方針の下に、十有五年に亞んとする氏の奮闘は、よく今日の盛大なる業績を擧ぐるに成功したのであつた。氏は篤實にして溫厚、頗る衆望あつて、推されて世田ケ谷一丁目町會の役員であり、公共自治の爲に盡さるゝ事鮮少でない。

廣澤材木店

廣澤　伊八

明治三十三年七月二十日生
營業所　東京市世田谷區若林一二九
電話世田谷三二三一番

氏は埼玉縣の出身で、入間郡入間村字南入曾に生れた人である。年少にして志を抱き郷關を辭し、上京して世田谷區三

軒茶屋なる飯島材木店に勤めた。蓋し材木業を以てその理想とした故である。再來、拮据精勵の年處を玆に經て、斯界の大勢を會得し、業務の機微に通曉したので、大正十四年、現地に一店を相して、自己の運命を托し、內外各種材木一般を取扱つて、自立獨營、他年の念願を果したのであつた。時に氏二十六歲。爾來、氏の活腕は、土地の發展と相俟つて、着々業礎を堅め、業績を擧げて、順調なる店勢を張つて今日に及んで居る。氏の風格頗る重厚、推されて警防團役員であり銃後國防の爲、盡さるゝ所尋常でない。

新 池新材木店

宇野　新次

明治八年三月二十七日生
營業所　東京市世田谷區經堂町七〇

氏は滋賀縣の出身で、栗田郡草津町に生れた。夙に上京して、人生の幾山河を越え去り行いて、具さに試練の甘酸を嘗めた後、齒知命にして、淺草區三筋町に材木業を創めた。時正に大正十三年。蓋し、大震災後の帝都復興の氣運に、機敏なる氏の着眼した故である。而して曩鑠として奮闘よく壯者を凌ぎ、相當以上の業績を擧ぐること七年に亘つたが、更に當方面の發展に着目し、七年の地盤を淡々として捨て、昭和七年當地に移轉して、倍舊の努力を以て、業礎を新に築き、業域を新に擴め、業績を新に擧げて、十年を經ずして己に今日の盛況を招いた。これ氏の健腕を以つて始めてよくする所であつて、誠に氏の如きは業を樂しむの人と謂ふべきであらう。

三 三國屋製材所

渡邊　秀一

明治二十六年一月二十日生
營業所　東京市世田谷區玉川奥沢一ノ三一〇

氏は東京市の出身で、本郷區元町に生れた。夙に實業を以て立身の大道と信じ、特に製材業の有利有望なるを認識して粒々苦心する所があつた後、現地の將來發展すべきに着目し遂に獨立して製材一般の經營を開始した。時に昭和七年、年二十九歲の折である。而して、當地の發展氏の豫想を欺かずしかも製材業者鮮きに乘じ、氏の健腕正に縱横。莽年ならずして、草創の難關を凌ぎ、着々業績を擧げて、遂に業礎の堅きを致した。この好個の環境に處して、氏の活腕を以する將來の大成は、業界具眼の士の、等しく刮目以て期待する所以である。

サ 眞井材木店

眞井　信三

明治二十七年六月二十七日生
營業所　東京市世田谷區上馬町三ノ九六三
電話世田谷二六二〇番
支店　東京市世田谷區上野毛驛前

氏は、當地舊家の出である。年少にして實業に志し、材木商の有利たるを知つて、斯業の練習と研鑽に力むること多年遂に、斯業經營の確信を握み得たので、大正七年三月、當地

に店舗を設け、内外各種材木を取扱つて營業を開始したのであつた。時に氏二十四歳。爾來、氣鋭進取の方針の下に業礎を強化し顧客を廣め、二十年に超ゆる年處を經て、當方面第一流の店勢を編はるゝに至り、更に、昭和十二年上野毛驛前に支店を設くる等、盛大なる現況である。なほ當地の舊家にして、盛業を營む氏が、町内の信頼を蒙ること多大なるは言を俟たず、氏も亦た公共事業のため盡瘁貢献する所鮮少でない。氏の取引銀行は、第百銀行である。因に支店を主宰する關島一三氏は當區大藏町の出身で、十一年余當店に精勤し、昭和十二年拔擢されて支店經營に當つた人である。

近藤材木店

近藤　一市

明治二十三年八月十五日生
營業所　東京市世田谷區上馬一ノ八四四
電話世田谷二四九五番

氏は德島縣の出身で、同縣名西郡入田村字大原に生れた人である。年少にして青雲の志を抱いて鄕關を辭してより、波瀾重疊の曲折變轉を經て後、材木業の有利なるを知つて、これを經營すべし、先づ斯業の習練と研鑽に全力を倒けた後、これを習得し、現地に獨立開業して、内外木材各種を取扱つたのは昭和元年、氏三十六歳の折である。爾來春風秋雨十五年、終始一貫せる顧客本位の營業方針と、縱横無碍の才腕は遂に當方面第一流店の店勢を張るに成功した許りでなく、業界の一方に覇を稱し、現に、大東京木材商業組合世田谷支部長として、斯業發展の爲、盡瘁しつゝあるのである。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

小池製材所

勳八等　小池平吉

明治十五年十二月十一日生
營業所　東京市世田谷區北澤五ノ六一一

當店は明治三十年頃當地に開業せる星霜四十年を超へた老舗として、當方面業界に著名である。氏は年少より斯業に携つて、精勵黽勉、斯業の習練に力むると共に家業の興隆に粉骨碎身したる甲斐あつて、手腕商才、當地方業界の驚異たりしのみならず、業績大に擧がつて、基礎は強固に、顧客日に增し、老舗の地位を確保して、一流店の勢威を業界に把握するに至つた。されば永年、城西木材商組合長の重職にあつて業界の一方に雄視すると共に、斯業の爲、當方面に致させる功績少しとせず、職を退ける今尙ほ其の德を謳はれつゝあるのである。因に氏は、日露戰役に出征し、勳八等白色桐葉章を賜つた勇士である。

港屋材木店

鷹野鷹雄

明治三十一年七月十五日生
營業所　東京市世田谷區玉川奥澤町一ノ三二
電話目黒調布二〇四三番

當店は、當地方一流の店舗に屬し、店員數名を置き、顧客本位の標榜の下に、積極且つ堅實の營業振りを以て、業界隨

目の業績を擧げて、今日に及んで居る。しかも、店主の活眼よく川崎市の工場地帶として日進月歩の發展性あるを看取し美那登屋材木店を該市に開設して、鋭意、基礎の强化、顧客の獲得等に努めて、已に相當の業績を擧げつゝある。氏は慧敏にして且つ溫厚、頗る町内四隣の信頼する所になり、現に推されて、玉川奥澤町警防會組長として、銃後の備へに靈瘁する所鮮少でなく、愈々衆望を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、日本貴夜銀行である。

岩城屋材木店

岩城善吉

明治四十年十月五日生
營業所　東京市世田谷區北澤町一ノ三三

氏は德島縣人である。即ち、同縣名東郡佐那河内村に生れた。荏原區中延町の岩城屋店主春吉氏並に品川區大井南濱川町の岩城屋店主武平氏の甥に當る。年少にして、伯父等成功の迹を學んで材木商たらんと欲し、遠く鄕關を辭して東都に出で武平氏の許に寄託して、店務を勤むるの傍、斯業の習得研鑽を怠らざること多年に亘つた後、練達通曉の域に達したので、昭和八年五月、現地の有望なるに着目し、内外各種材木一般を取扱つて獨立開業した。時に、氏二十六歳。爾來奮迅の勢を以て、少壯氣鋭の氏は、積極方針に終始し、加ふるに兩伯父君の懇篤なる指導あつて、遂に業礎を堅くし業績を擧げ、現に店員二名を置いて、店勢頗の順調を辿りつゝある因に氏の取引店は、昭和銀行である。

原田材木店

原田態五郎

明治三十七年一月二日生
營業所　東京市世田谷區世田谷町三ノ二九八

氏は東京市の出身で、大森區調布峯町に生れた。實兄が、深川木場に材木店を開いて成功しつゝあるを見て、斯業に身を立てんと志し、實兄の店に起居して實見を授くるの一方、實地に斯業を研鑽して幾年、遂に業務に練達し、業勢に曉通し得たので、現地の發展性あるを相し、内外各種材木を取扱つて獨立自營した。時に昭和七年、氏廿七歳の折である。爾來氏の奮闘努力目覺しきものがあり、期年なら ず して基礎を富士が根の安きに置き、逐次業績を擧げて以て店勢を張り、以て今日に及んで居る。氏の奮闘的精神と、練達の手腕とを以てする眞價の發揮は將來に期待する所甚大である。

阿津丸太店

阿津平藏

明治四十四年三月二十三日生
營業所　東京市世田谷區世田谷町三ノ三四三

氏は千葉縣の出身で、君津郡長浦村字藏波に生れた。年少にして材木商たらんと欲し、父母の膝下を離れて上京、親戚に當る代田の美山材木店本店に身を寄せ、斯業修練三ケ年、更に同支店に於いて、業務修習三ケ年。以て、業務の大體に通ずるを得たる後、千葉縣下香取郡久賀村に去つて、山林伐採業を實習する等、斯道通達に萬全を期したる結果、大に自

信を得、多年の念願實現に着手し、地を當地にトし、獨立自營の途に就いた。時に昭和九年。氏二十三歳。草創日尚ほ淺しと雖、氣鋭活腕の氏は、よく艱難を克服して、己に業礎を堅うし、業績を擧げて以て今日に及んで居る。なほ氏は在鄕軍人會世田谷第十一班役員として、軍國の非常時に活躍しつゝある。

㊅ 小島支店 細淵材木店

細淵久五郎

明治三十年十二月四日生
營業所 東京市世田谷區松原町三ノ八四三
電話松澤二一八五番

氏は、小學校を卒業するや、直ちに實業に志し、材木商の有利多望なるを知つて淀橋區角筈なる小島材木店に入り、夙夜黽勉、職を率じて忠實、業に服して精勵。上は店主の信頼を受け、下は同輩の敬愛を蒙り、模範店員として業界に驅はれたのであつた。而して業務に精通し、業勢に通達する所あり、大正十五年、現地の發展すべくして將來あるに着目し、一店舗を設けて小島支店とし、内外各種材木一般並に竹材、丸太材を取扱つて經營し、以て宿願を達し得たのであつた。氏時に二十九歳。爾來十五年に垂んとする氏の活躍は、草創一般の難局を征服して、今や、店勢順調の一躍を辿るに成功したのである。氏は責性溫厚にして篤實、衆望の歸する所、選ばれて町會第一部長であり、町内自治の爲に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、名古屋銀行である。

玉川瀬田町四二六
同 四九〇
上野毛町三〇四
玉川用賀町二ノ一八九
上馬町三ノ九七一
同 一ノ四七八
下馬町二ノ九五〇
太子堂町三二九
同 一八七
世田谷町二ノ一九一六
大原町一一八五

電話玉川 六五番
長崎光裕
電話玉川 三四番
星谷清三郎
福島一三
關根三喜男
萩野義太郎
地曳德祐
城所勤藏
電話世田谷二六〇六番
鎌木鍬次郎
小池鎌次郎
淺見實太郎
岩西島市

荏原區

㊆ 阿部支店 井田材木店

井田保二

明治三十九年九月一日生
營業所 東京市荏原區戸越町四九八
電話荏原二一五六番

氏は愛知縣海部郡神守村に生れた。井田紋太郎氏の三男である。小學校卒業後、材木商を志して上京し、親戚に當る品川區五反田一の阿部材木店に就き、斯道の修業に專念すること實に十七年。荏原材木商組合は、その精勤を表彰し、且つ紀念品を贈つた。かくして業務に通曉し得たので、昭和十一年、現地を卜して店舗を構へ、内外材木一般を取扱ひ、阿部材木店の暖簾を分けて、獨立自營を開始した。蓋し多年の念願を達し得たのであつた。氏時に而立。爾來、氏の奮鬪目覺しきものがあつて、草創日尚ほ淺きに拘らず、牢乎たる業礎を築き廣汎なる顧客層を獲得して今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行大崎支店である。

㊇ 小柳材木店

小柳善二郎

明治四十五年一月廿八日生
營業所 東京市荏原區戸越町一九三

氏は東京市出身で、深川區石島町に生れた。小柳茂七氏の二男である。年少にして已に材木商たらんと志し、大森區田園調布なる寺島材木店に入つて、斯業の習修八年に余り、具に辛酸を嘗めて業務に精通し得たので、昭和十一年、現地をトして店舗を構へ、多年の念願を達して獨立自營したのであつた。爾來、年處を經る事幾何でもないが、勃々たる鋭氣と快腕を以て、草創の難關も突破し去り、業礎已に磐石の如く業績日に月に顯著なる者がある。氏、なほ而立に達せず、新進として、その前途の洋々たる者甚だ春秋に富む。しかもこの活腕の縱横なるを見る時、業界の新進として、具眼の士は齊しく其の前途の洋々たるを期待するに吝でない。

㊀ 合資會社 清水商店

清水定智

明治廿五年二月十七日生
營業所 東京市荏原區戸越町四八六

氏は東京市出身で、京橋區木挽町に生れた。清水半平氏の長男である。弱冠材木商を志して、業務習得の爲、深川區平野町岡由材木店に入るや、精勵忠實、よく店主の信頼を受け同僚の模範たる事十有五年余。されば東京木材問屋組合は、氏を表彰して紀念品を贈り、その勤續を讃えたのであつた。かくして業務に精通するや、大正十四年、五反田に獨立して宿望を果し、後、昭和十三年現地に移轉した者である。この間十五年に垂んとする氏の奮鬪努力は、遂に美果を收めて、一般建具業者特に市内一流自動車製造業者を顧客たらしむるに成功し、着々業績を擧げて今日に及んで居る。

清繁材木店

清　重　繁　男

明治四十年十二月廿五日生
營業所　東京市荏原區下神明町五
電話荏原四〇二五番

氏は徳島縣出身で、同縣名西郡高川原村大字高川原に生れた。清重嘉次郎氏の二男である。小學校を出るや、志を抱いて父母の膝下を離れ、上京して深川區木場の親戚清重材木店に入つて、斯業の研鑽修練に努むる事十有二年。遂に業務に精通したので、昭和八年、現地に店舗を設け内外材木各種を取扱つて獨立開業した。爾來、業務に精勵して夙夜懈らず、其月年ならずして確乎たる業基を築くに成功し、着々業績を擧げて、以て今日に及んで居る。氏はなほ春秋に富む、加ふるに圓熟せる氏の手腕を以てするが故に、その前途の洋々たるは、玆に敢々叨要すまい。因に氏の取引銀行は、第百銀行小山支店、荏原信用組合である。

齋藤材木店

齋　藤　清

明治卅四年二月二日生
營業所　東京市荏原區戸越町一一六八
電話荏原六五三九番

當店は元來齋藤鍬太郎氏が大正五年に創業した老舗であつて、清氏は第二代の店主である。氏は大分縣速見郡日出町豐原龜太氏の二男であるが、年少にして上京し、深川區木場の宮川材木店に入つて斯業の研鑽實に十三年余。頗る練達圓熟の手腕を認められた人であつて、遂に當店先代鍬太郎氏に見込まれ、入籍して家業を繼承したのである。已に二十年に余る老舗としての磐石の如き業礎の上に立つて、老練熟達の手腕を縱横に振ふ以上、當店が、當方面第一流の店勢を張つて業界の一方に覇を稱しつゝあるも、決して偶然ではない。その業績の顯著なること稀に見る所である。因に氏の取引銀行は、第百銀行五反田支店である。

竹榮材木店

伊　藤　寛　治

明治四十年四月十五日生
營業所　東京市荏原區下神明町三ノ五五一
電話荏原三一二九番

當店は大正十一年伊藤榮氏の創業に係る老舗である。而して寛治氏は東京府下荏原郡平塚村字下蛇窪伊藤縫三郎氏の三男に生れ、年少の頃より義兄榮氏の業に携つて、材木商たるべき修練を積む事多年であつたが、昭和十一年、義兄の業務を繼承して今日に及んだものである。爾來、日尚ほ淺いが、已に一般建築業者並に諸工場方面に顧客層を有する牢固たる地磐に上つて、氏は練達の手腕と、積極の鋭氣を以て、業域を擴むるに精勵し、二名の店員を置いて、專心老舗の名聲を確保するのみならず、製材を合せ行つて一般の便宜を計る等着々その業績を擧げつゝある。尚ほ氏の重厚なる資性は頗る衆望を得て、推されて幾多の公共事業に携つて、益々その人

德を發揚しつゝある。因に氏の取引銀行は、荏原信用組合である。

伊藤喜商店

伊　藤　喜　三　郎

明治卅年五月七日生
營業所　東京市荏原區戸越町三三六
電話荏原三七〇二番

氏は東京市出身で、芝區三田四國町に生れた。伊藤喜太郎氏の三男である。小學校の業を終へると共に、實業を志して深川區木場駿保村材木店に入り、具に辛酸を嘗めて斯道を修業する事十三年余。業界の機微に通曉し得て、大正十一年現地に店舗を設け、自立獨營、以て多年の理想實現に第一歩を印したのであつた。爾來、氏は敏腕縱横、逐年、當方面の發展と共に、業績を擧ぐるに成功し、諸工場方面の大量納入を主として、磐石の如き業礎を築き上げて、廿年に垂んとする當方面の老舗としての名聲を確保した。されば土地の古老としても、旭通電灯睦會會長に推さるゝ等、四隣の德望を蒐めて居る。因に氏の取引銀行は、日本農夜銀行品川支店である

濱井屋材木店

井　指　旗　三

明治卅六年十一月三日生
營業所　東京市荏原區中延町二五五

氏は靜岡縣の出身で、同縣濱松市天神町に生れた。井指松太郎氏の六男である。幼少にして父母の膝下を離れ、上京して小石川區音羽町九丁目濱木材木店に入り、刻苦精勵、具に斯業の研鑽修習に努めて十有五年。店主の愛顧を蒙つてその股肱となり、僚友の信頼を受けてその模範となりつゝ、遂に業務練達の域に到達し得たので、當方面將來の發展性に着目し、選んで此の地に店舗を設け、内外材木各種並に製材一般を取扱つて、獨立の一歩を踏んだのであつた。時に昭和六年氏二十八歳。爾來、氏は圓熟の手腕を振つて當方面の發展に乘じ、業礎を築いて強固に業域を廣めて宥汎に、逐年業績を擧げて今日に及んで居る。

津田材木店

津　田　豐

明治二十七年十月四日生
營業所　東京市荏原區小山町四六一
電話荏原五九九〇番

津田豐氏は、津田吉三郎氏の令閥である。夫君吉三郎氏が業務一切を主宰して居る。吉三郎氏は、長野縣下伊那郡飯田町横山熊吉氏三男で、明治二十一年七月八日に生れた。深川區木場山中材木店主、龜戸伊藤製材所主は氏の實兄に當り、實弟は當地横山材木店主である。氏は年少にして實兄の迹を追ひ、上京して深川區木場長島材木店に勤むること十五年餘業務に精通するや、山中材木店に入つて實兄を助くること多年の後、昭和元年、津田家に入籍して現地に經營を開始した爾來十有五年に垂んとする、氏の奮闘は、よく、當地一流店としての店勢を張り、業界に重きをなすに至つた。氏の重厚

の風格は、町民の信頼を得て、現に銃後後援會參事、共明會第三部長等に推され非常時の銃後國防に盡力する事一方でない。因に氏の取引銀行は、第百銀行小山支店である。

岩城屋材木店

岩城春吉

明治廿一年三月一日生
營業所 東京市荏原區中形町一三二八
電話荏原六四〇〇番

氏は德島縣名東郡佐那河内村上九〇に生れた、岩城留藏氏の二男である。

元來岩城家は、古くは秋城と稱した。天和三年（皇紀二三四三）以來の舊家で、代々農を業とした。併し氏は實業を志して上京し、親戚なる深川區鶴歩町榎本利藏材木店に寄寓し神田區橋本町瀧部多藏洋藍店に勤め、業務を修習する事十三年にして、大正七年大井町八四〇番地に獨立自營した。しかるに歐洲大戰後の一般財界不況裡に消極的經營を餘儀なくせられつゝある中、大正十二年、大震災に遭遇して影響甚大。しかも復興の氣運滿都に漲るや、氏は敢然轉業して實弟岩城武平氏と協力し、同年十月芝區源助町に材木業を創めた。

爾來好況裡に幾度か居を移したが、昭和元年武平氏と別に現地に材木商として獨立してより、當方面の發展に乘じて十有五年に餘る奮闘は遂に現在の大成を齎したのであつた。

氏は資性重厚、よく衆望を寛め、現に大東京木材商業組合理事を始め、荏原材木商組合十日會副會長、荏原第卅五區幹事等に推されて居る。なほ大森區及び品川區にある、兩岩城屋材木店主は氏の一族である。因に氏は取引銀行は、第百銀行として居る。

高道材木店

高道彌六

明治二十七年八月八日生
營業所 東京市荏原區中延町三一三ノ一

氏は福井縣人で、同縣坂井郡成鹿村字下桑田高道清太郎氏の二男である。夙に材木商たるべく志を立て、上京して深川區木場の山常材木店に入つて、永年に亘り斯業を習得し、業務に精通したるを以て、石島町に獨立して、地挽を營んだ。しかるに大正十二年の大震災の爲、一旦素志挫折の悲運に際會したが、直ちに帝都復興の氣運に乘じて翌十三年材木商を現地に創業したのであつた。爾來、氏は不撓不屈の精神と、圓滑老熟の手腕とを以て、當方面の發展目覺しきに乘じ、奮闘十五年、遂に牢固たる業礎を築き得て、顯著なる業績を擧ぐるに成功した。氏は資性篤實、加ふるに土地の古老として甚だ町内の信望を維ぎ、公認共榮會會長に推されて現在に及んで居る。

横山材木店

横山孫四郎

明治二十五年一月三十日生
營業所 東京市荏原區小山町二五三
電話荏原二六〇七番

氏は長野縣下伊那郡飯田町の出身で、横山熊吉氏の四男である。年少十三の時、單身徒歩上京し、深川木場の製材工場人夫に傭はるゝ等の辛酸を嘗めて後、同地長嶋材木店に入つて忠實精勵よく店主の信頼を蒙り、その股肱となつて活躍十五年。突如大震災の爲主家解散の不幸に際會し、氏は無一物の儘芝浦清水組に身を寄するの餘儀なきに立至つた。しかも氏は勞役刻苦若干の資を蓄へて、木場柏原材木店より材木を仕入れ、荏原方面に路上販賣する事數次、遂に茲に顧客層を獲得して現地に獨立材木商を營むに至つた。時に大正十三年氏三十二歳、而して帝都復興の景況に乘じ、敏腕よく建築諸職方有志を糾合して、建築聯盟を組織し、住宅建築の一般需要に應ずる等の活躍をなし、遂に業礎を强固ならしめて、よく今日の盛大を致した。氏は資性重厚にして、しかも慧敏。頗る衆望あつて、町會長に推さるゝこと數期に亘つて居る。因に取引銀行は、第百銀行である。

藤博材木店

湯本市郎

明治廿八年二月三日生
營業所 東京市荏原區中延町四六
電話荏原三五四六番

氏は東京市神田區三河町の出身で、湯本計三郎氏の三男である。高等小學校卒業後、材木商を志して、深川區木場なる井幸本店に入り、夙夜懈らず業に服して斯道の研鑽七年に余つた。其の結果、大に業界の機微を會得したので、曾つて、同僚が井幸本店より獨立經營して不幸大成し得ざりし藤博屋號を繼ぎし、現地を相して自立し、多年の宿望を果したのであつた。取扱ふ所は、内外材木各種殊に建具材より製材加工業を兼ねた。時に昭和六年十二月である。爾來十年に近き奮闘は、遂に店員二名を使役する氏の今日の大を成した。氏は資性篤實、頗る衆望を蒐め、現に在郷軍人會荏原聯合分會第三分會第一班組長、荏原平塚會役員、中延小學校後援會理事等に推されて居る。氏の取引銀行は、第百銀行小山支店である。

柳原材木店

柳原金太郎

明治四十一年五月五日生
營業所 東京市荏原區中延町一七三

氏は東京市の出身で、芝區新堀町柳原彌三郎氏の長男である。小學校を出づるや、材木商を志して、深川區木場の藤井勘三郎商店に入つて困苦の勞を厭はず、忠實業に服して夙夜懈らざる事十有二年に余り、業務に精通し、業界の機微を會得したので、多年の宿望を果すべく、昭和九年二月、現地をトして店舗を設け、内外材木各種を取扱つて、獨立自營に着手した。爾來、鳥兎匆々五星霜。氏の着實にして且つ機敏なる營業方針は着々効を奏して、業礎磐石の如く、顧客層廣汎業務の殷盛顯著なる者がある。氏は温厚にして篤實、業界稀に見るの人格者として定評があるのみならず、四隣の信頼を得て、中延親友會役員、家庭防火團第十四群長等に推されて

居る。因に氏の取引銀行は、荏原信用組合である。

【セ】新潟屋材木店

布川精一郎

明治廿八年八月十四日生
營業所　東京市荏原區上神明町一二九
電話荏原五五六五番

氏は新潟縣人で、同縣三島郡宮本村字岩野に生れた。布川藤一氏の三男である。夙に材木商たらんと欲して上京し、芝區中門前の佐藤久八材木店に入り、永年斯道の研鑽と修練を積み業務の亘細に精通し得たので、當地を選んで店舗を設け獨立自營以て宿望を達成した。時に大正十五年、氏而立の頃である。蓋し當地に草創した理由は、その將來發展性の多分に存し、しかし同業者少きに依つた者であるが。氏の豫見正に的中し、逐年此方面を開發著しき者あるに乘じ、氏は、全力を傾倒して、業礎を築き、業域を擴め特に、家具製造業者間に顧客層を獲得して、星霜十年の後、店勢の盛大を致して今日に及んで居る。

宮内材木店

宮内榮吉

明治廿八年十二月廿日生
營業所　東京市荏原區小山町五一七
支店　淀田區下丸子
賣場　大森區南千束町三八二

氏は千葉縣の出身で、銚子市三軒町に生れた。宮内梅吉氏の長男である。高等小學校を卒業するや、材木商たるべく志を立て、上京して深川區木場の小島材木店に入り、忠實業に服して精勵無比。店主の信頼を受けて其の股肱となり、僚友の敬愛を蒙つて其の模範となること十八年の永きに亘つた後獨立自營の念願を果すべく、現地を相して店舗を設け、昭和六年遂に内外材木を取扱つて營業を開始した。爾來、氏の活躍は、當地の發展と相俟つて、隆々たる店勢を振り、十年に垂んとして、大森區南千束町に賣場を設け、蒲田區下丸子に支店を置き、業界に嶷然として頭角を抜き、一方に覇を稱して今日に及んで居る。なほ氏の重厚なる風格は四隣の人望を蒐めて、現に町會役員として町内自治に盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行小山支店である。

手塚材木店

手塚義雄

明治卅六年四月十二日生
營業所　東京市荏原區中延町三九二
電話荏原二七八三番

氏は栃木縣鹽谷郡字玉生の出身で、手塚友四郎の三男である。小學校を卒ふるや、實業にて身を立つるべく決意し、材木商を選んで斯道修業を志し、上京して本所區菊川町の增長商店に入り、研鑽錬磨十年を經て、業務に精通し、業界の亘細を會得したので、昭和三年、當地の將來發展すべきを豫見して、店舗を設け、獨立自營、以て初一念を貫徹したのであつた。爾來、積極的方針を持して、奮闘十星霜、業礎の強固

なる事磐石の如く、業績の顯著なること業界驚異の的となり當方面第一流店舗としての名聲を馳せて居る。氏は頗る長者の風貌あつて、土地の信仰を蒐め、推されて町會幹事、家庭防火團第二群長である。因に取引銀行は、第百銀行小山支店である。

高仙材木店

高橋仙之助

明治廿四年三月八日生
營業所　東京市荏原區戸越町二五三
電話荏原二四六三番

氏は神奈川縣小田原町に生れた。年少實業を以て身を立てんと欲し、上京して材木商を選び、千住なる秩父屋本店に入り、斯業の研鑽七年余の後、一旦徴兵に召せられて軍籍に入り、除隊して再び深川區木場亥ノ掘なる中定材木店に勤めて精勵更に三星霜。乃ち業界の亘細に通曉し、業務に錬達し得たので、宿望達成の爲、現地に店舗を設け、獨立自營したのは、昭和三年春二月一日の事であつた。爾來、十年を經て、氏の渾身の努力は酬ひられて、今日の業務殷賑を見た。氏の圓熟せる風格は、頗る衆の推す所となり、現に帝國在郷軍人會荏原第一分會第五班長、町會役員、親和會副會長、青年學校理事、中原・京陽兩小學校保護者會理事、國防婦人會荏原第十分會顧問を兼任し、殊に在郷軍人會の爲盡瘁して同會より功勞章を授與せらるゝの外、同荏原分會より數次の表彰並に紀念品を贈られて居る。因に氏の取引銀行は、第百銀行小山支店、荏原信用組合である。

港屋材木店

店主　鷹野崇十
主任　鷹野芳雄

明治四十二年一月十一日生
營業所　東京市荏原區上神明町三一八
電話荏原二四四六番

崇十氏は山梨縣西山梨郡山城村字上今井出身で、大正十一年現地に創業し、大震災後帝都復興の氣運に乘じ、大に今日あるの業礎を築いたのであるが、現在は氏はたゞ監督指導の責に任じ、店務の第一線に活躍する者は氏の愛甥芳雄氏である。氏は崇十氏と同郷、同姓義信氏の二男で、年少の頃より當店に起臥して崇十氏の懇篤なる指導下に、實務を習得し、頗る練達の手腕を以て業界に鳴る人である。されば、當店は業礎の堅き、業域の廣き、兩々相俟つて當方面一流店として名聲を馳せて居るのも決して偶然ではない。なほ氏は在郷軍人會第四分會第三班役員として盡瘁しつゝある。因に取引銀行は、三菱銀行大森支店である。

鈴木新材木店

鈴木新作

明治廿七年十二月十六日生
營業所　東京市荏原區上神明町三八二
電話荏原三五七八番

氏は靜岡縣人である。同縣盤田郡袖浦村字榊原に生れた。

年少にして實業に志し、材木商を選んで斯業修習の爲、上京して本所區厩橋江連材木店に入つて、具に辛酸を嘗むる事多年にして、斯界の機微に通曉するを得たので、昭和四年、現地を相して一店を構へ、獨立自營して、年來の理想實現にその第一歩を印したのであつた。爾來少壯氣鋭の氏は、積極的方針の下に終始一貫して十星霜。遂に業礎を堅うして、成功の坦途を邁進し、當方面に於ける第一流店として、その殷盛を謳はるゝに至つた。氏の資性重厚、爲に衆望あつて、現に町會役員に推されて居る。因に取引銀行は、第百銀行大井支店である、

東風谷材木店

東風谷　秋治

明治十九年十月二日生
營業所　東京市荏原區小山町一六〇
電話荏原二四三七番

氏は千葉縣東葛飾郡木間ヶ瀬村字岡田の出身で、東風谷良助氏の三男である。年少にして材木商を志し、上京して牛込區揚場町の加賀長材木店に入つて、斯業習修の辛酸を嘗むること十一年余。大いに業務に通曉し得たので、大崎方面の發展性に着目し、店舗を設けて、自立經營年來の念願を果したのであつた。時に大正元年氏二十六歳の折である。爾來十年の星霜を閲して業績大に見る可き者があつたが、偶々道路改正に際し、立退いて現地に移轉し、倍徒する奮闘は、よく業礎を強化し業域を擴張し、以て今日の盛況を招來した。氏は溫厚篤實にして四隣或は業者の間に德望を莫め、現に大東京木材商業組合評定委員であり、町會役員である。因に取引銀行は、第百銀行小山支店である。

稲葉屋材木店

稲葉　光男

明治四十二年二月二十七日生
營業所　東京市荏原區上神明町三二

當店は幕末の頃、靜岡縣田方郡對島村字八幡野の人稲葉吉左衛門氏の創業に係り、當方面一流の老舗として名高い。當主は其の三代に當り、德島縣名西郡下分山村字喜來谷なる長野孫八氏の四男として生れた人であるが、年少十四、遠く父母の膝下を離れ、上京して深川區木場四の清重材木店に入り斯業研鑽八ヶ年の後、精勵恪勤、遂に二代稲葉屋店主の見出す所になり、昭和六年、稲葉屋に入婿し、その家業を繼承して、今日に及んだものである。當店の基礎、已に二代の奮闘によつて牢固たるものがあり、加ふるに氏の澄刺たる意氣と手腕は、老舗の名をして、愈々業界に重からしめて居る。氏は溫厚にして篤實。頗る四隣町内の輿望を負ひ、町會役員或は警防團班長とに推されて、公共自治の爲盡瘁する所甚だ多い。

氏は新潟縣柏崎の人。年少、横濱に出で、外人商館に勤むる等幾多曲折の後、材木商を獨立經營、業漸くその緒に就いた頃、偶々、大震災に遭遇するや、勇躍灰燼の東都に進出し現地に製材業を開始して、復興の氣運に乘じ、着々業績を擧げて業界に確固たる歩武を進めたが、昭和五年の頃より、貼天井板製造機の發明に汲頭し、一時、産を治めざるの熱中、遂に昭和八年、平圓突刺機完成、專賣特許を得て貼天井板を製作し、一度江湖に問ふや絶讃の嵐、一躍日本美術建築界の寵兒となつて、斯界に一大革命を齎す世界的發明と謳はるゝに至つた。かくて、今日、斯界一流の壘を摩するの盛業を營むに成功したのである。而して氏は到底碌々業界に蹈躇して小成に安ずるの士に非ず。政治に一見識を有し、しかも熱辯よく聽衆を魅了し、熱血よく「男の中の男」と稱せらるゝ人。曾つて皇道維新勢力を以て任じ、市政革新を標榜、政治革新協議會支持の下に、市會議員に立候補する等、業界異色多彩の人物として潑剌たる活躍を試みつゝある。されば、或は、現大東京木材商業組合理事中央支部長にして、業界指導の一勢力の牛耳を執り、或は、前に荏原町會議員副議長、家屋税調査員等として公共の爲に眞摯これ努めて倦まなかつた。

中延町一一七五　山口武造
小山町一四　電話荏原二五七七番　楠田種樹

目黒區

四倉支店

四倉虎次

明治三十五年八月十八日生
營業所 東京市目黒區三谷町八五
電話荏原二七九六番

氏は、芝區田村町四ノ二四なる四倉材木店本店の實弟である。年少にして、實兄の迹を追ふて實業に志し鄉關を辭して上京し、田村町なる實兄の四倉本店に入つて、實地に斯業を修習すること十餘年の永きに亘つた。されば、東京木材商同業組合より、勤續並に模範店員として表彰せらるゝの榮譽を擔つたのであつた。かくて、業務に精通し、業勢に明達したので、現地の將來發展すべきを豫見し、店舗を開いて支店となし、內外材木各種を取扱ひ、獨自の境地を開拓すべく、宿望を果したのであつた。時に昭和七年、氏而立の歲である。爾來、年處を經ること多からずと雖、活腕縱橫、已に草創の難關を突破し得て、基礎を堅め、顧客を獲得して、坦々たる順調の大路を辿るの現況を招來したのであつた。

藤田屋材木店

澤恒一

明治四十三年四月七日生
營業所 東京市目黒區東町一一
電話荏原四四二六番

氏は、麻布區六本木に在る藤田屋本店主澤氏の長男として生れた人である。年少より家業に携つて嚴父を助け、家運の興隆に努むると共に、業務の習得に專念したのであつた。されば、弱冠已に練達を致し、以て業界の具眼者に期待さるゝに至つた。玆に於いて氏は、鍛鍊の手腕を縱橫に振ふべき獨自の境地に就かんことを欲し、現地の有利多望に着眼して一店を設け、自ら其の經營の任に當つたのである。時に昭和八年、氏二十三歲。爾來、年處を經ること十年に充たずと雖、活腕よく草創の難局を克服し得て、顧客層を廣汎に獲得し、店勢順調の一路を辿りつゝ、現在に及んで居る。氏は溫厚篤實四隣に德望あつて、現に東原町會理事として公共自治のため盡しつゝある。因に第百銀行が氏の取引銀行である。

合名會社 藤屋材木店

代表社員 山下友之助

明治三十四年三月十日生
營業所 東京市目黒區自由ヶ丘五五
電話荏原三七七六番

氏は東京府の出身である。即ち西多摩郡霞村字新町に於ける土地屈指の豪農山下家の三男として生れた。年少にして實業を志し農林學校卒業するや、淺草區地方今戶町なる藤屋材木店に入つて、斯業研鑽の後、大正十三年帝都復興の氣運に乘じて實兄の向島區寺島町に藤屋材木店を創立するや、氏は其の支配人として活腕を振ひ、期年ならずして磐石の如く業礎を堅めた。而した數年前、現地に進出して、その經營に任じたのである。爾來、氏は積極進取の方針に終始し、仕入れは產地より直接移入し、顧客は遠く神奈川縣方面にまで求むる等、しかも、氏自ら奔驅して席煖まるに暇なき活動振りであつて、毎月の賣上萬を以て數ふと嘯さるゝも、決して偶然ではない。かくて、已に當地業界の一流店として重きをなしつゝある現況である。

福島材木店

福島譽一

明治三十七年一月二十六日生
營業所 東京市目黒區中目黒四ノ一四五九
氏は德島縣人で、德島市八萬町の出身である。高等小學校を出づるや、實業を以て立身すべく志を立て鄉關を辭して遠く東都に上り、材木業者を選んでその理想となし、深川區木場の濱本本店に入つて、精勵業に服する十三年餘。乃ち、斯道の機微に通じ、業界の事情に明となつたので、昭和七年、氏二十八歲の時、現地を相して一店を構へ、建具材一式を主として、獨立經營の第一歩を踏み、他年の宿望を果したのであつた。爾來、銳意努力の結果、草創の難關を突破し得て牢固たる業基を築き、業績日に擧つて今日に及んで居る。氏は資性醇厚溫恭、よく衆の推す所となり、共榮納稅組合長、町會會計、警防團役員等々、公共自治銃後國防の爲、盡する多々。因に氏の取引銀行は、日本實夜銀行である。

山岡材木店

山岡勝

營業所 明治四十三年一月十日生
東京市目黒區中根町六〇
氏は四國德島縣人である。即ち同縣名東郡佐那河內村字平地に生れた。高等小學校を卒業するや材木商を志して、上京し、荏原區中延町なる岩城屋材木店主岩城春吉氏の同村出身なるを手賴りて同店に勤め、精勵刻苦、具に斯道修業の辛酸を嘗むる事十年に餘つた。かくして業務に精通するや、現地を卜して一店を構へ、多年の念願たる獨立自營を開始したのであつた。時に昭和九年、氏二十五歲の春五月。爾來、少壯の意氣を以て積極的方針を堅持して奮鬪努力、業基全く堅くして、業績益々擧がらんとするに際し、今次の事變勃發するあつて、氏は勇躍出征の途に就いた。而して留守宅の一切を擔當する者は、義弟友一氏であつて、全力を傾倒して、業礎の確保にいそしみつゝある。

長谷製材所

長谷重作

營業所 明治二十八年二月十九日生
東京市目黒區中根町二六七
氏は北海道の出身である。小樽市內若竹町六に生れた。年少にして製材業を志し、鄉里にあつて斯道の研鑽を積むこと多年。上京して昭和四年六月、池袋に一店を創設し製材一般加工各種を取扱ひ、以て業界にデヴューした。時に氏三十四

歳の頃である。後、東長崎方面に赫出し、更に、現地方面の斯業發展に利便あるに着目し、昭和十一年、三度居を移して倍舊の努力奮闘、よく當方面材木商及建築業者間に顧客層を獲得し以て業礎を堅め、業績を擧げて今日に及んで居る。氏の老練の手腕と、熱意ある努力とは、氏の將來の大成を約束するものであつて、その活躍は、業界の齊しく刮目する所である。

影山製材所

影山　喜三

明治二十七年十二月七日生
東京市目黒區唐ケ崎五九四
營業所

氏は靜岡縣人である。同縣富士郡岩松村字岩本が其の生地である。夙に上京して大正十年より本所區菊川町に製材業を營むこと多年。確乎たる地盤を獲得して、業績大に擧がつたが、後、義弟に一切を讓渡して、現地に轉移した。蓋し、此地の將來發展すべきに着目し、製材一般を取扱つて、新たなる地盤開拓に努力の法悦を感じたが故である。時に大正十年氏二十八歳、爾來、圓滑なる手腕を奮ふこと十有五年に亜んとして、見事に草創開拓の難關を突破克服し、材木商並に建築者間に顧客層を獲得して業績大に擧ぐるを得。業界の一方に確乎たる地歩を占め、穎を稱して今日に及んで居る。因に本所區なる後藤製材所並に西尾製材所又、遠く大宮町の大宮製材所等業界一流の經營主は、皆、氏の親戚に當つて居る。

上 當久支店　井口材木店

井口十二

明治二十六年五月二十二日生
東京市目黒區唐ケ崎六二八
營業所

氏は新潟縣出身で、同縣中頸城郡保倉村字上吉野の生れである。青雲の志を抱いて郷關を辭してより、櫛風沐雨幾星霜の試練時代を經た後、材木商の有利を知つて、立身の道を玆に求め、二十四五歳の折、芝區仲門前町なる佐藤久八材木店に入り、斯道の修業に專念すること廿餘年。遂に店務の樞機に參じて、大に店勢を張つた。昭和十三年氏不惑を躡えて已に五歳の時、當地の發展に鑑み、當久支店を設けて、桂、タモ、朴、ラワン、櫻其外雜木一式を取扱ひ、老練の氏自らその經營に當るや、草創以來未だ莽年ならざるに、敏腕よく業の苦難を克服し、業礎漸く堅からんとして、相當の成績を擧げつゝある。なほ、資性重厚の氏は、開業早々町民四隣の信頼を受け、龍昇會會計主任、家庭防火團第三十群長等に推されて、町内自治の爲に大に努めつゝある。

源 藤沼材木店

藤沼酒造之助

明治二十五年二月二日生
東京市目黒區清水町四七一〇
營業所
電話茅原六八七六番

氏は茨城縣人で、同縣猿島郡猿島村字金岡が其の故郷である。幼少十二歳の時上京して、目黒區なる淺源材木に入り、

忠實業に服して、櫛風沐雨實に三十星霜。その前半に於いて既に忠勤誠實よく同輩の模範たり、その後半に於いて盡く店主の信頼を贏得て店務一切を管掌した。されば、東京木材商業組合は、氏の精勤を賞して表彰し、且つ紀念品を贈つたのである。かくして氏不惑を躡ゆる一歳、即ち昭和八年、現地に獨立し、自店の經營に着手したのであつた。爾來、氏の性格を反映せる實質なる方針と、半生を賭して圓熟の域に達せる手腕は、開業早々、顧客の廣汎なる層を捉ふるに成功し、業礎既に堅くして、草創日尚ほ淺きに拘らず、已に老舗の貫祿を示し、業界一方の覇を稱するのみならず、その大成の期して俟つべきあるは具眼者の齊しく認むる所である。しかも氏は劇務の傍、公共自治の爲に盡瘁して、以て衆望を篤めて居る。即ち重厚なる風格の致す所である。因に氏の取引銀行は、日本畫夜銀行である。

政 笹籔東京支店

笹籔政治郎

明治十九年二月十日生
目黒區上目黒五ノ二五八一
營業所
電話澁谷九二〇番

當店の本店は、奈良縣吉野郡吉野山に在つて、該地屈指の老舗と聲聞する銘木店である。政治郎氏は該店に生育して、夙に家業を習得し、練達圓熟の手腕を養成し得たる後、上京して當地に支店を開き、鋭意其の經營に任じ、忽ちにして同業者並に一流建築業者間に顧客層を獲得し、星霜十年、よく城南一流銘木店たるの名を恣にし、業界の一方に重きをなすの地歩を確保し、しかも、店勢の發展その極まる所を知らざる者の如くである。加之、氏の長男義輝氏は、家業に携つて精勤父君に凌ぎ、父君の良き指導下に店務一切を管掌して居る現況であつて、氏の才腕、亦斯界稀に見る所として、齊しくその將來に期待をかけつゝある。因に同店の取扱ふ所は吉野磨丸太、杉長皮、内外天井板、ベニア板、床廻用材一式の製造卸一切に亘る廣汎なものである。取引銀行は、第百銀行惠比壽支店である。

舎 黒川材木店

黒川吉一郎

明治四十年四月二日生
東京市目黒區三谷町五八
營業所

氏は栃木縣人であつて、同縣上都賀郡粟野町中町に生れた年少十四歳の時、上京して本所區菊川町下平材木店に入り、同業を以て身を立つるべく、斯道の研鑽を夙夜懈らず、爲めに薪水の勞を厭ず、辛酸を甘しにする底の努力遂に効あつて十年餘を經て、業務練達、業勢明瞭となつたので、待望の獨立自營を創むべく現地を相して店舗を設けたのが昭和三年氏二十一歳の折である。爾來、少壯氣鋭の氏は、徹頭徹尾、積極進取の方針に一貫して、活躍又活躍、遂に星霜十年を閲せる今日、磐石の如き業礎の上に立つて顯著な業績を擧げつゝあるの成功を贏得たのである。なほ、氏は、現に警防團、郷軍分會、町會等に役員として、四隣の人望を篤めつゝある。

因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

時田竹材店

時田庄左衛門

明治三十七年二月二日生
營業所　東京市目黒區大岡山一二八
電話荏原六三六五番

氏は茨城縣出身者で、同縣結城郡中結城村字佐野に生れた年少十五歳、實業を以て身を立つるべく決意し、材木商を選んで斯道習得の爲、上京して淺草區山谷堀河岸なる竹文材木店に入り、具に修業の辛酸を嘗むること十年余。遂に業務に精しく、業界に明かに、自營の確信を獲たので、昭和四年、現地を卜して丸太並に竹材を取扱ひ、獨立開業した。時た氏人生五々の春である。爾來十年に垂んとする精勵は、よく業基を磐石の堅きに置き、現に店員三名を置いて、當方面業界瞠目の店勢を張つて居る。氏の業務に對する熱情と、商機に對する慧敏とを以てすれば、その大成は、將來に期して待つべく、其の前途の洋々、正に祝福に價する。因に氏の取引銀行は、目黒信用組合である。

東駿商店

合資會社　代表社員　岩崎武

明治二十九年二月一日生
營業所　東京市目黒區原町一三五七
電話荏原二五一二番

氏は靜岡市出身である。即ち同市葵町九三に生れた。海野象太郎氏の四男であるが。後年、親戚岩崎家に入籍した人である。夙に材木商を志し、多年斯道修業の上、上京して、更に澁谷區なる竹種材木店に入つて、研鑽を積むこと二年余。昭和二年待望の獨立を現地に創め、内外材木一般並に竹材を取扱つて自營したのであつた。時に氏三十一歳。爾來星霜十年を閲し、て既に牢固たる地盤を築き、業績、城西城南の業者間に王座を占むるの盛大を致して今日に及んで居る。以て氏の手腕の俊敏なるを窺ふに足らう。なほ氏は業界に活躍するの傍、町會役員其他公共自治の爲めに盡瘁する所鮮少でなく以て德望を一身に蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

松永材木店

松永龜吉

明治十七年八月十七日生
營業所　東京市目黒區碑文谷一ノ一一四六

當店は、德川時代以來の舊家として當地方に名高い。竹材商としても父祖三代を經た老舗として、業界に著聞する。龜吉氏は、幼少より家業に携つて業務精通を以て謳はれた。箕裘を襲いで以來、牢固たる業基の上に上つて、着實なる手腕を振ひ、更に大正十年の頃より、材木各種を取扱ひ販賣して業績を彌々顯著ならしめ、最近、諸工場等大量納入の顧客層を開拓して店勢益々張るの現況である。氏は舊家の出なるに加へて重厚なる風格は、頗る衆庶の信頼を蒙り、現に碑文谷一丁目町會理事にして會計を兼ね、目黒信用組合評定員に推

さるゝ等、忙繁の傍、公共自治の爲に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、目黒信用組合である。

藤政材木店

加藤政藏

營業所　東京市目黒區下目黒二ノ四二〇
電話大崎六六九番
工場　板橋區石神井

氏は、年少にして材木業者たるべく志して、麻布區六本木なる藤田屋材木店に入り、精勵勤勉、忠實業に服し、刻苦具に斯業習得の辛酸を嘗めた後、業務に練達し、業勢に通曉したので、大正八年、現地の有望を相し、一店を構へて内外各種木材一般を取扱つて獨立開業した。爾來、氏は、活腕を振つて、業礎を堅うし、業域を廣め、梅風沐雨の二十星霜を閲せる後、盛なる業績を擧ぐるに成功して今日に及んで居る。

栗山竹木店

栗山國太郎

明治五年一月十五日生
營業所　東京市目黒區平町一五九

當店は、土地の舊家として、近郷に著名である。氏は玆に人と爲つて、家業の山林業に精勵する事多年の後、現業の有利なるに着目して、磨丸太、角材、垣根材料等を取扱つて開業した。而して、長男勝太郎氏、明治卅七年三月廿八日を以て生るゝや、斯業の中に生育し、父君を佐けて業務に精通し年少にして既に練達を以て稱せらるゝに至つた。現在に於いては、店務經營の一切を、襲鑠たる父君のよき指導下に管掌して、店勢頗る張る現に使用店員三名、其の活躍、誠に業界一般注目の的となる。なほ、氏は温厚にして篤實。四隣の悉く景仰する所、現に推されて町會役員たるの外、郷軍第五分會第三聯合班長として、公共自治に、或は銃後の守りに、盡瘁する所鮮少でない。

玉傳商店

西川傳三郎

明治四十三年生
營業所　東京市目黒區自由ヶ丘八七
電話荏原四〇七一番

當店は先代傳三郎氏が、明治四十一年に獨立開業したもので、三十年來の老舗として、業界に著聞する。當主傳三郎氏は元來名を一雄と云つて、嚴父創業第三年に呱々の聲を擧げたのである。神田商業學校卒業後、軍役に就き、陸軍少尉となつて除隊した。爾來、家業に精勵して、父君を助くるの一方、業務の習練に研鑽に遺次も怠らなかつた。嚴父の逝去に遭逢して、その箕裘を繼ぐに及び、襲名して傳三郎と稱し、玉傳第二代として今日に及んで居る。既に牢固たる地盤の上に立ち、多年練達の手腕を有する以上、居然として業界に重きをなしつゝあるは、玆に贅する迄もない。なほ温厚篤實なる氏の責性は、頗る衆の敬慕する所となつて居るのみならず業界方面では碑文谷木材商組合會計に推され、町内に於いては自由ヶ丘自治會第二組長に選ばれて居る。因に氏の取引銀

行は、第百銀行である。

伊勢奈銘木店

鳥井香松

明治六年一月十五日生
營業所 東京市目黒區自由ヶ丘肆前
電話 碑原四五七〇番

氏は三重縣の出身である。同縣一志郡八幡村字奥津に生れた。半生幾多の波瀾曲折を經たる後、材木業の有望なるに着目し、現地を卜して一店を設け、各種銘木を取扱つて開業した。爾來、着々業績を顯著にし、十年の星霜を閲せる今日、當方面一流の銘木店として業界に重きをなして居る。なほ、氏の長男直次郎氏（明治三十三年生）は幼少より家業を輔けて父君の手足となり、家運の興隆を招いで現在の盛況を致した。しかして、壟斷壯者を凌ぐ父君の老練なる指導下に、全店を管掌し、三名の店員を使用して、業務に精勵し、今後の大成を期して努めつゝある。

中善材木店

師田善一

明治四十年四月一日生
營業所 東京市目黒區東町十四

氏は、横濱市の出身で、同市長者町三ノ卅三に生れた。父君は材木商を營みつゝあつたので、氏は、幼少の折より斯業に經驗を積んで生育した。業務練達を以て自他相許すに至つた時、東都進出を企て、現地の有望を相して店舗を設け、經營の一切に任じたのは、昭和六年、氏二十四歳の春四月であつた。爾來、氏の歩一歩業礎を堅からしめ、業域を廣からしめ、業績を顯著ならしめ、堅實主義の方針下に、着々店勢を張つて今日に及んで居る。氏の重厚なる風格は、大方の信頼を獲得し、町内東盛會の役員に推されて靈率する所鮮少でない。年齢なほ春秋に富み氏の如きは、前途洋々と謂つべきであらう。

上田屋製材所

上田吉歳

明治二十七年十二月二十二日生
營業所 東京市目黒區東町三十三

氏は東京府の出身であつて、西多摩郡成木村字北小曾木がその出生地である。年少の頃より上京し、幾多の曲折を經たる後、材木商を志して、深川區木場の驍政材木店に入り、斯道の研鑽習練にいそしむ事多年。業務練達を以て許さるゝや恰も大震災に遭逢し、續いて復興の氣運全都に漲るや、勇躍氏は現地を卜して店舗を構へ、獨立自營、以て、多年の宿望を達したのであつた。時に大正十三年、氏而立の年である。爾來、烏兎匆々十有五年を越ゆるの奮闘は、よく今日の強固なる業基を築き得たのであつた。特に七年前内外材木各種販賣に加ふるに製材加工を兼ね營んで以來、機敏なる氏の商眼遂に氏を謬らず、需要甚だ多くして、從業員四名を置いて店勢彌張るの現況である。なほ氏は劇忙の傍、公共自治の爲に盡す所少からず、爲に四隣の人望を蒐めて居る。

長崎材木店

長崎芳次郎

明治二十六年二月二日生
營業所 東京市目黒區上目黒七丁目四五四

氏は岐阜縣出身である。同縣竹鼻町に生れた。年少、東都に出でゝ材木商たるべく志を立て、斯道の研鑽に怠らざること多年。遂に斯道習得の確信を掴み、大正八年、獨立して淺草區厩橋町に創業した奮闘の四年を經て、業礎漸く堅からんとするに際し、かの大震災に遭逢して、家財蕩盡。しかも果敢なる氏は、地を現地の場所に卜し、店舗を新にして、不死鳥の如く灰燼の中に立上つた。時に氏正に而立。爾來、帝都恢興の氣運に乘じ、活腕を振つて業基の堅固を致し、逐年業績を顯著ならしめて今日に及び、當方面の業界に中堅として重きをなしつゝある。

山田材木店

山田甲一

明治二十八年六月一日生
營業所 東京市目黒區碑文谷二ノ一〇三八

氏は靜岡縣人で、同縣志田郡稻葉村字寺嶋に生れた。夙に上京して、幾多の試練を經た後、日本橋區箱崎町に一店を構へ、建具商を經營して、永年に亘り堂々の店勢を張つたものである。然るに心機一轉、製材業を志し、現地の種々なる角度より視て現業開始に有利なるを相し、製材所を設けて、敢然斯界に進出した。時に昭和七年、氏の年齢不惑に近かい。爾來、氏の圓熟せる手腕と、附近同業の鮮き好個の條件と相俟ち店勢の躍進著しきものがあり、業礎堅く、業域廣く、當方面第一流の製材所として、業界に確乎たる地歩を獲得し、以て今日に及んで居る。氏は顯る衆望あり、現に推されて家庭防火團群長を勤め、銃後の守りを堅しつゝある因に氏の取引銀行は、日本興夜銀行である。

里村材木店

里村庸太郎

明治二十九年十二月二十八日生
營業所 東京市目黒區中目黒一ノ七七九
電話 大崎二一〇四番

氏は江戸兒である。東京市京橋區鑄岸島町がその出生地である。實業を以て身を立てようと決心したのが、既に幼少の頃であり、稍長じて、材木商たるべく、深川區木場の驍保材木店に入つて、斯業習得に精勵した。文字通り忠實業に服すること多年。既にして業務に通曉し、斯界の機微を會得した後、多年の念願を果すべく、大正八年現地の有望を卜して店舗を設け、内外材木並にベニア板を取扱つて、獨立した。爾來、星霜を閲する二十年に垂んとして、氏の奮闘よく業績の顯著なる得、現に二名の店員を使つて、店勢大に張るの現況である。なほ氏は劇忙の傍、幾多の公共事業に參加し、靈率する所多大で、四隣の信望を蒐めて居る。因に氏の取引銀行は、日本興夜銀行である。

橋本檜材店

橋本金一

明治二十八年八月二十三日生
營業所　東京市目黒區清水町五七九
電話荏原六八七六番(呼)

氏は東京市の出身である。下谷區仲御徒町に生れた。幼少十三歳の頃、芝區高輪東町中長材木店に入り、薪水の勞を厭はず、夙夜懈らずして、斯業修練に努むること十有三年。斯業に通曉し、斯業を會得して、大正九年、品川區上大崎に獨立自營、大に業績を擧げ、後、下目黒に轉じ、更に現地の有望なるに着目して、昭和二年三度の轉移を敢行した。爾來星霜十年を越えて、當地方業界に確乎たる地位を獲得して今日に及んだ。なほ、兩三年前より從來の製材一般に飽ねて尾州檜材專門販賣に着手し、材木商、建具商、建築者間に顧客層を獲得し、業績を顯著ならしめた。氏は篤厚の資性、大に德望あつて、現に町會役員であり。月光原小學校保護者會會計に推されて居る。因に氏の取引銀行は、日本興業銀行である

長谷川惠造商店

長谷川靜三

明治三十七年十一月二十五日生
營業所　東京市目黒區鷹番町七九

氏は千葉縣君津郡馬來田村に生れた。小學校を出づるや、材木商たるべく父母の膝下を離れ、上京して業務習得の爲、深川區木場駿保材木店本店に入り、粉骨碎身、業に服して忠實、實を果して苟もせず、遂に十有三年の研鑽を經て、業界の事情、業務の實際に通曉したので、現地を卜して店舗を構へ、廣く內外各種の材木一般を取扱ひ、他年の宿望を果して獨立自營の第一歩を踏んだ。昭和六年、氏二十七歳の頃である。かくて、氏の練達の手腕と、不拔の意力とは、よく草創當時の困難を打開して、業礎已に堅く業績大に擧がり、店勢當方面の業界稀に見る活氣を呈して、今日に及ぶ。氏嘗だ衆望あつて、現に防火團副團長に推され、銃後の守りを堅しつゝある。因に氏の取引銀行は、三井銀行目黒支店である。

丸木屋材木店

木下德行

明治四十三年五月二十日生
營業所　東京市目黒區中根町二六七

氏は東京府下西多摩郡三田村に生れた。年少十八歳の頃、材木商を以て身を立つるべく志を決し、斯道修業の爲、上京して上目黒七丁目吉孝材木店支店に入り、夙夜懈らずして業道の研鑽にこれ努めて、十年余を經過した。かくして、斯業に精通し、斯道に會得する所あつて、初一念貫徹の爲、獨立自營、現地に店舗を開いたのである。時に昭和十一年、氏二十八歳。爾來、星霜五年に垂んとして、圓熟せる手腕は、よく業礎を堅くして磐石の如くならしめて居る。しかも氏は溫厚にして篤實、顧客に應待して頗る誠心誠意、その利便を念として偏にその信頼を蒙る。その業績の尋常ならざる亦宜なりと謂つべきである。氏はなほ春秋に富む、その活躍と大成は、將來に期して正に刮目に價する。

五十嵐材木店

五十嵐仁

明治三十一年七月十一日生
營業所　東京市目黒區上目黒三ノ一八七六

氏は群馬縣人で、同縣群馬郡久留馬村字神戸に生れた。夙に材木商を志し、斯業研鑽多年に亘つた後、上京して昭和十年現地に獨立開業した。時に氏三十七歳の頃である。爾來、氏は活躍奮鬪、よく草創の荊棘を開拓し得て、業礎を磐石の堅きに置き、逐年業績を擧げて今日に及んで居る。氏の老練の手腕を以て、建築業者並に工場方面への顧客層獲得、更に多きを加ふるは、只だ年處の問題に過ぎず、その大成は、期して俟つべきものがあらう。氏は資性篤實にして溫厚、頗る四隣町內の人望を得て、現に町會並に家庭防火團等の役員として、公共自治の爲に力めつゝある。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

高初材木店

高品初太郎

明治三十六年十一月十日生
營業所　東京市目黒區上目黒五ノ二五一五
電話青山七一〇六番

氏は東京市出身である、卽ち木所區麻布橋町に生れた人。深川區木場の萬信材木店に入つて、斯業修練の途に就いたのは幼少十三歳の頃である。爾來、薪水の勞を厭はず、忠實業に服して斯道の研鑽に專念する事、十有四年の永きに亘つた。されば東京材木問屋組合は、氏を精勤模範の店員として表彰し、並に紀念品を贈つたのであつた。かくして、氏は斯業通達の確信を得たので、當地の發展途上にあるに着目し、店舗を設けて自立開業したのであつた。時に、昭和五年。氏二十七歳の七月である。爾來星霜十年に垂んとする氏の奮鬪は、よく店勢の盛大を招いで今日に及んで居る。因に重厚なる氏の資性は、頗る四隣の推す所となり、昭和七年十月以來、五本木町會役員として町內自治の爲に盡す所ある外、十年度國勢調査委員として盡力し、感謝狀並に紀念品を贈られ、十三年度東京市靑年調査委員として奔走する所があつた。因に氏の取引銀行は、目黒信用組合である。

中村竹材店

中村春二

明治四十二年三月二十八日生
營業所　東京市目黒區三谷町八五

氏は埼玉縣の人で、同縣南埼玉郡江面村字下早見に生れた弱冠靑雲の志を抱いて鄕關を辭し、上京して麻布區新網町の麥子仲竹材店に身を投じた。蓋し斯業に立身處世の道を求めんが爲である。かくて拮据勤勉、忠精業に服する八ケ年。乃ち斯業に練達し、斯界の機徹に通じ得たので、現地に一店を設け、竹材、丸太類、造園材料等を取扱つて、獨立自營、以て初一念を貫徹するの歡喜を滿喫したのであつた。時に昭和十二年、氏二十八歳の折である。爾來、草創日尙ほ淺く、そ

の業績を云爲するの輕きを免れないが、敏腕よく業礎を確乎たらしめ、顧客を社會の各層に開拓して、店勢の盛と稱して誤なき現況である。春秋に富める氏の將來は正に刮目に價しよう。因に氏は現に鄉軍第四分會第四班班長として軍國の非常時に盡す所多々。

確 白子材木店

白子清治

明治三十七年二月八日生
營業所 東京市目黑區柿ノ木坂町二五
電話荏原二〇六七番

當店は、現地屈指の舊家であり、且つ先々代、惣五郎氏に依つて明治三十年に創業せられた老舗として、業界に著聞する。清治氏は、この雰圍氣中に生育して、幼少より家業に精勵し、頗る通曉する所あつて後、箕裘を襲いで當店第三代となり、以て今日に及んで居る。取扱ふ所、磨丸太、銘木、床材、樫棒材、造船材等であつて、氏の俊敏なる手腕は、よく三代の業礎に就いて更に强固ならしめ、店員二名、從業員六名の多數を使役して、業績を彌々顯著ならしめつゝある。氏の如きは、寔に父祖の名を辱しめざる者と謂はべき人であらう。氏は、舊家の當主として、且つ溫厚の長者として、甚だ四隣の人望を蒐め、町會役員に推されて公共自治に盡瘁するの外、鄉軍第六分會第四班班長として銃後の爲に活躍しつゝある。因に氏の取引銀行は、目黑信用組合である。

田 田中材木店

田中百太郎

明治二十九年九月二十五日生
營業所 東京市目黑町上目黑八ノ五四八
電話澁谷一六六三番

氏は東京市の出身で、世田谷區祖師ケ谷二ノ四二五に現在の令嗣が盛業を營みつゝある業界の舊舗田中材木店に生れた人である。幼時より家業に携り、父君を助けて晨夜懈らず、少壯已に練達の手腕人を驚かすものがあつた。後、次兄の明治三十八年十一月創設に係る當店に轉じ、次兄を輔けて頗る業績を擧げたが不幸次兄中道にして逝世、氏乃ち當店を繼承して、拮据經營二十有餘年。今や、店勢當方面第一流の伸展を齎し、且つ、氏は、大東京木材商業組合目黑支部長として業界一方の覇者。不惑老練の手腕を提げて、非常時局下、產業報國の一路を邁進しつゝある。因に氏の取引銀行は、第一第百、昭和、三菱、三和各銀行である。

益戸材木店

益戸由藏

明治二十三年十一月八日生
營業所 東京市目黑區中根町一七五七
電話荏原四〇二二番

當店は、三十餘年前、先代の創業に係り、氏は、その二代に當る。年少より斯業の環境裡に成育して、頗る業務に通達し、父君を援けて、家業の興隆に資する所甚大なるものがあ

つた。後、和泉豐材木店に入り、一層の鍛錬を加へて斯業習得に精進すること多年、遂に業成るに及んで、家業を繼承して內外木材の外、竹材、丸太類を取扱つて今日に及んだ。而して既に確固たる基礎の上に立つて、顧客一層の得に力め、且つ圓熟の手腕を縱橫に振つて經營に奮鬪した結果、當方面に一流店としての勢威を張り、且つ業界一方の重鎭として、現に大東京木材商業組合理事、碑文谷木材商組合長であり、曾つて、荏原西部木材商業組合長たること三期に亘つた。又資性老熟頗る四隣の推す所となり、信用組合總代、警防團班長、町會役員、小學校後援會理事等の職に就いて、公共自治の爲、盡力する所鮮からず、益々大方の信賴を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、目黑信用組合である。

中目黑二ノ四六一　電話大崎三八四六番　上目黑五ノ二三七二　島崎兼三

上目黑二ノ一九九四　電話澁谷一七〇八番　淺梅久太郎　中目黑二ノ三五五　電話大崎二四〇二番　上原治平

同　一ノ二四一　鋼木太郎　上目黑五ノ二六四六　峰岸清次

同　一ノ二四一　電話澁谷一三二二番　鈴木房之助　中目黑二ノ四〇〇　廣清勇市

同六ノ一三三五　田中鉞五郎　碑文谷町一ノ二九六　木下進一

同　七ノ四六三　電話澁谷三二五一番　久保道三　駒場町七八〇　電話澁谷二五七三番　久米新太郎

澁谷區

田 藤田材木店賣場

矢田東次郎

明治三十五年二月二十六日生
營業所　東京市澁谷區代々木富谷町一四六二

氏は三重縣の出身で、河藝郡箕田村字下箕田に生れた人である。年少にして建築業を習得して工務一式を請負ひ、頗る盛名があつたが、更に材木の需要激增の趨勢に鑑み、建築材一般を取扱ひ販賣を兼營したのは、昭和十年である。爾來、建築業の傍、材木業に精勵して、幾何の年處を經ることなくして已に當方面業界に特異の存在を强調し、顧客層の廣汎なるを獲得して、現在職人拾餘名を常傭する店勢を張つて居る氏は資性重厚にして篤實。頗る衆望を蒐め、現に推されて警防團の役員であり、銃後を固むる一員として、非常時に盡す所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

宗 麻布小池支店

小池堅治郎

明治二十二年十二月十七日生
營業所　東京市澁谷區橋ケ谷笹塚町二六
電話四谷一六八一番

氏は、東京市の出身で、麻布區霞町一四即ち、小池材木店本店がその生家であり、現に實甥が家業を繼いで盛大な店勢を張つて居る。氏は幼時より不惑に近き年頃まで家業に携つて、或は厳父の手足となり、或は家兄の股肱となつて、家道興隆に傾倒する所があつたが、其の練達無比の手腕を振ふべく獨自の境地を欲して、大正十五年、現地に支店を設け、內外各種材木一切を取扱つて、その經營に專念することゝなつた。時に氏三十七歳。爾來、春秋秋雨星霜を閲する十五年。老巧にして且つ圓熟せる氏の手腕才能は、當方面異常の發展と相まつて、業礎を堅くし、業域を廣くし、業績日に月に向上して、業勢甚だ盛大なる現況を招來し、店員三名を置いて店務頗る殷賑を極めつゝある。因に氏の取引銀行は、第百銀行である。

竹 小島支店

柳木恒吉

營業所　東京市澁谷區橋谷笹塚町一二五六
電話四谷四一三六番

氏は、東京市の出身で、世田谷區上北澤に生れた人である年少にして實業に志し、材木業を選んで身を立てんと欲し、淀橋區角筈の小島材木店に奉公し、粉骨業に精勵し、碎身職に忠實、爲めに衆の模範として店主の眷顧を蒙り、娶すに店主夫人の令妹を以てせられたのであつた。かくて、店主の左右に在つて、店勢の擴張に盡す所甚大であつたが。多年鍛練の手腕を縱横ならしむべき獨自の境地開拓を欲し、昭和五年現地の發展性顯著なるに着目して支店を設け、內外各種材木建築材一切を取扱つてその經營に當つたのである。爾來十年

に垂んとして、氏の堅實なる方針と敏活なる手腕は基礎の强化に顧客の獲得に充分の成功を齎し、逐年業績を擧げて、從業員三名を置き、店勢大に張るの現況である。因に氏の取引銀行は、第一銀行である。

保 清水材木店

清水保

明治四十四年五月廿日生
營業所　東京市澁谷區新橋町五六
電話高輪四二六三番

氏は靜岡縣の出身で、濱松市元城町に生れ。清水いそ氏の長男である。高等小學校卒業後、材木商を志して上京し、麻布區廣尾町の川幸材木店に入り、拮据十年、具に斯道修練の辛酸を嘗めた後、斯界の亘細に通じ、業務に練達の自信を得たので、現地を相して店舗を構へ、建築材、建具材、ラワン並にベニア板を取扱つて、獨立自營、以て二十年來の念願を達し得たのであつた。時に昭和十二年三月八日。かくして草創日尚ほ淺しと雖、氏の圓熟せる手腕は、よく難關を克服し得て業礎、已に堅く、從業員二名を使役して店務繁劇、遞信省經理局購買課納入を始めとし、諸工場其他を主なる顧客として、着々業績を擧げつゝある。春秋に富める氏にしてこの練達の手腕あり、その前途は業界齊しく期待する所である。因に氏の取引銀行は、三井銀行、第百銀行である。

上 辻村屋材木店

上澤勝次

明治廿二年四月十七日生
營業所　東京市澁谷區原宿町一ノ一三四

氏は栃木縣人である。同縣上都賀郡西大芦村字八岡が其の生地である。弱冠志を立てゝ鄉關を辭し、上京して材木員たるべく斯道修業の念願の下に、本所區菊川町の辻村材木店に入り、拮据精勵、忠實業に服して十年餘の長期に亘り、具に斯業修習の辛酸を嘗め、遂に業務に精通して自立經營の力量に自信を得たので、氏は地を現在の處に求め一店を設けて內外材木販賣を創業したのである。主家は氏の永年の勞に酬ひて暖簾を分けた。かくして氏は宿望を達したのである。時に昭和五年。爾來、氏の奮闘努力は目覺しきものがあり、青年ならずして業基全く堅く、逐次業績を擧げて今日に及んで居る。なほ氏の圓滑なる風貌は甚だ人の推す所となつて現に家庭防火團群長である。因に氏の取引銀行は、住友銀行である

夕 佐藤材木店

佐藤多一（多利藏）

明治廿九年九月廿六日生
營業所　東京市澁谷區代々木富ケ谷町一五八三

氏は秋田縣人である。即ち同縣北秋田郡下川添村大字川口字鳴淵に生れた。弱冠志を抱いて鄉關を去り、材木商たらんと欲して斯道修練のため、深川區木場の岡莊本店に入つて、

夙夜懈らず具に辛酸を嘗めて斯業研鑽十年に餘つた後、曉通練達の確信を掴んだ氏は、地を現在の場所に選んで店舗を設け、內外各種材木一般を取扱つて、獨立自營、以て兼ての一念を貫徹し得たのであつた。時に昭和十一年。爾來、年處を經る事幾何ならずと雖、氏の圓熟せる手腕は已に業礎を築いて確乎たる者があり。著々業域を擴張して業績を擧げつゝある。しかも氏の素朴なる風格は顧客の信頼を買うて、その愛顧を蒙ること蓋常でない。されば、氏の大成は業界一般に期待せらるゝ所である。

高橋材木店

高橋義太郎

營業所 明治廿六年十一月十八日生
東京市澁谷區幡ヶ谷本町二ノ七三

氏は東京市出身である。即ち牛込區中里町に生れた。年少材木商を志して、本所區竪川町なる松永材木店に入り、廿餘年の長期に亘つて斯道修習の後、業務錬達の域に達し得たので現地をトして一店を設け、內外木材一般を取扱つて、獨立自營、以て多年の宿望を果し得たのであつた。昭和十二年九月の事である。爾來、日尙ほ淺きに拘らず、已に草創の難關を突破し得て、業礎頗る牢固たる者があり、現に二名の店員を使役して、老練圓熟の手腕を縱橫に振ひ、當方面に於いて一二を爭ふ活氣ある店勢を示して居る。しかも氏の篤實なる資性故に町內四隣の人望を蒐め、現に家庭防火團幡谷本町第三部第一群長に推されて居る。因に氏の取引銀行は、日本蓄夜銀行である。

深津材木店

深津嘉造

營業所 明治廿一年九月十二日生
東京市澁谷區原宿町二ノ一七〇

氏は栃木縣の出身で、同縣上都賀郡南押原村字鹿和田に生れた。深津丑治郎氏の三男である。弱冠材木商を志して上京し、赤坂區なる大和屋材木店に勤めて、斯道の研鑽修習に傾倒する事十有六年の長きに亘つた後、業界の事大小となく通曉するを得たので、宿望を達成すべく、地を現在の處に選んで店舗を設け、內外材木各種販賣を、獨立經營したのであつた。時に昭和十二年十二月。草創日尙ほ淺くして、難關前途に橫はると雖、氏の手腕力量は、その奮鬪的精神と相俟つて漸次、克服打開、已に確乎たる業礎を築いて今日に及んで居る。その顯著なる發展力は、氏の前途を洋々たらしめつゝありと云つても過言ではあるまい。因に氏の取引銀行は、第一銀行青山支店である。

㊇ 合資會社 塚田材木店

塚田八太郎

營業所 明治廿四年十二月廿三日生
東京市澁谷區下通リ三ノ二
電話高輪五九五二番

氏は東京市淺草區馬道に生れた。年少より材木商を志し、深川區石島町の臼井材木店に勤め、斯道を習得して業務に練

達し、大正六年、屬橋に竪木商を獨立自營し精勵よく業績を擧げて業界に重きを成したのであつたが、不幸昭和二年財界不況に遭遇して、一時業界隱退の餘儀なきに立至つた。併しながら翌三年七月、搗土重來、現地に店舗を新にし、北海道材、南洋材等竪木專門の販賣を開始してより、氏の練達せる手腕と力量は縱橫に發揮せられ、官廳、會社工場等に顧客を獲得して、牢乎たる地盤を開拓し、遂に木場進出の機を伺つて虎視眈々たるものがあると云はれて居る。尙ほ氏の俊敏なる風格は、よく衆望を蒐め、現に町會役員に推されて町內自治の爲に盡しつゝある。

吉野材木店

吉野盛雄

營業所 明治三十八年九月二五日生
東京市澁谷區代々木新町六一
電話四谷三〇三〇番

氏は東京府の出身で、府下西多摩郡檜原村字人里に生れた年少にして已に材木商を志し、上京して代々木新町なる川井材木店に入り、永年斯業の修練を積んで業務に精通した後、現地に、材木、竹材、銘木、竹製品、造園材料等の販賣を開始した。卽ち、かくして年少の日の理想實現に第一歩を印したのであつた。時に昭和十年、爾來、氏は精勵努力、よく草創の荊棘を打開して、成功の坦途に進出し、五年に垂んとして業績大に擧るの現況である。而して、氏の敏腕は業界稀に見る所として已に定評があり、夙すに年處を以てすれば、その大成は期して待つべしとしては、業界具眼の士の齊しく認むる所である。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

㊇ 三浦銘木店

三浦信太郎

營業所 明治三十五年十二月生
東京市澁谷區上通四ノ二六

氏は京都市の出身である。年少にして實業に志し、銘木商たらんと欲して、刻苦精勵、斯道の修得に努め、更に上京して研鑽すること多年。遂に現在の地をトして店舗を設け、內外銘木、床材一式、諸天井板、磨丸太等の販賣を開始して、獨立自營、以て初一念を貫徹したのであつた。時に昭和十二年。爾來、氏の圓熟せる手腕は、よく草創の苦境を克服して開店日尙ほ淺きにかゝわらず、顧客を廣範圍に亘つて獲得し大に業績を擧げて今日に及んで居る。されば、蓋すに年處を以てすれば、氏の奮鬪と手腕は、氏の將來をして一層輝かしむる者あるは、業界一般の齊しく認むる所と云はれて居る。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

㊇ 丸忠材木店

大和田忠男

營業所 明治三十四年九月八日生
東京市澁谷區代々木新町四六
電話四谷七四五二番

氏は德島縣人である。勝浦郡小松島町字中田に生れた。年

少青雲の志を抱いて家郷を去り、上京して深川區木場の京文材木店に入つた。蓋し氏は材木商たるべく決意したからである。かくして、拮据勤勉、斯業修得の辛酸を嘗むる事多年、遂に、業務練達を以て自他共に許すに至つたので、初一念貫徹の爲、名古屋方面に轉出して獨立創業し、業績大に見る可き者があつた。而して昭和七年、東都復歸を念ひ當地を選んで店舗を構へ、内外各種材木を取扱つて、老練圓熟の手腕を業界に振ふ事となつた。爾來、十年に垂んとして、業礎の強固と業域の擴張を確實ならしめて今日に及び、營業順調の一路を辿りつゝある。なほ、氏の重厚なる風貌は町内四邊の信頼を受けて家庭防火團群長に推されて居る。因に氏の取引銀行は名古屋銀行である。

鈴國支店　鈴信材木店

加藤信太郎

明治四十年九月一日生
營業所　東京市澁谷區幡谷原町九一〇
電話四谷三九九八番

氏は東京市出身である。即ち板橋區東大泉町に生れた。年少にして材木商を志し、中野區なる鈴國材木店に入り、刻苦精勵、斯業の練達を期し、夙夜研鑽懈らざる甲斐あつて、遂に業務の巨細に通ずるを得たので、昭和七年現地の將來有望なるを豫見し、一店を設けて内外材木各種、建具材一般を取扱ひ、主家の暖羅を分けられて鈴國支店を商號として、獨立自營し、以て多年の願望を達し得たのであつた。時に昭和七年。爾來、積極奮鬪的方針の下に、順調なる進展を遂げて今日に及んで居る。因に氏は昭和二年、海軍看護兵科に入り、一等看護兵となつて退役し、現に澁谷聯合分會海軍部第三班組長である。なほ、氏の取引銀行は第一銀行である。

上平材木店

大西銀藏

明治四十年五月十二日生
營業所　東京市澁谷區千駄谷町五ノ九九七
電話四谷一三七一番

上平材木店は、曾つて材木業界に名聲ありし菊地平吉氏の經營に係る、業界の老舗である。功成り名遂げし菊地氏の隱退するに際し、義弟大西氏が其の一切の經營を繼承して今日に至つた者である。大西氏は東京府大西清次郎氏の男で、義兄菊地氏の墨鶴なる指導下に、永年斯業の研鑽に努力した結果、業界の巨細掌を指すが如く明かとなり、老練圓熟の手腕を養成し得たのであつた。かくて上平材木店を繼承するや、磐石の地盤を確保して些の搖ぎなからしむるのみならず、奮鬪精勵、一層の業績を擧ぐるに成功して、業界に其の敏腕を謳はるゝと共に、老舗の名聲を更に高からしめて居る。氏は頗る長者の風あつて衆望あり、推されて町會役員として町内自治の爲に盡しつゝある。因に氏の取引銀行は、住友、第百安田の各銀行である。

大浦銘木磨丸太問屋

大浦勉

明治三十四年三月二十五日生
營業所　東京市澁谷區田都町一七

氏は福島縣の出身で、同縣双葉郡刈野村大字加倉に生れた年少志を抱いて鄕關を辭し、上京して澁谷區惠比須驛前丸京銘木店に勤め、木材中特に銘木、磨丸太に關する業務を專門に研究修習する事多年の後、斯道に通曉練達するを得たので現地に店舗を構へ、宿望の銘木店を獨立經營し、銘木、磨丸太、床廻材、ベニア板等の問屋業に從事し來。昭和三年、氏二十七歳の時である。爾來、氏一流の活躍は顯著なる業績を擧げ、主として材木商を顧客とするに成功し、遂に創業十年にして當方面の一流店を以て目され、業界の一方に覇を稱しつゝある。氏の資性重厚、爲めに衆望を荷ぬ、現に町會役員澁谷中央納税組合幹事等に推されて町内自治に盡瘁するの外福島縣東京聯合會縣人會評議員、在鄕軍人澁谷分會第七班役員等を兼ねて居る。因に取引銀行は、第百銀行澁谷支店である。

宇田川材木店

宇田川伊八

明治三十一年一月十日生
營業所　東京市澁谷區代々木上原町二四一

氏は東京市の出身である。即ち世田谷區羽根木町が其の出生地である。年少にして實業に就くべく決意し、材木商を選んで志を立て、斯道業務習得に精進すること多年、漸く手腕に自信を得たので、昭和五年、現地に獨立して店舗を開いた蓋し、現地を選んだのは他日發展すると洞察し得たからである。爾來氏の奮鬪的性格は、その營業方針に完全に反映して積極又積極、加ふるに氏の豫見の通り、當方面の進展顯著なると相俟ち、春風秋雨十星霜に垂んとして、業基全く牢固、業域甚だ廣汎、現に店員三名を使役して、活潑なる景況の下に、順調なる店勢の一路を辿りつゝある。更に蓄すに年處を以てすれば、氏の大成は期して待つべき者があるとは、業界齊しく認むる所である。

秋田屋材木店

伊藤勝康

明治二十七年三月生
營業所　東京市澁谷區竹下町一一
電話青山二二二五番

氏は秋田縣の出身で、二ツ井町に生れた。年少、父權助氏に從つて上京し、權助氏の現地に材木商を創むるや、精勵勤勉、家業を助けて頗る努力する所あり、自らも斯業に興味を以て、その修業練達に倦むことがなかつた。かくて、家業を繼承して獨立自營するや、その手腕に於いて、その力量に於いて、斷じて先人の名を辱しめず、磐石の地盤に立つて、層一層の業績を擧げて、以て今日に及んで居る。その主義とする所は質實、その方針とする所は着實、その營業振りの堅實無比なるは、業界具眼の士の、私に驚嘆する所である。父子

二代に亘る老舗として、衆望を蒐めて名聲嘖々たるものがある。

石川材木店

石川福松

明治三十二年十二月二十日生
營業所　東京市澁谷區上通四ノ三二
電話澁谷一五一三番

氏は東京市の出身で、深川區白河町二ノ四に生れた。生家は材木商を營んで居たので、氏は幼少の折から斯業に携はり父君を助けて家業にいそしむ傍、業務修得に專念し得たのであつた。家業繼承の後、當方面の將來發展すべきを豫見して玆に店舗を設け、內外銘木、ベニア板、雜木一般の販賣に從事したのは、大正十五年の事である。爾來、氏は練達の腕を振つて業域の擴張業基の强化に努力した結果、逐年業績を擧げて業界に頭角を拔き、店員八名を置いて、店勢殷賑、城西第一流店として重きを置くに至る盛況振りである。氏の俊敏なる風格は頗る衆望を得て五期に亘つて、現に町會役員に推されて居る。因に氏の取引銀行は、昭和銀行道玄坂支店である。

中通一ノ七　電話青山五二七九番
下通三ノ二六　近藤久太郎　電話青山五五九八番
大野熊太郎

大和田町一　電話澁谷二〇一二番
中通三ノ四二　岩瀨銑五郎　電話青山一三七六番
八幡通一ノ三五　川上良三　電話青山五九一七番
大和田町一二　鈴木圓二　電話澁谷一七四〇番
山下町九　久保孝三　電話高輪七二三七番
山下町四二　野澤忠助　電話高輪五八九七番
上通四ノ三三　吉岡はな　電話澁谷一五一三番
猿樂町　石川福松　電話澁谷二〇六二番
惠比壽通二ノ一三　谷澤悅藏　電話高輪七七四一番
惠比壽通二ノ二四　飯田文藏　電話高輪二九四七番
並木町一三　長島國治　電話青山一九二四番
北原篠

淀橋區

小島材木店

小島鑛吉

明治十八年一月七日生
營業所　東京市淀橋區角筈二ノ六三
電話四谷六七四番
支店　澁谷區幡谷笹塚町一三五六
電話四谷四一三六番
支店　並田谷區松原町三ノ八四三
電話松澤二一八五番

氏は東京府の出身で、澁谷區千駄ヶ谷町一ノ八六八に生れた人。小學校卒業後實業を志し、材木業を選んで深川區扇橋町なる北村材木店に就き、斯道習業五ヶ年にして、明治卅八年、騎兵第十四聯隊に入營し、同四十一年除隊するや、再び材木業を志し、遂に現地を相して店舗を設け、內外各種材木並に建築材を取扱つて獨立開業、多年の念願を果したのであつた。時に四十二年、氏二十四歳の春三月である。爾來、氏の進取的精神と積極的手腕は、あらゆる難局を打開するに成功して今や三十年來の老舗たる貫錄を示し、一流店としての店勢を張つて居る。諸官廳を主なる顧客とし、店員十數名を置くの現況である。なほ、氏の重厚なる風格は、業界の衆望を蒐め、東京山手材木商組合役員として重きをなすのみならず、四隣の德望の歸する所、現に淀橋區會議員であり、且つ警防團群長である。因に氏の取引銀行は、第一、第三、住友各銀行新宿支店である。

龜田材木店

龜田助松

明治卅九年二月十日生
營業所　東京市淀橋區淀橋町四五九

氏は北海道出身で、夕張郡角田村字杵臼に生れた。中野區の菊屋材木店主龜田菊松氏は氏の實弟である。高等小學校卒業後、材木商を志して上京し、深川區木場の武市材木店に入り、斯業の練磨十年に餘り、業務に精通し得たので、初一念を貫徹し、現地を卜して店舗を設け、內外材木各種の販賣を開始し、獨立自營の第一歩を踏んだのであつた。時に昭和七年。氏二十六歳である。爾來、氏は積極的方針を堅持して邁進又邁進、殊に昭和九年、實弟菊松氏の中野區に獨立開業するや、これを懇篤指導すると共に、互に輔翼扶助し、遂に顯著なる業績を擧げて、今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

三喜屋材木店

橋本佳男

明治四十五年七月七日生
營業所　東京市淀橋區角筈三ノ一八〇

氏は東京の出身で、四谷區內藤町に生れた。年少にして實業を志し木材商を選んで身を立つるべく、淀橋區淀橋町の森川材木店に勤め、刻苦精勵、以て斯業の修錬を稱むこと多年遂に業務に精通するを得て昭和八年、現地に店舗を設け內外

材木一般を取扱つて、獨立自營の念願を果したのであつた。爾來、少壯氣鋭の氏は、潑剌たる營業振を以て、顧客の獲得に猛進し、よく創業の荊棘を拓いて、今日の牢固たる業礎と地盤を築き上げたのである。年齢尚ほ三十に滿たざる氏の前途の洋々たる發展は、期して俟つべく、これ業界具眼の士の齊しく認むる所である。

森 長谷川材木店

長谷川森永

營業所 明治卅九年九月五日生
東京市淀橋區角筈三ノ二四二
電話四谷二〇一一番

氏は東京市の出身で、世田ヶ谷區上北澤に生れた。尋常小學卒業後、材木商を志して、代々木新町なる鈴仁材木店に入り、精勵刻苦、斯業の習得に專念する事、實に九年に餘つた結果、業務に練達し、業界に精通し得たので、現地を選んで店舗を設け、內外各種材木一般の販賣を開始して、獨立自營以て多年の宿望を達したのであつた。時に昭和五年、氏の年齢僅に二十四歲、爾來十年に亟んとする奮鬪努力は、よく草創の難關を突破して、其礎强固に、顧客層宏く、殊に建築業者多數を獲得して、當方面に於ける一流店たるの地歩を占むるに至り、現に店勢の殷賑は、業績の順調を物語つて餘りある。氏は資性篤實、頗る德望あつて、六親會幹事並に會計に推されて居る。なほ、氏の取引銀行は、第一相互銀行である。

吉村淀橋賣場

京藤與一郎

營業所 明治四十四年七月生
東京市淀橋區上落合一ノ一六七
電話落合長崎二〇一八番

氏は福井縣南條郡堺村農京藤源一郎氏次男として生れ鄕里堺高等小學校卒業、十八歲にして上京し淺草區北清島町吉村本店に於て修業を積まれた。昭和十二年一月吉村商店淀橋賣場が現在の地に新設されるや選ばれて賣場主任となり、昭和十五年一月業務一切を讓り受け建具材及び建築材を手廣く販賣して居る。氏はまた昭和十二年八月召されて榮譽ある帝國軍人として大陸の戰野に活躍され同十四年五月赫々たる武勳を樹て歸還された勇士である。當年氏は三十歲にしてその前途は洋々たるものあり、現在店員三名を使用し業績は愈々向上の一途を辿つて居る。

西大久保二ノ三〇九　電話四谷三七九番
深山亦右衛門

百人町二ノ二一二　電話淀橋六二一一番
岡部吉五郎

柏木二ノ四五八　電話淀橋九五三番
松水金藏

同　三ノ三二一　電話淀橋一九〇〇番
大塚侑宏

中野區

水野材木店

水野三郎

營業所 明治四十三年三月廿五日生
東京市中野區宮園通三ノ一七
電話中野四七五九番

埼玉縣入間郡飯能町原町の出身である氏は、生家は材木商であつたので、幼少の折から、斯業の雰圍氣中に生長した。然し父君は、氏の大成を望んで、十歲を超ゆる幾何もない氏を上京せしめ、千住大橋の熊吉材木店に入れた。氏は其處に刻苦十年に近き實習の年月を送つた後、昭和五年、氏弱冠にして、現地に獨立開業するを得て、父君の希望を實現し、自らの宿望を果し得たのであつた。爾來、業界の新進として、氏は縱橫の商腕を振ひ、加ふるに現地近來異常の發展に俟つて、業基全く堅きを得、當方面第一流の店舗として、その地位を確保して今日に及んだ。氏の春秋に富める身を以てして前途の洋々期して待つべきものがららう。因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

西銘木店

西芳松

營業所 明治四十四年二月十一日生
東京市中野區大和町四八
電話中野二八六一番

氏は奈良縣吉野郡白銀村字十日市の出身者である。年少にして實業に就くの志あつて、材木商を以て身を立つるべく決意し、遠く鄕關を辭して帝都に上り、深川區木場の山一銘木店に入り、敢て薪水の勞を厭はず、只管、斯業修練の道に孜々たる事多年遂に斯業の亘細に曉通するを得たので、昭和八年、地を現地に相し、店舗を設けて獨立創業した。取扱ふ所の者は、磨丸太、床柱、ベニヤ板の製造であり販賣である。爾來、堅實にして活氣ある營業方針の下に、拮据精勵、よく草創の困苦を克服して、遂に業礎を固からしめ、業域を擴むるに成功して今日に及んで居る。氏は春秋に富み、且つ圓熟せる手腕の持主である。その將來は正に囑望するに足るものがあらう。因に取引銀行は、東京中野銀行である。

納谷材木店

納谷誠一

營業所 明治卅五年四月十七日生
東京市中野區新井町一九一

氏は新潟縣三島郡寺泊町榮町の出身者である。少時實業を志して。遠く父母の膝下を離れて上京し、深川區木場の山木材木店に入つて、材木業者としての實習を積む事多年。遂に斯業に精通せる自信を得たので、地を現所に選び、店舗を設けて內外各種材木を取扱うて、獨立營業の宿望を達したのであつた。即ち昭和三年の事である。爾來、氏は精勵黽勉、堅實なる營業方針の下に。着々業績を擧げて、今日の盛況を見るに至つた。特に、當方面の近來の發展は、氏の商腕を縱橫

に振はしむるに充分であるにつけ、氏の開業地選擇の明は、誇るに足る者と謂ふべきであらう。氏資性公正にして熱意あり、以て四隣の人望を蒐め、推されて警防團中野第十分團副班長の地位に就き、銃後の國防に盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

善 船越材木店

船越 善重

明治四十年一月一日生
營業所 東京市中野區鷺ノ宮一ノ七四

氏は東北人であつて、山形市外湯山村の出身である。小學校を卒へると共に材木商道を修業の爲上京し、深川區木場の驥里材木店に住込み、勉勵刻苦十一年餘の星霜を經て、斯業に練達したので、昭和七年、現地の將來發展の可能性多大なるに着目し、店舗を設けて玆に獨立營業を開始し、內外材木各種並に磨丸太を取扱つた。しかるに、當方面は氏の見込を完全に裏付けて、日に殷盛に赴きつゝあるので、氏はこの景況に乘じ、全力を傾け、練磨の商腕を振つて、業礎を强化し業績を擧げて、今日に及んで居る。なほ氏は現に在鄕軍人會中野北部第七分會副長並に常務理事として會員の信頼を蒐めて居る。

寶 寶屋支店

關周助

明治四十一年生
營業所 東京市中野區宮里町二五

氏は茨城縣猿島郡幸島村字上片田の出身である。高等小學校卒業後、材木商たるべく、斯業の修業を志して上京し、四谷區寶屋材木店に入つて、忠實勤勉業務に精勵する事、正に十年餘。斯界の亘細に通曉し得たので、當地の將來發展すべきを見越し、店舗を設けて、獨立開業し、以て多年の念願を成就し得たのであつた。時に昭和九年、年に二十六歲である。寶屋店主は、即ち陵雇を分けて、氏の精勤に酬ゆる所があつた。爾來、氏は業基の確立と、業域の擴張に專心し、努力し以て、相當以上の業績を擧げて、今日に及んだ。現在店員一名を置いて、營業甚だ順調の進展を見つゝある。而して、今次の支那事變勃發するや、氏は應召して勇躍、出征の途に就いた。

鈴 鈴木製材所

鈴木利太郎

明治卅二年九月廿五日生
營業所 東京市中野區本町通り一ノ二
電話中野三一〇四番

氏は靜岡縣濱名郡和田村藥師の出身である。幼少の折から鄕里に於いて材木業の習練を積んだが、後、秋田市に赴き丸岡製材所に入つて、本格的に斯業の研鑽に力め、遂に精通を以て自他相容すに至つたので、大正二年、志を決して敢然自己の運命を賭けて上京し、淀橋區西大久保に店舗を設け、製材に從事した。時に氏二十四歲。弱冠よく草創の苦境を克服して、業務の伸張を計ること十有七年の後、昭和五年、現地

に進出移轉して、更に精勵、着々業績を擧げ、以て今日の大を招來し得たのである。現に從業員數名を置いて、店務甚だ殷盛。因に大森區堤方町鈴木材木店主は氏の實兄であり、城東區南砂町の丸日ベニヤ板製作所主は氏の實弟である。因に氏の取引銀行は名古屋銀行である。

吉 白井材木店

白井吉次

大正三年六月五日生
營業所 東京市中野區本鄕通り二ノ三六九
電話中野四五七八番

氏は愛知縣人である。即ち同縣寶飯郡豐川町大字豐川元町に生れた。家業は材木商であつたので、氏は幼時より父君を助けて斯業の雰圍氣中に生育したが、他日の大成を期して上京し、深川區木場の前吉材木店に入つて、永年の間業務を修練したる後、昭和十一年九月、現地をトして店舗を設けて自立開業し、鄕里なる本店の後援の下に、年齒僅に二十二歲の氏の奮鬪の幕は切つて落されたのであつた。爾來、開業日尙淺しと雖、建築材各種、居職材等を取扱つて、堂々業界古豪に伍して遜色なき商腕を發揮し、一流建築業者を顧客たらしむるに成功して今日に及んで居る。かくして春秋に富む氏の前途は、業界の齊しく囑望する所である。なほ氏の取引銀行は、住友銀行である。

次 鈴國材木店

鈴木國平

明治廿五年九月二日生
營業所 東京市中野區小淀町六
電話中野四九七六番

氏は東京府下北多摩郡田無村一一〇九の出身である。夙に製材技術を修めて、諸製材工場に歷任する中に、材木業務に頗る精通し得たので、大正九年、現地に店舗を設け、內外材木各種の販賣營業を獨立經營した。爾來、春風秋雨二十年に垂れ氏一流の根强き營業方針は、着々業績を擧ぐるに成功し當方面の老舗として、業界に重きをなして居る。しかも氏の圓熟せる風格は、町內一般の信頼する所になり、町會會長たる事四期の永きに亘つた後優退したるが如き、その一例である。現に警防團第五分團評議員として銃後の國防に專念し、曾つては昭和十年國勢調査員として內閣より感謝狀並に記念品を贈らるゝ等、公共の爲盡瘁する所鮮少でない。因に氏の取引銀行は昭和銀行である。

辰 辰俊材木店

齋藤俊之助

明治三十年四月四日生
營業所 東京市中野區住吉町一七

氏は江戸子である。即ち、深川區門前仲町の出身で、年少にして旣に材木商を志し、その道の習得を目指して、同區木場の辰源材木店に勤め、瑣事と雖も忽緒に附せず、忠實業に服する事、十有二年に餘り、斯業の亘細に通曉をするを得たので、昭和七年、現地をトして店舗を設け、多年の宿望を果

して、獨立經營に着手したのであつた。時に、辰源店主は、氏の精勤に酬いて辰字を商號たらしめたのである。爾來、氏は勇躍奮迅、多年練磨の腕を振つて、業績を擧ぐるに成功し業甚全く强化するを得たのであつた。而して氏の圓滿なる人格は、四隣の推服する所となり、現に町會理事、隣組々長等に選ばれて公共の爲に盡し、且つ在郷軍人會中野東部分會第一班組長として、會員の信頼を莫めて居る。因に氏の取引銀行は、金原銀行である。

河孝材木店

河口孝子

明治四十三年十二月十一日生
營業所　東京市中野區江古田四ノ一六四〇

氏は神奈川縣足柄下郡下中村字小竹の出身で、小學校を卒へると共に上京し、實業を以て身を立てんと決心した。そこで、材木商を選んでその道に精進せんとし、京橋區木挽町三丁目の河由材木店に勤め、忠實勤勉業務に服し八年餘りの年月を經て、斯業に練達し得た後、昭和五年十月、多年の宿望を果すべく、現地の發展性あるに着目して店舗を設け、獨立自營した。爾來氏の精勤無比な健闘は、氏の洞察を裏切らずして發展しつゝある當方面の景況と相俟つて、業礎の確保、業域の擴張に成功し、堅實なる營業方針の下に、店員一名を使役して、店勢順調なる進展を續けつゝある。なほ氏は圓滿なる人徳的に、選ばれて現に江古田商幸會の庶務を司り、又警防團役員として銃後の爲盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

鈴安材木店

鎌倉安次郎

明治四十年五月十三日生
營業所　東京市中野區江古田四ノ一九〇三

鎌倉氏は三重縣人で、同縣飯南郡茅廣江村字廣瀬に生れた少年の頃より材木商たらんと志し、その道に修練を積むべく上京し、豐島區池袋六丁目の鈴松材木店に入り、具に辛苦を嘗めて斯業の會得に精進する事十年餘。業務に練達し得て、昭和九年、現地を擇んで店舗を設け、材木一般、丸太、磨丸太類を取扱つて、獨立營業を開始し、多年の宿望を達し得たのであつた。鈴松店主は、氏の勤續の勞に酬いて鈴字を商號たらしめた。氏時に二十七歳。爾來氏は、多年練磨の商腕を振つて、着々業績を擧げ、業基の强固と業域の擴張に成功して、現在に及んで居る。惟ふに氏の堅實をモットーとする顧客への應接は、將來の大成を氏に約束するものである事は、疑を容れない。

岡部材木店

岡部軍藏

明治卅三年十一月十七日生
營業所　東京市中野區沼袋町二六八

氏は埼玉縣入間郡原市場村字赤澤の出身で、年少材木商を志して上京し、深川區木場の市川新兵衛材木店に入つて、十

七年の間斯業を習得し、業務に精通したので、昭和五年、現地方面の發展性に着目して、獨立創業した。爾來、着々業績を擧げ、業礎を固めるに成功したのである。主として一般建築業者、民家方面を得意先とし、其の多數を獲得した。現在店員二名を置き、其の營業振り甚だ積極的で、活氣を呈し、堅實なる營業方針の下に、着々店勢を進展せしめつゝある。なほ氏は警防團役員として、銃後の國防に盡瘁して土地の信頼を莫めて居る。又、同業者間に德望あつて、現に大東京材木商業組合評定員である。因に氏は曾つてその精勤故に、同業組合より表彰され記念品を贈られて居る。

上野材木店

上野龜吉

明治四十年二月九日生
營業所　東京市中野區鷺ノ宮三ノ一七〇

氏は東北人で、岩手縣氣仙郡小友村字上ノ坊に生れた。高等小學校卒業後、材木商たるべく其の道に精進せんと欲し、直ちに上京して、深川區木場の喜多材木店に住込み、斯業の修練を積んで刻苦精勵する事八ヶ年。業務に曉達し得た氏は、多年の宿望を果すべく、地を現在の所に相して店舗を設け、內外材木一般の販賣を開始した。時に、昭和七年一月、氏二十三歳の春である。少壯氣鋭の氏は、爾來、潑溂氣鋭の積極的經營方針を堅持し、獅子奮迅、よく草創の荊棘を拓き、成功の坦途を驀進する得て今日に及んだ、氏資性果敢にして且つ義俠、頗る人の信頼する所となり、現に在郷軍人會中野北部第六分會第一班組長に推されて居る。

株式會社 勝又材木店

代表取締役　勝又安藏

明治二十八年九月一日生
營業所　東京市中野區桃園町二一
電話中野二〇四三番

勝又氏は靜岡縣駿東郡御殿場町の出身にして、夙に材木商を志し、斯業に從事中同店の前身たる勝又商店卽ち氏の實兄清助氏が關東大震災直後中野區野方町下沼袋に創立された店舗であるが昭和七年清助氏が突如急逝せらるゝや當主安藏氏業務一切を繼承し合資會社勝又材木店と改組し事業の擴張を圖り現地に出張所を新設し營業の發展に努力、遂に中央線第一の材木店と稱されるに至るや。更に資本金十五萬二千圓の株式會社に組織を改め現地の出張所を本店とし、野方町を擅場となし十數名の店員を指導年賣上高六十萬圓突破と云ふ飛躍振を見るに至つた、斯界稀に見る成功者である。然しその大成功の裏面に多年支配人として日夜店主を輔佐し業務の發展に絶大の功績を擧げられた高木計次郎氏の手腕力量と池袋に在る勝又木材株式會社々長の脊影は忘れてならないのである。卽ち同社長勝又源市郎氏は店主安藏氏の實兄で又支配人高木氏は栃木縣安蘇郡葛生町出身である。因に同店の取扱品は一般建築材にして仕入地は主として原產地である。

阿藤材木店

阿藤　貞雄

明治卅六年九月十七日生
營業所　東京市中野區野方町一ノ七〇六

氏は長野縣下高井郡瑞穗村字柏尾の出身であつて、現淀橋區たる阿藤材木店主は氏の實兄に當る。氏は年少にして、家兄の後を追うて材木商たるべく決意して上京し、深川區木場の沖島材木店に入つて、永年斯業の研讃を經たる後、家兄阿藤材木店主の下に投じて、更に斯業習得玆に幾年。家兄を助くるの一面業務に精通したので、遂に昭和七年、現地に店舗を設けて、獨立經營を開始した。爾來、氏の奮鬪努力は當地方の近來の發展と相俟つて、業務甚だ順調に伸展し、業基全く堅きを得て今日に及んで居る。氏は責性淳實にして淳朴、頗る衆の推す所となつて、現に在郷軍人會中野北部第四分會第二班副班長である。

足立銘木店

足立　泰治

明治二十九年三月一日生
營業所　東京市中野區上高田二ノ三七〇
電話中野六二八三番

氏は兵庫縣の出身で、同縣氷上郡佐治村中町に誕生した。年少志を抱いて郷關を辭し、大阪に出でゝ、輸出用木箱製造業に從事して、相當以上の業績を擧げ、共の活躍は、業界に著聞したものであつた。しかして、慧眼なる氏は材木商の有利なるを看取し、昭和六年、現地に店舗を設け、床柱、磨丸太、ベニヤ板、銘木類を取扱つて、轉業を敢行したのであつた。時に昭和六年。爾來、星霜十年を閲して、老練圓熟の手腕よく一切の難關を突破し、今や、第一流の店舗として、山ノ手業界に活躍目覺しきものがある。氏は、かく店務繁忙の傍、隣組群長として、銃後の安寧に盡瘁しつゝあつて、四隣の德望を蒐めつゝある。因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

日野隆司商會

合名會社
中野營業所
主任　松田定雄

明治四十三年生
營業所　東京市中野區本町通三ノ一八
電話中野四二五八番

當店は、舊松岡木材中野販賣所として永年斯界一方の覇を稱して居つたのであるが、松田氏は昭和八年以來、主任として事務を掌握し、着々業績を擧げてその才腕を讃はれた。而して、昭和十三年八月、合名會社日野隆司商會中野營業所と改組せられたが、氏は依然として主任の地位に在つて、販路の擴張、業礎の强化を計り。店員五名を使用して、活躍目覺しきものがある。されば、その業績甚だ見る可きものがあり店勢の活氣當方面稀に見るの殷賑を來しつゝある。尙ほ當店の取扱ふ所は、北海道産の雜木材堅木類一般の外、ベニヤ板等である。因に當店の取引銀行は、住友銀行である。

栂井林業合資會社

中野木材販賣所

栂井唯三郎

明治元年八月生
營業所　東京市中野區大和町二二四
電話中野六三二二番

栂井林業合資會社本店は、臺灣なる臺南市に在つて、氏は共の代表社員である。氏は大阪市の出身で、夙に臺灣に渡りその林業の有利にして且つ國富に裨益する事甚大なるに鑑み氏畢生の事業として林業經營に着手し、鞏績して今日に及んだのである。而して昭和十一年に至り、意氣壯者を凌ぐ氏は業務を擴張して東都進出に決し、同十一月、現地に材木商を營める吉野商店を繼承し、改めて栂井林業合資會社中野木材販賣所として、臺灣産特殊材の外、内外材木各種に亘つて取扱ひ、曩鑄たる氏の積極的方針の下に、活潑なる營業振を示し、年々ならずして相當以上の業績を擧げて今日に及んで居る。

平進材木店

平松進

明治三十五年二年廿三日生
營業所　東京市中野區鷺ノ宮一ノ九一
電話荻窪四〇二七番

氏は山梨縣人で、平松乙藏の六男に生れた。現に板橋區板橋町の平健材木店主平松憲一氏は、氏の實兄であり、豐島區西巢鴨の平東材木店主平松東一氏は氏の實弟である。年少、家兄の業を做うて材木商たらんと志し、家兄に就いて多年斯業の研鑽實習に全力を傾倒した結果、斯界の事情に通曉するを得たので、遂に、地を選んで當地の發展性に着目し、店舗を築いて獨立經營の第一歩を踏んだのである。時に昭和六年氏二十四歳。爾來、星霜十年の間、よき家兄の指導と、よき家弟の協力下に、充分の才腕を發揮し得て、着々業礎を堅め業域を擴め、以て今日の大をなした。因に氏の取引銀行は、金原銀行である。

安保材木店

合名會社
代表社員　安保庚子郎

明治三十三年三月十六日生
營業所　東京市中野區本町通六ノ九
電話中野四三〇九番

氏は岩手縣人で、二戸郡田山村字田山の安保定吉氏二男である。年少、材木商を志して、遠く北海道に渡り、斯業の研鑽に努むる事多年の後、更に上京して、新宿なる關材木店に入り、斯道の修練を積んだ結果、斯業に練達通曉の確信を獲たので、大正十五年、中野區本町通り二ノ三二に獨立開業した。取扱ふ所、北海道産の檜、榧、桂、タモ等の外、ラワンチーク等特殊材並にベニヤ板である。爾來、氏の積極的商腕は、業績を擧げ得て今日に及び、殊に、昭和九年現地に店舗を新築移轉して以來、店員二名を置いて、一層努力の結果、遂に今日の成功を獲得した。因に、氏の取引銀行は、住友銀

行である。

菊 菊屋材木店

亀田　菊松

明治四十三年八月三十一日生
營業所　東京市中野區本町通り一ノ四

氏は北海道出身で、夕張郡角田村字杵臼に生れた。中野區なる現亀屋材木店主は氏の家兄に當る。氏は年少にして、家兄と同じく材木商を志し、遠く郷關を辭して上京、下谷區西町なる福原材木店に入り、永年斯業の習練を積み、業務に精通した後、現地をトして店舗を設け、内外材木各種の獨立經營を開始し、家兄と共に斯界に雄飛する事となつた。時は昭和九年、氏二十四歳。多年の宿望を達し得た氏は、依然として業務に精勵し、業基の强化、業域の擴張に維れ力めた結果逐年業績を擧ぐるに成功し、星霜七ヶ年を閲して、今日の盛況を見るに至つた。氏の篤實なる風格は頗る衆望を獲て現に小淀町會幹事に推されて居る。因に氏の取引銀行は、昭和銀行である。

合資會社 寺崎材木店

寺崎　甚三

明治三十一年八月十四日生
營業所　東京市中野區上高田町二ノ三七〇
電話中野五五八六番

氏は東京市の出身である。幼少十歳の頃實業を志し、材木商を以て身を立つるべく、深川區木場の萬信材木店に入り、夙夜懈らず、忠實業に服する事、實に十九年の永きに亘つたされば、東京材木問屋同業組合は、氏の精勤を表彰し且つ記念品を贈つて其の勞を多としたものである。かくして、氏は斯界に精通し得たので、初念を貫徹すべく、昭和四年、現地をトして店舗を構へ、内外各種の材木一般を取扱つて、獨立自營のスタートを切つたのである。爾來、氏は、圓熟せる風格と練達の手腕を以て、着々業域を開拓し、業基を强固たらしめ、以て十年の今日、確固たる地歩を、當方面の業界に占むるに至つた。

石橋材木店

石橋　又一

明治三十三年十月廿三日生
營業所　東京市中野區本郷通二ノ六四八

氏は新潟縣は三島郡深澤村字深澤の出身である。少年の折父母の膝下を離れて遠く東京に至り、伯父君に當る京橋區八丁堀の三重材木店に入つて、永年の間、斯業の實際を習得し、よく業務の機微に通ずるを得たので、獨立經營の念慮し難く遂に、地を現在の所に定めて店舗を設け、内外材木各種の營業に從事した。時維れ昭和四年、氏二十九歳である。爾來、拮据黽勉、業務に孜々として、業域の擴張、業礎の强化に寧日なく、爲に、春風秋雨十年後の今日、店勢殷賑、店務繁忙業界に牢固たる地歩を占むるに至つたのである。なほ氏の德望は、町民の等しく欽慕する所であつて、現に、推されて隣組々長の責を負うて、銃後國民としての責務を盡しつゝある

因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

吉 鈴幸商店

伊藤　孝三九

明治三十六年八月廿四日生
營業所　東京市中野區新井町六三三
電話中野二七七八番

氏は東京府下西多摩郡成木村字二本竹の出身である。少壯にして材木商を志し、東京に出でゝ、荻窪驛前なる鈴木屋材木店本店に入り、實地に斯業を練習する事となつた。而して氏は、此處に十有五年の永きに亘り、忠實業務に服し、精勵責に任じたのである。爲に、店主の愛顧を蒙つてその股肱となつたのみならず、業界の事大小となく瞻通するを得た。そこで、多年の宿望を果すべく、現地に店舗を設けて、獨立自營に發足した。實に昭和十二年の事である。惜しまれて鈴木屋を辭するに當り、店主は暖簾を分けて鈴字を許し、豐多摩材木商組合は勤續を表彰し記念品を贈つた。かくして開業日尚ほ淺きにかゝわらず、店員三名を置いて店務に奔馳し、愈々業基を强化し、業域を擴張すると共に、稀に見る努力家として業界の德望を蒐めつゝある。

忠 原田材木店

原田　忠三郎

明治三十三年一月五日生
營業所　東京市中野區新山通一ノ一三

氏は埼玉縣入間郡福岡村字福岡の出身である。小學校を卒ゆるや、郷里を去つて上京し、深川區扇橋の大野材木店に入つて、刻苦實地の修業を積み、更に淀橋區新宿なる水野屋材木店に勤めて、研鑽大に得る所があつた。かくて大正十一年氏歳二十二にして獨立營業の宿望を果すべく、現地の發展性あるを相して店舗を設け、内外各種材木並に製材の販賣營業を開始した。爾來星霜を閲して二十年に垂んとする氏の努力奮闘は確固たる地盤の開拓に成功したのである。しかも翌年の大震災に打續き當方面急劇なる發展を來すや、氏の敏腕はよく業礎を築き得たのであつた。氏資性重厚にして嚴正、町民の信望を蒐めて、現に、新山通一丁目警防團役員に推され銃後國民としての職責を全からしめて居る。

辰 辰己屋材木店

藤倉　春之助

明治四十二年五月廿一日生
營業所　東京市中野區野方町一ノ八四九

氏は神奈川縣愛甲郡は小鮎村字千頭に生れた人である。高等小學校卒業後、實業に就いて身を立てんと志し、材木商を擇んで其の道の習得を目指して上京し、赤坂區青山なる辰巳屋材木店に入り、刻苦精勵、昭和十年一月東京材木商同業組合はその精勤を表彰して記念品を贈つたのであるが、更に勤續して、前後實に十有五箇年の永きに亘り、命を奉じて慎重業に服して誠實、店員の好模範であつた。されば斯業に通曉して、宿望を果すべく獨立の經營を現地に創始せんとするに當り、その辭するを惜しんで店主は辰巳屋號を許したのであ

つた。爾來、練達の商腕を振ひ、滿身の努力を傾けて業務に孜々たる結果、朞年ならずして、業績甚だ見る可きを擧げ得て、今日に及んで居る。氏年歳なほ而立、その資性と手腕とを以てすれば、前途正に洋々たるべきものあるは、業界の齊しく認むる所である。因に氏の取引銀行は住友銀行である。

㊥ 中屋材木店

中里勝次

營業所　明治三十九年六月二十一日生
東京市中野區鷺ノ宮三ノ七

氏は埼玉縣入間郡飯能町の出身である。年少にして既に材木商として身を立てんと志し、上京して深川區木場の京守材木店に入り、刻苦勉勵、斯業の研鑽に精進し、實地の修練に全力を傾倒する事十有五年の永きに亘つた。然る後、業務精通の確信を得、遂に、地を鷺ノ宮に選んで店舗を設け、實弟轉夫氏を招いで内外材木各種の販賣を經營する事となつた。時に昭和十二年九月の事である。氏の此の地を擇んで創業した所以は、蓋しその將來發展すべきを洞察した結果であつたが、果然その豫想的中し、當方面近來の開發著しく、これに乘じて氏は轉夫氏と協力し澄澈たる商腕を振つたので、朞年ならずして附近業界稀に見る店勢の股隙を窺して今日に及んで居る。

新井町五八二　電話中野二七〇六番呼

井田友吉

昭和通三ノ二

上高田二ノ三八〇

住吉町二六

東郷町五二

宮園通一ノ七

大和町二二四

上高田一ノ二三二

宮園通二ノ七

本町通三ノ一八

多田町六三

城守基一郎

飯島準造

平井淺五郎

近藤幸治郎

小林一郎

吉野芳郎

久保平次郎

永井多忠次

電話中野四二五八番

常陰清

長島榮作

杉並區

三 天沼材木店

平沼榮

營業所　明治四十四年九月七日生
東京市杉並區荻窪一ノ二

氏は埼玉縣は入間郡市場村中藤の出身であつて、平沼傳治郎氏の二男に生れた。年少にして志を立て、單身上京し、杉並區成宗町なる福島材木店に勤め、具に斯業のため辛苦を嘗めつゝも、精勵以て業務に習練を積む事正に十星霜。獨立創業の宿望を達すべく、地を現在の所に相して、内外材木一般を取扱つて營業を開始した。時に昭和十二年、氏二十六歳である。爾來氏の奮闘努力は、當地の發展と相俟つて、創業日尚ほ淺きにかゝはらず、顯著なる業績を擧げ得て、業礎全く堅く、現に從業員三名を置き、着々積極進取の手腕を振つて業界新進一方の覇を稱しつゝある。しかも氏の圓滿なる風格は、信望を町内四隣に篤からしめ、推されて町會會計の職にある。

㊧ 長島銘木店

長島彌三郎

明治四十二年九月五日生
營業所　東京市杉並區永福町三七六
電話松澤二九三三番

氏は世田谷區世田谷二丁目の出身で、長島角太郎氏の二男である。年少にして志を立て世田谷區明大前の輕部材木店に入り、刻苦精勵、斯業の研鑽實に十餘年の久しき亘つた後、業務の精通を自他共に許すに及んで、昭和八年二月十九日、現地を選んで獨立開業し、銘木一式・磨丸太・竹材一般を取扱ふ事となつた。即ち氏が二十四歳の時である。爾來、積極的方針を以て終始し、店員二名常傭夫數名を使役して、業域を擴め業績を擧げつゝ今日に及んで。尚ほ氏の人格の高潔は業者並に町内の信望を贏得て、現在杉並事故防止後援會理事警防團役員、青年團幹事等の公職の外、商榮會會計の責任ある地位に在つて、町内自治の爲盡力する所鮮少でない。

㊤ 中村材木店

中村龜吉

營業所　明治卅六年五月十日生
東京市杉並區和泉町八六九

氏は深川區東町に生れた。中村久吉氏の三男である。年少材木商を志して深川區住吉町の田木傳材木店に入り、十有三年の間、具に辛酸を嘗めて斯業の巨細に精通したので、昭和十年五月、愼重、地を卜して現地の發展性に着目し、茲に獨立して開業した。爾來、氏の活躍は正に刮目に價する。かの大宮公園納入一手引受けなどその敏腕の一例とするに足るものであらう。かくして、氏は確實に業基を築いて、草創の難關をパスした。氏の力量、手腕は、將來の洋々たるを語つて餘りある。因に、川口市の田木屋、田木利、市内の田木庄等

皆氏の親戚に當つて居り一族、材木業を營む事の多き業界稀に見る所である。

惠 惠比繁材木店

近田繁三

營業所　明治四十二年八月四日生
東京市杉並區和泉町九四九
電話松澤三二四五番

氏は四谷區番衆町に生れた。近田濱太郎氏の三男である。家業は材木商であるが故に、年少より父君を助け斯業の習練研鑽を怠らなかつたが、更に大成を望んで世田谷區笹塚なる小池材木店に勤め、勤勉九ケ年。巨細に業務に通じ得たので昭和十年五月、現地に創業し、內外材木各種を取扱ひ、近田家一族が古くより使用するを例とした惠比壽屋に因んで、商號を惠比繁として業界に進出した。爾來少壯氣鋭の氏は、潑溂たる營業方針の下に、積極的に業界を擡げて今日に及んで居る。なほ氏は在鄉軍人分會杉並南分會第八班員であり、又家庭防火團群長として、銃後の守りに盡瘁しつゝある。因に氏の取引銀行は第百銀行新宿支店である。

貞 高橋材木店

高橋貞吉

營業所　明治四十三年六月十一日生
東京市杉並區和泉町六二〇

氏は神奈川縣足柄下縣片浦村字江の浦の人で、高橋半次郎氏の三男である。年少志を立すゝ鄉關を離し、杉並區東田町の横山材木店に入り、十有一年の精勵に依つて斯業精通の確信を獲たので、昭和十一年五月、現地を相して獨立創業し、內外材木各種を取扱ふ事になつた。かくて開業以來日尙ほ淺きに拘らず、氏の堅實なる營業方針は、着々効を奏して、業礎は堅きを加へ、業務は順調なる發展の一路を辿りつゝある當方面の將來發展を見越されつゝある時、氏の手腕を以てせば前途亦洋々たるものがある。しかし穩健着實なる風格は近隣の人望を莫め、現に推されて家庭防火團群長となり、業務に力むるの一方、銃後に盡瘁しつゝある。

川 川合材木店

川合鐵五郎

營業所　明治廿年五月廿八日生
東京市杉並區上高井戸一ノ一三

氏は現業地附近舊家の出身で、即ち杉並區上高井戸三丁目に生れた人である。家業は材木商であつたので、氏は斯業の人たるべき好個の環境裡に生育したとも云ひ得よう。兎に角父君の宜き指導下に、氏は、斯業の巨細を實地に習得したのであつた。父君の歿するや、氏は箕表を襲いで獨力經營に專念し、內外各種材木は素より、竹材に丸太に庭園材料に取扱を擴張し、顧客の吸收に努めて、業績甚だ見る可き者があつたが、大正十三年現地に移轉してより、一層の精勵を以て家業に當り、終始一貫積極且つ堅實の方針を確守し、店員一名と共に、孜々として殷盛の店務を處理して、今日に及んで居る氏の如きは、よく老舗の名を辱しめざる人と云ふ可であらう

伊 伊勢與材木店

上村與三郎

營業所　明治四十一年九月十八日生
東京市杉並區堀ノ內一ノ五〇

氏は三重縣阿藝郡一身田町上津部田の人で、上村與兵衛氏の三男である。十二歳の時、父母の膝下を離れて上京し、其の親戚四谷區舟町の伊勢茂材木店に身を寄せ、具に辛酸を嘗めつゝも、店務に精勵する事實に十有七年三ケ月の長きに亘つた。已にして、業界の事巨細に掌裡に在るが如く精通し得たので、昭和十二年四月堀ノ內方面の將來性あるを相して居を定め、獨立開業した。その伊勢茂を辭するに當り、東京材木商同業組合より勤續精勵店員の好模範として表彰され紀念品を贈られた。實に業界の一佳話である。爾來開業日尙ほ淺きに拘らず、氏の堅實無比の手腕力量を以て、着々業務を擴張し、業礎を確實ならしめつゝある。春秋に富める氏の前途は現地の發展性と相俟つて、甚だ洋々たる者があると云はざるを得ない。

米 米津材木店

米津景雄

營業所　明治廿二年六月廿五日生
東京市杉並區和田本町八四九

愛知縣豐橋市の出身、米津景雄氏は、米津彌七氏の長男として生れた。年少、實業に志を立て、材木商を選んで、その經營に當るべく、先づ斯業精通の念を念うて上京し、深川區木場の近新材木店に勤め、其に刻苦して業務の習練研鑽にいそしんだ結果、通曉の自信を獲たので、昭和五年、現地を選んで獨立開業した。爾來努力奮鬪、よく草創の艱苦を克服して今や業礎全く堅く、店員數名を置いて、歩一歩業務の確實なる伸展をつゞけつゝある。しかして、氏の重厚なる風格は町內一般の信望を得て居り、現に、町會評議員に推され、或は鄉軍副班長に選ばれて、業務繁劇の傍、公共の爲に盡しつゝある。因に東京貯蓄銀行中野支店が氏の取引銀行である。

竹 横山支店

横山留治

營業所　明治廿二年二月十日生
東京市杉並區阿佐谷二ノ二七四
電話荻窪二六一七番

氏は神奈川縣中郡比々多村字串橋の出身で、横山峰吉氏の四男、同區東田町の横山本店主治三郎氏の弟である。夙に斯業鍊達の家兄指導の下に材木商たるべく實施の習練と研究を怠らなかつたが、遂に昭和三年氏二十九歳の時、現地を卜して横山支店を開設し、氏自ら其の經營の任に當つた。爾來春風秋雨十星霜、氏の克己勉勵は、家兄の支援宜しきを得たると相俟つて、業績大に擧り、業礎全く堅く、以て今日の大を招來した。氏は責性公正義俠業務に對して熱情を有すると共に、公共の爲に獻身的盡瘁を惜まざる人であつて、爲に町內の信頼甚だ篤く、阿佐谷中部會理事、納稅組合長、交友會々長、杉並第九小學校後援會理事、杉並事故防止後援會理事等

々の職に推されて現在に及んで居る。因に氏の取引銀行は東京中野銀行である。

竹 横山材木店

横山治三郎

明治廿七年一月廿五日生
營業所 東京市杉並區東田町一ノ一
電話荻窪四三〇二番
支店 東京市杉並區阿佐谷三丁目
電話荻窪二六一七番
支店 東京市杉並區和泉町

氏は神奈川縣中郡比々多村字串橋の出身で、横山峰吉氏の三男である。幼少にして父母の膝下を離れて上京し、京橋區八丁堀の中村商店に入つて、薪水の勞を執つて具に辛苦を嘗めつゝ、斯業の習練を積むこと實に十有九年。遂に二十九歳の時、地を現所に卜して店舗を設け、獨立經營の宿望を遂げたのであつた。時に大正十二年六月の事である。しかるに九月大震災あつて後、帝都復興の氣運勃然として興るや、當地の發展亦目覺しき折柄、氏の奮勵誠に目覺しく、遂に確乎たる業礎を築いて今日に及んだ。氏は人格高潔にして德望町内に遍く推されて現に東田會幹事として會計を司つて居り、昭和七年東田會は事務所新築に方つて氏の功勞に對し、感謝狀並に紀念品を贈つた。又、業界に於いては、大東京木材商業組合、豐多摩支部副支部長たるを見ても、氏の重きをなす一班を知るべきである。取引銀行は東京中野銀行である。

力 森一材木店

森田一司（カヅシ）

營業所 明治卅三年三月十九日生
東京市杉並區阿佐谷一ノ七六五
電話荻窪三五二七番

氏は東京府西多摩郡大久野村字岩井の出身で、森田彌太郎氏の二男である。弱冠志を立てゝ上京し、淀橋の川金材木店に勤務し、實地に就いて斯業を習ふ事四年餘の後、昭和二年現地を選んで店舗を設け、獨立開業した。氏は資性醇朴にしてしかも商才に富んで商機を謬らず、特に業務に孜々として倦まざる熱意を有するが故に、業績甚だ顯著な者があつて、遂に今日の牢固たる業礎を築き得たのである。現地の發展に伴つて、氏の成功は期して俟つべき者があらう。因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

松戸材木店

松戸義司（ヨシ）

營業所 明治卅四年四月五日生
東京市杉並區荻窪三ノ一三

松戸義司氏は千葉縣山武郡東金町字堀上の出身である。年少にして既に實業を志し、材木商を擇んで其の道に精進すべく東都に上り、深川區木場の三平商店に入つて、忠實、責を盡し、精勵、任に當り、しかも業界の務、事大小となく習練を積んだ結果、大に斯業に通曉し得ると共に、店主の信任を

蒙つて星霜十二年餘。遂に多年の宿望を果すべく、天沼の地をトして獨立自營、內外材木商を開始したのであつた。時に昭和六年氏三十歳の折である。後、故あつて現地に移轉し、俊敏にして圓熟せる商腕を振ひ業基の强固を目指して奮鬪努力、よく荊棘を拓いて、成功の大道に就き、以て今日に及んで居る。因に氏の取引銀行は東京中野銀行である。

藤田屋支店

藤田政市

明治卅九年九月五日生
營業所 東京市杉並區永福町三六〇
電話松澤三七九六番

氏は愛知縣は名古屋市中川區下ノ一色町の出身で、二村綱治氏の長男として生れた。小學校を卒へて直に上京し、麻布區六本木に本店を有する澁谷區原宿一丁目の藤田屋材木店實場に入り、年少の身を以て刻苦精勵、業務の練達に努力する事十三年に餘り、大に斯業に通曉するを得た。そこで昭和八年、氏二十七歳の時現地將來の發展性あるに着目して、こゝに獨立自營の店舗を開き、藤田氏の暖簾を分けて、內外材木各種の取扱に從事した。果然、當方面は開業後二三年にして異常の發展を遂げつゝあり、氏は業地の選擇に謬らなかつた事を喜んで、層一層の精勵を以て業務にいそしんだ結果、當方面の業界に第一流店としての地歩を確保するに成功したのであつた。氏はその繁務の傍、家庭防火團群長として公共の爲に其の責を果しつゝある。因に氏の取引銀行は、麻布銀行である。

長 西林支店

西林喜一郎

明治卅九年十一月三日生
營業所 東京市杉並區西荻窪一ノ一三五
電話荻窪四〇七八番

氏は奈良縣宇智郡五條町の出身である。年少、實業を志して東都に上り、材木商たるべく欲して、實地習錬の爲、深川區木場の西林材木店に入り、永年に亘つて斯業の研鑽を怠らなかつた。而して、氏の資性忠實敦厚、一瑣事とも忽諸に附せず、爲に頗る店主西林氏の愛顧と信頼を蒙り、遂に同店西荻窪支店の主任に拔擢せられ、縱横の手腕を振ふ事幾年の後、該支店を其儘に主家の暖簾を分けて西林支店と稱しながら、全く氏の獨立經營の店舗たらしめて、多年の宿望を達し得たのであつた。時に昭和八年、氏二十七歳である。爾來氣鋭の氏は、積極的方針の下に業務に精勵し、堅實なる業城を確保し得て、今日に及んだのであるが、今次の事變勃發するや、應召して勇躍出征の途に就かれたのであつた。

原島賣場

原島敏郎

明治卅九年十二月廿三日生
營業所 東京市杉並區高圓寺三ノ二一一

氏は江戸兒である。神田區三崎町三丁目の生れである。父君は原島藤吉氏で、曾つて東京材木商同業組合長であつた人

であり、三崎町に店舗を置き、材木業界の重鎮として有名な人である。氏はその四男に生れた。年少、家業を驟ぐ事を念願として、父君を助けて材木業に精勵し、父君指導の下に業務の實習に努めて、商魂と商腕を練つた者である。かくして人生五々の春、父君に許されて現地に原島實場を經營する事となつた。時に昭和六年爾來專心業域の擴張と、業礎の强化に努めた結果、業績大に擧がつて、今日に至つて居る。氏は資性溫厚にして圓滿、しかも内に機鋒を抱いて居り、その將來は正に囑目するに足る者ありと、業界に嘱されつゝある。

中賢商店

中西理仁

明治卅八年九月廿六日生
營業所　東京市杉並區馬橋二ノ二一六

氏は徳島縣名西郡入田村字天滿の出身で、中西利三郎氏の三男である。十五歳材木商を志して上京し、深川區木場の坂東商店に勤務する事十三年餘。忠實精勵、斯業の經營に熟達すると共に、坂東店主の信頼を贏得たのであつた。そこで昭和八年二月、現地方面の將來有望なるに着目した氏は坂東店主の情誼を盡せる後援の下に、獨立開業したのであつた。爾來、氏は、拮据勵勉、業務の擴張にこれ力め、遂に、確實な業礎を築いて今日に及んだ。氏は敏腕なる業者であると同時に、篤實なる人格者であつて、現に大東京木材商業組合信用評定委員の要職に推されて居るを見ても、その德望の一班を窺知するに足るであらう。

㋓ 内藤丸太店

内藤六次郎

明治卅五年六月十三日生
營業所　杉並區上高井戸四ノ一八八二
電話荻窪三六三四番

元來當店は、明治四十年、内藤定吉氏の創業に係る者であつて、豐多摩第一流の磨丸太、銘木類取扱店として三十年來の老舗の名を業界に馳せて居る。六次郎氏は實にこの老舗の嗣子として生れた。乃ちかゝる環境裡に成長した氏は、幼少より父君を助けて家業に携はり、家業の繁榮に盡したのであつた。而して、父君の沒後、箕裘を繼いで精勵勉勵、既に半乎たる業礎の上に立つて、益々その業績を擧げ、以て父君の名を辱しめず、以て今日に及んで居る。氏は資性溫厚篤實業界稀に見る人格者として定評あり。加ふるに當地の喬家なるを以て、同業者間並に町内四隣の信望を蒐めて居る。

㋔ 湊元材木店

勳六等　湊元忠七

明治十五年三月卅一日生
營業所　東京市杉並區馬橋四ノ四六六
電話中野三五一九番

氏は新潟市本町通り十三番町湊元忠次郎氏の七男で、新潟商業學校明治卅二年度卒業生である。日露戰役に豫備少尉として出征し、殊勳に依り勳六等單光旭日章を賜つた。凱旋後鄕里に油商を營んだが大正七年親戚に讓つて上京し、加島屋

に會計主任として勤務中、大震災に遭ふや、帝都復興の爲に木材供給の急を思ひ、直に職を拋ち、鄕里の老舗廣川材木店に薦めて同店出張所を神田區須田町河岸に設け、その經營に縱横の手腕を振つた。翌大正十三年現地を卜して獨立開業。爾來精勵十幾年遂に一流店として斯界に重きをなし、選ばれて現に大東京木材商業組合幹事である。なほ取引銀行は、東京中野銀行及び新潟銀行東京支店である。

白石材木店

白石喜一郎

明治卅八年四月二十一日生
營業所　東京市杉並區荻窪一ノ一二七
電話荻窪四〇〇七番

氏は栃木縣都賀郡鹿沼町の出身である。年少志を抱いて上京し、材木業に就いて研鑽數年、昭和二年二月、店舗を現地に求め、内外木材、銘木、磨丸太、ベニヤ板等の販賣業を開始した。時に氏二十二歳。玆に於いて氏は、氣鋭の經營方針の下に、常委を破り因習を捨て顧客の爲萬全を盡しつゝ、專心業域の擴張業礎の强化を計つた。特に昭和四年の頃より、商機に敏なる氏は、「山元より建築物を直接市民へ」なる氏年來の主張を具體化し、住宅其他の建築物を築造の上販賣する等の新機軸を出し、業界に新進の氣を吐き當方面一流業者としての地歩を確保した。なほ、氏は町内自治の爲に盡瘁する所多大な者があり、現に、荻窪納稅實行組合理事、荻窪商工會幹事、町會評議員等に推されて居る。因に氏の取引銀行は東京中野銀行である。

多田材木店

多田次郎

明治卅三年十月生
營業所　東京市杉並區堀ノ内二ノ六二三

氏は徳島縣名東郡北井上村字芝原の出身で、同性元次郎氏の二男である。弱冠、青雲の志を抱いて鄕關を辭し、遠く帝都に上り、親戚に當る探川區木場の清重材木店に入つて刻苦薪水の勞を厭はず、忠實斯業に精勵すること九ケ年。材木營業の巨細を會得した故、居を現地に選び内外材木各種の營業を獨立開始して、多年の宿望を達したのであつた。昭和七年の事である。爾來、氏は、現地の發展と相俟ち、着々業域を擴張すると共に業基を强化して、今日に及んで居る。誠に圓熟せる氏の手腕と力量は、氏の將來性を約束して餘りありと云ふべきである。取引銀行は東京中野銀行である。

㋚ 高橋材木店

高橋政吉

明治二十二年二月一日生
營業所　東京市杉並區清水町二四二
電話荻窪二一三五番

氏は當地の出身である。幼少の折から材木商を志し、遂に明治四十三年、現地に獨立開業した。時に氏の年齡僅に二十爾來三十年に垂んとする精勵勉勵の結果、莫大の業績を擧げ得たる今日、當方面第一流の老舗として、同業者間畏敬の的

となつて居る。氏は常て豐多摩材木商同業組合長として、長期間斯界同業者の爲に粉骨碎身の勞を厭はなかつた許りでなく、昭和七年大東京木材商業組合の設立に際しての氏の献身的努力は同業者の景仰措く能はざる所であつて、現に氏は推されて同組合信用評定委員であり、業界の長老として重きをなしつゝある。因に氏の取引銀行は、東京中野銀行である。

清水材木店

清水安太郎

明治二十一年一月四日生
營業所　東京市杉並區高圓寺六ノ六七四
電話中野三四五七番

氏は東京府西多摩郡古里村字川井の出身で、年少、深川區木場の駿河屋材木店に入り、永年實地に習練を經て、業務に練達し、大正十一年、現地を相して店舗を設け、內外材木一般を取扱つて、獨立營業を開始した。そして精勵よく創業の苦闘を突破したが、翌年偶々大震災に逢ふや、一層の努力を傾倒して業務の伸張に專念し、引續く帝都復興の氣運に乘じて、今日の繁榮を招來する基礎を築いた。今や店員二名を使傭し、店勢甚だ振ひ業界に重きをなし、推されて大東京材木商業組合信用評定員たるのみならず、氏の圓滿なる性格は町民の信頼を贏得て現に長期に亘つて町會副會長を務め、且つ家庭防火團群長に推されて居る。因に、氏の取引銀行は東京中野銀行である。

島東材木店

島田東一郎

營業所　東京市杉並區下井草町一二一
電話荻窪三五三八番

氏は栃木縣那須郡那須村字黒田原の出身で、島田勇太郎氏の長男である。夙に上京して伯父君山木材木店主に身を寄せ專念斯業の習得に力めたる結果、悉く精通するを得たので、山本氏と共に山東材木店を經營し、敏腕を振つて大いに業績を擧げた。然るに山本氏の逝くや、氏は現地に進出して獨立開業したのは、昭和五年の事である。爾來精勵黽勉、且つよく草創の苦難を克服し、遂に當方面第一流業者としての地位を獲得して今日に及んだ。誠に氏の悲願は、同業者間に於ける驚嘆の的であつた。氏をして業界に重きをなさしめて居る所以であり、年商高六十萬圓を超ゆる盛況振りである。なほ氏の取引銀行は東京中野銀行である。

佐藤材木店

佐藤彦一

明治三十四年十二月十六日生
營業所　東京市杉並區天沼二ノ五六五

氏は福島縣伊達郡小國村の出身で、佐藤廣治氏の三男である。年少青雲の志を抱いて横濱に至り、鐵工業の有望なるに着目して、大に研鑽に力むる所があつた。偶々大震災に遭逢

して、關西に赴き、轉々數次の後、歸京し、自動車運轉の免許を獲得して、自動車業を經營したが、遂に三度志を飜して材木商たらしめんと欲し、龜戸水神森の大木材店に八ケ月、阿佐谷の熊倉材木店に六ケ月の實習を經て、斯業の大體に通じ得たので、昭和二年現地に開業し、內外材木、ベニヤ板、丸太類を取扱ひ、奮鬪よく當方面稀に見る繁昌を招來して今日に及んだ。なほ氏は大東京木材商業組合の組織に盡瘁する所多大なる者があつて、昭和十年八月同組合豐多摩支部より感謝狀並に記念品を贈られて居る。

近藤材木店

近藤畔夫

明治三十年九月二十一日生
營業所　東京市杉並區和田本町一〇九七

氏は岐阜縣惠那郡中野方村の出身で、近藤彌三郎氏の二男として生れた。年少笈を負うて鄉關を辭し、東都に學んで京橋商業學校を優秀の成績を以て卒業した。後、大正十三年、飛鳥組に入社、勤續九年に及んだが、感ずる所あつて材木商を志し、尾州檜を主として取扱ふべく、當地に店舗を開創した。時に昭和八年である。爾來、氏は堅實なる經營方針の下に着々業礎を堅め、遂に今日の盛大なる業績を擧ぐるに成功した。氏は又その溫厚篤實なる人格故に、町民の信望を一身に蒐め町會理事並に社會課係、銀座會會長、杉並區交通事故防止會後援會理事警防團役員等の職に就いて、公共の爲に盡瘁しつゝあつて、誠に業界稀に見る人格者と稱せらるゝも、宜なりと謂ふべきである。

川瀨材木店

川瀨英一

明治二十九年六月十五日生
營業所　東京市杉並區和泉町四七
電話松澤二三五一番

氏は靜岡縣磐田郡掛塚町の生れで、川瀨善五郎氏の二男である。年少十二歲の時、遠く父母の膝下を離れて上京し、親戚に當る深川區木場の井幸商店に入つてより、店務に精勵すること實に十有五年餘。具に辛苦を嘗めて斯業の機微に通ずるの自信を獲たる後、現地の發展性あるに着目して、こゝに店舗を設け、獨立開業した。大正十三年の事である。爾來十五星霜を經て、氏の着實なる營業方針着々効を奏し、附近同業一方の覇を稱するに至つた。同時に氏の長者の風格は土地の信望を蒐め、嘗つては新泉會會長の重責に就き現に、隣組々長として、銃後の責務に盡して居る。因に氏は名古屋銀行新宿支店を取引銀行として居る。

伊勢和材木店

金子和三郎

明治二十八年二月一日生
營業所　東京所杉並區阿佐ケ谷一ノ六九九
電話荻窪三二七一番

氏は栃木縣鹿沼町材木商金子善平氏の三男である。夙に父君に就いて家業に精進する所があつたが、更に大成を望んで

上京し、深川區木場の井定材木店に入り、忠實勤勉その責務に力むる一方、斯業の習得に專念し、遂に業界精通を以て自他相許すに至り、大正十三年八月、現地に居を定めて獨立開業した。爾來十有幾星霜、氏の敏腕と實直は、業礎を確固たらしめて今日に及んで居る。尙ほ、氏の爲に特筆すべきは大東京木材商業組合設立に對する貢獻で、爲に同業者の氏を德とする事甚大な者があり、現に同組合豐多摩支部長の要職を經て、同組合理事に推され其德望を謳はれつゝある。なほ氏は町會の會計を司り、杉並警察署經濟協議會協議員を委囑せらるゝ等、以て氏に對する町民其他の如何に深きかを知るに足るであらう。因に氏の取引銀行は東京中野銀行荻窪支店である。

忠 榎本銘木店

榎本　忠治郎

明治四十一年一月二十九日生
營業所　東京市杉並區天沼三ノ七九一

氏は中野區桃園町の出身で、榎本福次郎氏の六男として生れた。年少より材木商を志して研鑽怠らず、遂に宿望を達して現地に磨丸太、床廻材商を開業したのは、昭和七年、氏二十四歳の時である。其後少壯氣鋭の氏は當方面の發展近來殊に著しく、銘木類の需要頓に增加する傾向を看取するや、直ちにその販賣に營業を擴張する等、二名を使役して積極的な經營方針に終始して、强固な地盤を拓開しつゝある。しかもかく商才の機敏人の意表に出づる者ある一方、奇性篤實、爲に業者間の氣受け甚だ宜く、斯して奉秋に富む、氏の前途正に洋々と謂ふべきであらう。

石原材木店

石原由五郎

明治四十一年五月二十一日生
營業所　東京市杉並區天沼三ノ四九二

氏は杉並區天沼三ノ七八九に生れた。石原清吉氏の三男である。年少にして材木商を以て身を立つべく決意し、阿佐谷三丁目なる小林材木店に入り、刻苦勉勵、斯業の研鑽前後六ケ年に亘り、具に業界の機微に通じた。そこで、現地をトして店舗を張り、獨立して開業するの喜びを迎へたのは、昭和七年の事である。溫厚篤實にして、忠實精勵なる氏は、開業日尙ほ淺きに拘らず、既に確乎たる業礎を築き終つた。將來當方面の發展に伴ひ、氏の業務擴張と繁榮は期して俟つべきである。なほ、町民の氏に對する信賴甚だ篤き者があつて、現に隣組群長に推されて居る。因に氏の取引銀行は東京中野銀行である。

石井材木店

石井　龜（ヒサシ）

明治二十九年七月十二日生
營業所　東京市杉並區高圓寺六ノ七〇六
電話中野五九四三番

氏は江戸子である。卽ち、深川區高橋三ノ一二に生れた。少壯材木商を志して、深川區木場の大俊材木店に勤め、忠實

業に服して、店主の肱股たる事前後實に二十餘の長期に亘つた後、斯界に通曉し、業務に練達したので、現地を選んで內外各種材木商を獨立開業したのは昭和八年、氏三十七歳の時である。惜しまれて大俊材木店を辭するに當つては東京材木問屋同業組合は、氏の永續勤務を表彰し且つ紀念品を贈つた。爾來、氏の努力奮鬪は、圓熟せる商腕と相俟つて遂に創業の難關を美事突破して、得意先多數を獲得し、堅實なる地歩を業界に占め、一方の覇を稱して以て今日に至り、推されて現大東京木材商業組合信用評定委員である。

上 都留屋材木店

合資會社
平井　政明

明治廿八年十二月十一日生
營業所　東京市杉並區永福町一一六
電話松澤三一二五番

氏は山梨縣南都留郡盛里村の出身である。大正四年早稻田實業學校を卒業するや、製藥界に投じ、大正十二年美眼藥パミールの特許を獲得し、大日本雄辯會講談社と結んで、事務所を麹町區に設け、其の製造販賣に從事した。昭和八年、鄕里の豐富なる森林に着目するや、材木經營を志し、從來の業務一切を義兄に委ね、鄕里に製材所を設け、一般製材を勝又木支店に、樅、栂製函材を講談社どりこの工場に、木毛を帝國ミシン、オリエンタル寫眞工業各會社に特約納入し、特にどりこの工場傍に打立工場を設けて製函一切を引受くる等、活躍目覺しき者があつた。次で昭和十二年、現地に進出し、製材工場並に松杉專門販賣店を設けて一般の需用に應じて、今日に及んで居るが、行くとして可ならざるなき氏の才腕そ店勢隆昌未だ三年ならざるに、現工場並に店舗の狹隘を感じの擴張改築を見るの盛況である。因に氏の取引銀行は、は愛知銀行上野支店である。

內外材木各種

小 小林材木店

小林喜四郎

明治三十二年三月七日生
營業所　杉並區阿佐ヶ谷三ノ二五二
電話荻窪三〇六六番

者 池田商店

池田象四郎

明治廿二年十二月廿二日生
營業所　東京市杉並區下高井戸一ノ二一五
電話松澤二五〇九番

氏は現地に生れ現地に育つた。生家はこの地の舊家で、父君の代から材木商だつたので、隨つて氏は幼少の折から、父君を助けて家業にいそしみ、年と共に斯業を習得して、頗る

業務に練達した。大正十三年、家業を繼承した時、氏は正に二十四歳。澄刺たる意氣を以て、積極的營業方針を執つて、闘し、内外材木各種の外、土管その他建築材料一般に業務を伸張發展せしめ、父君以來の業礎を確保しつゝよく今日の大をなした。なほ氏は當地舊家の出であり、且つ資性重厚、爲めに町内諸家の信望厚く、推されて警防團副班長を務め、家業の繁劇を省みず、銃後の國民として、業務の盡瘁に餘念ない。

高圓寺一ノ一　岡野萬吉　電話中野五二九五番
同　一ノ五一五　成田秋太郎
打越町四四　小山ヤス　電話荻窪三一四五番
大宮前町六ノ三二五　池田康平　電話荻窪三〇六六番
阿佐ケ谷三ノ二五二　小林喜四郎　電話荻窪三三四三番
成宗一ノ八八　田口守治　電話中野二一八六番
同　一ノ二五　福島寛左衛助
天沼一ノ二〇七　西海鐵藏　電話荻窪二三〇九番
上荻窪六二五　松澤タツ　電話荻窪二八五〇番
西荻窪二ノ一一　今井勢司　電話荻窪二六七五番
大宮前六ノ三〇四　福岡吾助　電話荻窪二九六九番
天沼一ノ二五七　石川末次郎　電話荻窪四三六四番
大宮前六ノ四四七　鈴木藤吉　電話荻窪二三〇八番
方南町二三四　河西善友
同　六　内田勝之門

豊島區

玉川屋材木店

稲垣幸太郎

明治四十三年生
營業所　東京市豊島區雜司谷町六ノ八一三

氏は東京市の出身者である。氏二歳の折、嚴父は、現地に材木商を經營したので、氏は幼少よりこれに携はつて、嚴父の手足となり、家業の興隆に努めたのであつた。されば、氏はこの雰圍氣中に、業務を自得して、年少にして一廉の材木商たる手腕を獲得した。されば箕裘を繼いで後も、三十年に垂んとする老舗の名聲を、更に業界に輝甚せしめ基礎の强化顧客層の獲得等、着目業績を擧げて今日に及んだ。偶々今次の日支事變勃發するや、應召して勇躍出征の途に就いたが、淀橋區上落合に支店を經營せる家弟、一切を司つて、氏をして後顧の憂なからしむべく努力して居る。因に氏の取引銀行は、高田農商銀行である。

菊富材木店

尾棹富治

明治二十六年生
營業所　東京市豊島區椎名町六ノ二二八二

氏は千葉縣君津郡馬來田村の出身である。年少くして父母の膝下を離れて上京し、本郷區曙町二八菊久材木店（店主荻原良太郎氏）に入り、忠實業に服すると共に、黽勉その習得に努むること二十餘年の久しきに亘つた。遂に斯道の曉通を以て自他共に許すに至つたので、大正十五年、現地に獨立開業し、特に當方面建具製造業者に建具各種材料供給を目指して、精勵、以て草創の荆棘を開拓すべく努力した結果、異常の業績を擧げ得て今日に至つた。現在、店員二名を置いて、營業甚だ盛大である。氏は商機に慧敏である一方、資性温厚篤實、爲めに町内四隣の德望を蒐め、町會に役員たる外、警防團工作班長として、店務の繁劇なるに拘らず、町内自治の爲にまた銃後の國民として、その責務を果しつゝある。因に氏の取引銀行は、日本興業銀行である。

安政材木店

安廣政次

明治廿五年六月十三日生
營業所　東京市豊島區椎名町三ノ一五二八
電話落合長崎三一八四番

氏は德島縣の出身で、年少、志を立てゝ鄉關を辭し、材木商たるべく修業せんとして上京、深川區平野町なる湊庄吉材木店に入り、具に辛苦を嘗めて斯業の習得に精進する事、實に十有八年。遂に業界の巨細。掌を指すが如く明かにするを得たので、昭和九年、現地に獨立して、材木商並に製材を開始した。時に氏三十二歳の十一月十八日である。爾來、則熟せる手腕と練達の商才を十二分に發揮して、幾何もなく、確固たる地盤を獲得し、逐年業績を擧げて今日に及んだ。現在

店員三名を置き、積極的にして且つ堅實なる營業方針の下に順調なる業務の進展を見つゝある。因に深川區木場四丁目安廣木材店主ほ氏の實兄に當る。

港屋賣場

堀江武壽

大正二年生
營業所　東京市豐島區池袋四ノ一七八四

氏は東京の人であつて、澁谷區の出身である。年少にして下谷の富田屋材木店に入り、刻苦、斯業の實習に從事する事幾年の後、家兄港屋店主支援の下に、當方面に建具材を取扱ふ店舗極めて稀なるに着目し、昭和十三年六月、現地に居を卜して店舗を張り、建築材の外に建具材を販賣すべく、港屋賣場を經營したのであつた、時に氏二十四歳の六月である。而して、創業日尚ほ淺きに拘らず、その着眼宜しき得たるとその手腕練達を經たるに依つて、着々、顧客を獲得して、業績を擧ぐるに成功し、その前途甚だ有望視せられて居る。

勝又木材株式會社

代表取締役　勝又源市郎

明治二十一年一月五日生
營業所　東京市豐島區雜司谷町七ノ九九一
電話大塚三六一九番

氏は靜岡縣御殿場町の出身にして當年五十三歳、夙に材木商を志し家業を授けて業務を修得したが、更に上京して實地研究に當り具に業務に精通した、大正五年現地に創業し爾來著々業績を擧げ、山手一流材木店として知られ極めて廣範圍なる得意先を有して居る。氏はまた責性溫厚にして信望厚く大東京材木商業組合設立されるや常務理事に推された、昭和十四年一月業務擴張を目指し株式會社に組織を改め、また板橋區板橋四丁目一四九五番地に出張所を設置し業務は一段と伸展を見て居る。現在店員三十餘名を使用し極めて盛況である。營業種目は內外材木各種、一般建築材を取扱つて居る。

林屋材木店

林留吉

明治二十二年十一月二十日生
營業所　東京市豐島區池袋一ノ一

氏は埼玉縣人で、同縣南埼玉郡大相模村字西方一〇八に生れた、材木業者たるべく志した少年留吉氏は、敢然父母の膝下を離れて上京し、小石川區大塚坂下町田中仁三郎材木店に住込んで、斯業の實地に修練を積んだ。朝に霜を踏み夕に星を戴く精勵幾年。遂に斯業の巨細に精通し得て、大正元年九月、現地に店舗を設け獨立自營、多年の宿望を遂げたのであつた。爾來、積極的營業方針の下に、着々業績を擧げて三十年に垂んとし、當方面老舗の名を贏得て、業界一方の覇を稱するに至つた。現に店員一名を置いて、營業甚だ堅實。氏の圓滿なる人格は、四隣町內の信頼する所となり、現に豐島信用組合評定員、商盛會納稅組合會計、町會相談役等に推されて、公共の爲盡瘁しつゝある。因に氏は武州銀行を取引銀行として居る。

西村商店

西村三藏

明治三十八年生
營業所　東京市豐島區西巢鴨二ノ二四四七

氏は埼玉縣の人である。年少の頃より實業を以て身を立つるべく決心して鄕關を辭し、材木商を志して上京し、小石川區茗荷谷町原田材木店に身を寄せて、斯業の習得に專念した卽ち、具に辛酸を嘗めて、精勵實に十有三年餘。爲に斯業の巨細に通じ得て明かになつたので、昭和五年、多年の宿望を果すべく、現地を卜して店舗を構へ、獨立自營、內外材木の販賣を開始したのであつた。氏時に二十五歳。少壯の鋭氣と、練達の手腕とを以て、爾來、業務の進展に專念した結果よく草創の難關を突破し得て、業礎强固の成功を見るに至り業績逐年著しきを加へて、現在に及んでて居る。氏の取引は第百銀行である。

喜加久商店

張秀清

明治四十一年生
營業所　東京市豐島區池袋五ノ一九三
電話大塚七二三三番

氏は名古屋市の出身である。年少にして志を立てゝ父母の膝下を辭し、材商木を修業すべく上京して、深川區木場の喜加久木材店に身を寄せ、具に辛苦を嘗めてしかも忠實業に服し、頗る店主の信任を蒙り、合せて甚だ斯業に精通するを得たのであつた。されば、大正十三年、大震災直後帝都復興の氣運に乘じて、店主の支店を現地に設くるや、氏は擢ばれてその事務を管掌し、專心、その練達の手腕を縱橫に振つて、業績を擧げた。後、氏は自營の念止み難く、店主に乞ふて該店を共儘譲り受け、屋號を繼承して、自營の宿望を果したのであつた。爾來、一層の精勵を以て奮鬪、業務の繁榮を來して、現在に及んで居る。因に、氏の取引銀行は、武州銀行である。

辰巳屋(辰覺商店)

田沼覺三

明治二十五年生
營業所　東京市豐島區西巢鴨二ノ二四四七
電話大塚二〇五七番

氏は埼玉縣人である。年少、上京して材木業を習得すべく赤坂青山四丁目なる辰巳屋材木店に入つて、敢て薪水の勞を厭はず、專心斯業の實地習得に精進すること多年、遂に業務練達を以て、自他興に容すに至つた。そこで、年來の希望を實現すべく、地を現地に撰んで店舗を設け、大正四年、獨立自營、內外材木各種の取扱を開始した。惜しまれて辭するに方り、店主は、辰巳屋號を分つて、永年の勞に酬める所があつた。年時に二十三歳。爾來逐年業績を擧げて、已に二十六年に垂んとし、業界の老舗としての堅實なる營業を順調に持續して今日に及んで居る。而して、氏の責性重厚、頗る衆の推す所となつて、現に町會役員として公共自治の爲盡瘁して

居る。因に氏の取引銀行は、住友銀行である。

信 竹内材木店

竹内一郎

大正七年七月二十六日生
營業所 東京市豐島區池袋一ノ六一〇

氏は現在の地に生れた人で、竹内信司氏の長男である。信司氏は、大正三年の頃、現地に材木商を創めた。氏は其の草創四年目に呱々の聲を擧げたのであつた。而して、かゝる環境裡に成育した氏は、幼少より家業に父君を助けて孜々たるものがあつたが、他日の大成を期して父君は、氏を本所區小宮材木店に勤めさせて、一ケ年餘の斯業修業をなさしめたものである。父君の歿後、氏は弱冠の身を以て家業を繼承したのであつたが、既に練達の手腕を以て、父君以來の地盤を確保すれば足るのである。頗る順調なる業績を擧げ得て、今日に及んで居る。されば、氏の眞骨頂は他日を期して刮目すべきであらう。因に氏の取引銀行は、安田銀行並に第百銀行である。

勝 高橋材木店

高橋勝治

明治三十九年生
營業所 東京市豐島區池袋七ノ二一七〇
電話大塚二七四四番

氏は東京府下西多摩郡檜原村の出身である。小學校卒業後父母の膝下を離れて上京し、深川區木場の森下材木店に仕へて、忠實薪水の勞を執り、業務に勉勵する事正に十年餘。この長期に亘る試練の後、氏は斯業の亘細に通曉する事が出來たので、獨立の念默し難く、昭和五年、この地を相して店舗を置き、內外材木各種の營業を開始した。實に氏二十四歳の時である。爾來、現地の發展に伴ひ、氏の業域次第に伸張して、業界に堅實なる地歩を占むるに至り、業礎の牢固たるを得て今日に及んで居る。現在、店員一名を置き、積極的營業方針の下に、店勢愈々隆昌を來し、店務甚だ殷賑なる現況である。因に氏の取引銀行は、日本畫夜銀行である。

木 合資會社 鈴木材木店

代表社員 鈴木義男

明治二十年生
營業所 東京市豐島區西巢鴨二ノ三二四〇
電話大塚二一五七番

氏は長野縣出身である。年少の時、材木商を志して上京し深川區木場の材木商に就いて、實地の修練を經る事多年、遂に斯業練達の人となつて、現地に獨立開業したのは、實に明治四十五年、氏二十五歳の時である。爾來三十年に垂んとする星霜を閱し、氏の堅實なる營業方針は甚大の業績を擧げて今日に及び、業界の老舗として重きをなして居り、現在店員一名を置き、營業甚だ順調である。因に氏の指導下に店員として業務に修練を積む者、三十年間相當數に上つて居るが、板橋區なる現阿藤材木店主は、當店出身の最古參者である。

丹 丹德材木店支店

綿貫安藏

明治三十六年生
營業所 東京市豐島區池袋四ノ一七六三
電話大塚五一四番

氏は埼玉縣人である。同縣入間郡入間川町に生れた。年少后越市に趣き、丹德材木店に投じ、斯業の研鑽に專念し、頗る店主の信賴と同輩の畏敬を贏得た。偶々大正十二年九月の大震災後直後、帝都復興の氣運に乘じ、丹德本店は帝都進出を計畫し、池袋驛東に支店を設くるや、店主乃ち氏を拔擢して支店に長たらしめ、一切の業務を管掌せしめたのであつた爾來、氏はその業務に任じて一事を忽にせず、着々業績を擧げ、殊に昭和十年現在の地點に移轉してより、店勢益々盛に才腕愈々冴えて、現に店員四名を置き、着實にしてしかも積極的なる方針の下に、活躍目覺しきものがある。因に取引銀行は、日本畫夜銀行である。

本木材木店

本木謙次郎

明治三十四年生
東京市豐島區千早町一ノ二八
電話落合長崎二四六二番
營業所

氏は埼玉縣の出身である。弱冠にして上京し材木商たるべく決心し、丹德材木店池袋支店に投じ、刻苦、斯業習練の苦難を具に嘗め、大に斯界の亘細に通達するを得た。そこで氏は、多年の念願を果すべく、地を現地にトし、店舗を設けて內外各種木材の營業を獨立開始した。時に昭和六年、氏三十歳。爾來、星霜十年に近く、夙夜懈らず業務に精勵した結果區役所を始め、會社、工場或は建築業者等の間に顧客多數を獲得し、業礎全く堅きを得たのである。現に店員三名を置き縱橫に商腕を振ひ、業績一層の顯著を目指して、活氣ある營業を續けつゝある。因に、氏の取引銀行は、第百銀行池袋支店である。

井 合資會社 平沼材木店東京支店

平沼杉之助

明治三十六年十月十五日生
營業所 東京市豐島區雜司谷町七ノ九五三
電話牛込一三四九番

氏は埼玉縣入間郡名栗村の出身で、平沼源一郎氏の四男である。長兄彌太郎氏は正八位、埼玉縣多額納稅者、飯能銀行頭取、名栗水電社長。そして明治卅二年の創立に係り、飯能町に本店を置く平沼材木店の主宰者である。昭和六年、組織を改めて合資會社平沼材木店とし、同八月、東都進出に決して、地を現在の場所に定め、西川材專門の東京支店を開設するに當り、法政大學經濟科を優秀の成績を以て卒業せる杉之助氏は、自ら進んで實社會への第一歩として該支店長の地位を選び、草創の難關を究破すべく奮鬪努力、官廳納入を主として業域を擴め遂に業礎を確固たらしむるに成功して、今日の盛況を招來した。因に氏は名栗水電取締役を兼ねて居る。

平東材木店

平松　東一

明治四十三年生
營業所　東京市豐島區西巢鴨四ノ三八三

氏は山梨縣の出身で、父は平松乙藏氏。板橋區平健材木店主平松憲一氏、及び中野區平進材木店主平松進氏は、共に氏の實兄である。年少、二兄に倣うて材木商たらんと欲し、多年斯業に研鑽の努力を傾け、二兄の店務に就いて實地に習錬を積んだ結果、業界の巨細に通じ得たので、昭和十一年、現地を選んで店舗を設け、平健材木店實場として、獨立經營にスタートした。素より草創日尚ほ淺いが、その質實なる商風は、二兄の懇篤なる指導と相俟つて、相當以上の業績を擧げるに成功し、早くも將來の大成を業界各方面に期待せらるゝに至つた。特に、氏は春秋に富む。前途の洋々たるは多言を要しない。

久保材木店

久保　八郎

明治二十四年生
營業所　東京市豐島區長崎町一ノ一三

氏は東京市出身で、淺草に生れた人である。幼少八九歳の頃已に父母の膝下を離れて深川區太田信次郎材木店に入り、具に斯業研習の辛酸を嘗むる事、實に二十有餘年の長期に亘つた。かくして斯界の巨細に通ずるや、多年の宿望を達すべく現地に獨立開業したのであつた。時維れ大正十三年一月、氏の年齢三十三。當時大震災直後であり、帝都復興の氣運澎湃たるものがあつたが、氏はこれに乘じて練達の手腕を振ひよく、草創の荊棘を拓いて成功の大道に就くに成功し、業界の一方に覇を稱する地位に到達したのであつた。されば氏は業界に於いては大東京木材商業組合信用評定員を兼ねて豐島支部支部長であるのみならず、その圓熟せる風格故に衆望を得て、推されて長崎第四小學校後援會理事、警防團評議員兼會計、隣組副組長たるの外、町會副會長として町内自治の爲に盡瘁しつゝある。

富島材木店

岡島　七藏

明治三十一年八月十三日生
營業所　東京市豐島區雑司谷町五ノ六七六

氏は栃木縣の出身者である。幼少にして實業を以て身を立てんとする志あつて、材木商たるべく上京し、本所區菊川町二丁目富津屋木材店に住込み、斯道の業務を修得する事數年後、滿洲獨立守備隊に服務し、第六大隊經理本部に勤務した。除隊後、初志貫徹のため、現地を卜して店舗を構へ、富津屋を忘れざらんが爲に富字を執つて富島を商號とし、内外材木各種の經營を獨立開始したのであつた。時に大正十年である。爾來二十年に亞んとして、店員三名を置き、業務殷盛を極むる今日を致せると共に、果斷にしてしかも圓熟せる氏の風格は、頗る衆の推す所となり、永く町會長としその名聲

を保つて居る外、大正十年來板橋稅務署家屋稅調査委員、高田第二小學校保護者會理事、防護團相談役等をも兼ねて、町内自治の爲に盡す所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、日本晝夜銀行である。

勝元材木店

赤坂　勝

明治二十九年生
營業所　東京市豐島區池袋町二ノ一一九九

氏は長野縣の出身で、木曾谷に生れた人である。大正十年氏二十五歳の時、材木商を志して上京し、神田區今川町の野村材木店に入つて、斯業を實地に習修する事二年餘。大いに得る所あつて、玆に獨立して、現地に店舗を設け、木曾御料村拂下材木を主として、一般材木の取扱を開始した。時に大正十三年である。爾來着々其の業基を強化し、業績を擧げ、創業以來十有七年の星霜を閲せる今日、業界に確固たる地歩を占むるに至つた。氏は、現に三名の店員を使用して自ら劇務を執るの傍、東京市方面委員を永年に亘つて勤め、曾つては國勢調査委員であり、今又、町會副會長、長野縣同郷人會長等に推されて居るのを見ても、その人徳に如何に大なるかを知るに足らう。因に氏の取引銀行は、日本晝夜銀行池袋支店である。

鈴松材木店

鈴木　松之助

明治二十四年生
營業所　東京市豐島區池袋六ノ一九一八
電話大塚七七六三番

氏は三重縣出身であつて、同縣飯南郡射和村に生れた。明治三十九年、氏十九歳の二月、未來の大材木商を夢みつゝ上京し、斯業修練の爲、深川區木場四丁目平田久藏材木店に入り、薪水の勞を執つて拮据黽勉、業務に精進する事、正に十有五年の長期に亘つた。爲に、業界の事巨細となく通曉し得たので、遂に當地に卜して店舗を設け、内外材木各種の販賣を自立經營して、理想實現の一歩を踏んだのであつた。時に大正十年、氏三十の年である。爾來、練磨の手腕を振ふこと二十年、遂年業務盛大に赴いて、遂に業界一方の覇を唱ふるに至つた。今や德望漸く高くして、大東京木材商業組合評定員に推され、町會副會長に選ばれ、公共の爲に盡す所鮮少でない。因に氏の取引銀行は、安田銀行である。

白畠材木店

白畠　要治

明治三十四年三月十九日生
營業所　東京市豐島區高松町二ノ七

氏の出身地は京都市である。年少の頃上京して、本所區なる長谷川材木店實場（店主長谷川藤太郎氏）に入り、十有一年餘の長年月勤續して、忠實に其の責務を果した。爲に斯業の巨細に通ずるを得たので、昭和四年、氏二十八歳の秋十月現地を相して店舗を張り、内外各種材木の販賣を開始してよ

り、專念創業時の苦難を克服し、諸會社・工場、建築業者間に得意を開拓して、着々業果を擧ぐるに成功し、以て十年の今日、確固たる地位を當方面同業者間に占むるに至つた。氏は資性篤實にして、しかも剛清、爲めに町民の信頼する所となつて、現に、町會に幹事に推されて町内の自治に奔走し、且つ警防團班長に選ばれて銃後の務にいそしんで居る。因に板橋區板橋三丁目大前材木店主留吉氏は、氏の義兄に當る。

濱島田材木店

島田　濱吉

明治十九年生
營業所　東京市豐島區長崎一ノ四〇
電話大塚二〇七九番

氏は埼玉縣人である。年少の頃、上京して深川區木場の市川新兵衛材木店に入り、永年刻苦して斯業を實地に修め、具に會得する所あつて後、大正九年、現地に店舗を構へ、内外各種木材の營業を獨立開始した。爾來、諸會社、工場並に建築業者の顧客多數を獲得して、業礎全く固く、二十年に垂れる星霜を閲せる今日、老舗としての貫録を示すに足る悠々たる樂觀的營業振である。氏は資性公正にして仁俠、常に公共事業に盡して、德望四隣に遍しとするも敢て過言ではない。現に警防團副班長、町會役員、長崎第二小學校後援會理事等を兼ね、曾つては該後援會の會計を永年司つた功勞に對し、同小學校より表彰狀並に記念品を贈られ、近くは警防團貯金奬勵に關し東京府知事より表彰さるゝ等、枚擧に遑がない。

因に氏は日本實夜銀行を取引銀行として居る。

小峰材木店

小峰　謙治

明治三十年生
營業所　東京市豐島區雜司谷町五ノ七三〇
電話牛込二一二二番

氏は東京府下西多摩郡氷川村の出身であつて、氏の生家は先々代以來、材木商を家業とした。隨つて氏は幼少の折から父君を助けて家業にいそしんだが、長するに及んで、大成を期すべく上京し、澁谷區なる川上材木店に勤め、具に實地の習練を積み、業務に通達し得た後、大正六年、現地を卜して店舗を設け、小峰木材店東京出張所を開き、同時に、同じく雜司ケ谷町七ノ九四五に、小峰製材工場を創め、當時弱冠二十一歳の氏が、其の一切を管理した。少壯氣鋭の氏は、進取的營業方針を堅持して、精勵又精勵。二十五年の星霜を閲して、今や當方面の老舗として、業者間に確固たる地歩を占むるに成功した。因に取引銀行は、第百銀行である。

木村材木店

木村　朝吉

明治三十八年生
營業所　東京市豐島區椎名町五ノ四一二六

氏は栃木縣安蘇郡佐野町に生れた。年少材木商を以て身を立つべく志して、足利市に出で、今井材木店に入つて、七年の間實務に就いて修習する所あつたが、更に習得の完璧を期して上京し、雜司ケ谷なる富島材木店に勤めて、刻苦六年餘かくして、斯業に練達せる氏は、現地を相してその將來發展すべきを洞察し、店舗を張つて獨立自營、以て多年の念願を果したのであつた。時これ昭和六年の事である。當時二十五歳の氏は、潑剌たる營業振を以て、業務の進展を計り、着々業績を擧ぐるに成功し、幾何もなくして確固たる地盤を作り得たのであつた。今や店員二名と共に、益々業勢の進展に孜々として勵みつゝある。

巣鴨町七ノ一八〇九　電話大塚二三三二番　鈴木　音吉
西巣鴨町二ノ二八五九　電話大塚二七〇四番　渡邊　五郎
同　二ノ二八五二　電話大塚〇四六三番　押本　忠太
同　二ノ二八六七　電話大塚二二七五番　岡本　吉平
池袋一ノ一〇一　宮坂　よね
同　五ノ二二二　電話大塚二三六九番　青木　亨
雜司ケ谷三ノ四七　電話大塚六〇八九番　橋本　清
日出町二ノ一九〇　電話牛込五三〇九番　森田金之助
池袋四ノ一七四九　電話牛込三九八九番　駒井　新造
同　一ノ六二二　電話大塚〇三四八番　押本　清次
西巣鴨町二ノ二八六七　安藤　信次
巣鴨一ノ一二〇　寺田熊太郎
同　一ノ二三　電話大塚一二九七番　中村　松市
駒込一ノ二二　木原　茂生
西巣鴨四ノ二　遠藤作次郎
巣鴨一ノ一三〇　電話大塚五七七四番　小路龜太郎
同　六ノ一三三四　電話大塚一八九八番　山下　定吉
同　三ノ二六　小笠原秀吉
椎名町六ノ四一三五　電話落合長崎三〇〇六番　林　秀吉
同　七ノ三八七九　小谷野平作
千早町二ノ二四　關口安太郎
同　三ノ二　野田保太郎
要町一ノ五　小石川竹藏
同　二ノ一〇　野田　孝司
同　三ノ二一　電話大塚二六八四番　板屋　佐之
池袋一ノ六六五　櫻井　隆
池袋一ノ六二九　柳内　孫藏
池袋二ノ一七〇九　島　兵七
池袋八ノ三三二一　中林浦之助
西巣鴨一ノ三二三七　電話大塚三二九四番　木下辰次郎
目白町一ノ一一一六　電話大塚三五〇一番　青田己之助
池袋一ノ一一九二　電話大塚〇二九二番　小澤　智
同　三ノ一四八〇　吉田　幸作
西巣鴨三ノ五五九　金子吉太郎
高田南町二ノ四一一　電話牛込五五二八番　立田貞次郎
原島仲次郎

板橋區

㊀ 加藤材木店

加藤　清男

營業所　東京市板橋區板橋一〇ノ三一四五

氏は栃木縣の出身である。年少、青雲の志を抱いて鄕關を辭し、東都に上つて身を實業に投じ、淺草區なる加藤材木店に勤め、忠實業に服し、精勵職に努むること多年にして、遂に、業務に精達し、業勢に曉通したので、昭和十一年、現地の他日發展すべきを豫見し、店舗を構へて内外木材を取扱つて、獨立開業、以て、宿望を果し得たのであつた。爾來、幾何の年處を經ずと雖、氏の奮鬪的精神と積極的手腕は、完全に草創の難局を打開し了し、今や業礎固く業域廣く、業績日に月に上昇して、店勢順調の一路を辿りつゝある。かくて、春秋に富む氏の前途は、亦洋々と云ふべきであらう。なほ篤實なる氏は頗る衆望あつて、現に推されて町會役員である。因に氏の取引銀行は、武州銀行である。

山博材木店

渡邊一弘

營業所　明治四十年生
東京市板橋區上板橋二ノ六四九一

氏は、渡邊仁平氏の長男である。高等小學校を卒業するや實業を以て身を立てんと欲し、材木商の有利なるを選んで、斯業を習得すべく深川區木場なる京守材木店に入り、精勵勉、店主の股肱店員の模範として、十有二年の長日月を送つた後、業務に精しく、業界に明かに、獨立の念願に蔚したので、昭和十三年三月、現地の將來有望なるに着眼し、店舗を設けて、内外材木一般を取扱つて、自營開業した。時に氏三十一歳。爾來、氏の奮鬪努力めざましきものあつて、積極進取、草創の難關を突破すべく、全力を傾倒しつゝある。寔に圓熟の氏の手腕は、この地方の近來の發展に相俟ち、氏の前途は、大成期して待つべきものがある。

㊁ 黒岩材木店

黒岩松太郎

營業所　明治三十二年生
東京市板橋區練馬南三ノ二〇六一

氏は群馬縣人で、信越線松井田が其の鄕里である。生家は祖父君の代から材木商を營み、上州材を木場に入荷したのも當店を以て嚆矢とする程、近在切つての老舗である。氏はかゝる環境裡に生育して、幼少の折柄、父君を援けて家業にいそしんだ結果、夙に業務に通曉し、斯業に理解を有して甚だ練達の手腕を有するに至つた。筑袋を襲ぐに及んで、精勵勉、業績を擧げ得て著しかつたが、昭和十二年、帝都進出を策し、地を現在の場所に選んで櫻豪驛前に店舗を設け、上州産材木を主として、一般材木の販賣を開業した。かくして、從業日尚ほ淺いが、堅實なる方針の下、堂々老舗の悠容を示す經營振を以て、着々業域を擴張しつゝある。

㊀ 田中材木店

田中滋

營業所　明治三十一年生
東京市板橋區上板橋六ノ五〇六四

氏は東京府下西多摩郡吉野村に生れた人である。大正二年氏十五歳の頃、青雲の志を抱いて上京し、具に人生の辛酸を嘗めて刻苦奮鬪の後、澁谷驛前に材木商を獨立開業して、多年の念願を果したのであつた。其の後、現地方面の逐年發展開發の氣運に在るを洞察し、店舗を選んで移轉し、倍舊の精勵を以て、業務の開拓に專念したのであつた。時に昭和八年である。爾來、氏の圓熟練達の手腕は、よく新環境の進展に應じて、業礎を確固たらしめ、業域を擴張し、以て今日の隆盛を見るに成功したのである。氏の取引銀行は東京貯蓄銀行である。尚ほ、氏は、本所方面に取引を有し、堅實なる方針の下に確實なる業績を擧げつゝある。

㊁ 大前材木店

大前留吉

營業所　明治二十三年三月生
東京市板橋區板橋町三ノ二六
電話板橋七六六番

氏は京都府の出身者である。幼少より實業に志し、材木商を念願として京都に出で、長谷川藤太郎材木店に入つて、斯道の修習研鑽實に二十餘年の永きに亙つた。爲めに、同地の同業組合は、その精勤を表彰する所があつた。而して斯業の巨細に通じた氏は、敢然として大正十二年十月、大震災の直後東京に進出し、翌十三年九月、當地をトして店舗を設け、内外木材の販賣に練達の腕を振ふ事となつた。蓋し氏はその初一念を貫徹したのであつた。爾來、帝都復興の景況に乘じ且つ當方面異常の發展に伴ひ、氏は堅實なる地歩を着々と進めて遂に今日の大を致した。同時に十有五年に亘る現地への定住は、温厚篤實なる氏の資性と相俟つて、衆望頗る篤く、特に曾つては同業組合長として、甚た名望を謳はれたものである。尚ほ、氏の嗣子良三氏は今次の事變に應召出征した。

石井材木店

石井定太郎

營業所　明治二十七年生
東京市板橋區板橋町七ノ二三七

氏は東京市の出身で、淺草區内に生れた。家業は材木商だつたので、氏は幼少の頃から斯業の雰圍氣中に生育し、夙に業務に通曉練達したのであつた。後年自ら家業を主宰する事となるや、拮据黽勉、よく確固たる業礎を守り、一層業域の擴張に成功したのであつた。而して、昭和三年に及び、當方面の將來發展すべき景況あるに着目した氏は、果敢にも父祖の地を捨てゝ現地に移轉を斷行したのであるが、氏の豫想は遂に氏を裏切らず、當方面の發展逐日顯著なるものあるに乘じ、氏は圓熟老練の手腕を振つて正に十三星霜。嘗つての地盤を凌ぐ確固たる業礎を築いて、今日に及んだ。因に氏の取引銀行は、第百銀行王子支店である。